

たくましく生きる力をはぐくむ



# はばたく群馬の 指導プラン

平成24年3月

群馬県教育委員会  
群馬県小学校長会・中学校長会  
群馬大学教育学部・附属学校共同研究推進センター

たくましく生きる力をはぐくむ

# はばたく群馬の 指導プラン

## はじめに

群馬県教育委員会では、平成21年3月に教育振興基本計画を策定し、「たくましく生きる力をはぐくむ～自ら学び、自ら考える力を～」の基本目標の基、「確かな学力の向上」「豊かな心の育成」「健康な体の育成」に取り組んでおります。

確かな学力の向上については、全ての教科において、子どもたちが「わかった」「できた」という充実感や満足感が味わえることが大切であると考え、平成23年2月に、各教科の学力の把握と授業改善を目的とした「ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査」を実施いたしました。本調査は、社会、理科、音楽、図画工作・美術、家庭、技術・家庭、英語という幅広い教科において、筆記・実技・質問紙の各調査から多面的に児童生徒の状況を把握したことに特徴があると考えております。

「ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査」や「全国学力・学習状況調査」の結果を分析しますと、群馬の子どもたちには、基礎的・基本的な知識は身に付いているものの、考えたことを表現する力や日常生活と学習を結び付ける力に課題が見られるなど、各教科ごとに伸ばしたい資質や能力があることが明らかとなりました。

また、豊かな心や健康な体の育成については、「道徳教育推進状況調査」や「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」などの諸調査の分析により、群馬の子どもたちに身に付けて欲しい心のありかたや、健康の増進や体力の向上に向けた望ましい生活習慣があることも明らかとなりました。

そこで、これらの調査結果の課題を基に、群馬の子どもたちの「生きる力」を一層高めるために伸ばしたい資質や能力を簡潔に示すとともに、それらの資質や能力を確実に身に付けさせるための基本的な指導法を記載した、本冊子「はばたく群馬の指導プラン」を作成することといたしました。

各学校におかれましては、各教科等での授業はもちろんのこと、学校生活全体において本冊子を活用し、子どもたちに伸ばしたい資質や能力を理解していただくとともに、各教科・領域の指導の基本などを参考として、指導力や授業力を高めていただければ幸いです。そして、県内すべての子どもたちに「確かな学力」「豊かな心」「健康な体」がバランスよく形成され、未来に向けて大きく羽ばたいてくれることを願っております。

最後に、本冊子を作成するに当たり、基礎・基本習得プロジェクト会議の委員として御尽力いただきました皆様をはじめ、関係各学校の皆様にご感謝を申し上げます。

平成24年3月

群馬県教育委員会  
教育長 福島 金夫

# 冊子の見方

本冊子は、次の2つの章から構成されています。

- 第Ⅰ章 ぐんまの子どもに伸ばしたい資質・能力
- 第Ⅱ章 各教科・領域の指導の基本

## 第Ⅰ章 「ぐんまの子どもに伸ばしたい資質・能力」のページについて

ここでは、「ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査」「全国学力・学習状況調査」「道徳教育推進状況調査」「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」などの調査結果の分析等をもとに、生きる力の3要素「確かな学力」「豊かな心」「健康な体」の面から、本県児童生徒の課題を整理して示しました。

<課題>

確かな学力：各教科ごとに3項目を示す

豊かな心：「向上する心」「やりぬく心」「大切にすること」

健康な体：「規則正しい生活習慣」「進んで運動する習慣」「望ましい食習慣」

また、それぞれの課題を解決するために、群馬県の子どもたちに対して伸ばしたい資質・能力を、「〇〇できる」という児童生徒の姿で示しました。

### (1) 確かな学力のページについて

各教科ごとに、【トップページ】と【学年のページ】を設けました。

- ・トップページには、各教科の課題と義務教育の中で伸ばしたい資質・能力を示しました。
- ・学年のページには、資質・能力を具体化した児童生徒の姿や取組例を示しました。

【トップページ】		【学年のページ】		
学年	課題	課題a	課題b	課題c
小	1・2年	資質・能力		
	3・4年	①	②	③
	5・6年			
中	1～3年			

①	②	③
①の具体的な姿や取組例		
②の具体的な姿や取組例	③の具体的な姿や取組例	

※トップページや学年のページの構成等は、教科によって異なります。

※学年のページは生活、家庭・家庭分野、外国語は課題ごと、技術分野は内容ごとに示しています。

### (2) 豊かな心と健康な体のページについて

豊かな心や健康な体の面から見られた課題と、その課題を解決するために、群馬県の子どもたちに対して伸ばしたい資質・能力や具体的な児童生徒の姿の例を、見開きで示しました。

## 第Ⅱ章 「各教科・領域の指導の基本」のページについて

ここでは、第Ⅰ章で示した「伸ばしたい資質・能力」を培うため、各教科、道徳、総合的な学習の時間、学級活動における基本的な指導の方法について、下の①～③の内容で示しました。

- ① 1単位時間の授業の作り方
- ② 1単元(題材)の作り方
- ③ 授業充実のためのコツやアイディア

※①～③の分量等は、各教科・領域に応じて異なります。

また、授業を見直すための「チェックリスト」を、授業準備、授業中、授業後に分けて、25項目示しました。

# 目 次

はじめに  
冊子の見方  
目 次

## 第Ⅰ章 ぐんまの子どもに伸ばしたい資質・能力

---

1 確かな学力	
国 語	3
社 会	10
算数・数学	17
理 科	27
生 活	34
音 楽	38
図画工作・美術	43
体育・保健体育	48
家庭・家庭分野	53
技 術 分 野	58
外 国 語	63
2 豊かな心	68
3 健康な体	70

## 第Ⅱ章 各教科・領域の指導の基本

---

国 語	74
社 会	78
算数・数学	82
理 科	86
生 活	90
音 楽	94
図画工作・美術	98
体育・保健体育	102
家庭・家庭分野	108
技 術 分 野	112
外 国 語(外国語活動含む)	116
道 徳	120
総合的な学習の時間	124
学 級 活 動	128
チェックリスト25	132

関係者名簿



第I章

**ぐんまの子どもに  
伸ばしたい資質・能力**

# 1 確かな学力

教科	課題1	課題2	課題3
国語	目的や意図に応じて説明的な文章の内容を読み取ること	文章の特徴や表現の仕方について考えること	自分の考えや伝えるべき内容を相手や目的に応じて表現すること
社会	比較・関連付けて考え、社会的事象の特色や意味を理解すること	資料から情報を読み取り、活用すること	社会生活や現代社会の課題とその解決策を考えること
算数 数学	既習の知識や考え方等を活用して、課題解決すること	筋道を立てて考え、根拠を明らかにしながら説明すること	数量や図形についての豊かな感覚を身に付けること（小学校） 実感を伴って理解をすること（中学校）
理科	既習の知識や観察・実験の結果をもとに考えること	観察・実験器具を適切に使用すること	学習したことを身近な事象に当てはめて考えること
生活	対象に関わる中で、自分なりの気づきをもつこと	見たことや思ったこと等を絵や言葉などで表すこと	身近な人の考えなどを自分の中に取り入れること
音楽	歌詞内容や曲想をもとに、表現を工夫して演奏すること	音楽の要素を手掛かりに、音楽づくりや創作をすること	感じ取ったことを体の動きや言葉などで表しながら、味わって聴くこと
図画工作 美術	材料の特徴を生かして発想すること	用具を適切に用いること	形や色に着目して感じ取ること
体育 保健体育	運動の行い方がわかり、運動ができるようにすること	投力を高めること	持久力を高めること
家庭 家庭分野	包丁を適切に使って、簡単な日常食をつくること	日常着の手入れを適切に行うこと	快適な住まい方を工夫すること
技術分野	道具等を正しく使うこと	身に付けたことを生かしてつくること	技術を理解し活用すること
外国語	動詞を適切に変化させて使用すること	まとまりのある文を正しい英語で書くこと	まとまりのある英文を読むこと

※次のページから、教科の課題を解決するために、伸ばしたい資質・能力を国語から順に、詳しく示しています。

## 国語の課題と、解決に向けて伸ばしたい資質・能力

学年	課題	目的や意図に応じて説明的な文章の内容を読み取ること	文章の特徴や表現の仕方について考えること	自分の考えや伝えるべき内容を相手や目的に応じて表現すること
小学校	1・2年	順序をとらえることができる	行動を表す叙述に気付き、想像を広げることができる	考えを明確にして、順序立てて表現することができる
	3・4年	段落相互の関係をとりえることができる	人物像を表す叙述に気付き、想像を広げることができる	必要に応じて理由や事例を挙げて表現することができる
	5・6年	事実と感想、意見の関係をとりえることができる	優れた叙述に気付き、想像を広げることができる	事実、感想、意見などを区別して表現することができる
中学校	1年	中心的な部分と付加的な部分の関係をとりえることができる	表現の特徴をとらえ、その工夫や効果について考えることができる	全体と部分、事実と意見との関係に注意して表現することができる
	2年	文章全体と部分の関係をとりえることができる	表現の仕方について根拠を明確にして考えをもつことができる	立場を意識して論理的でわかりやすく表現することができる
	3年	文章の論理の展開の仕方をとらえることができる	表現の仕方について評価することができる	適切な資料などを活用して説得力のある表現ができる

### ページの見方



読み取ることと考えることについては、「読むこと」を基に、児童生徒の姿と具体的な取組の例を示しました。

#### 段落相互の関係をとりえる

**読むこと**

- ◆読書目的に応じて中心となる語や文に着目して、段落相互の関係をとりえることができる。
- ◆事実と意見との関係に着目して読み、文章の内容や構成を把握することができる。

**<例>**

- ・キーワードを見付けながら、要点をまとめたり小見出しを付けたりして内容を整理する。
- ・指示語や接続語が文と文のつながりに果たす役割を注意して読む。

「大豆のままだいするくふん」しよう!

「大豆のままだいするくふん」しよう!

#### 人物像を表す叙述に気付き、想像を広げる

**読むこと**

- ◆登場人物の行動や会話から性格をとらえたり変化する気持ちをとらえたりすることができる。
- ◆現実や経験と照らし合わせて物語を読み、感想や感動を大切にすることができる。

**<例>**

- ・人物のおかれている状況、行動、会話などから想像力を働かせて気持ちを考える。
- ・読んだ文章の内容と自分が経験したことや、普段考えていることを関連させながら、感想を述べ合う。

お父さんが何もうるすに、汽車に乗って行ったのは、何か疑うと別れるのがつらくなってしまうからじゃないかな...ほくも2年生の時、転校する友達のお別れの時に...

#### 必要に応じて理由や事例を挙げて表現する

**話すこと**

- ◆関心をもった理由や考えの根拠、事例などを挙げながら筋道や構成を考えて話すことができる。
- ◆具体的に相手を意識し、報告をする、意見を述べたいなど伝えたい目的を明確にして適切な言葉遣いで話すことができる。

**<例>**

- ・理由を伝える言葉（そのわけは～だからです。）、事例を伝える言葉（例えば～について詳しく話します。）などを用いて話す。
- ・相手や目的に応じて、丁寧な言葉を選んだり、敬体と常体との表現を使い分けたりしながら、出来事の説明や調査の報告をする。

調査報告会

**書くこと**

- ◆文章全体を通して中心となる内容を明確に記述することができる。
- ◆目的や必要に応じて原因や理由を挙げたり、わかりやすく事例を挙げたりして書くことができる。

**<例>**

- ・「～を伝えたいことが伝わるような見出しをつけたり、リード文をつけたりして、中心となる内容を明確にしなから新聞記事を書く。
- ・目的や必要に応じて理由や事例を挙げるように、「その理由は～」「例えば～」などの言葉を使って報告文や字級新聞を書く。

この記事の中心は、「自転車のスピードの出し過ぎについて」だから見出しは...

表現することについては、「話すこと」「書くこと」に分けて、児童生徒の姿と具体的な取組の例を示しました。

順序をとらえる

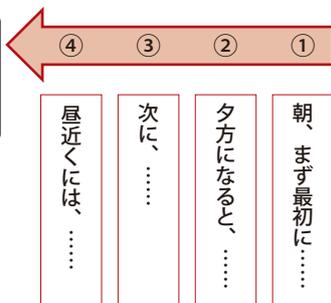
読むこと

- ◆時間の順序に沿って内容の大体を読んで理解することができる。
- ◆事柄の順序、文章表現上の順序などに沿って内容の大体を読んで理解することができる。

<例>

- ・時間的な順序を示している言葉に気を付けながら文章を読む。
- ・事物の作り方の手順などを説明した文章を読み、自分の言葉で簡単に説明する。
- ・段落ごとの内容が書かれているカードを正しい順序に並べる。

カードの順番が朝、夕方、昼になってるよ。正しい順は…。



行動を表す叙述に気付き、想像を広げる

読むこと

- ◆登場人物の行動の変化を中心に、物語の内容を理解することができる。
- ◆物語の内容について、登場人物の行動を中心に想像を広げることができる。

<例>

- ・お面を付けて登場人物になったつもりで物語を読み、内容を理解する。
- ・物語を読んで思ったことや考えたことを交流し合う。
- ・物語の続きを想像して文章を書く。



登場人物になったつもりで読む

考えを明確にして、順序立てて表現する

話すこと

- ◆行動や経験、物の作成や作業などについて、順序に沿って事柄を具体的に話すことができる。
- ◆教師や隣に座っている友達、同じグループの友達など、身近な人を対象に話すことができる。

<例>

- ・自分の宝物や、未来の発明品などについて、具体物や絵を示しながら順序に気を付けて発表する。
- ・学校や家庭での経験を通して感じたこと、知らせたいことは何かを明確にし、時間の経過に基づいて順序立てて報告する。

私の大切な宝物は、このさるのぬいぐるみです。はじめてこのぬいぐるみを見たとき…。



書くこと

- ◆文章の始めから終わりまでを、取材した事柄の順序に沿って書くことができる。
- ◆内容のまとめごと「始め—中—終わり」などの順序に沿って文章を書くことができる。

<例>

- ・学校を探検して見つけた物や学校で初めて経験したことについて内容ごとにまとめた文章を書く。
- ・生活科や図画工作で作ったおもちゃの作り方を、順に沿って説明した文章を書く。

図書室について書くぞ。「本がたくさんあること」と「初めて本を借りたときのこと」をそれぞれまとめて書こう。



### 段落相互の関係をとらえる

#### 読むこと

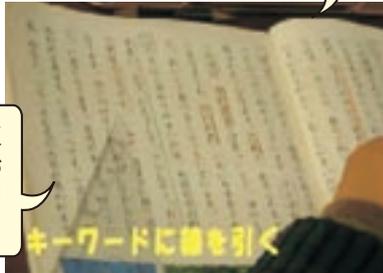
- ◆読む目的に応じて中心となる語や文に着目して、段落相互の関係をとらえることができる。
- ◆事実と意見との関係に着目して読み、文章の内容や構成を把握することができる。

<例>

- ・キーワードを見付けながら、要点をまとめたり小見出しを付けたりして内容を整理する。
- ・指示語や接続語が文と文とのつながりに果たす役割に注意して読む。

1段落も2段落も内容は「大豆のしょうかい」で同じまとまりとして考えていいな…。

小見出しは「大豆をその形のままおいしくするくふう」にしよう！



### 人物像を表す叙述に気付き、想像を広げる

#### 読むこと

- ◆登場人物の行動や会話から性格をとらえたり変化する気持ちをとらえたりすることができる。
- ◆現実や経験と照らし合わせて物語を読み、感想や感動を大切にすることができる。

<例>

- ・人物のおかれている状況、行動、会話などから想像力を働かせて気持ちを考える。
- ・読んだ文章の内容と自分が経験したことや、普段考えていることとを関連させながら、感想を述べ合う。

お父さんが何も言わずに、汽車に乗って行ったのは、何か話すと別れるのがつらくなってしまふからじゃないかな…。ぼくも2年生の時、転校する友達のお別れ会の時に…



### 必要に応じて理由や事例を挙げて表現する

#### 話すこと

- ◆関心をもった理由や考えの根拠、事例などを挙げながら筋道や構成を考えて話すことができる。
- ◆具体的に相手を意識し、報告をする、意見を述べるなど伝えたい目的を明確にして適切な言葉遣いで話すことができる。

<例>

- ・理由を伝える言葉（そのわけは～だからです。）、事例を伝える言葉（例えば～について詳しく話します。）などを用いて話す。
- ・相手や目的に応じて、丁寧な言葉を選んだり、敬体と常体との表現を使い分けたりしながら、出来事の説明や調査の報告をする。



調査報告会

#### 書くこと

- ◆文章全体を通して中心となる内容を明確に記述することができる。
- ◆目的や必要に応じて原因や理由を挙げたり、わかりやすく事例を挙げたりして書くことができる。

<例>

- ・一番伝えたいことが伝わるような見出しをつけたり、リード文をつけたりして、中心となる内容を明確にしながら新聞記事を書く。
- ・目的や必要に応じて理由や事例を挙げていることが読み手に伝わるように、「その理由は～」「例えば～」などの言葉を使って報告文や学級新聞を書く。

この記事の中心は、「自転車のスピードの出し過ぎについて」だから見出しは…



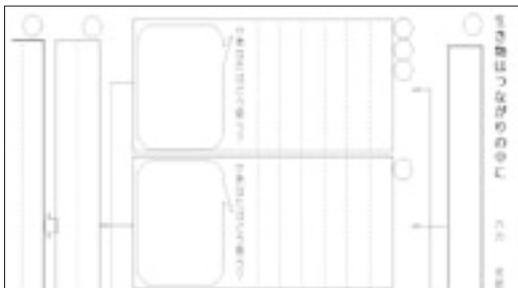
事実と感想、意見の関係をとらえる

読むこと

- ◆筆者がどのような事実を事例として挙げ、理由や根拠としているのか読み取ることができる。
- ◆読者に何を考えてほしいのか、どんな行動をしてほしいのかなど、筆者が文章を書いた目的について考えることができる。

<例>

- ・筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握する。
- ・文末の表現などに着目することにより、事実と意見を区別する。



構成を把握するワークシート

優れた叙述に気づき、想像を広げる

読むこと

- ◆場面の展開に沿って読みながら、感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目することができる。
- ◆叙述から想像を広げ、作品の情景や作者のメッセージなどを想像することができる。

<例>

- ・同じ作者や同じ題材の作品を比べて読み、主体的に優れた叙述に気付く。
- ・象徴性や暗示性のある表現に着目させ、情景を絵に描いたり動作化したりする。



情景を想像して描いた絵

「月光のにじがもかもか集まりました」って、こんな感じかな？

事実、感想、意見などを区別して表現する

話すこと

- ◆事柄が明確に伝わるように、自分の立場を明確にしたり、事実、感想、意見を区別したりして話を構成することができる。

<例>

- ・資料を提示して、説明や報告する部分を指し示しながら、事実と意見を区別して話す。
- ・自分の立場や結論付けを明確にしたり、数値の引用や図解、重要語句の定義付けをしたりしながら話す。



資料を活用した説明

書くこと

- ◆事実と自分の感想、意見などを明確に区別して文章を書くことができる。
- ◆目的や意図に応じて、事実と感想、意見などを詳しく書いたり、簡単に書いたりすることができる。

<例>

- ・意見とそれを支える事実を読み手が明確に区別できるよう、接続語の使い方や文末表現に注意して書く。
- ・自分の考えが伝わるように、複数の根拠や中心となる事例を挙げて詳しく書いたり、関連する多くの具体例を端的に書いたりする。



できるだけ例を挙げてわかりやすくしたいので、一つの例を詳しく書いて、その他は並べて簡単に書いていこう。

中心的な部分と付加的な部分の関係をとらえる

読むこと

- ◆段落ごとに内容をとらえたり、段落相互の関係を正しく押さえたりしながら、さらに大きなまとまりごとに文章全体における役割をとらえることができる。
- ◆目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすることができる。

<例>

- ・文脈に即して語句の意味を的確にとらえ、キーワードを考える。
- ・文章を読む上で大切な指示語に注意して、制限された文字数で要約し、それを基に意味段落にまとめる。
- ・説明されている事実と図表との関係を整理し、文章の要旨をとらえる。



文章の要旨をまとめたミニ新聞

表現の工夫や効果について考える

読むこと

- ◆様々な形態の文章の構成や展開、表現の特徴など文章の形式をとらえ、その工夫や効果について考えることができる。
- ◆文章と図表などの関連を考えながら、書き手の伝えたい内容を読み取ることができる。

<例>

- ・お気に入りの本を紹介するために他の作品と比べて、文章の構成や展開、表現の特徴などについて、自分の考えを発表する。
- ・説明の文章を展開する上で図表や写真が果たしている役割をとらえ、その効果について自分の考えをもつ。



ブックトーク

全体と部分、事実と意見との関係に注意して表現する

話すこと

- ◆話の全体として伝えたいことを明確にし、それをわかりやすく伝えるために各部分をどのように組み立てるか考えることができる。

<例>

- ・取材を通して集めた身近な人の体験や知識などの事柄を、話す目的に合わせて整理したり、組立てを考えたりする。
- ・伝える事柄や事実とそれに対する自分の考えや感想などとの関係に注意して、報告したり、紹介したりする。



委員会活動を報告する

書くこと

- ◆目的や意図に応じて集めた材料を取捨選択したり、材料同士の関連を考えたりして書くことができる。
- ◆読み手に対して、自分の思いや考えの根拠が明確になるような表現の工夫をすることができる。

<例>

- ・学校生活の中から案内したい行事などを決め、必要な材料を集め、取捨選択し、整理する。
- ・複数の表現を比較して、相手に伝わる文章を書くポイントを探し、そのポイントに気を付けて文章を書く。
- ・書いた文章を読み合い、わかりやすさや根拠の明確さなどについて意見を交換し、自分の表現をよりよくするための参考にする。



意見交流会

### 文章全体と部分の関係をとらえる

#### 読むこと

- ◆各段落が文章全体の中で果たす役割についてとらえることができる。
- ◆叙述の順序が、書き手の考えにどのような説得力をもたせているか考えながら読むことができる。
- ◆文章中の「例示」が書き手の論の展開の中で果たしている役割について考えることができる。

#### <例>

- ・文章全体の中での各段落の役割について考えるために、段落ごとの内容に合わせて小見出しを付ける。
- ・どのような順序で書くと説得力が増すか考えるために、叙述の順序を入れ替えたものを比較して読む。
- ・文章中に例があることによってどのような効果があるのかを説明するなどして、文章中の例示と書き手の目的や意図との関連について考える。

問題提起してから実験結果を具体的に示すことで、答えを考えながら読ませようとしてるんだな。



### 表現の仕方について考えをもつ

#### 読むこと

- ◆構成や展開の工夫、描写や比喩の工夫について、根拠となる部分を具体的に挙げながら、自分の考えをまとめることができる。

#### <例>

- ・詩歌や物語などを読み、具体的な部分を取り上げながら、表現の仕方についての感想を交流する。
- ・文章の構成や表現の仕方の違いを比較するために、新聞とインターネットの記事の特徴を具体的な箇所を引用してまとめる。

「〇〇」という比喩があることによって、文章の内容が、より具体的にイメージできるようになっています。



### 立場を意識して論理的でわかりやすく表現する

#### 話すこと

- ◆相手の反論や意見、質問などを具体的に予想して自分の考えをまとめ、意見と根拠を組み合わせることで話構成することができる。

#### <例>

- ・社会生活の話題について司会や提案者を立てて討論する中で、相手の反論を予想して話す。
- ・説明に対する聞き手の意見や質問など予想したことを生かしながら、話の中心部分と付加的な部分を明確にしてわかりやすい構成や展開を考えて話す。



#### 書くこと

- ◆取り上げる問題や課題に対する賛否や解決方法などについて、自分がどのように考えているかを明確にすることができる。
- ◆自分の立場や意見を明らかにし、それを表明する部分を文章のどこに置くか考えることができる。

#### <例>

- ・「頭括型」「尾括型」「双括型」といった文章構成の中から適切なものを選んで文章を書く。
- ・伝えたい内容の中心を明確にし、何かを依頼する手紙やお礼の気持ちを伝える手紙を、形式に沿って書く。



### 文章の論理の展開の仕方をとらえる

#### 読むこと

- ◆論理の展開をとらえ書き手のものの見方や考え方を理解することができる。
- ◆論理の展開について、筆者の意図を考えることができる。

#### <例>

- ・同一のテーマの論説や報道文などを用いて、論理の展開を比較して読み、展開の違いに気付く。
- ・主張を支える事実の選び方や取り上げ方、数など観点を決めて比較して読み、書き手の論理展開の意図を考える。

<A社 新聞>

<B社 新聞>

「木を植えて山を再生する」ということを主張するために、ボランティア団体の活動を取り上げている。

テーマ  
森林破壊

「大気汚染物質の排出を防ぐ」ということを主張するために、大気中に含まれる物質の数値を提示している。

### 表現の仕方について評価する

#### 読むこと

- ◆語句や描写などについて、その意味や効果进行评估しながら読むことができる。
- ◆様々な文章における書き手の意図と表現の仕方との関係について考えることができる。

#### <例>

- ・複数の文章を比較して、構成や展開、表現の仕方などの違いに気付く。
- ・自分の読書生活を振り返るために、今まで読んできた本の中の数冊について、構成や展開、表現の仕方に着目しながら比較し、分析する。

今まで自分が読んできた本は、構成がはっきりしているものが多かったな。構成がはっきりしている方が読みやすいと思う。



### 資料などを活用して説得力のある表現をする

#### 話すこと

- ◆話の要旨を端的にまとめたり視覚的に工夫したりした資料を、使用する場面を考えて適切に使用しながら話すことができる。

#### <例>

- ・図表やイラスト、写真や映像などの提示資料を適切に選んだり、資料を提示するタイミングを工夫したりする。



交差点の危険性を実感してもらうためには、交差点の映像を見せて、交通量の多さや、見通しの悪さに気付いてもらおう。

- ・聞き手の人数や立場、会場の様子などの条件に応じた話し方や言葉遣いを工夫する。
- ・聞き手の反応に応じて、表現を易しくしたり、付け足したりしながら話す。

#### 書くこと

- ◆目的や自分の考えとの関係を明確にし、収集した資料を適切に引用して工夫しながら書くことができる。
- ◆自分の考えの根拠としてふさわしいか検討したり、資料について補足したりすることができる。

#### <例>

- ・判断や評価の理由や根拠となる適切な資料を引用して、説得力のある批評の文章を書く。
- ・引用部分を「 」でくるなど出典を明示したり、引用する文章量に注意したりして適切に書く。
- ・文章表現上の微妙な言葉のニュアンスについて考え、適切な言葉を選択している。



このパンフレットでは、全体的に柔らかい感じを出したいので、「故郷」は「ふるさと」にしよう。

## 社会の課題と、解決に向けて伸ばしたい資質・能力

課題 学年等	比較・関連付けて考え、社会的事象の特色や意味を理解すること	資料から情報を読み取り、活用すること	社会生活や現代社会の課題とその解決策を考えること	
小学校	3・4年	人々の工夫や努力を考え、地域のまちづくりを理解することができる	地図や写真を読み取ることができる	地域のために、自分にできることを考えることができる
	5年	人々の工夫や努力の意味を考え、国土の環境や産業を理解することができる	地図や地球儀、統計資料を読み取ることができる	よりよい国民生活に向けた課題とその解決策を考えることができる
	6年	<歴史> 先人の働きや文化遺産の役割や意味を考え、それらのもつ価値を理解することができる <政治> 政治と国民生活との関連を考え、政治の働きを理解することができる	地図や地球儀、史料、年表を読み取ることができる	よりよい国民生活に向けた課題とその解決策を考えることができる
中学校	地理	自然的及び社会的条件を事象と関連付けて考え、地域的特色を理解することができる	地図や地球儀、地理情報を活用することができる	地域的課題とその解決策を考えることができる
	歴史	時代や文化の特色を考え、歴史の大きな流れを理解することができる	史料や年表を活用することができる	
	公民	様々な視点から考え、社会のしくみの意味を理解することができる	資料の適切な選択、再構成ができる	現代社会の課題とその解決策を考えることができる



ページの学年、分野の学習の中で、特に習得させたい資料活用スキルを示しました。これは他の学年、分野でもくり返し扱っていくことが大切です。

学習内容	考えさせる工夫や努力
身近な地域や市(町、村)の様子	◆身近な地域や市における特色ある地形や交通を生かす工夫。
生産や販売	◆生産(農家、工場)や販売(商店)をよりよく行うための工夫や努力。 ◆消費者側のねがいと関連した販売者側の工夫や努力。
健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動	◆人々の健康な生活、良好な生活環境の維持・向上に結びつく、飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理に関わる関係機関や地域の人々の工夫や努力。
安全を守るための諸活動	◆地域の人々の安全な生活に結びつく、消防署や警察に従事している人々や地域の人々の工夫や努力。
生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働き	◆地域の人々の願いの実現や生活の向上に結びつく、先人の働きや苦心、文化遺産や年中行事を受け継いできた人々の工夫や努力。
県の様子(地域の地理的環境)	◆県内の特色ある地域における、地場産業や自然環境、伝統や文化の保護・活用に關わる工夫や努力。

社会

社会的事象の特色や意味を理解させるために、その学年、分野で中心的に考えさせたい事項を、学習内容ごとに示しました。

### 地図や写真を読み取る

**地図の読み取りができる**

- ◆方位の記号から八方位を読み取る。
- ◆地図記号を基に建物や土地の様子を読み取る。
- ◆地図の線や等高線から土地の高低を読み取る。
- ◆地勢図や主題図から土地の様子、主な交通網や都市、隣接する県などを読み取る。

**地図帳の活用ができる**

- ◆「さくいん」を使って群馬県の都市や郡通所県の位置を調べる。

**写真の読み取りができる**

- ◆航空写真や景観写真から場所の様子を読み取る。

校舎の南には、田んぼが広がっているが、北は住宅が多い。

### 地域のために、自分にできることを考える

「健康な生活や良好な生活環境」の学習において

- ◆ごみをさらに減らし、よりくらしやすい地域にするために、自分たちに何ができるかを考える。
- ◆節水・節電について自分たちにできることを考える。

<例>地域の節水への取組について調べ、自分にできることを考えよう。

食器洗いの時、シャボをこまめに閉めたほうがいいね。  
せんたくは、お風呂の残り湯を使った方がいいよ。

**節水への取組**

- ・風呂水の再利用
- ・節水を心掛けた食器洗い

「安全な生活」の学習において

- ◆自分の家やまちの安全を守るために、自分たちにできることを考える。

社会の課題やその解決策について、日常生活と関連付けるなどして具体的に考えさせたい事項を示しました。

人々の工夫や努力を考え、地域のまちづくりを理解する

学習内容	考えさせる工夫や努力
身近な地域や市(町、村)の様子	◆身近な地域や市における特色ある地形や交通を生かす工夫。
生産や販売	◆生産(農家、工場)や販売(商店)をよりよく行うための工夫や努力。 ◆消費者側のねがいと関連した販売者側の工夫や努力。
健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動	◆人々の健康な生活、良好な生活環境の維持・向上に結び付く、飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理に関わる関係機関や地域の人々の工夫や努力。
安全を守るための諸活動	◆地域の人々の安全な生活に結び付く、消防署や警察に従事している人々や地域の人々の工夫や努力。
生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働き	◆地域の人々の願いの実現や生活の向上に結び付く、先人の働きや苦心、文化遺産や年中行事を受け継いできた人々の工夫や努力。
県の様子(地域の地理的環境)	◆県内の特色ある地域における、地場産業や自然環境、伝統や文化の保護・活用に関わる工夫や努力。

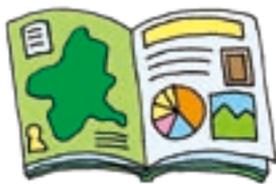
地図や写真を読み取る

地図の読み取りができる

- ◆方位の記号から八方位を読み取る。
- ◆地図記号を基に建築物や土地の様子を読み取る。
- ◆地図の段彩や等高線から土地の高低を読み取る。
- ◆地勢図や主題図から土地の様子、主な交通網や都市、隣接する県などを読み取る。

地図帳の活用ができる

- ◆「さくいん」を使って群馬県の都市や都道府県の位置を調べる。



写真の読み取りができる

- ◆航空写真や景観写真から場所の様子を読み取る。



校舎の南には、田んぼが広がっているが、北は住宅が多い。

地域のために、自分にできることを考える

「健康な生活や良好な生活環境」の学習において

- ◆ごみをさらに減らし、よりくらしやすい地域にするために、自分たちに何ができるか考える。
- ◆節水、節電について自分たちにできることを考える。

<例>地域の節水への取組について調べ、自分にできることを考えよう。

食器洗いの時、じゃ口をこまめに閉めたほうがいいね。

せんたくは、お風呂の残り湯を使った方がいいよ。

節水への取組

- ・風呂水の再利用
- ・節水を心掛けた食器洗い 等



「安全な生活」の学習において

- ◆自分の家やまちの安全を守るために、自分たちにできることを考える。

人々の工夫や努力の意味を考え、国土の環境や産業を理解する

学習内容	考えさせる工夫や努力の意味
国土の自然などの様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自然環境に適応しながら生活している人々の工夫や努力の意味。</li> <li>◆公害の防止や環境改善に向けて成果を上げてきた関係機関の人々の工夫や努力の意味。</li> <li>◆森林資源の育成や保護に従事している人々の工夫や努力の意味。</li> </ul>
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆食料生産(農業や水産業)に従事する人々の、消費者の需要にこたえ、新鮮で良質な物を生産し出荷するための工夫や努力の意味。</li> </ul>
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆工業生産に従事する人々の、消費者の多様な需要にこたえ、環境に配慮しながら、優れた製品を生産するための工夫や努力の意味。</li> </ul>
情報産業や情報化した社会の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆日常の生活や産業活動における情報の入手に関わる人々の工夫や努力の意味。</li> <li>◆現代社会において情報を有効に活用することの意味。</li> </ul>

地図や地球儀、統計資料を読み取る

地図の読み取りができる

- ◆日本全図や主題図から、土地の様子、土地の高さ、土地利用の様子、気候の様子などを読み取る。
- ◆八方位と距離を用いて、2点間の位置関係を表す。

地図帳の活用ができる

- ◆「さくいん」を使って、日本や世界の都市、国々の位置を調べる。

地球儀の活用ができる

- ◆日本の位置や、主な世界の国々の位置を指摘する。

グラフや表の読み取りができる

- ◆表題(タイトル)を読み取る。
- ◆作成された年、出典を読み取る。
- ◆グラフの縦軸、横軸、単位を読み取る。
- ◆数や量の違いや変化(全体の傾向)を読み取る。

よりよい国民生活に向けた課題と解決策を考える

「国土の自然などの様子」の学習において

- ◆公害や自然災害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さや必要性について考える。

「農業や水産業」の学習において

- ◆日本の米づくり、食料生産に関わる将来像について考える。

<例>課題：日本の食料自給率を高めるために、だれがどんな取組をすればよいか。

生産者は、国産品のよさをアピールするため、産地や生産者の表示をすればいいんじゃないかな。



消費者が、地元で作ったものを食べる、「地産地消」の取組を進めたほうがいいよ。

「情報産業や情報化した社会の様子」の学習において

- ◆情報の送り手として、発信する情報に責任をもつことや、情報を受け取る側の正しい判断の大切さや必要性について考える。

先人の働きや文化遺産の役割や意味を考え、それらのもつ価値を理解する

学習内容	考えさせる先人の働きや文化遺産の役割や意味
我が国の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆大和朝廷が、国土を統一したことの意味。</li> <li>◆聖徳太子の政治や聖武天皇の政治が、天皇中心の国家の誕生に果たした役割。</li> <li>◆源頼朝らが、武士による支配の確立に果たした役割。</li> <li>◆足利義政が建てた銀閣などの建造物における書院造や、雪舟によって描かれた水墨画といった現代に通じる室町文化が誕生したことの意味。</li> <li>◆織田・豊臣による天下統一の意味。</li> <li>◆徳川家康らが、参勤交代、鎖国、身分制度の確立を実施し、武士政権の安定に果たした役割。</li> <li>◆文明開化、明治諸改革に関わった人物が、日本の近代化に果たした役割。</li> <li>◆大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展等の出来事やそれらに関わった人物が、明治から大正期における日本の国際的地位の向上に果たした役割。</li> <li>◆日華事変、太平洋戦争といった戦争が、国民やアジアの人々に大きな被害をもたらしたことの意味。</li> <li>◆日本国憲法の制定、オリンピックの開催などにより日本が民主的な国家として発展し、国際社会における役割が増大してきたことの意味。</li> </ul>

政治と国民生活との関連を考え、政治の働きを理解する

学習内容	考えさせる国民生活との関連
我が国の政治の働き	◆政治の内容と、国民生活の安定と向上との結び付き。

地図や地球儀、史料、年表を読み取る

地図の読み取りができる

- ◆歴史の舞台となった場所の位置を地図で確認し、その場所の様子を読み取る。

地球儀の活用ができる

- ◆主な国について日本からの方角を調べる。

史料（文書、絵画）の読み取りができる

- ◆当時の様子を想像する。

年表の読み取りができる

- ◆年表の構成が分かり、できごとが起こった年代やその頃の他のできごとを読み取る。

よりよい国民生活に向けた課題と解決策を考える

「我が国の政治の働き」の学習において

- ◆政治の働きについて調べ、将来、自分たちが政治にどのように関わっていくことが大切なのか考える。

<例>

国の政治は、わたしたち国民の願いを実現させるためにあるということが分かりました。

国民の願いを実現させるために使われる税金は、きちんと納めなくちゃいけない。

政治を行う人は自分たちの意思の代表だから、代表者を選ぶ選挙には将来必ず行きたいです。



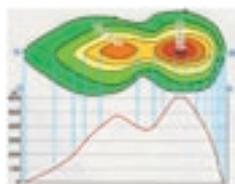
自然的及び社会的条件を事象と関連付けて考え、地域的特色を理解する

学習内容	関連付けて考えさせる条件
世界各地の人々の生活と環境	◆世界の人々の生活の様子とその変容の背景や要因となる、気候や地形などの自然的条件と、政府の政策、宗教、他地域との結び付きなどの社会的条件。
世界の諸地域	◆取り上げた地域の地理的事象を成り立たせたり、地域の変容をもたらしたりする背景や要因となる、土地や気候などの自然的条件と、豊富な労働力、他地域との結び付き、人々の工夫などの社会的条件。
世界の様々な地域の調査	◆人々の生活を成り立たせている背景や要因となる、自然環境や社会環境、他地域との結び付き、歴史的背景などの条件。
日本の諸地域	◆取り上げた地域の地理的事象を成り立たせている背景や要因となる、自然環境や歴史的背景、他地域との結び付き、産業の立地、人々の生活、地域開発、人口の動態などの条件。
身近な地域の調査	◆地域の変容の背景や要因となる、地形や土地などの自然的条件と、インターチェンジの立地等の交通網の発達、ショッピングモール等の商業施設の立地などの社会的条件。

地図や地球儀、地理情報を活用する

地図の活用ができる

- ◆本初子午線を基準に、経度（東経、西経）から時差を計算する。
- ◆大まかに世界や日本の略地図を描く。
- ◆縮尺の大きい地図から16方位、土地利用の様子、縮尺を利用した2地点間の実際の距離、等高線から土地の傾斜などを読み取る。



地球儀の活用ができる

- ◆東京と主な世界の都市との距離や方角を調べる。

地理情報の活用ができる

- ◆主題図、雨温図、分布図、統計資料、写真など、資料の特徴に応じて、地理的事象の分布や特色を的確に読み取る。
- ◆調べたことを地図化、グラフ化するなど、目的に応じて処理をする。

地域的課題と解決策を考える

「世界の様々な地域の調査」の学習において

- ◆調べた国や地域における産業や生活等の変化から今後、解決すべき課題を考える。

<例>

- ・EU内で経済危機に陥っている国々は、どうすれば立ち直ることができるか。
- ・なぜ、韓国製のテレビや携帯電話などの製品が日本で多く売られているのか。経済発展に伴う課題にはどのようなものがあるか。

「身近な地域の調査」の学習において

- ◆国際化、情報化、交通の発達、高齢化、防災、環境の保全等の面から、身近な地域の課題や将来像を考える。

<例>

- ・高齢化が進む〇〇市において、住みやすいまちづくりを進める上で、どのような課題があるか。

老人福祉施設の数を増やす必要がある。どの場所に増やすといいかな？

商店街に段差が多くあり、老人が安全に歩くことができないと思う。

路線バスの本数、路線が不十分で、お年寄りが通院や買い物をしづらい地域もあるわよ。



時代や文化の特色を考え、歴史の大きな流れを理解する

学習内容	考えさせる特色
古代までの日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆大陸の文物や制度を積極的に取り入れた国家の仕組みや、その後の天皇、貴族による政治の特色。</li> <li>◆国際的な要素をもった文化や、後に国風化した文化の特色。</li> </ul>
中世の日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆武家政治の特色。</li> <li>◆東アジアとの関わりや、鎌倉幕府の滅亡、室町幕府の衰退といった武家政治の展開の特色。</li> <li>◆武家政治の展開や民衆の成長を背景とする社会や文化の特色。</li> </ul>
近世の日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆織田・豊臣の統一事業の特色。</li> <li>◆江戸幕府の政治の特色。</li> <li>◆都市の町人文化や当時の群馬の生活文化の特色。</li> <li>◆幕府の諸改革の特色。</li> </ul>
近代の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆新政府による改革の特色。</li> <li>◆国際的地位の向上に見られる日本の急速な近代化に関わる特色。</li> <li>◆産業革命、国民生活の変化、学問・科学・芸術の発展に関わる特色。</li> <li>◆第一次世界大戦の背景やその影響による政治・経済・社会の変化の特色。</li> <li>◆太平洋戦争の背景とその影響による政治・経済・社会の変化の特色。</li> </ul>
現代の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆第二次世界大戦後の諸改革の特色。</li> <li>◆高度経済成長や冷戦の終結による政治・経済・社会の変化の特色。</li> </ul>

史料や年表を活用する

史料（文書、絵画）の活用ができる

- ◆当時の社会状況やその変化、政策の意図などを読み取る。



年表の活用ができる

- ◆時代区分、世紀、西暦、主な出来事とその継続期間、複数の事象のつながりや因果関係を読み取る。
- ◆調べたことを図解し、年表にまとめる。

<例>

- ・課題) 聖徳太子はどのような国づくりをしようとしたか。

十七条の憲法(抜粋)

一に曰く、和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗とせよ。  
 二に曰く、あつく三法を敬え。三法とは仏・法・僧なり。  
 三に曰く、詔をうけたまわりては必ずつつしめ。



・「さからうことなき」ってことは、争いの多い時代だったということなのかな。  
 ・「三法を敬え」というところから、聖徳太子は仏教を大切にしていると感じました。  
 ・「詔」は天皇の命令ということなので、聖徳太子は天皇中心の政治を進めようとしたのだと思います。

年表等で、この後、どのような人物が天皇中心の政治を目指し、実現させていか調べてみましょう。



様々な視点から考え、社会のしくみの意味を理解する

学習内容	考えさせる視点
私たちと経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆消費生活に関わる「選択」「生活の維持・向上」といった視点。</li> <li>◆価格の決めり方に関わる「希少」「付加価値」「コスト」「需要と供給」「資源の効率的な配分」「企業による工夫や努力」「選択」といった視点。</li> <li>◆公共サービスの重要性に関わる「社会資本の整備」「公害の防止」「環境保全」「社会保障の充実」「消費者の自立と保護」といった視点。</li> <li>◆財政の役割や租税の意義に関わる「財源の確保」「配分」といった視点。</li> </ul>
私たちと政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆人権の尊重に関わる「歴史的な成果」「権利と責任、義務」「公共の福祉」といった視点。</li> <li>◆議会制民主主義の意味に関わる「自治」「政党の役割」「多数決の原理」「国民の意見の一層の反映」といった視点。</li> </ul>
私たちと国際社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆国際社会における日本の役割に関わる「国際平和」「日本の安全と防衛」「平和主義」「地球環境問題の解決」「国際貢献」といった視点。</li> </ul>

資料の適切な選択、再構成をする

資料の適切な選択ができる

- ◆様々な資料から課題の解決に必要なより適切な情報を収集、選択する。

<例>

少子高齢化と税負担の問題に関する資料選択

○収集する情報

- ・「2055年の人口推計予想」
- ・「現在考えられている増やす政策」
- ・「高齢者関係給付費の推移」
- ・「高福祉・高負担」(ヨーロッパ方式)、「低福祉・低負担」(アメリカ方式)に関わる資料

- ◆コンピュータや情報通信ネットワークを活用し、様々な情報の中から課題解決に必要な情報を選択する。

資料の再構成ができる

- ◆資料の特徴を生かして、調べたことや考えたことを相手に的確に伝えるレポートをつくる。

現代社会の課題と解決策を考える

「効率」「公正」の視点から考える学習において

- ◆自分たちの身近な生活に関わる課題の解決策を考える。

<例>

- ・新しく道路を建設することについて

- ・生活が便利になる
- ・環境を壊すかもしれない
- ・建設費用がかかる



- ◆国民生活の向上のための財政の配分と、少子高齢化が進む中での財源の確保に関わる税制の在り方を考える。
- ・国や地方公共団体の抱える社会資本の整備や環境保全、社会保障の充実などの様々な課題の解決策と将来像について考える。
- ・持続可能な社会の実現のために、解決すべき地球規模での課題を見だし、解決に向けての具体策を考える。

## 算数・数学の課題と、解決に向けて伸ばしたい資質・能力

課題		既習の知識や考え方等を活用して、課題解決すること	筋道を立てて考え、根拠を明らかにしながら説明すること	数量や図形についての豊かな感覚を身に付けること (小学校) 実感を伴って理解をすること (中学校)
学年				
小学校	1・2年	数学的な考え方を身に付けることができる	具体物や絵、図を用いて考え、自分なりに説明することができる	数量や図形のおよその大きさや形をとらえることができる
	3・4年		数学的な表現を用いて考え、それらを用いて説明することができる	数量を概数で表したり、図形の大まかな様子をとらえたりすることができる
	5・6年		数学的な表現を適切に用いて考え、わかりやすく説明することができる	数量を概数で適切に表したり、図形の特徴をとらえたりすることができる
中学校	1～3年		数学的な推論を用いて考え、根拠を明確にして説明し合うことができる	数量や図形の性質などを、具体的に示すことができる



算数・数学の学習を進めていく上で、特に活用される大切な「数学的な考え方」と、関係する主な「学習内容」を示しました。

筋道立てて考え、その考えを表したり説明したりする児童生徒の姿を、具体例とともに示しました。

上記の表のように、「解決に向けて伸ばしたい資質・能力」は、基本的に2～3学年をまとめて示してあり、具体的な児童生徒の姿は、1学年ごとに示しています。

数学的な考え方を身に付ける		
	学習内容	大切な考え方
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>1位数+1位数の繰り上がりのある加法及びその逆の減法の計算の仕方考えること</li> <li>20より大きい数の数え方を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10のまとまりをつくる考え方</li> <li>10とあと幾つという考え方 (→ 2年「加法、減法」)</li> <li>10を単位とした数の見方 (→ 2年「3けたの数」)</li> </ul>
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りにあるものの長さや、面積、体積の比べ方を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>端をそろえたり、重ねたりするなどして比べる直接比較の考え方</li> <li>他の長さや広さなどに置き換えて比べる間接比較の考え方</li> <li>身の回りにあるものの大きさを単位とし、その幾つ分として数値化して表す考え方 (→ 2年「長さの単位と測定」)</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りにあるものの形の特徴を調べること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>色や大きさ、材質などを捨象し、形に着目する見方</li> <li>回しても裏返しても、形も大きさも同じ(合同)であるという見方 (→ 2年「三角形や四角形などの図形」)</li> </ul>
整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>加法や減法の式に合う話を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加法や減法について、式と場面と図を関連付ける考え方 (→ 2年「加法と減法の相互関係」)</li> </ul>

掲載した「数学的な考え方」が活用される他の学習場面を示しました。

### 具体物や絵、図を用いて考え、自分なりに説明する

◆具体物等を実際に操作して考えることができる。

◆事象の様子を絵や図に表して、イメージをもって考えることができる。

◆考えた方法や結果などを、絵や図、式に表すことができる。

◆操作の手順などを、矢印や数字などを使って表すことができる。

◆具体物を操作したり、絵や図に書いた方法を示したりしながら、自分の考え方を説明することができる。

**<例>「7+5の場合」**

◆具体物やブロック等を用いて操作する

**<例>「7+5の場合」**

◆操作の手順などを、矢印や数字などを使って表すことができる。

**<例>「水のかさくらべ」**

◆実際に水を入れながら、「同じ大きさの入れ物に入れかえると、左の水位の方が高いことが分かる」と言葉で説明する。操作しながら言葉で説明する

### 数量や図形のおよその大きさや形をとらえる

◆1つの数を、他の数の和や差とみて表すことができる。

**<例>**

- 7を、「2と5」「4と3」などとみる。
- 8を、「10より2小さい」など、10と関連付けて表す。

◆身の回りにあるものの長さや面積、体積を、他のものと比較して表すことができる。

**<例>**

- 他のもののだいたい幾つ分として表す。
- どちらが長い(多い・大きい)か判断する。

(小黒板の縦と横の長さ)

◆もの形を認めたり、形の様子をとらえたりすることができる。

**<例>**

- 身の回りのものの中から「さんかく」「しかく」などの形を見付ける。
- 「さんかく」と「しかく」を比べ、かど(角)の数が異なるという形の特徴を見付ける。

(積み木の面の観察)

小学校は、育てたい「数量や図形についての豊かな感覚」の例を、児童の具体的な姿で示しました。

中学校は、「実感を伴って理解をうながしたい内容」の例を、生徒の具体的な姿で示しました。

数学的な考え方を身に付ける

	学習内容	大切な考え方
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>1位数+1位数の繰り上がりのある加法及びその逆の減法の計算の仕方を考えること</li> <li>20より大きい数の数え方を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆10のまとまりをつくる考え方</li> <li>◆10とあと幾つという考え方 (→ 2年「加法、減法」)</li> <li>◆10を単位とした数の見方 (→ 2年「3けたの数」)</li> </ul>
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りにあるものの長さや、面積、体積の比べ方を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆端をそろえたり、重ねたりするなどして比べる直接比較の考え方</li> <li>◆他の長さや広さなどに置き換えて比べる間接比較の考え方</li> <li>◆身の回りにあるものの大きさを単位とし、その幾つ分として数値化して表す考え方 (→ 2年「長さの単位と測定」)</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りにあるものの形の特徴を調べること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆色や大きさ、材質などを捨象し、形に着目する見方</li> <li>◆回しても裏返しても、形も大きさも同じ(合同)であるという見方 (→ 2年「三角形や四角形などの図形」)</li> </ul>
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>加法や減法の式に合う話を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆加法や減法について、式と場面と図を関連付ける考え方 (→ 2年「加法と減法の相互関係」)</li> </ul>

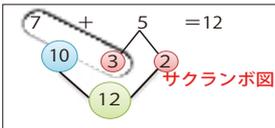
具体物や絵、図を用いて考え、自分なりに説明する

◆具体物等を実際に操作して考えることができる。

◆事象の様子を絵や図に表して、イメージをもって考えることができる。

◆考えた方法や結果などを、絵や図、式に表すことができる。

◆操作の手順などを、矢印や数字などを使って表すことができる。



◆具体物を操作したり、絵や図にかいた方法を示したりしながら、自分の考え方を説明することができる。

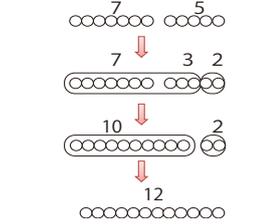
<例> 「水のかさくらべ」

・実際に水を入れながら、「同じ大きさの入れ物に入れかえると、左の色水の方が多いことが分かる。」と言葉で説明する。操作しながら言葉で説明する

<例> 「7+5の場面」



<例> 「7+5の場面」



数量や図形のおよその大きさや形をとらえる

◆1つの数を、他の数の和や差とみて表すことができる。

<例>

- ・7を、「2と5」「4と3」などとみる。
- ・8を、「10より2小さい」など、10と関連付けて表す。

◆身の回りにあるものの長さや面積、体積を、他のものと比較して表すことができる。

<例>

- ・他のもののだいたい幾つ分として表す。
- ・どちらが長い(多い・大きい)か判断する。



(小黒板の縦と横の長さ)

◆ものの形を認めたり、形の様子をとらえたりすることができる。

<例>

- ・身の回りのものの中から「さんかく」「しかく」などの形を見付ける。
- ・「さんかく」と「しかく」を比べ、かどの数が異なるといった形の特徴を見付ける。



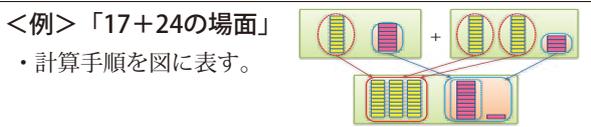
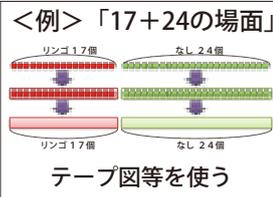
(積み木の面の観察)

数学的な考え方を身に付ける

	学習内容	大切な考え方
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>2位数の加法及び減法の計算の仕方を考えること</li> <li>乗法九九を用いてものの数を工夫して数えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10のまとまりが幾つで、1が幾つという考え方</li> <li>繰り上がり、繰り下がりの考え方</li> <li>ある数のまとまりが幾つという考え方</li> <li>乗数が1増えると、積は被乗数分だけ増えるという考え方 (→ 3年「除法」)</li> <li>乗法九九を用いやすいように分けるという考え方 (→ 3年「乗法」)</li> </ul>
量測	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さや体積の比べ方や表し方を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通単位(cm, m, mm, dL, L, mL)を用いて数値化して表す考え方</li> <li>適切な単位を用いる考え方 (→ 3年「重さの単位と測定」)</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形の特徴を構成要素を基に調べること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角形や四角形を、辺や頂点の数に着目してみる見方</li> <li>身の回りのものを三角形や四角形を敷き詰めてできたものとみる見方</li> <li>立体図形は平面図形によって構成されているという見方 (→ 4年「立方体・直方体」)</li> </ul>
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>加法と減法の相互関係について考えること</li> <li>乗法の式に合う話を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加法と減法は、<math>A+B=C</math>、<math>A=C-B</math>、<math>B=C-A</math>のように、相互に関係付けられているという考え方</li> <li>乗法について、式と場面と図を関連付ける考え方 (→ 3年「除法の式」)</li> </ul>

具体物や絵、図を用いて考え、自分なりに説明する

- ◆具体物等を実際に操作して考えることができる。
- ◆事象の様子を絵や図に表してイメージをもって考えることができる。
- ◆考えた方法や結果などを、絵や図、式などに表すことができる。
- ◆操作の手順などを、矢印や数字などを使って表すことができる。



- ◆具体物を操作したり、絵や図に表した方法を示したりしながら、自分の考え方を説明し、考えの違いに気付くことができる。

<例> 「ものの個数を工夫して数える」

3個の2つ分と6個の3つ分を合わせて24個。

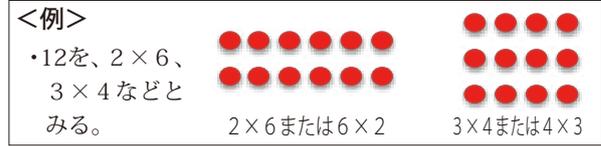
上の3個を移動して、6個の4つ分で24個。

全部あると考えたものから3個の2つ分を引いて24個。

自分の考えを説明し、考えの違いに気付く

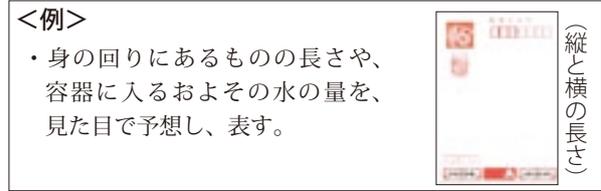
数量や図形のおよその大きさや形をとらえる

- ◆1つの数を、他の数の積とみて表すことができる。
- ◆2位数同士の和や差について、およその見当を付けることができる。

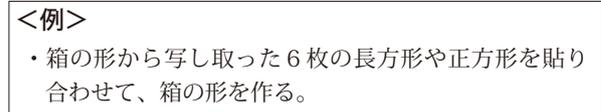


- ◆28+59を、30+60と考えて、90より小さくなると予想する。

- ◆ものの長さや体積について、およその見当を付けることができる。



- ◆長方形や正方形を組み合わせて、立体図形を作ることができる。



数学的な考え方を身に付ける

	学習内容	大切な考え方
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>除法の意味や計算の仕方を考えること</li> <li>小数の計算の意味や計算の仕方を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ある数量が他方の数量の幾つ分であるかという包含除の考え方</li> <li>ある数量を等分したときの1つ分という等分除の考え方 (→ 4年「整数の除法」)</li> <li>数の範囲が小数に広げられても、位をそろえれば整数と同様に計算できるという考え方 (→ 4年「小数の計算」)</li> </ul>
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>重さの表し方を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>天秤などを用いて比べる直接比較、間接比較の考え方</li> <li>共通単位(g、kg)を用いて数値化して表す考え方 (→ 4年「長方形や正方形の面積」)</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角形の仲間分けについて考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>辺の長さに着目して(二等辺三角形や正三角形を)弁別する見方</li> <li>図形の構成要素に着目する見方 (→ 4年「平行四辺形、ひし形、台形」)</li> </ul>
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>□を使うよさについて考えること</li> <li>除法の式に合う話を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未知の数量を、□を使って式に表す考え方</li> <li>除法について、式と場面と図を関連付ける考え方 (→ 4年「変わり方調べ」)</li> </ul>

数学的な表現を用いて考え、それらを用いて説明する

- 既習事項と比較したり結び付けたりしながら、考えることができる。

<例> 「小数の表し方」

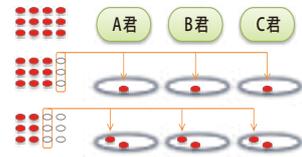
2年生で学習した230は10が23個集まった数という考え方と結び付けて、1.8は0.1を18個集めた数であると、数直線を用いながら考える。



- 事象の様子を、式や図、表などに表して考えることができる。

<例> 「12÷3の場面」

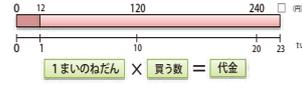
12個のお菓子を3人で同じ数ずつ分けるとき、1人分の個数を、図を用いて考える。



- 考えた方法や結果などを、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて表すことができる。

<例> 「12×23の場面」

枚数と代金の関係を線分図で表し、その図を基に言葉の式で表す。



- 方法や結果などを、理由を付け説明することができる。
- それぞれの考えを比較して、より簡潔な方法を見つけたり、共通点や相違点を見つけたりすることができる。

数量を概数で表したり、図形の大まかな様子をとらえたりする

- 身近な場所の長さや、身近な物の重さのおよその見当を付け、単位を用いて表すことができる。

<例>

- 廊下の長さや学校までの道のりなどを、「約〇〇(m、km)」と表す。
- ものを持ったときに、1kgより重いかどうか見当が付く。

- 時間のおよその見当を付け、単位を用いて表すことができる。

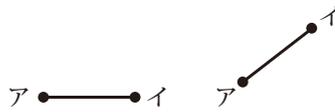
<例>

- 50mを歩くのにかかる時間、登校するのにかかる時間などを、「約〇〇(秒、分、時)間」と表す。
- 10秒間、1分間などを、「だいたい、これくらい」と示す。

- 二等辺三角形や正三角形のおよその形をとらえることができる。

<例>

2つの頂点が決まっているときに、もう1つの頂点の場所を示して、二等辺三角形や正三角形を表す。



数学的な考え方を身に付ける

	学習内容	大切な考え方
数と計算	・小数×整数、小数÷整数の意味や計算の仕方を考えること	◆数の範囲が小数に広げられても、乗法や除法が用いられる場面は整数と同様であるという考え方 ◆被乗数や被除数の単位を変え、整数の除法に帰着させる考え方 (→ 5年「小数のかけ算、わり算」)
量と測定	・長方形や複合図形の面積の求め方を考えること ・角の大きさの比べ方を考えること	◆共通単位( $\text{cm}^2$ 、 $\text{m}^2$ )を用いて数値化して表す考え方 ◆複合図形を、複数の長方形の和や差としてみる見方 (→ 5年「いろいろな図形の面積の求め方」) ◆角の大きさを、回転の大きさとしてみる見方
図形	・四角形の性質を調べ、作図の仕方を考えること	◆図形の辺や面の位置関係(垂直、平行)に着目する見方 ◆図形の性質に帰着させる考え方 (→ 5年「合同な図形」)
数量関係	・身の回りの事象の中から伴って変わる2つの数量を見だし、その関係を見付けること	◆一方の数量が変化すると他方も変化するという関数の考え方 (→ 5年「簡単な比例」) ◆変化の様子を表に表して規則性を見付ける考え方 (→ 5年「数量の関係の見方や調べ方」)

数学的な表現を用いて考え、それらを用いて説明する

- ◆既習事項と比較したり結び付けたりしながら、考えることができる。

<例> 「7.2÷3の場面」

- ・単位を変え、7.2cmを72mmにして、既習の整数の除法に帰着させて考える。 **既習の方法に帰着させる**

- ◆事象の様子を、式や図、表などに表して考えることができる。

- ◆考えた方法や結果などを、言葉や数、式、図、表グラフなどを用いて表すことができる。

- ◆方法や結果などを、理由を付け説明することができる。

<例> 「7.2÷3の場面」

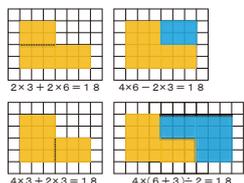
7.2cmは72mmだから、単位を変えてmmで考えると式は  $72 \div 3$  となり、整数のわり算の方法で計算できるよ。



- ◆それぞれの考えを比較して、より簡潔な方法を見付けたり、共通点や相違点を見付けたりすることができる。

<例> 「複合図形の面積」

- ・それぞれの求め方の共通点について考え、「どの方法も、長方形に形を変えて、長方形の和や差と見て考えている」ことを見付ける。



数量を概数で表したり、図形の大まかな様子をとりえたりする

- ◆計算の結果を見積もることができる。

<例>

- ・小数を近い整数に直したり、2桁以上の整数を計算しやすい概数に直したりして計算し、和、差、積、商を概数で表す。
- ・問題場面に応じて、何の位までの概数にすればよいか適切に判断する。

- ◆身近な物の面積のおよその見当を付け、単位を用いて表すことができる。

<例>

- ・ノート、新聞紙、教室、校庭などの面積を、「約〇〇平方〇〇」と表す。



- ◆いろいろな四角形で平面を敷き詰めて、その中に見られる図形を見付けることができる。

<例>

- ・合同な台形を敷き詰めて、平行や、平行四辺形を見付ける。



数学的な考え方を身に付ける

	学習内容	大切な考え方
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>小数の乗法、除法の計算の仕方を考えること</li> <li>異分母分数の加法、減法の計算の仕方を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆乗法、除法の性質を用いて、整数の乗法、除法に帰着させる考え方 【乗法の性質：<math>a \times b = c</math>のとき、<math>(a \times m) \times b = c \times m</math>、<math>(a \div m) \times b = c \div m</math>】 【除法の性質：<math>a \div b = c</math>のとき、<math>(a \times m) \div (b \times m) = c</math>、<math>(a \div m) \div (b \div m) = c</math>】</li> <li>◆通分して、単位分数の幾つ分としてみる考え方 (→ 5年「分数のかけ算とわり算」)</li> </ul>
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・混み具合の比べ方を考えること</li> <li>・四角形や三角形の面積の求め方を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆2つの数量について、単位量当たりの大きさで比べる考え方 (→ 6年「速さ」)</li> <li>◆2つの数量の関係を関数的にとらえる考え方 (→ 6年「比例と反比例」)</li> <li>◆図形を分割して移動したり合わせたりして、既習の図形に帰着させる考え方 (→ 6年「立体の体積」)</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同な図形の性質を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆図形の構成要素に着目する見方</li> <li>◆合同な図形は、移動(ずらす、回す、裏返す)によってぴったり重なる図形という見方 (→ 6年「拡大図と縮図」)</li> </ul>
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・百分率の表し方を考えること</li> <li>・比例関係について考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆基準とする量の大きさを100として、資料の全体と部分、部分と部分を比べる考え方 (→ 6年「倍と割合」)</li> <li>◆一方の数量が2倍、3倍、4倍…になると、それに伴って他方も2倍、3倍、4倍…になるという考え方 (→ 6年「比例と反比例」)</li> </ul>

数学的な表現を用いて考え、わかりやすく説明する

- ◆既習事項と比較したり結び付けたりしながら、課題に応じて式や図、表などを適切に用いて考えることができる。
- ◆考えた方法や結果などを、言葉や数、式、図、表、グラフなどを適切に用いて、わかりやすく表すことができる。

<例> 「百分率」

・300mLの20%の量を考え、言葉や図などを用いて表す。

言葉で表す  
300mLの20%は、300mLの0.2倍だから  $300 \times 0.2$  で表せるね

図で表す  
全部の量 300mL  
果汁の量  
全部の量の20%  
もとにする量

数直線図で表す  
0 0.2 1 割合

- ◆考えの根拠を示したり、方法のよさや課題を明らかにしたりしながら順序よく説明することができる。
- ◆方法を類型化して大別し、より簡潔な方法を見付けたり、共通点や相違点を見付けたりすることができる。
- ◆考えを統合し、一般化できる考えを見付けたり、別の場合で発展的に考えたりすることができる。

<例> 「四角形や三角形の面積の求め方」

・それぞれの求め方の共通点について考え、「図形を分割して移動したり合わせたりして、三角形を長方形や平行四辺形に形を変えれば三角形の面積は求められる」ことを見付けることができる。

数量を概数で表したり、図形の特徴をとらえたりする

- ◆小数を分数で表したり、分数を小数や他の分数で表したり、大小をとらえたりすることができる。

<例>

- ・0.13は $\frac{13}{100}$ 、 $\frac{1}{4}$ は0.25、 $\frac{1}{3}$ は約0.3などと表す。
- ・ $\frac{1}{3}$ は0.3より大きい、 $\frac{4}{5}$ は $\frac{5}{6}$ より小さいと判断する。

- ◆計算の結果を見積もることができる。

<例>

- ・「280円のペンの30%引き」の値段は、280円を約300円と考えて、およそ200円と表す。

- ◆立体図形を想像したり、構成したりすることができる。

<例>

- ・平面にかかれた図形から立体図形を想像する。
- ・展開図をかいて立体を構成する。

数学的な考え方を身に付ける

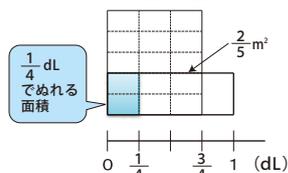
	学習内容	大切な考え方
数と計算	・分数×分数、分数÷分数の意味や計算の仕方を考えること	◆整数、小数の乗法、除法に帰着させる考え方 ◆整数、小数、分数の除法はすべて分数の乗法に統合されるという考え方 (→ 中学1年「正の数・負の数」)
量と測定	・速さ、道のり、時間の関係を考えること ・円の面積の求め方を考えること	◆速さは、単位時間当たりの移動する長さであるという考え方 ◆図形を分割して移動したり合わせたりして、既習の図形に帰着させる考え方 ◆円の面積は、半径の長さを1辺とする正方形の面積の約3.14倍であるという見方 (→ 中学1年「球の体積と表面積」)
図形	・形が同じで、大きさの違う図形の性質を調べること	◆図形をずらしても、回しても、裏返しても形が変わらないという見方 ◆縮図や拡大図の関係にある図形について、辺と辺、角と角を対応付ける考え方 (→ 中学1年「平面図形」) ◆対応する角と対応する辺の比に着目する考え方 (→ 中学2年「合同」)
数量関係	・比例を利用して考えること	◆一方の数量が定まると、それに伴ってもう一方の数量も定まるという考え方 ◆対応している2つの数量の商は、どれも一定になっているという見方 ◆一方の数量が $\frac{1}{2}$ 倍、 $\frac{1}{3}$ 倍、 $\frac{1}{4}$ 倍…になると、それに伴って他方も $\frac{1}{2}$ 倍、 $\frac{1}{3}$ 倍、 $\frac{1}{4}$ 倍…になるという考え方 (→ 中学1年「比例・反比例」)

数学的な表現を用いて考え、わかりやすく説明する

- ◆既習事項と比較したり結び付けたりしながら、課題に応じて式や図、表などを適切に用いて考えることができる。
- ◆考えた方法や結果などを、言葉や数、式、図、表、グラフなどを適切に用いて、わかりやすく表すことができる。

<例> 「 $\frac{2}{5} \div \frac{3}{4}$ の計算の仕方」 面積図等を使う

- ・分数の割り算の計算の仕方を、面積図等を用いて考え、表す。



- ◆考えの根拠を示したり、方法のよさや課題を明らかにしたりしながら順序よく説明することができる。

<例> 「比例の利用」

- ・「画用紙の重さは、枚数に比例するから」と考えの根拠を示し、「枚数が30倍になっているので、重さは $75 \times 30 = 2250$ 」と画用紙の枚数の求め方を順序よく説明する。
- ・「比例を使うと数えなくても枚数が求められる」とよさを示す。

枚数 (枚)	10	300
重さ (g)	75	

- ◆方法を類型化して大別し、より簡潔な方法を見付けたり、共通点や相違点を見付けたりすることができる。
- ◆考えを統合し、一般化できる考えを見付けたり、別の場合で発展的に考えたりすることができる。

数量を概数で表したり、図形の特徴をとらえたりする

- ◆身近なものの速さのおよその見当を付けたり、速さを具体的にとらえたりすることができる。

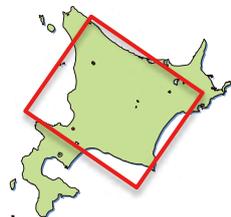
<例>

- ・人の歩く速さはおよそ分速80m、ジョギングはおよそ分速150mと表す。
- ・分速80mと分速150mの違いを実際に歩いたり走ったりして示す。

- ◆身の回りのものを平面図形と見なして、およその面積を適切な単位を用いてとらえることができる。

<例>

- ・野球場を台形と見なして、面積を「およそ $\bigcirc\bigcirc a$ 」と表す。
- ・北海道を三角形や四角形と見なして、およその面積をとらえる。



- ◆2つの数量がわかっているとき、およその数量の比を整数比で表すことができる

<例>

- ・ケーキをつくる際に、小麦粉と砂糖の重さから、分量の比を「約 $\bigcirc : \bigcirc$ 」と表す。



数学的な考え方を身に付ける

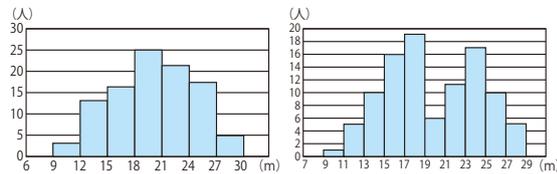
	学習内容	大切な考え方
数と式	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字式での表し方を考えること</li> <li>1次方程式の解き方を考えること</li> <li>1次方程式を利用して解決すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>規則性を見付けて、文字式で一般化する考え方 (→ 1年「1次方程式」)</li> <li>等式の性質を用いて、<math>x = a</math>の式をつくる考え方</li> <li>等しい数量の関係を見付け、等式で表す考え方 (→ 2年「連立方程式」)</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な作図の方法を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形の対称性や、図形を決定する要素に着目する見方</li> <li>2点から等距離にある点は、2点を端にとった線分の垂直二等分線上にあるという考え方</li> <li>角の二等分線、垂直二等分線、垂線の作図を統合的にとらえる考え方 (→ 2年「図形の合同」)</li> </ul>
関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>比例、反比例の意味を考えること</li> <li>比例、反比例を見だし、考察すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数量の変化の規則性に着目する考え方</li> <li>一方の数量が定まると、それに伴ってもう一方の数量も定まるという考え方</li> <li>表と式とグラフを関連付けてみる考え方 (→ 2年「1次関数」)</li> </ul>
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の傾向をとらえること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を数値化したり視覚化したりする考え方</li> <li>資料を目的に応じて適切に処理する考え方</li> </ul>

数学的な推論を用いて考え、説明し合う

- ◆既習事項と比較したり結び付けたりしながら、性質などを帰納的、類推的に見いだすことができる。
- ◆事象の様子を数学的にとらえ、帰納、類推、演繹の数学的な推論を適切に用いて考えることができる。
- ◆考えの根拠を明確にして、数学的な表現を適切に用いて表し、自分の考えを筋道立てて説明したり、相手の考えを読み取ったりすることができる。

<例> 「資料の傾向」

・階級の幅の違う複数のヒストグラムを比較して、それぞれのヒストグラムから読み取れる傾向について説明し合う。



- ◆思考過程を振り返って、考えのよさを見付けたり、一般化できる考えを見付けたり、別の場合で発展的に考えたりすることができる。

<例> 「文字式」

・マッチ棒の本数を求める式  
 ①  $1 + 3n$  ②  $4n - (n - 1)$  ③  $2n + (n + 1)$   
 ④  $\dots$  を比較し、「式をみると考え方が分かる」とよさを見付け、さらに、「正方形が違う形の場合はどうだろう」などと新たな課題をもつ。

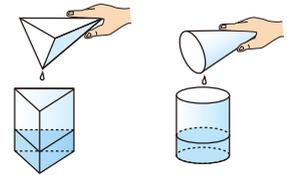


数量や図形の性質などを、具体的に示す

- ◆錐体や球の体積の求め方、柱体の体積との関係を、具体物进行操作しながら示すことができる。

<例>

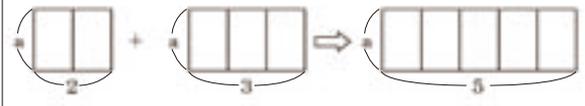
・底面が合同で高さの等しい錐体と柱体では、錐体の体積が柱体の体積の  $\frac{1}{3}$  であることを、容器を使って示す。



- ◆文字式の計算を、具体的な事象と結び付けて示すことができる。

<例>

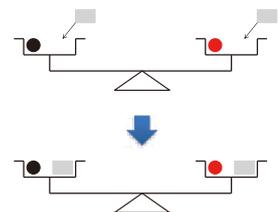
・ $2a + 3a$  が  $5a$  になることを、図と結び付けて示す。



- ◆等式の性質が成り立つことを、例をあげて示すことができる。

<例>

・両辺に同じ数を加えて(引いて)も等しい関係が成り立つことを、天秤を使って説明する。



数学的な考え方を身に付ける

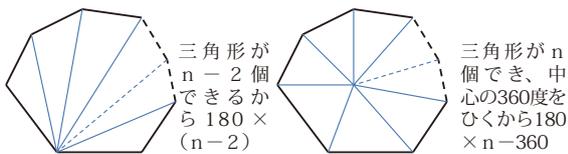
	学習内容	大切な考え方
数と式	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字式を用いて命題を説明すること</li> <li>連立方程式の解き方を考えること</li> <li>連立方程式を利用して解決すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆事象の規則性を文字式を使って説明する考え方</li> <li>◆等式の性質を用いて、活用しやすい形に式を変形する考え方</li> <li>◆複数の数量の相当関係を方程式を用いて表す考え方</li> <li>◆文字を1つ消去して、1次方程式に帰着させる考え方 (→ 3年「2次方程式」)</li> <li>◆等しい数量の関係を見付け、連立方程式で表す考え方</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>平行線や多角形の性質を考えること</li> <li>証明の進め方について考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆帰納や類推を用いて図形の性質を推論する考え方</li> <li>◆既に説明できた図形の性質を用いて説明する(演繹的な)考え方</li> <li>◆合同な三角形を見だし、三角形の合同条件を用いる考え方 (→ 3年「相似」)</li> </ul>
関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>1次関数の特徴について考えること</li> <li>1次関数を利用して解決すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆伴って変化する2つの数量の関係を一般化して式に表す考え方</li> <li>◆1次関数、比例、反比例のそれぞれの表、式、グラフを比較する考え方</li> <li>◆伴って変化する2つの数量の関係を理想化したり、単純化したりする考え方</li> <li>◆帰納的にxとyの関係を見だす考え方 (→ 3年「<math>y=ax^2</math>の関数」)</li> </ul>
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>確率の求め方を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆同様に確からしいという考え方</li> <li>◆統計的確率、数学的確率の考え方 (→ 3年「標本調査」)</li> </ul>

数学的な推論を用いて考え、説明し合う

- ◆既習事項と比較したり結び付けたりしながら、性質などを帰納的、類推的に見いだすことができる。
- ◆事象の様子を数学的にとらえ、帰納、類推、演繹の数学的な推論を適切に用いて考えることができる。

<例> 「多角形の内角の和」

- ・三角形の内角の和が $180^\circ$ であることを基にして、 $n$ 角形の内角の和を演繹的に考える。



- ◆考えの根拠を明確にして、数学的な表現を適切に用いて表し、自分の考えを筋道立てて説明したり、相手の考えを読み取ったりすることができる。
- ◆思考過程を振り返って、考えのよさを見付けたり、一般化できる考えを見付けたり、別の場合で発展的に考えたりすることができる。

<例> 「連続する3つの整数の和」

- ・最初の整数を  $n$  とおき、連続する3つの整数の和を、 $3(n+1)$  と表し、3の倍数となることを説明する。このことを振り返り、「真ん中の整数を  $n$  とした方が、式が  $3n$  となってよい」「ただ3の倍数ではなく、真ん中の整数の3倍になっている」などと新たな発見をしたり、「連続する5つの整数ならどうなるだろうか」など、新たな疑問をもったりする。

数量や図形の性質などを、具体的に示す

- ◆連立方程式の解の意味を、1次関数と関連付けて示すことができる。

<例>

- ・連立方程式のそれぞれの式を1次関数とみたとき、2本のグラフの交点が、連立方程式の解になることを示す。

- ◆関数における「変化の割合」の意味を、多様に示すことができる。

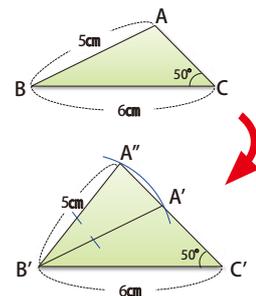
<例>

- ・1次関数の変化の割合の意味を、表、式、グラフを相互に関連付けながら示す。
- ・反比例の変化の割合は一定ではないことを、表やグラフを用いて示す。

- ◆三角形の合同条件ではないことを反例を用いて示すことができる。

<例>

- ・「2組の辺と1つの角」という条件だけでは不十分であることを、合同にならない三角形を具体的に示して説明する。



数学的な考え方を身に付ける

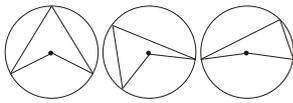
	学習内容	大切な考え方
数と式	<ul style="list-style-type: none"> <li>平方根の意味を考えること</li> <li>2次方程式の解き方を考えること</li> <li>2次方程式を利用して解決すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数の範囲が無理数に広げられても、四則演算が用いられる場面は有理数と同様であるという考え方</li> <li><math>AB=0</math>ならば、<math>A=0</math> または <math>B=0</math>であるという考え方</li> <li>平方完成を用いる考え方</li> <li>等しい数量の関係を見付け、2次方程式で表す考え方</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>相似な三角形を利用して解決すること</li> <li>三平方の定理や円の定理について考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相似な三角形を見だし、三角形の相似条件を用いる考え方</li> <li>縮図を用いて実際の長さを求める考え方</li> <li>辺の長さの関係を面積の関係で見る考え方</li> <li>円周上の点の位置によって場合分けをする考え方</li> </ul>
関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>2乗に比例する関数の特徴について考えること</li> <li>2乗に比例する関数を利用して解決すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伴って変化する2つの数量の関係を一般化して式に表す考え方</li> <li>変化の割合は、2点間の増減の様子や変化の平均を表しているという見方</li> <li>伴って変化する2つの数量の関係を理想化したり、単純化したりする考え方</li> <li><math>x</math>と<math>y</math>の関係を帰納的に見いだす考え方</li> </ul>
資料の調べ	<ul style="list-style-type: none"> <li>母集団の傾向をとらえること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>標本から母集団の傾向を推定する考え方</li> <li>無作為抽出の考え方</li> </ul>

数学的な推論を用いて考え、根拠を明確にして説明し合う

- ◆既習事項と比較したり結び付けたりしながら、性質などを帰納的、類推的に見いだすことができる。
- ◆事象の様子を数学的にとらえ、帰納、類推、演繹の数学的な推論を適切に用いて考えることができる。

<例> 「円周角の定理」

- ・円周角と中心角の関係を調べ、帰納的に成り立つ性質を見だし、既習の定理を基に演繹的に考える。



すべての図において円周角は中心角の半分になっている。

- ◆考えの根拠を明確にして、数学的な表現を適切に用いて表し、自分の考えを筋道立てて説明したり、相手の考えを読み取ったりすることができる。
- ◆思考過程を振り返って、考えのよさを見付けたり、一般化できる考えを見付けたり、別の場合で発展的に考えたりすることができる。

<例> 「中点連結定理」

- ・中点連結定理を証明されたあとに、もう一度図を観察させ、そこから「3辺の中点を結んだ場合はどうなるか」「四角形ならどうか」などの疑問から、新たな課題をもち、それらを解決する。



数量や図形の性質などを、具体的に示す

- ◆ $\sqrt{2}$ 、 $\sqrt{3}$ ・・・の大きさを、具体的に示すことができる。

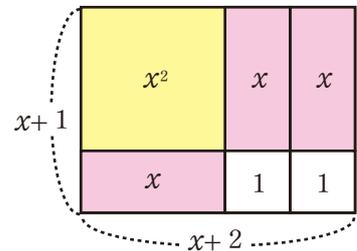
<例>

- ・正方形の対角線を使って $\sqrt{2}$  cmの長さの線分を表す。
- ・数直線上に $\sqrt{2}$ 、 $\sqrt{3}$ ・・・の点を取り、そのとり方を説明する。

- ◆文字式の因数分解を、具体的な事象と結び付けて示すことができる。

<例>

- ・ $x^2 + 3x + 2$ が、 $(x+1)(x+2)$ になることを、図と式を結び付けながら説明する。



- ◆三平方の定理の逆を利用して、直角を作ることができる。

<例>

- ・辺が3 m、4 m、5 mの三角形で直角を作り、テニスコートなどを描くことができる。

## 理科の課題と、解決に向けて伸ばしたい資質・能力

学年	課題	既習の知識や観察・実験の結果をもとに考えること	観察・実験器具を適切に使用すること	学習したことを身近な事象に当てはめて考えること
小学校	3年	自然の事物・現象を比較することで共通点・差異点を明らかにすることができる	簡単な観察・実験器具を使うことができる	学習したことを生活の中で発見したり「ものづくり」に生かしたりできる
	4年	自然の事物・現象の変化と関係する要因を関係付けて考えることができる		
	5年	関わる条件のうち1つだけ変えて（他の条件はそろえる）、量や時間の変化などについて考えることができる		
	6年	体験や既習内容、観察・実験の結果を基に、目に見えず確かめるのが困難な自然の事物・現象を推論することができる		
中学校	1分野 2分野	小学校で培った比較、関係付け、条件制御、推論する力をもとに、既習内容を活用して、観察・実験の結果を分析・解釈することができる	観察・実験器具の特性や仕組みを理解しながら使用することができる	身に付いた科学的な見方を日常生活に生かしたり、自然や科学技術との関係から説明したりできる



各学年で重視されている問題解決の能力について図示しました。

学習内容と主な問題解決の能力との関わりを示しました。なお、中学校は内容が多いため例示となっています。

各学年で大切にしたい観察・実験の技能を身に付けている児童生徒の姿を示しました。

自然事象を比較し共通点・差異点を明らかにする

**比較**

事物・現象 A (チョウの体のつくり) vs 事物・現象 B (バッタの体のつくり)

共通点: 成虫の体が頭・胸・腹からできている。成虫には、あしがある。

差異点: 体の大きさ、表面の様子、色などが異なる。

学習内容	比較すること
物と重さ	◆物の形を変えたときの重さ ◆物の体積を同じにしたときの重さ
風やゴムの働き	◆風を当てたときの物の動く様子 ◆ゴムを引っばったり、ねじったりしたときの物の動く様子
光の性質	◆光を当てたときと、光を当てないときの現象 ◆光を集めたり重ね合わせたりしたときの物の明るさや暖かさ
磁石の性質	◆磁石に付く物と付かない物 ◆磁石同士や磁石に引き付けられる物との間を空けても引き付ける力が働いている現象
電気の流れ道	◆豆電球が点灯するときとしないとき ◆回路の一部にいろいろな物を入れたとき
昆虫と植物	◆昆虫同士の成長過程と体のつくり ◆植物同士の成長過程と体のつくり
身近な自然の観察	◆身の回りの生物の様子やその周辺の環境との関わり
太陽と地面の様子	◆日陰の位置の変化 ◆日なたと日陰の地面の様子 ◆日陰の位置の変化と太陽の動き

各学年で重視されている問題解決の能力を単元における例で図示しました。

**簡単な観察・実験器具を使う**

- ◆虫眼鏡で植物や昆虫の細かい部分を観察することができる。
- ◆対象に合わせて虫眼鏡を使う。対象が手で持てる 対象が手で持てない
- ◆虫眼鏡で太陽を絶対に見ない。集めた光を人に当てない。
- ◆温度計で地面の温度を正しく測ることができる。
- ◆「深たぬき」を測りたいものにあてる。
- ◆地面の温度を測る場合、温度計に直射日光が当たらないようにする。
- ◆温度計の液の高さと目の高さを合わせて、目盛りを読み取る。
- ◆温度計で、地面を濡ったり、液体をかき混ぜたりしない。

**学習したことを生活の中で発見する**

- ◆「風やゴムの働き」では、風やゴムの力で役立っているものを見たり、「ものづくり」に生かしたりすることができる。
- ◆身の回りで、風やゴムの力を使って、物を動かしたり、エネルギーをつくり出している道具や設備を見つける。
- ◆風やゴムの力を使って動く自動車や風車をつくる。
- ◆「身近な自然の観察」では、地域の自然に見られる植物や虫を発見することができる。
- ◆身の回りの生物に愛情をもって関わる。
- ◆野菜を植物の体の3つの部分(根・茎・葉)に分ける。
- ◆身の回りの虫の体のつくりの特徴と、食べ物のすみかとの関係を考える。
- ◆生態系の維持に配慮している。

学習から見いだした性質や働き、規則性などを日常生活と結び付けて考えている児童生徒の姿の例を示しました。

自然事象を比較し共通点・差異点を明らかにする

比較

事物・現象A



事物・現象B

(例) 単元「昆虫と植物」

チョウの体の  
のづくり



バッタの体の  
のづくり

- 共通点① 成虫の体が頭・胸・腹からできている。
- 共通点② 成虫には、あしが6本ある。
- 差異点 体の大きさ、表面の様子、色などが異なる。

学習内容	比較すること
物と重さ	◆物の形を変えたときの重さ ◆物の体積を同じにしたときの重さ
風やゴムの働き	◆風を当てたときの物の動く様子 ◆ゴムを引っばったり、ねじったりしたときの物の動く様子
光の性質	◆光を当てたときと、光を当てないときの現象 ◆光を集めたり重ね合わせたりしたときの物の明るさや暖かさ
磁石の性質	◆磁石に付く物と付かない物 ◆磁石同士や磁石に引き付けられる物との間を空けても引き付ける力が働いている現象
電気の通り道	◆豆電球が点灯するときとしないとき ◆回路の一部にいろいろな物を入れたとき
昆虫と植物	◆昆虫同士の成長過程と体のづくり ◆植物同士の成長過程と体のづくり
身近な自然の観察	◆身の回りの生物の様子やその周辺の環境との関わり
太陽と地面の様子	◆日陰の位置の変化 ◆日なたと日陰の地面の様子 ◆日陰の位置の変化と太陽の動き

簡単な観察・実験器具を使う

◆虫眼鏡で植物や昆虫の細かい部分を観察することができる。

- 対象に合わせて虫眼鏡を使う。
- 対象が手で持てる 対象が手で持てない



- 虫眼鏡で太陽を絶対に見ない。
- 集めた光を人に当てない。

◆温度計で地面の温度を正しく測ることができる。

- 「液だめ」を測りたいものにあてる。
- 地面の温度を測る場合、温度計に直射日光が当たらないようにする。
- 温度計の液の高さと目の高さを合わせて、目盛りを読み取る。
- 温度計で、地面を掘ったり、液体をかき混ぜたりしない。



学習したことを生活の中で発見する

◆「風やゴムの働き」では、風やゴムの力で役立っているものを発見したり、「ものづくり」に生かしたりすることができる。

- 身の回りで、風やゴムの力を使って、物を動かしたり、エネルギーをつくったりしている道具や設備を見つける。
- 風やゴムの力を使って動く自動車や風車をつくる。



◆「身近な自然の観察」では、地域の自然に見られる植物や虫を発見することができる。

- 身の回りの生物に愛情をもって関わる。
- 野菜を植物の体の3つの部分(根・茎・葉)に分ける。
- 身の回りの虫の体のつくりの特徴と、食べ物やすみかとの関係を考える。
- 生態系の維持に配慮している。



自然事象の変化とその要因を関係付けて考える

関係付け

変化後の事物・現象



変化前の事物・現象



変化した要因

(例) 単元「金属、水、空気と温度」

水蒸気



水



温度変化

水が水蒸気に姿を変えた要因

水を熱して温度を高くしたこと

学習内容	関係付けること
空気と水の性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆閉じこめた空気や水の体積の変化と加えた力</li> <li>◆閉じこめた空気や水の体積変化と押し返す力</li> </ul>
金属、水、空気と温度	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆金属、水、空気の体積変化の様子と温度変化</li> <li>◆金属、水、空気の温まり方と熱せられた部分</li> <li>◆水の状態変化と温度</li> </ul>
電気の働き	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆モーターの回る向きの変化と電流の流れる向き</li> <li>◆モーターの回り方や豆電球の明るさ(電流の大きさ)と乾電池の数やつなぎ方</li> <li>◆モーターの回り方(電流の大きさ)の変化と光電池に当てる光の強さ</li> </ul>
人の体のつくりと運動	◆人や動物の体のつくりと運動
季節と生物	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆動物の活動の変化と季節の気温の変化</li> <li>◆植物の成長の変化と季節の気温の変化</li> </ul>
天気の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆天気と気温の変化</li> <li>◆水蒸気や結露に姿を変える水の状態変化と気温</li> </ul>
月と星	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆月や星の見える位置の変化と時間</li> <li>◆季節の変化と見える星座</li> </ul>

簡単な観察・実験器具を使う

◆アルコールランプで物質の加熱を安全に行うことができる。

- ・火を付けるときには、静かに横の方から火を近づける。
- ・火を消すときには、アルコールランプを押さえ斜め上から、ふたをする。
- ・火が消えたらふたをとり、冷えてからふたをし直す。
- ・火を付けたまま持ち歩かない。もらい火をしない。



◆簡易検流計で回路に流れる電流の向きと強さを調べることができる。

- ・かん電池、モーター(豆電球)、簡易検流計、スイッチをひと続き(輪)になるようにつなぐ。
- ・「0.5A」と「5A」の切りかえをつなぐものによって区別する。
- ・スイッチを入れて針のふれる向き(電流の向き)と目盛り(電流の大きさ)を読み取る。



学習したことを生活の中で発見する

◆「電流の働き」では、光電池が役立っているものを発見したり、「ものづくり」に生かしたりすることができる。

- ・光電池を使っている道具や設備を見つける。
- ・光電池が使われている理由を考える。
- ・光電池の特性を生かして「ものづくり」をする。



◆「月と星」では、実際の空で色や明るさの違う星や様々な星座を発見したり、月の形や見える位置を予想したりすることができる。

- ・夜の星を観察し、色や明るさの違う星やいろいろな星座を見つける。
- ・実際の月を見て、このあとの月の見える位置や形を考える。
- ・季節によって見える星座が違うことを確かめる。



条件を1つだけ変えて結果について考える

条件制御



(例) 単元「振り子の運動」

振り子の1往復する時間

振り子の長さ → 長くする

おもりの重さ → 変えない

振れ幅 → 変えない

1往復の時間  
長くなる

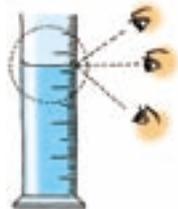
1往復する時間を変化させる条件  
↓  
振り子の長さ

学習内容	制御させたい条件
物の溶け方	◆溶質(食塩・ミョウバン、ホウ酸)の量 ◆水の量 ◆水の温度 ◆溶質(食塩・ミョウバン、ホウ酸)の種類
振り子の運動	◆振り子の重さ ◆振り子の長さ ◆振り子の振れ幅
電流の働き	◆電流の強さ ◆コイルの巻き数 ◆導線の長さ
植物の発芽、成長、結実	<植物の発芽>◆水 ◆空気 ◆温度 ◆土 <植物の成長>◆日光 ◆肥料 <受粉と結実>◆めしべに花粉を付けたものと付けないもの
流水の働き	◆水の量 ◆水の速さ(斜面の角度)

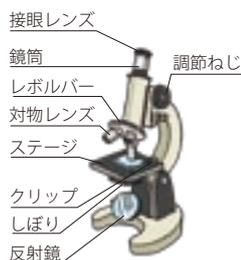
※「動物の誕生」は、魚を育てたり人の発生について資料を活用して追究したりするため、制御する条件はない。  
※「天気の変化」は、実際に観察した結果や実際の気象情報を活用して追究するため、制御する条件はない。

操作手順に従って観察・実験器具を使用する

- ◆メスシリンダーで必要な液量を正確にはかり取ることができる。
  - ・水平な台の上で使用する。
  - ・はかり取る量より少し少ない量を入れて、スポイトで調整する。
  - ・液面(上面のへこみの部分)を真横から見ながら、正確な液量を確認する。



- ◆顕微鏡で水中の微生物や植物の花粉を観察することができる。
  - ・対物レンズを一番低い倍率から高い倍率へ変えながら対象物を観察する。
  - ・ピントを合わせる際には、対物レンズをプレパラートから遠ざける向きにだけ、調節ねじを回して動かす。



見いだしたきをりを生活に当てはめて説明する

- ◆「振り子の運動」では、ふりこを利用したものを発見し原理を説明することができる。
  - ・身の回りで、ふりこを利用しているものを見つけてその原理を説明する。
  - ・ふりこを使ったおもちゃを作り、曲の速さに合わせてふれるようにふりこを調節する。

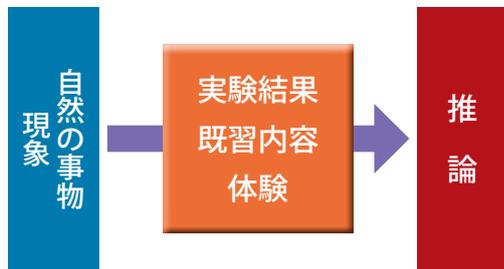


- ◆「流水の働き」では、地域を流れる川で流れる水の働きを発見し、説明することができる。
  - ・がけや河原がどのような場所にどのようにできたかを説明する。
  - ・見えない川底の様子を流れる水の働きから説明する。
  - ・地域の川で災害を防ぐ工夫などを説明する。



観察・実験の結果を基に、自然事象を推論する

推論



(例) 単元「燃焼の仕組み」

びんの中のろうそくの火が消える

**【知識】**  
 ・空気の成分割合  
 ・酸素、窒素、二酸化炭素の性質

**【実験結果】**  
 ・石灰水で調べた結果  
 ・気体検知管で調べた結果

**【推論】**  
 空気中の酸素は、物が燃えた後なくならずに、物を燃やす働きのない別の気体によって変わったのだろう。

学習内容	推論すること
燃焼の仕組み	◆物の燃焼の仕組みについて調べた結果から、燃焼に伴う空気の質的な変化を推論
水溶液の性質	◆いろいろな水溶液の性質や水溶液が金属を変化させる様子について調べた結果から、水溶液の性質を推論
てこの規則性	◆力を加える位置や大きさを変えると、てこを傾ける働きが変わるという結果から、てこの規則性を推論
電気の利用	◆電気をつくりだしたり蓄えたり光や熱などに変換したりすることから、電気の性質や働きを推論
人の体のつくりと働き	◆呼吸に伴って出入りする気体や消化などの実験やコンピューターシミュレーション、映像、図書などの資料から、人や他の動物の体のつくりと働きを推論
植物の養分と水の通り道	◆日光が当たっている葉と当たっていない葉の中のデンプンの有無から、植物が自ら体内ででんぷんをつくりだしていることを推論
生物と環境	◆動物や植物の生活の観察や調べた資料から、生物と環境との関わりを推論
土地のつくりと変化	◆地層に含まれる構成物から、地層が流れる水の働きや火山の噴火によってできたことを推論
月と太陽	◆月の観察や映像、模型、資料から、月の位置や形と太陽の位置の関係を推論

操作手順に従って観察・実験器具を使用する

- ◆気体検知管で燃焼や呼吸に伴う気体成分の割合の変化を調べることができる。
  - ・検知管の目盛りを正しく読み取る。  
(色の濃さが変化しているとき、斜めに色が変化しているときに注意)
  - ・「酸素用検知管」を使うときは、発熱するので火傷に気を付ける。
  - ・検知管の折り口にゴムのカバーを付ける。



- ◆リトマス紙で水溶液を酸性、中性、アルカリ性に分けることができる。
  - ・ガラス棒を使って、調べたい液体をリトマス紙につける。
  - ・リトマス紙に調べようとするもの以外の物質がつかないようにピンセットを使う。
  - ・ガラス棒は1回ごとに水で洗い、乾いた布で拭き取ってから使う。



見いだしたきまりを生活に当てはめて説明する

- ◆「てこの規則性」では、てこのきまりを利用した道具の仕組みを説明することができる。
  - ・身の回りで、てこを利用している道具を見つける。
  - ・見つけた道具の支点、力点、作用点や、少ない力で仕事ができるわけをを説明する。
  - ・どのように使うと便利か考える。



- ◆「人の体のつくりと働き」では、いろいろな動物の体の仕組みや働きを説明することができる。
  - ・いろいろな動物の呼吸や消化の仕組みと体のつくりを調べ、人の体との共通点や差異点を説明する。
  - ・生物の多様性に気付く。
  - ・生命の神秘に気付く。



小学校で培った問題解決の能力をもとに、既習内容を活用して、

**分析・解釈**



＜分析・解釈する時の生徒にもたせたい視点＞

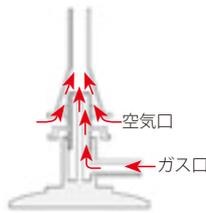
- ・比較させることで共通点・差異点を明らかにする。
- ・自然の事物・現象の変化と関係する要因を関係付けて考えさせる。
- ・観察・実験の条件に目を向けて、観察・実験の計画を考えたり結果を考察したりさせる。
- ・目に見えない事物現象を根拠をもって推論させる。
- ・既習知識や問題解決能力を活用して分析・解釈させる。
- ・分析・解釈させることを通して、規則性や多様性を発見させたり課題を解決させたりする。

学習内容 (1分野)	分析・解釈すること(例示)
(1)身近な物理現象	◆音の性質では、音の大小や高低と物体の振動との関係を分析・解釈 ◆力の働きでは、力の大きさとバネののびの関係をグラフ化し分析・解釈
(2)身の回りの物質	◆身の回りの物質とその性質では、物質の種類と密度や固有の性質との関係を分析・解釈 ◆状態変化と熱では、エタノールやロウが状態変化するときの体積と質量の関係を分析・解釈
(3)電流とその利用	◆電流・電圧と抵抗では、電圧と電流、異なる2本の金属抵抗との関係をグラフ化し分析・解釈 ◆磁界中の電流が受ける力では、電流の大きさや向き、磁界の向きとコイルが受ける力の向きとの関係を分析・解釈
(4)化学変化と原子・分子	◆化学変化と熱では、化学変化と熱の出入りの関係を分析・解釈 ◆化学変化と質量の保存では、化学変化の前後の物質の質量の関係を分析・解釈
(5)運動とエネルギー	◆力と運動では、物体の運動の変化の様子をグラフ化し、働く力の向きと大きさとの関係を分析・解釈 ◆仕事とエネルギーでは、位置エネルギーの大きさと、それがする仕事の大きさとの関係を分析・解釈
(6)化学変化とイオン	◆化学変化と電池では、電解質水溶液と2種類の金属の種類との関係を分析・解釈 ◆酸・アルカリでは、酸とアルカリのそれぞれの特性と水素イオン、水酸化物イオンとの関係を分析・解釈
(7)科学技術と人間	◆様々なエネルギーとその変換では、測定値から発電の効率と重力がした仕事との関係を分析・解釈 ◆エネルギー資源では、水力、火力、原子力などのエネルギーと科学技術の発展との関係を分析・解釈

**観察・実験器具の特性や仕組みを理解しながら使用する**

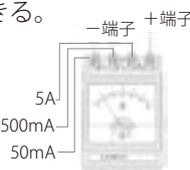
◆ガスバーナーで物質の加熱と燃焼を安全に行うことができる。

- ・ガスバーナーを分解して、その構造と仕組みを理解する。
- ・マッチの炎を近づけてからガス調節ねじを少しずつ開いて点火する。
- ・「ガス調節ねじ(炎の大きさ)」と「空気調節ねじ(燃焼)」を適切に使い、安定した青色の炎に調節する。



◆電流計・電圧計を適切につないで、回路の電流と電圧の大きさを測定することができる。

- ・はじめに回路を作り、どの部分を測定するのか決めてから、電流計は直列に、電圧計は並列につなぐ。
- ・数値の大きい一端子から順につないで目盛りを正確に読み取る。



◆乾湿計から湿度を求めることができる。

- ・乾球温度計、湿球温度計の値を1/10目盛りまで読み取る。
- ・乾球温度計、湿球温度計の値と湿度表を使って湿度を求める。
- ・求めた湿度と飽和水蒸気量曲線から、1 m<sup>3</sup>中に含まれる水蒸気量を求める。



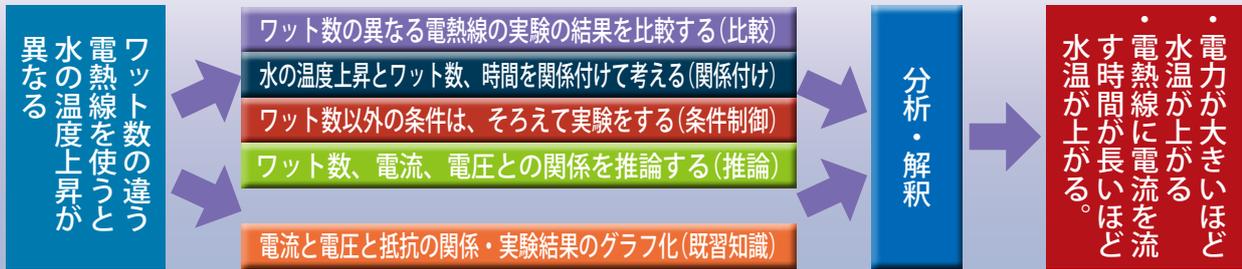
◆顕微鏡で微生物等を観察することができる。

- ・対象物が視野のすみにある時には、動かしたい方向とは反対にプレパラートを動かす。
- ・しぼりを回して観察したいものが最もはっきり見えるように調節する。
- ・見たい物を低倍率で視野の中央においてから高倍率に変える。



観察・実験の結果を分析・解釈する

< 1分野：電流とその利用「電熱線の発熱量」の例 >

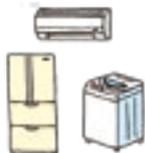


学習内容 (2分野)	分析・解釈すること(例示)
(1)植物の生活と種類	◆葉・茎・根のつくりと働きでは、葉にワセリンを塗った場所と吸い上げられる水の量と気孔の分布の関係を分析・解釈
(2)大地の成り立ちと変化	◆地震の伝わり方と地球内部の働きでは、震源からの距離と揺れの大きさの関係、地震の規模と揺れの大きさの関係を分析・解釈
(3)動物の生活と生物の変遷	◆生命を維持する働きでは、唾液に含まれる消化酵素とでんぷんの分解の関係、消化酵素の働きと温度の関係を分析・解釈
(4)気象とその変化	◆霧や雲の発生では、気温と露点の関係、気温と飽和水蒸気量の間を分析・解釈
(5)生命の連続性	◆細胞分裂と生物の成長では、細胞分裂と生物の成長との関係を分析・解釈 ◆遺伝の規則性と遺伝子では、遺伝子の仕組みと遺伝子の関係を分析・解釈
(6)地球と宇宙	◆日周運動と自転では、透明半球に記録した太陽の日周運動と地球の自転の関係を分析・解釈 ◆年周運動と公転では、星座の移り変わりと地球の公転運動の関係を分析・解釈
(7)自然と人間	◆自然界のつり合いでは、生物の数量的な関係と食物連鎖の関係を分析・解釈 ◆自然環境の調査と環境保全では、大気の流れと松の気孔の様子などの関係を分析・解釈

身に付いた知識を使って自然事象や科学技術を説明する

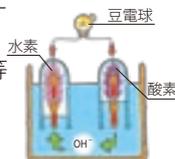
◆「回路と電流・電圧」では、家庭内の配線の仕組みを考え説明することができる。

- ・学習したことをもとに家庭内の電気器具は直列つなぎか並列つなぎか考え、説明する。
- ・学習したことをもとに、電気器具の安全な使い方を考え、生活に生かす。



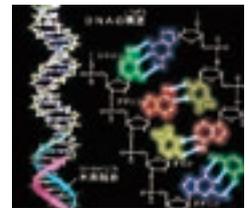
◆「化学変化と電池」では、身の回りで使われている様々な電池について、特徴や用途を説明することができる。

- ・鉛蓄電池の仕組みや車などのバッテリーとして使用されている例を説明する。
- ・燃料電池の仕組みや電気自動車の電源等に使用されていることを説明する。



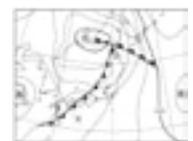
◆「遺伝の規則性と遺伝子」では、遺伝子やDNAに関する研究成果の活用について調べ説明することができる。

- ・身の回りで見られる遺伝の例を見つけて説明する。
- ・遺伝子やDNAに関する研究成果の活用について調べ、農業や医療、環境問題へ役立っている例を説明する。



◆「気象とその変化」では、自分たちの地域の天気予報を行うことができる。

- ・インターネットや新聞から必要な気象情報を集める。
- ・集めた気象情報をもとに今後の天気を予想し、説明する。
- ・自分の立てた天気予報を検証する。



## 生活科の課題と、解決に向けて伸ばしたい資質・能力

課題		対象に関わる中で、自分なりの気付きをもつこと	見たことや思ったこと等を絵や言葉などで表すこと	身近な人の考えなどを自分の中に取り入れること
学年				
小学校	1・2年	繰り返し対象と関わり、発見したり、考えをもったりすることができる	考えたことや感じたことなどを表現方法を選んで表すことができる	考えたことや感じたことなどを身近な人と交流することができる

### 生活科における「気付き」とは

対象に対する一人一人の認識であり、知的な側面（理性）だけではなく、情意的な側面（感性）も含まれます。また、児童の主体的な活動によって生まれるものであり、次の自発的な活動を誘発するものともなります。



生活科では、小学校1・2学年をまとめて目標や内容が示されています。そこで、本資料では、教科の課題の解決に向けて伸ばしたい資質や能力について、2学年まとめて示しました。

生活科における上記3つの課題は、相互に関連し合うものです。

生活科の各課題の解決に向けて伸ばしたい資質・能力について、図により示しています。

学習指導要領に示されている生活科の学習内容を示しています。

繰り返し対象と関わり、発見したり、考えをもったりする

発見する。考えをもつ。

ありがたい すきだな  
すこいな おどろいた うれしいな  
そうだったんだあ なるほど  
どうなるかなあ？ ふしぎ  
たのしい もっとやりたい …

学習内容	繰り返し対象と関わり、発見したり、考えをもったりしている児童の姿の例
学校と生活	◆給食調理師の働いているところを見たり、質問したりして、たくさんの給食を朝から準備して作ってくれていることを見発見する。
家庭と生活	◆家の人の家庭での役割を一定期間、一緒にやってみて、家族が役割を担っていることで生活しやすくなっていることに気付き、感謝の気持ちをもち。
地域と生活	◆商店を見学したり、店の人や利用者と話したりして、商品や設置されているもの、客の利用を考えた工夫などを調べ、地域の商店街に親しみをもつ。
公共物や公共施設の利用	◆図書館で働いている人の様子や仕事を見たり、インタビューしたりして、図書館が自分の生活に役に立っていると感じたり、大切に使うことについて学ぶ。
季節の変化と生活	◆聴覚、視覚、触覚、味覚、嗅覚など諸感覚を使って季節ごとの自然と関わり、自然の変化やその季節の特徴を発見したり、生活や遊びとのつながりに気付いたりする。
自然や物を使った遊び	◆身近にある自然や物を取り入れて遊びを創り出し、「もっと〇〇したい」など思いや願いをもって遊びや遊びに使う物に工夫を重ねる。
動物の飼育・栽培	◆栽培しているアサガオの様子を毎日見たり、世話をしたり、友達や家の人に関わったりして、たくさんの花を咲かせる方法を考えたり、それを話してみたりする。
生活や出来事との交流	◆自分たちが楽しんだ遊びに幼稚園や保育所の園児を招待し、一緒に遊ぶ中で、園児や自分が楽しんでいるのを感じたり、園児に感想を聞いたりすることで、身近な人と関わる楽しさに気付く。
自分の成長	◆過去の自分と現在の自分との身体、技能など様々な面について比較し、大きくなったことや出来るようになったことを実感する。

各活動における児童の具体的な姿の例を示しています。

繰り返し対象と関わり、発見したり、考えをもったりする

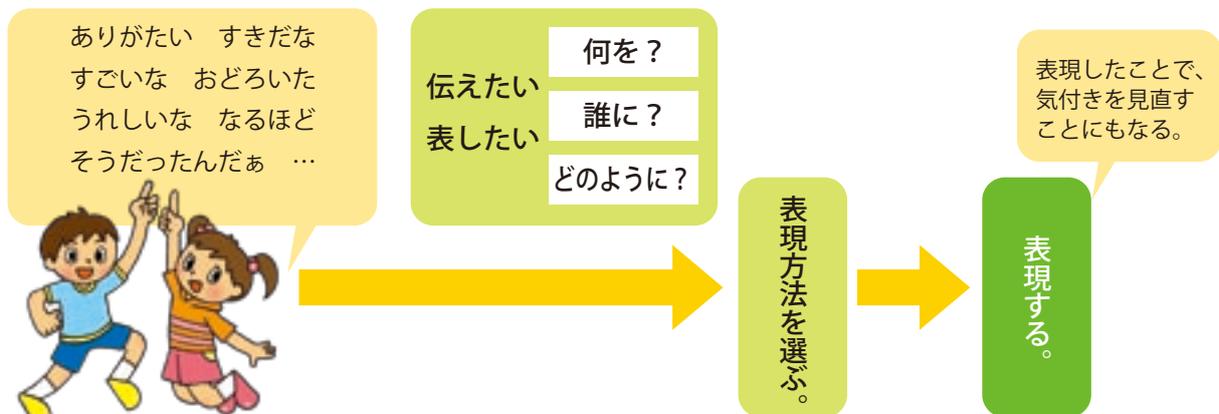
発見する。考えをもつ。

ありがたい すきだな  
すていな おどろいた うれしいな  
そうだったんだあ なるほど  
どうなるかなあ? ふしぎ  
たのしい もっとやりたい …




学習内容	繰り返し対象と関わり、発見したり、考えをもったりしている児童の姿の例
学校と生活	◆給食調理師の働いているところを見たり、質問したりして、たくさんの給食を朝から準備して作ってくれていることを発見する。
家庭と生活	◆家の人の家庭での役割を一定期間、一緒にやってみて、家族が役割を担っていることで生活しやすくなっていることに気づき、感謝の気持ちをもつ。
地域と生活	◆商店を見学したり、店の人や利用者と話したりして、商品や設置されているもの、客の利用を考えた工夫などを調べ、地域の商店街に親しみをもつ。
公共物や公共施設の利用	◆図書館で働いている人の様子や仕事を見たり、インタビューしたりして、図書館が自分の生活に役に立つことを感じたり、大切にしようとしたりする。
季節の変化と生活	◆聴覚、視覚、触覚、味覚、嗅覚など諸感覚を使って季節ごとの自然と関わり、自然の変化やその季節の特徴を発見したり、生活や遊びとのつながりに気付いたりする。
自然や物を使った遊び	◆身近にある自然や物を取り入れて遊びを創り出し、「もっと○○したい」など思いや願いをもって遊びや遊びに使う物に工夫を重ねる。
動植物の飼育・栽培	◆栽培しているアサガオの様子を毎日見たり、世話をしたり、友達や家の人に聞いたりして、たくさんの花を咲かせる方法を考えたり、それを試してみたりする。
生活や出来事の交流	◆自分たちが楽しんだ遊びに幼稚園や保育所の園児を招待し、一緒に遊ぶ中で、園児や自分が楽しんでいるのを感じたり、園児に感想を聞いたりすることで、身近な人と関わる楽しさに気付く。
自分の成長	◆過去の自分と現在の自分との身体、技能など様々な面について比較し、大きくなったことや出来ることが増えたことを実感する。

考えたことや感じたことなどを表現方法を選んで表す



※国語や音楽、図画工作など他教科との関連を図ることが必要

表現方法の例	考えたことや感じたことなどを表している児童の姿の例
絵画	◆自分の育てた野菜を収穫している自信と喜びに満ちた自分自身の姿を描く。
ポスター	◆地域の行事について、いつ(文字)、どこで(文字)、どのような行事(絵)がある(あった)のか、伝えたいところを描く。
パンフレット	◆町の図書館の場所や利用の仕方、注意点など町探検でわかったことを絵や写真、文でまとめる。
絵地図	◆学校にある様々な場所やもの、学校の生活に関わる人物への感想などを絵や写真、一言メモなどにして、校舎や校庭の図に貼っていく。
紙芝居・巻物	◆継続して関わってきた公園の自然の変化や、自分たちの生活の変化を季節ごとに絵にする。
絵本、ペープサート	◆これまでの自分の成長や心に残った出来事などを、喜びや周りの人への感謝の気持ちを込めながら、過程をたどって絵やおはなしにする。
動作化、劇	◆家の人は自分や家族のことを考えていろいろなことをしてくれていることを、台詞や動きで表現する。
歌や踊り	◆冬の習わしや自然現象など、冬についての気付きを出し合い、歌や踊りで表す。
手紙・電話・FAX	◆新しく入学してくる幼稚園(保育所)の年長児に学校のことをいろいろ教える活動を一緒にしたことから、入学を楽しみにしていることを伝える手紙を書く。
観察日記	◆アサガオの成長の様子や特徴、自分の関わりなどを絵と文で記す。
ワークシート	◆昔の遊びを教えてもらい、一緒に楽しんだ地域の高齢者の「すごいところ」をまとめる。
新聞	◆町の店のおすすめ商品や、働いている人へのインタビューからわかったこと、町のことで友達や地域の方などに知らせたいこと等を写真や絵、言葉でまとめる。
作文	◆大きくなった自分に自信と喜びをもち、家族などからの期待を感じつつ、どのような3年生になりたいか、進級への期待や決意などをまとめる。
粘土	◆継続して育てているウサギの大きさや、気付いた特徴を粘土で形にする。
製作	◆サツマイモの栽培のことをいろいろ教えてくださった町の野菜づくり名人の人に、感謝の気持ちを込めながら、芋づるでクリスマスリースを作って贈る。

※ このほかにも、カルタやすごろくなどの表現方法もあります。

考えたことや感じたことなどを身近な人と交流する

いっしょにあそびたいね。  
何でだろう。知りたいな。  
教えてもらおう。  
伝えたい。知らせたい。



〈効果〉

- ・考えを深めたり、広げたりする。
- ・活動への満足感をもつ。
- ・次の活動への意欲をもつ。
- ・自分への自信をもつ。
- ・身近な人々への親しみをもつ。  
など

交流する。

- 質問する。答える。
- 教える。教わる。
- 一緒に活動する。
- 話す。聞く。
- 書く。読む。  
など



身近な人々

学習内容	考えたことや感じたことなどを身近な人と交流している児童の姿の例
学校と生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学校の中でどのような仕事をしているのかを先生方に尋ねる。</li> <li>◆みんなで気持ちよく生活するために、学校ではどのように生活するとよいか、友達と考えを出し合い、楽しく、安心して遊びや生活をしようとする。</li> </ul>
家庭と生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆家庭生活が楽しくなる工夫を実行し、家族に感想を聞く。</li> <li>◆家族に喜んでもらおうと思って実行したことや家族からの感想を友達と伝え合い、自分の役割を進んで行おうとする。</li> </ul>
地域と生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆店や公共施設で働く人に、どのような仕事をしているのかインタビューする。</li> <li>◆地域の中の好きな場所やその理由を友達と伝え合い、地域の人々への親しみを高める。</li> </ul>
公共物や公共施設の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆図書館の読み聞かせボランティアの人に、読み聞かせのお礼を伝える。</li> <li>◆公園や図書館など公共施設を利用して気付いたことを友達と伝え合い、利用の仕方について考えを深める。</li> </ul>
季節の変化と生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域の伝統行事に、地域の人と一緒に参加して楽しむ。</li> <li>◆近くの公園で出会う生き物、草花、樹木、風、光、氷などの存在や季節ごとの変化への発見や驚きなどを友達と伝え合い、四季の変化を実感する。</li> </ul>
自然や物を使った遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自然や物を使って、友達と一緒に競い合ったり、力を合わせたりして遊びを楽しむ。</li> <li>◆「もっと○○したい」という思いを一緒に遊ぶ友達に伝え、遊びや作る物へのアドバイスを試しながら、面白さや不思議さに気付く。</li> </ul>
動植物の飼育・栽培	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆獣医さんに、動物や飼育について尋ねたり、飼育動物の特徴などについて一緒に確かめたりする。</li> <li>◆野菜の成長の様子や変化などの発見を友達と伝え合い、大切に世話を続けようとする。</li> </ul>
自分の成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆友達の頑張っているところや優れているところなどをカードに記入し、手渡す。</li> <li>◆過去の自分の様子などについて、家族にインタビューし、感謝の気持ちや自分への自信を深める。</li> </ul>

## 音楽の課題と、解決に向けて伸ばしたい資質・能力

課題		歌詞内容や曲想をもとに、表現を工夫して演奏すること	音楽の要素を手掛かりに、音楽づくりや創作をすること	感じ取ったことを体の動きや言葉などで表しながら、味わって聴くこと
小学校	1・2年	楽しく演奏することができる	楽しく音遊びや簡単な音楽づくりができる	音楽の楽しさを感じながら聴くことができる
	3・4年	音色に気を付けて進んで演奏することができる	思いや意図をもった音楽づくりができる	音楽や演奏のよさに気付いて聴くことができる
	5・6年	響きに気を付けながら工夫して演奏することができる	見通しをもった音楽づくりができる	音楽や演奏のよさを理解して聴くことができる
中学校	1~3年	豊かな響きで演奏することができる	曲の構成や全体のまとまりを工夫した創作ができる	自分なりの価値判断をしながら音楽を聴くことができる



ページの見方

「音楽の要素を手掛かりに、音楽づくりや創作をすること」の具体例や詳細な姿を示しています。また、音楽づくりや創作の指導の充実を図るために取り入れたい活動例をP.97に示しています。

**楽しく演奏する**

歌 唱	器 楽
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自分の声に関心をもち、喜んで歌うことができる。</li> <li>◆友達の声をよく聴きながら、声を合わせて歌おうとする気持ちをもって歌うことができる。</li> <li>◆「うみ」(1年)、「かくれんぼ」(2年)などの共通教材程度の曲を、歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、歌詞に登場する人物や動物になりきったりしながら歌うことができる。</li> <li>◆2拍子、3拍子の簡単な曲を、拍に合わせて体を動かしたり、手拍子をしたりしながら歌うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆けんぼんハーモニカ、タンブリン、カスタネットなどの身近な楽器の演奏の仕方を覚え、簡単な曲に合わせて演奏することができる。</li> <li>◆四分音符、八分音符、四分休符、八分休符からなる簡単なリズム譜を見たり、教師の演奏をまねたりしながら、演奏することができる。</li> </ul>
 <small>拍に合わせて体を動かしながら歌う</small>	 <small>タンブリンの演奏の仕方    カスタネットの演奏の仕方</small>  <small>こまかくうつすずの演奏の仕方    トライアングルの演奏の仕方</small>

<div style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <b>楽しく音遊びや簡単な音楽づくりをする</b> </div> <div style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <b>音楽づくり</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆身近な音の面白さに気付き、音遊びやリズム遊びができる。</li> <li>◆短いリズムや短い旋律を繰り返したりつないだりして自分の好きなリズムや旋律をつくることができる。</li> <li>◆つくった旋律を用いて、友達とリレーして遊ぶことができる。</li> <li>◆四分音符(タン)、八分音符(タタ)、四分休符(ウン)を組み合わせて、自分の好きな旋律をつくることができる。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">   <small>リズム遊び</small> </div>	<div style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <b>音楽の楽しさを感じながら聴く</b> </div> <div style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <b>鑑賞</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆曲の気分を感じ取り、行進や楽器演奏のまね、指揮のまねなど、リズムや旋律の特徴に合わせて、体を動かしながら聴くことができる。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">   <small>リズムや旋律の特徴に合わせて、体を動かしながら聴く</small> </div>
---	--

「歌詞内容や曲想をもとに、表現を工夫して演奏すること」の具体例や詳細な姿を、歌唱と器楽に分けて示しています。

「感じ取ったことを体の動きや言葉などで表しながら、味わって聴くこと」の具体例や詳細な姿を示しています。

音楽

楽しく演奏する

歌 唱

- ◆自分の声に関心をもち、喜んで歌うことができる。
- ◆友達の声をよく聴きながら、声を合わせて歌おうとする気持ちをもって歌うことができる。
- ◆「うみ」(1年)、「かくれんぼ」(2年)などの共通教材程度の曲を、歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、歌詞に登場する人物や動物になりきったりしながら歌うことができる。
- ◆2拍子、3拍子の簡単な曲を、拍に合わせて体を動かしたり、手拍子をしたりしながら歌うことができる。



拍に合わせて体を動かしながら歌う

器 楽

- ◆けんばんハーモニカ、タンブリン、カスタネットなどの身近な楽器の演奏の仕方を覚え、簡単な曲に合わせて演奏することができる。
- ◆四分音符、八分音符、四分休符、八分休符からなる簡単なリズム譜を見たり、教師の演奏をまねたりしながら、演奏することができる。



タンブリンの演奏の仕方

カスタネットの演奏の仕方



すずの演奏の仕方

トライアングルの演奏の仕方

楽しく音遊びや簡単な音楽づくりをする

音楽づくり

- ◆身近な音の面白さに気づき、音遊びやリズム遊びができる。
- ◆短いリズムや短い旋律を繰り返したりつないだりして自分の好きなリズムや旋律をつくることができる。
- ◆つくった旋律を用いて、友達とリレーして遊ぶことができる。
- ◆四分音符(タン)、八分音符(タタ)、四分休符(ウン)を組み合わせて、自分の好きな旋律をつくることができる。



リズム遊び

音楽の楽しさを感じながら聴く

鑑 賞

- ◆曲の気分を感じ取り、行進や楽器演奏のまね、指揮のまねなど、リズムや旋律の特徴に合わせて、体を動かしながら聴くことができる。



リズムや旋律の特徴に合わせて、体を動かしながら聴く



響きに気を付けながら工夫して演奏する

歌 唱

- ◆響きのある声が出せるよう、呼吸や発声の仕方に気を付けて歌うことができる。
- ◆「スキーの歌」(5年)、「おぼろ月夜」(6年)などの共通教材程度の曲を、歌詞内容や感じ取った曲想を生かせるよう、言葉の発音に気を付け、表現の仕方を工夫して歌うことができる。
- ◆正しい音程で、お互いの声をよく聴き合いながら歌うことができる。
- ◆重なり合う響きの美しさを感じながら歌うことができる。



響きのある声を出そう

器 楽

- ◆1～4年で習った楽器を演奏する技能を高めたり、新たな楽器の演奏の仕方を覚えて、響きに気を付けながら演奏したりすることができる。
- ◆曲想を感じ取り、音色や奏法を工夫しながら演奏することができる。
- ◆八長調とイ短調の違いを感じ取って演奏することができる。



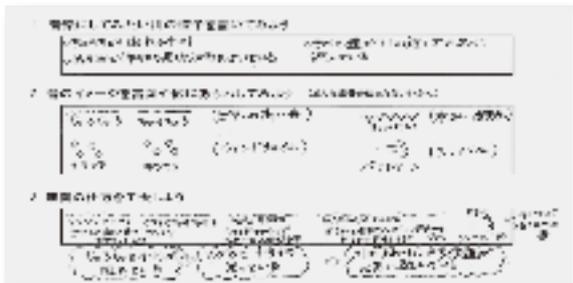
今までよりも、きれいな音色で演奏できるようになったよ。

音色がきれいになると、よく響き合うから、もっともっと楽しくなるわね。

見通しをもって音楽づくりをする

音楽づくり

- ◆言葉のもつ抑揚やリズムの特徴を生かし、1オクターブくらいの音を用いて旋律をつくることができる。
- ◆明確な思いや意図に基づき、見通しをもって音楽をつくることができる。
- ◆始まり方、盛り上がり方、終わり方を工夫して音楽をつくることができる。
- ◆イメージに合った音型を使ったり、反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かしたりしながら、音楽をつくることができる。



「川のイメージから音楽をつくろう」

音楽や演奏のよさを理解して聴く

鑑 賞

- ◆音色、速度、強弱、主な旋律と副次的な旋律との関わり、和声の響きなどを聴き取り、その働きと効果を感じ取ることができる。
- ◆音楽の構造を理解し、曲のよさやおもしろさを言葉で紹介するなど、曲を全体にわたって味わって聴くことができる。

曲を聴いて思い浮かんだ場面は

だんだん波があらくなっていて、波があはせてるために、「ガザ」「ドボン」というような音色が出てきそうで、少しこわそうな海の場面です。  
理由は、海の音色にトリルが入ることであらあらしく感じたり、波の音色が大きくなってきているような感じだからです。

曲を聴いて思い浮かんだ場面とその理由  
「海とシンドバッドの船」の学習

豊かな響きで演奏する

歌 唱

- ◆呼吸や発声の仕方に気を付けて、よく響く声で歌うことができる。
- ◆それぞれの学年で用いる教科書に出ている教材程度の曲を、歌詞内容や感じ取った曲想を生かせるような表現の仕方を工夫しながら歌うことができる。
- ◆様々な曲種の声の出し方を感じ取り、対象とする音楽の特徴が出せるような発声の仕方を工夫して歌うことができる。
- ◆音の重なりや強弱などに着目し、各声部の音量やバランスを工夫して、声部の役割を考えながら歌うことができる。



練習方法を工夫しながら  
パート練習



遠くまで響く声で

器 楽

- ◆小学校で習った楽器の他に、アルトリコーダーやギターなどの楽器の演奏の仕方を覚え、音楽表現の豊かさや美しさを感じながら演奏することができる。
- ◆曲想に合うように音色や奏法を工夫しながら演奏することができる。
- ◆音の重なりや強弱などに着目し、各声部の音量やバランスを工夫して、声部の役割を考えながら演奏することができる。



リコーダーアンサンブル  
～よく聴き合って～

曲の構成や全体のまとまりを工夫して創作する

創 作

- ◆言葉や音楽の特徴を生かし、構成や全体のまとまりを工夫しながら自分のイメージに合った音楽をつることができる。
- ◆反復・変化・対照などの構成を工夫しながら、音楽をつることができる。
- ◆自分の表現したいイメージに合わせて、音楽の要素の働かせ方を変化させながら音楽をつることができる。



生徒の創作作品 「3年B組学級歌」

自分なりの価値判断をしながら音楽を聴く

鑑 賞

- ◆音楽の要素を窓口として音楽の特質や雰囲気を感じ取り、音楽の要素や構造と曲想との関わりを理解することができる。
- ◆音楽のよさや美しさを曲のおすすめポイントや紹介文などの形でまとめ、自分なりの価値判断をしたり、他者の感じ方を理解したりしながら聴くことができる。



「私のおすすめポイント」  
四季より「春」の学習

## 図画工作・美術の課題と、解決に向けて伸ばしたい資質・能力

学年	課題	材料の特徴を生かして発想すること	用具を適切に用いること	形や色に着目して感じ取ること
小学校	1・2年	材料に触れながら思い付くことができる	クレヨン、はさみ、のりなどの用具を使うことができる	作品などを楽しく見ることができる
	3・4年	材料の特徴を基に発想することができる	水彩絵の具、のこぎり、金づちなどの用具を適切に用いることができる	作品などのよさや面白さを感じ取ることができる
	5・6年	材料の特徴を基に発想を広げることができる	糸のこぎりやパンチなどの用具を適切に用いることができる	作品などのよさや美しさを感じ取ることができる
中学校	1～3年	材料の特徴を十分生かして発想を広げることができる	用具の特性を十分生かして適切に用いることができる	作品などのよさや美しさを感じ取り味わうことができる



各学年で扱いたい主な材料と生かしたい特徴、更にもその材料を基にした発想例を示しました。

各学年の鑑賞活動において、扱いたい主な対象と観点、鑑賞を通して感じ取ってほしい内容例を示しました。

材料の特徴を基に発想する		
材料	特徴	発想例
木切れ	・切る、削る、釘を打つなど、用具を用いて加工できる。 ・着色できる。	◆角材を切ってつないだり、木片を組み合わせたしなから、動物や建物などのつくりたい形を考案することができる。
段ボール	・適度な厚みやかさがあり丈夫である。 ・段ボールカッターなどで様々な形に切ることができる。	◆積んだり、切り込みを入れて組み合わせたしなから、タワーなどの大きくダイナミックな形や活動を考案することができる。
空き容器 (特製パック、ペットボトルなど)	・紙、プラスチックなど、様々な素材や形がある。 ・切ったり、分解したりして、組み合わせたりして、容器に加工できる。	◆形を見立てて組み立てたり、水に浮かべたりすることで、自動車や船などの楽しく遊べるおもちゃを考案することができる。

水彩絵の具、のこぎり、金づちなどの用具を用いる	
水彩絵の具	
◆混色して思うような色をつくることできる。	
◆水加減や筆づかいに気を付けて、色をにじませたり、重ねて塗ったりするなどの、表し方ができる。	
◆パレットや水入れの使い方がわかり、準備や片付けができる。	
のこぎり	
◆木切れや角材などを、いろいろな長さや形に切ることができる。	
◆万力などで材料を固定して切ることができる。	
◆正しい持ち方で安全に使うことができる。	
金づち	
◆柄の持ち方や錘の面を使い分けて、木に釘を打ったり木切れを打ち付けたりできる。	
◆正しい持ち方で安全に使うことができる。	
小刀・彫刻刀	
◆小刀の刃を斜めに当て、前に押し出すように使うことで、木の枝や棒などを削ることができる。	
◆欲しい線や形を彫刻刀を使い分けて彫ることができる。	
◆刃の向きに気を付けて、安全に使うことができる。	

各学年ごとに扱いたい主な用具と身に付けてほしい技能を示しました。中学校の学習指導要領では、扱う材料や用具は特定されていないので、例として示しました。

作品などのよさや面白さを感じ取る		
対象	観点	感じ取ること
◆自分たちの作品 	◆形の感じ、組合せ ◆色の使い方、組合せ ◆色の感じ ◆表されているもの様子や気持ちなど	◆登場人物の気持ちや描かれているものの形や色のよさや面白さを感じ取ることできる。 ◆友達や作品を見比べて、共通点や相違点を見付けることにより、それぞれの作品のよさを感じ取ることができる。 3匹のくじらがおどって楽しそうだね 波の色が重なって虹みたいだね など
◆身近な材料 	◆形の感じ ◆色の感じ ◆触った感じ ◆並べ方、重ね方、組合せなど	◆実際に触ったり重ねたり、見る方向を変えたりしながら、材料のもつよさや面白さを感じ取ることできる。 切り口を触るととてもすべすべするよ よく見ると形や色がみんな違うね 重ねるとお家みたいで面白いよ など

□枠の中には、対象から感じ取ってほしい内容の具体例を示しました。

図画工作・美術

材料に触れながら思い付く

材料	特徴	発想例
紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>切る、ちぎる、貼る、折る、曲げるなど、加工がしやすい。</li> <li>画用紙や新聞紙など、種類が豊富でどんな紙にも着色ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>切ったりちぎったりしてできた形を動物などに見立てたり、形を組み合わせさせて絵を思い付いたりできる。</li> </ul>
粘土	<ul style="list-style-type: none"> <li>手のひらや指先で丸めたり伸ばしたりして、形を簡単に変えることができる。</li> <li>手応えを楽しめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つくった形を積んだりくっつけたりして、お城やロボットなどの気に入った形を思い付くことができる。</li> </ul>
ひも 布切れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲げたり、結んだり、ねじったり、ものをつり下げたりできる。</li> <li>色や模様の違い、柔らかさなどの手触りを楽しむことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲げた形から見立てたり、つり下げる飾りなどを思い付いたりできる。</li> <li>柔らかく、結んだり広げたりできる特徴を生かした活動を思い付くことができる。</li> </ul>

クレヨン、はさみ、のりなどの用具を使う

クレヨン・パス

- ◆いろいろな形の線をかいたり、広い面を丁寧に塗ったりできる。
- ◆ティッシュペーパーで擦ったり、色を塗り重ねた面を割りばしで引っかいたりして、描くことができる。

はさみ・カッターナイフ

- ◆直線や曲線を切ったり、様々な形を切り抜いたりできる。
- ◆正しい持ち方で安全に使うことができる。

のり・テープ

- ◆のりを付ける際、薄くのばして使うことができる。
- ◆紙などをとめたり、つなげたりできる。

水彩絵の具

- ◆筆を大きく動かしたりローラーを転がしたりして、絵の具を塗ることを楽しむことができる。
- ◆手や指を使って描くことを楽しむことができる。

作品などを楽しく見る

対象	観点	楽しく見ること
<p>◆自分たちの作品</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆形の感じ</li> <li>◆色の使い方</li> <li>◆線の感じ</li> <li>◆表されているものの様子、数や大きさなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆作品と同じ姿勢をとったり表情をまねしたりして楽しむことができる。</li> <li>◆描かれているものの形や色の面白さに気付くことができる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     いろいろな色のお魚さんたちがいて楽しそうだね                      きらきら光る海の中を泳いでみたいなど                 </div>
<p>◆身近な材料</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆形の感じ</li> <li>◆色の感じ</li> <li>◆触った感じ</li> <li>◆遊んだときの感じなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆五感や身体全体を使って感じながら、形や色、手触りの感じ、並べたときなどの見え方の面白さに気付くことができる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     気に入ったものをたくさん集めたよ                      ざらざらやふわふわが気持ちいいよ など                 </div>

材料の特徴を基に発想する

材料	特徴	発想例
木切れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>切る、削る、釘を打つなど、用具を用いて加工できる。</li> <li>着色できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆角材を切ってつないだり、木片を組み合わせたたりしながら、動物や建物などのつくりたい形を考えることができる。</li> </ul>
段ボール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適度な厚みやかたさがあり丈夫である。</li> <li>・段ボールカッターなどで様々な形に切ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆積んだり、切り込みを入れて組み合わせたりしながら、タワーなどの大きくダイナミックな形や活動を考えることができる。</li> </ul>
空き容器 <small>(牛乳パック、ペットボトルなど)</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙、プラスチックなど、様々な素材や形がある。</li> <li>・切ったり、分解したり、組み合わせたりして、容易に加工できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆形を見立てて組み立てたり、水に浮かべたりすることで、自動車や船などの楽しく遊べるおもちゃを考えることができる。</li> </ul>

水彩絵の具、のこぎり、金づちなどの用具を用いる

水彩絵の具

- ◆混色して思うような色をつることができる。
- ◆水加減や筆づかいに気を付けて、色をにじませたり、重ねて塗ったりするなどの、表し方ができる。
- ◆パレットや水入れの使い方がわかり、準備や片付けができる。

のこぎり

- ◆木切れや角材などを、いろいろな長さや形に切ることができる。
- ◆万力などで材料を固定して切ることができる。
- ◆正しい持ち方で安全に使うことができる。

金づち

- ◆柄の持ち方や頭の面を使い分けて、木に釘を打ったり木切れを打ち付けたりできる。
- ◆正しい持ち方で安全に使うことができる。

小刀・彫刻刀

- ◆小刀の刃を斜めに当て、前に押し出すように使うことで、木の枝や棒などを削ることができる。
- ◆表したい線や形を彫刻刀を使い分けて彫ることができる。
- ◆刃の向きに気を付けて、安全に使うことができる。

作品などのよさや面白さを感じ取る

対象	観点	感じ取ること
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自分たちの作品</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆形の感じ、組合せ</li> <li>◆色の使い方、組合せ</li> <li>◆線の感じ</li> <li>◆表されているもの様子や気持ちなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆登場人物の気持ちや描かれているものの形や色のよさや面白さを感じ取ることができる。</li> <li>◆友達の作品を見比べて、共通点や相違点を見付けることにより、それぞれの作品のよさを感じ取ることができる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     3匹のくじらがおどっていて楽しそうだね                      波の色が重なって虹みたいだよ など                 </div>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆身近な材料</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆形の感じ</li> <li>◆色の感じ</li> <li>◆触った感じ</li> <li>◆並べ方、重ね方、組合せなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆実際に触ったり重ねたり、見る方向を変えたりしながら、材料のもつよさや面白さを感じ取ることができる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     切り口を触るととてもすべすべするよ                      よく見ると形や色がみんな違うね                      重ねるとお家みたいで面白いよ など                 </div>

材料の特徴を基に発想を広げる

材料	特徴	発想例
土粘土	<ul style="list-style-type: none"> <li>触り心地がよく、様々な形をつくることできる。</li> <li>乾燥すると固くなり、焼成することできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ひもにして積み上げたり、板にして曲げたり切ったりしながら、量感や動きのある面白い形を考えることができる。</li> </ul>
板材	<ul style="list-style-type: none"> <li>加工しやすく、組み立てや着色が可能である。</li> <li>磨くと面がなめらかになり肌ざわりがよく、落ち着いた感じを受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆板材の木取りや接合の方法、組み立て方を工夫して、本立てや小物入れなどの生活の中で長く使えるものを考えることができる。</li> </ul>
針金	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペンチなどの用具を用いて、容易に曲げたり切ったりできる。</li> <li>アルミニウムなどの金属特有の質感や輝きがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ねじったり曲げたりしながら、線や塊の美しい形を考えることができる。</li> <li>◆太い針金を使ってクランクなどの動く仕組みを考えることができる。</li> </ul>

糸のこぎりやペンチなどの用具を用いる

糸のこぎり

- ◆板材を曲線に切ったり、形を切り抜いたりするなど、思うように切断ができる。
- ◆刃の付け方や操作の仕方を理解し、安全な使い方ができる。

ペンチ

- ◆ペンチの先で針金をはさんで曲げたり、刃の奥で針金を適切な長さに切ったりすることができる。
- ◆正しい持ち方で安全に使うことができる。

水彩絵の具

- ◆水加減や筆づかいを工夫して、いろいろな表し方ができる。
- ◆スパッタリングなどの表現技法を用いて、それらを効果的に組み合わせながら、描くことができる。

デジタルカメラ

- ◆アングルや構図を変えて、撮影することができる。
- ◆撮影した画像を確認しながら、必要な画像を取捨選択することができる。

作品などのよさや美しさを感じ取る

対象	観点	感じ取ること
<p>◆自分たちの作品(教室表示)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆形の感じと組合せ、変化</li> <li>◆色の使い方、組合せ、変化</li> <li>◆表されているもの様子や気持ち</li> <li>◆表現の意図や目的など</li> </ul>	<p>◆作者の思いや願いを想像しながら、特徴的な表現のよさや美しさを感じ取ることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>文字が立体的で見やすく、白と水色の組合せからさわやかな感じを受けます 物語のシルエットから、作者が表したいイメージが伝わってきます など</p> </div>
<p>◆美術作品(地域の美術館の作品)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆形の感じと組合せ、変化</li> <li>◆色の使い方、組合せ、変化</li> <li>◆表されているもの様子や気持ち</li> <li>◆表現の意図、時代や地域による特徴など</li> </ul>	<p>◆作者の思いや願い、絵の中で起きている出来事を想像しながら、特徴的な表現のよさ美しさを感じ取ることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>顔に光が当たっているようで柔らかな感じがします 優しい表情で1冊の本を読んでいることから、2人は仲がよいのだと思います など</p> </div>

材料の特徴を十分生かして発想を広げる

材料	特徴	発想例
<b>金属</b> <small>(銅板・アルミニウム板)</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>硬くて丈夫である。</li> <li>切る、曲げる、打ち出すなどの加工ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>切ったり曲げたり打ち出したりした形から、金属特有の光沢や材質感を生かした作品を考えることができる。</li> </ul>
<b>木材</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木目の美しさや木肌のもつ温かさがある。</li> <li>切る、彫る、削る、塗装するなどの加工ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の形そのままを生かしたり、木肌や木目の美しさを引き出しながら、用途に合わせた形を考えることができる。</li> </ul>
<b>紙</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薄くて軽く、折る、曲げる、切る、重ねる、丸める、貼る、組むなど、加工法が多様で扱いやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>切ったり、折ったり、つないだりして、形を構築しながら、平面表現や空間表現を考えることができる。</li> </ul>

用具の特性を十分生かして用いる

水彩絵の具・ポスターカラー絵の具

- ◆用具の基本的な使い方を理解し、自分の思いを生かして的確に描くことができる。
- ◆不透明で高彩度の発色の特徴を生かし、混色できる。
- ◆水加減や絵の具の量を調整したり、筆を使い分けたりして、むらなく塗ることができる。

鉛筆・色鉛筆

- ◆持ち方やいろいろなタッチを工夫し、明暗を表したり、描く対象の形をとらえ陰影等を描いたりすることができる。
- ◆色を塗り重ねて、思うように色をつくることのできる。

接着剤

- ◆材料や接着面、重さに応じて使い分けたり、組み合わせたりできる。
- ◆接着剤が固まるまで、材料が動かないようにクランプなどで固定できる。

コンピュータ

- ◆画像を取り込み、貼り付けたり切り抜いたり、形や色を変えたりできる。
- ◆前後の変化をとらえながら連続で再生してアニメーションのような表現ができる。

作品などのよさや美しさを感じ取り味わう

対象	観点	感じ取り味わうこと
<b>◆ピクトグラム</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆形の感じと組合せ、単純化や強調</li> <li>◆色彩の組合せ、感じ方や心情</li> <li>◆表されているものの配置、均衡</li> <li>◆表現の意図、目的や条件、機能性</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生活を美しく豊かにする美術の働き等を理解し、よさや美しさを感じ取ることができる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>簡単な形と色でも内容が伝わってきます 言葉がなくても意味がわかります など</p> </div>
<b>◆美術作品(日本の美術)</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆形の感じと組合せ、変化</li> <li>◆色彩の使い方、組合せ、変化</li> <li>◆作者の心情や意図と表現との関わり</li> <li>◆時代や地域による独自性、美意識</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆諸外国の美術や文化との共通点や相違点に気付き、日本文化の独自性等を感じ取り味わうことができる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>擬人化されていてユーモアがあります 余白を生かした構図、筆の勢いから画面に動きが感じられます など</p> </div>

## 体育・保健体育の課題と、解決に向けて伸ばしたい資質・能力

学年	課題	運動の行い方がわかり、運動ができるようにすること	投力を高めること	持久力を高めること
小学校	1・2年	運動（遊び）の行い方がわかり、楽しみながら運動ができる	片手でねらったところに緩やかに投げることができる	無理のない速さでのかけ足を2～3分程度続けることができる
	3・4年	技能のポイントや練習方法がわかり、その運動ができる	投げる手と反対の足を一步前に踏み出して遠くへ投げることができる	無理のない速さでのかけ足を3～4分程度続けることができる
	5・6年	自己の課題を見付け、課題に合った練習の場や段階を選び、その運動ができる	オーバーハンドで遠くへ投げることができる	無理のない速さで5～6分程度の持久走をすることができる
中学校	1～3年	自己の課題に応じた適切な練習方法を選び、その運動ができる	ねらった方向へステップを踏みながら無駄のない一連の動きで遠くへ投げることができる	1,000～3,000m程度の長距離走をすることができる



運動ができるようになるための運動への取り組み方とできるようにしたい主な運動を、領域ごとに示しました。

各学年において、投力を高める場として各運動領域で行う運動を、関連している領域ごとに示しました。ここで示した運動は、その学年だけでなく、次の学年以降でも継続して行うことが大切です。なお、※印として指導のポイントを示しています。

運動の行い方がわかり、楽しみながら運動する		
領域	運動への取り組み方	できるようにしたい主な運動
体づくり運動	◆友達と一緒に運動をしたり用具を使って運動をしたりするなど、楽しく運動できる行い方を学ぶ。 ◆友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れる。	□速さやリズムを変えてのスキップやギャロップ □短なわで前後の運動片足跳びや交差跳び □短なわで寝びながら歩いたり走ったりする □手押し車で移動
器械運動	◆基本的な技の練習の仕方を知り、自分の力に応じた練習方法や練習の場を選ぶ。 ◆基本的な技の動き方や技のポイントを知り、自分の力に合った課題を選ぶ。	□前転 □後転 □開脚前転 □開脚後転 □壁倒立 □跪立で横跳び越し □膝掛け振り上がり □足上がり □かかえ込み回り □後方片膝かけ回転 □前向き下り □両膝掛け倒立下り □開脚跳び □かかえ込み跳び □台上前転
走・跳の運動遊び	◆走・跳の運動の動きを身に付けるための練習の仕方を知り、自分の力に応じた練習方法や練習の場を選ぶ。 ◆走・跳の運動の動き方や動きのポイントを学び、自分の力に合った課題を選ぶ。 ◆仲間との競走(争)の仕方を知り、競走(争)の規則を学ぶ。	□調子よく走っての50m程度のかけっこ □走りながらのハントパス □いろいろなリズムや一定のリズムでの50m程度の小型ハートル走 □5m程度の助走から調子よく踏み切って遠くへ跳ぶ □3歩程度の助走から調子よく踏み切って高く跳ぶ
歩く・泳ぐ運動	◆歩く・泳ぐ運動の動きを身に付けるための練習の仕方を知り、自分の力に応じた練習方法や練習の場を選ぶ。 ◆歩く・泳ぐ運動の動き方や動きのポイントを学び、自分の力に合った課題を選ぶ。	□け伸び □壁や補助具につかまっただけ足やかえる足 □連続してのポビング □補助具を使ったクロールのストローク □補助具を使った平泳ぎのストローク □面かぶりクロール □面かぶり平泳ぎ □呼吸をしながらのはた足かえる足泳ぎ
ゲーム	◆ゴール型ゲームやネット型ゲーム、ベースボール型ゲームの行い方を知り、楽しくゲームを行うことができるプレーヤーの素早く動くことやコート、プレー上の制限、得点の仕方、ゲームや練習をするときの規則などを学ぶ。 ◆ゲームの型の特徴に合った攻め方を知り、簡単な作戦を立てる。	ア ゴール型ゲーム □ボールを手や足で操作したり、空いている場所に素早く動く イ ネット型ゲーム □両手や両手でボールをはじいてのバスやラリー ウ ベースボール型ゲーム □ボールを握る、打つなどによる攻撃 □ボールを捕る、投げるなどによる守備
表現運動	◆題材やリズムの特徴を知り、自分の能力に合った題材やリズムを選ぶ。 ◆表現やリズムダンスの動きのポイントを学び、楽しく踊るための自分に合った課題を見付ける。 ◆よい動きを知り、友達のよい動きを自分の踊りに取り入れる。	□対比する動きを組み合わせてひと流れの動きで表現したり、「はじめと終わり」を付けた動きで表現したりして踊る □リズムに乗って、全身で弾んで踊る

### 投げる手と反対の足を一步前に踏み出して遠くへ投げる

体づくり運動「多様な動きをつくる運動」  
・相手に向かってボールを投げたり、投げられたボールを捕ったりする。  
※入場ボールや新聞紙などいろいろな種類のものを用意する。

ゲーム「ゴール型ゲーム」「ネット型ゲーム」「ベースボール型ゲーム」  
・相手との距離を徐々に遠くにしながらかっちボールをする。  
※楽しく行え、その動きができるように、簡単なボール操作で行える、比較的少人数で行えるなどゲームを工夫する。

### 無理のない速さでのかけ足を3～4分程度続ける

体づくり運動「多様な動きをつくる運動」  
・物や用具の間を速くや方向を変えて走ったり歩いたりする。  
・短なわや長なわでいろいろななわとびをする。  
＜参考＞他の運動領域での活動例  
歩く・泳ぐ運動「泳ぐ運動」  
・水中で息を吐き、顔を上げたときに一気に息を吸う。  
（連続したポビング）  
・水面を歩かずに歩く。（面かぶりクロール、面かぶりの平泳ぎ）  
＜参考＞他の運動領域での活動例  
ゲーム「ゴール型ゲーム」  
・できるだけ長い時間ボールを握って走る。

各学年において、持久力を高める場として各運動領域で行う運動を、関連している領域ごとに示しました。ここで示した運動は、その学年だけでなく、次の学年以降でも継続して行うことが大切です。

運動の行い方がわかり、楽しみながら運動する

領域	運動への取り組み方	できるようにしたい主な運動
体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆友達と一緒に運動をしたり用具を使って運動をしたりするなど、楽しく運動できる行い方を選ぶ。</li> <li>◆友達のよい動きを見付ける。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> リズムや方向を変えて両足または片足ではねる <input type="checkbox"/> 短なわで前後の連続両足跳び
器械・器具を使った運動遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆いろいろな固定施設や器械・器具を使った運動遊びの行い方を知り、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選ぶ。</li> <li>◆器械・器具を使った運動遊びの動き方を知り、友達のよい動きを見付ける。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 雲梯の懸垂移行 <input type="checkbox"/> 登り棒を上る <input type="checkbox"/> 平均台歩行 <input type="checkbox"/> ゆりかご <input type="checkbox"/> 前転がり <input type="checkbox"/> 後ろ転がり <input type="checkbox"/> 腹をかけてのぶら下がり <input type="checkbox"/> 前回り下り <input type="checkbox"/> 踏み越し跳び <input type="checkbox"/> 馬跳び <input type="checkbox"/> タイヤ跳び
走・跳の運動遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆走・跳の運動遊びの行い方を知り、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選ぶ。</li> <li>◆走ったり跳んだりする動き方を知り、友達のよい動きを見付ける。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> いろいろな線の上を蛇行して走る <input type="checkbox"/> いろいろな線の上をまっすぐ走る <input type="checkbox"/> いろいろな間隔に並べられた低い障害物を走り越える <input type="checkbox"/> 助走を付けて片足で踏み切り前方に跳ぶ <input type="checkbox"/> 助走を付けて片足で踏み切り上方に跳ぶ
水遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆水に慣れる遊びや浮く・もぐる遊びの行い方を知り、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選ぶ。</li> <li>◆水につかったときの動き方や水に浮いたりもぐったりする動き方を知り、友達のよい動きを見付ける。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 壁につかまっの伏し浮き <input type="checkbox"/> 水中じゃんけん <input type="checkbox"/> 水中石拾い <input type="checkbox"/> 水に顔をつけ口や鼻から息を吐く(バブリング) <input type="checkbox"/> 息を止めてもぐり、跳び上がって空中で息を吸う(ポビング)
ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ボールゲームや鬼遊びの行い方を知り、楽しくゲームができる場や得点の方法などの規則を選ぶ。</li> <li>◆ボールゲームや鬼遊びの動き方を知り、攻め方を見付ける。</li> </ul>	ア ボールゲーム <input type="checkbox"/> 片手での向かってボールを投げる <input type="checkbox"/> 片手でボールをつく <input type="checkbox"/> 2人組でキャッチボール <input type="checkbox"/> 的に向かってボールを蹴る イ 鬼遊び <input type="checkbox"/> タッチされたりマークを取られたりしないように逃げたり身をかわしたりする <input type="checkbox"/> 追いかけてタッチしたりマークを取ったりする
表現リズム遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆表現遊びやリズム遊びの基本的な動き方を知り、楽しく踊るための動きを選んだり、友達のよい動きを見付けたりする。</li> <li>◆題材やリズムの特徴を知り、それに合った動きを選んだり見付けたりする。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 動物になりきって踊る <input type="checkbox"/> リズムに乗って自由に踊る

体育・保健体育

片手でねらったところに緩やかに投げる

体づくり運動「多様な動きをつくる運動遊び」

- ・いろいろな大きさや重さのボールをよくねらって段ボールに当てるぞ!
  - ・2人組で高く、転がす、たたきつけるなどいろいろな投げ方でボールを投げ合う。
- ※できるだけたくさんのボールを用意して、一人一人がボールをつかんだり持ったりする機会を増やす。



ゲーム「ボールゲーム」  
(ボール遊び・ボール投げゲーム)

- ・投げたり、ついたり、転がしたり、捕ったりしながら的当て遊びやキャッチボールをする。
  - ・シュートゲームやドッジボールをする。
- ※楽しく行えるように、簡単なボール操作や簡単な規則で取り組めるようゲームを工夫する。



無理のない速さでのかけ足を2～3分程度続ける

体づくり運動「多様な動きをつくる運動遊び」

- ・いろいろなかけ足をする。
- ・短なわや長なわでいろいろななわびをする。



ゲーム「鬼遊び」

- ・二人鬼、宝取り鬼、ボール運び鬼、しっぽ取り鬼などをする。
- ・区域や用具を工夫して鬼遊びをする。



<参考>他の運動領域での活動例  
ゲーム「ボールゲーム」  
(ボール遊び・ボール蹴りゲーム)

- ・練習やゲームの中で、ボールを蹴りながら走る。
- ・練習やゲームの中で、ボールを追いかける。

運動の行い方がわかり、楽しみながら運動する

領域	運動への取り組み方	できるようにしたい主な運動
体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆友達と一緒に運動をしたり用具を使って運動をしたりするなど、楽しく運動できる行い方を選ぶ。</li> <li>◆友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□速さやリズムを変えてのスキップやギャロップ</li> <li>□短なわで前後の連続片足跳びや交差跳び</li> <li>□短なわで跳びながら歩いたり走ったりする</li> <li>□手押し車で移動</li> </ul>
器械運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆基本的な技の練習の仕方を知り、自分の力に応じた練習方法や練習の場を選ぶ。</li> <li>◆基本的な技の動き方や技のポイントを知り、自分の力に合った課題を選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□前転 □後転 □開脚前転 □開脚後転 □壁倒立 □腕立て横跳び越し □膝掛け振り上がり □逆上がり □かかえ込み回り □後方片膝かけ回転</li> <li>□転向前下り □両膝掛け倒立下り □開脚跳び</li> <li>□かかえ込み跳び □台上前転</li> </ul>
走・跳の運動遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆走・跳の運動の動きを身に付けるための練習の仕方を知り、自分の力に応じた練習方法や練習の場を選ぶ。</li> <li>◆走・跳の運動の動き方や動きのポイントを知り、自分の力に合った課題を選ぶ。</li> <li>◆仲間との競走(争)の仕方を知り、競走(争)の規則を選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□調子よく走っての50m程度のかげっこ □走りながらのバトンパス □いろいろなリズムや一定のリズムでの50m程度の小型ハードル走 □5m程度の助走から調子よく踏み切って遠くへ跳ぶ □3歩程度の助走から調子よく踏み切って高く跳ぶ</li> </ul>
浮く・泳ぐ運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆浮く・泳ぐ運動の動きを身に付けるための練習の仕方を知り、自分の力に応じた練習方法や練習の場を選ぶ。</li> <li>◆浮く・泳ぐ運動の動き方や動きのポイントを知り、自分の力に合った課題を選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□け伸び □壁や補助具につかまっただのばた足やかえる足 □連続してのポビング □補助具を使ったクロールのストローク □補助具を使った平泳ぎのストローク □面かぶりクロール □面かぶり平泳ぎ □呼吸をしながらのばた足やかえる足泳ぎ</li> </ul>
ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ゴール型ゲームやネット型ゲーム、ベースボール型ゲームの行い方を知り、楽しくゲームを行うことができるプレイヤーの数やコートづくり、プレー上の制限、得点の仕方、ゲームや練習をするときの規則などを選ぶ。</li> <li>◆ゲームの型の特徴に合った攻め方を知り、簡単な作戦を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア ゴール型ゲーム</li> <li>□ボールを手や足で操作したり、空いている場所に素早く動く</li> <li>イ ネット型ゲーム</li> <li>□片手や両手でボールをはじいてのパスやラリー</li> <li>ウ ベースボール型ゲーム</li> <li>□ボールを蹴る、打つなどによる攻撃 □ボールを捕る、投げるなどによる守備</li> </ul>
表現運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆題材やリズムの特徴を知り、自分の能力に合った題材やリズムを選ぶ。</li> <li>◆表現やリズムダンスの動きのポイントを知り、楽しく踊るための自分に合った課題を見付ける。</li> <li>◆よい動きを知り、友達のよい動きを自分の踊りに取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□対比する動きを組み合わせると流れの動きで表現したり、「はじめとおわり」を付けた動きで表現したりして踊る □リズムに乗って、全身で弾んで踊る</li> </ul>

投げる手と反対の足を一步前に踏み出して遠くへ投げる

体づくり運動「多様な動きをつくる運動」

- ・相手に向かってボールを投げたり、投げられたボールを捕ったりする。
- ※スポンジボールや新聞紙などいろいろな種類のものを用意する。



ゲーム「ゴール型ゲーム」「ネット型ゲーム」「ベースボール型ゲーム」

- ・相手との距離を徐々に遠くにしながらかッチボールをする。
- ※楽しく行え、その動きができるように、簡単なボール操作で行える、比較的少人数で行えるなどゲームを工夫する。



無理のない速さでのかけ足を3~4分程度続ける

体づくり運動「多様な動きをつくる運動」

- ・物や用具の間を速さや方向を変えて走ったり歩いたりする。
- ・短なわや長なわでいろいろななわとびをする。



<参考>他の運動領域での活動例  
浮く・泳ぐ運動「浮く運動」

- ・水中で息を吐き、顔を上げたときに一気に息を吸う。(連続したポビング)
- ・水面に顔を付けて泳ぐ。(面かぶりクロール、面かぶりの平泳ぎ)

<参考>他の運動領域での活動例  
ゲーム「ゴール型ゲーム」

- ・できるだけ長い時間ボールを蹴って走る。

自分の課題を見付け、課題に合った練習の場や段階を選び、運動する

領域	運動への取り組み方	できるようにしたい主な運動
体づくり運動	◆体力を高める運動のねらいや行い方を知り、自己の体力に応じた運動を選ぶ。	□短なわ、長なわでの時間跳び □いろいろな姿勢での腕立て伏せ □固定施設や器械・器具、地形などを越えながら移動する運動
器械運動	◆課題の解決の仕方を知り、自分の課題に応じた練習の場や段階を選ぶ。 ◆技をつなぐ方法を知り、自分の力に合った技を組み合わせる。	□連続した前転 □大きな前転 □跳び前転 □壁倒立 □側方倒立回転 □膝掛け上がり □後方支持回転 □片足踏み越し下り □大きな開脚跳び
陸上運動	◆課題の解決の仕方を知り、自分の課題に応じた練習の場や段階を選ぶ。 ◆仲間との競走(争)や自己の記録への挑戦の仕方を知り、自分に合った競走(争)のルールや記録への挑戦の仕方を選ぶ。	□全力で走って80m程度の短距離走 □減速の少ないバトンパス □3～5歩のリズムでのハードル走 □15m程度のリズムカルな助走での走り幅跳び □5歩程度のリズムカルな助走での走り高跳び
水泳	◆課題の解決の仕方を知り、自分の課題に応じた練習の場や段階を選ぶ。 ◆続けて長く泳ぐ記録への挑戦の仕方を知り、自分に合った距離を設定することや記録への挑戦の仕方を選ぶ。	□クロールで25～50m泳ぐ □平泳ぎで25～50m泳ぐ
ボール運動	◆ゴール型やネット型、ベースボール型の楽しいゲームの行い方を知り、プレーヤーの数、コート広さ、プレー上の制限、得点の仕方などのルールを選ぶ。 ◆チームの特徴に応じた攻め方を知り、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てる。	ア ゴール型 □フリーの味方へのパス □相手にとられない位置でのドリブル □パスを受けてのシュート イ ネット型 □相手コートにサービスを打つ □相手が受けやすいボールを返す □相手コートにボールを打ち返す ウ ベースボール型 □投げられたボールをバットで打つ □打球方向に移動し、捕球する □捕球相手にオーバーハンドで投げる
表現運動	◆課題の解決の仕方を知り、自分やグループの課題に応じた動きを選んだり、構成を変えたりする。 ◆自分やグループの持ち味を知り、練習や発表会、交流会で自分やグループの持ち味を生かす動きをつくる。	□表したいイメージを「はじめ～なか～おわり」を付けたひとまとまりの表現で踊る □日本の地域の踊りや外国の踊りの基本的なステップや動きを身に付けて踊る

体育・保健体育

オーバーハンドで遠くへ投げる

体づくり運動「体力を高める運動」

- ・体全体を大きく使ってボールを投げたり、捕ったりする。
- ※いろいろな姿勢での腕立て伏せ、腕屈伸など、腕の力を高める運動などを行う。



ゲーム「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」

- ・2人組で徐々に距離を伸ばしていくキャッチボールをする。
- ※運動の楽しさや喜びに触れ、その技能を身に付けることができるように、プレーヤーの数、コートの広さ、プレー上の制限(緩和)などゲームのルールや様式を修正するなどの工夫をする。

無理のない速さで5～6分程度の持久走をする

体づくり運動「体力を高める運動」

- ・時間走や時間跳びをする。
- ・校庭や体育館にある固定施設や遊具などを活用したサーキット運動をする。



<参考>他の運動領域での活動例  
水泳「クロール」「平泳ぎ」

- ・クロールや平泳ぎで、続けて長く泳ぐ。
- ・時間泳をする。

<参考>他の運動領域での活動例  
ボール運動「ゴール型」

- ・できるだけ長い時間ボールを蹴って走る。
- ・ボールを持っていないときも空いているスペースを見付けて走る。

自己の課題に応じた適切な練習方法を選び、運動ができる

領域	運動への取り組み方 ※(3)は第3学年	できるようにしたい主な運動
体づくり運動	◆関節や筋肉の働きに合った合理的な運動の行い方を選ぶ。 ◆ねらいや体力の程度に応じて強度、時間、回数、頻度を設定する。(3)	□10分程度の持久走 □短なわで自分で決めた時間や回数を跳ぶ
器械運動	◆学習する技の合理的な動き方のポイントを見付ける。 ◆課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選ぶ。 ◆自己の課題に応じて、学習する技の合理的な動き方の改善すべきポイントを見付ける。(3) ◆自己の課題に応じて、適切な練習方法を選ぶ。(3)	□跳び前転 □倒立前転 □側方倒立回転 □倒立 □前方支持回転 □後方支持回転 □平均台上を歩いたり走ったりする □平均台上での跳躍 □大きな開脚跳び □屈身跳び □頭はね跳び
陸上競技	◆技術を身に付けるため運動の行い方のポイントを見付ける。 ◆課題に応じた練習方法を選ぶ。 ◆自己の課題に応じた運動の行い方の改善すべきポイントを見付ける。(3) ◆自己の課題に応じて、適切な練習方法を選ぶ。(3)	□クラウチングスタート □滑らかな動きで速く走り100m程度の短距離走 □タイミングを合わせてスピードの高まったところでのバトンパス □3～5歩のリズムでの滑らかなハードル走 □スピードに乗った助走から素早く踏み切る走り幅跳び □リズムカルな助走から力強く踏み切る走り高跳び
水泳	◆泳法を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付ける。 ◆課題に応じた練習方法を選ぶ。 ◆選択した泳法について、自己の改善すべきポイントを見付ける。(3) ◆自己の課題に応じて、適切な練習方法を選ぶ。(3)	□クロールで25～50mを速く泳ぐ □平泳ぎで50～100m泳ぐ □背泳ぎで25～50m泳ぐ □バタフライで25～50m泳ぐ
球技	◆ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付ける。 ◆自己やチームの課題を見付ける。 ◆提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶ。 ◆提供された作戦や戦術から自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶ。(3)	ア ゴール型 □得点しやすい位置にいる味方へのパス □パスやドリブルなどでのボールキープ □ゴール方向に守備のない位置でのシュート イ ネット型 □テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打つ □味方が操作しやすい位置にボールを返す ウ ベースボール型 □投球の方向と平行に立ち地面と水平になるようにバットを振りボールを打ち返す □ボールの正面で捕球する □大きな動作でねらった方向へ投げる
武道	◆技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付ける。 ◆課題に応じた練習方法を選ぶ。 ◆自己の技能・体力の程度に応じた得意技を見付ける。(3) ◆提供された攻防の仕方から、自己に適した攻防の仕方を選ぶ。(3)	□相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて攻防を展開する
ダンス	◆自分の興味や関心に合ったテーマや踊りを設定する。 ◆課題に応じた練習方法を選ぶ。 ◆表したいテーマにふさわしいイメージを見付ける。(3) ◆それぞれのダンスの特徴に合った踊りの構成を見付ける。(3)	□表したいイメージをとらえ、「はじめ-なか-おわり」を付けた変化のあるまとまりの表現にして踊る □音楽に合わせて日本の民謡や外国のフォークダンスの特徴的なステップや動きを踊る □リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせるリズムに乗って全身で踊る

ねらった方向へステップを踏みながら無駄のない一連の動きで遠くへ投げる

体づくり運動「体力を高める運動」

- ・様々なフォームで様々な用具を投げたり、受けたり、持ったりして跳んだり、転がしたりする。
- ※ゆっくりした動きから素早い動き、小さい動きから大きい動き、弱い動きから強い動き、易しい動きから難しい動きへと運動を発展させるようにする。

球技「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」

- ・投げる腕を後方に引きながら足を踏み出して大きな動作でボールをねらった方向に投げる。

1,000～3,000m程度の長距離走をする

体づくり運動「体力を高める運動」

- ・時間や距離を決めて走る。
- ・時間や回数を決めてなわ跳びをする。

陸上競技「長距離走」

- ・続けて長く走ることができるようピッチとストライドを意識した走り方をする。(1年、2年)
- ・呼吸を楽にしたり、走りのリズムを作ったりする呼吸法を取り入れた走り方をする。(3年)

## 家庭・家庭分野の課題と、解決に向けて伸ばしたい資質・能力

学年	課題	資質・能力
小学校	包丁を適切に使って、簡単な日常食をつくること	日常着の手入れを適切に行うこと
中学校	包丁の安全な取扱いができる ゆでる調理ができる 米飯及びみそ汁の調理ができる いためる調理ができる	洗濯の手順がわかる。 手洗による洗濯ができる 手縫いの基礎を身に付け、ボタン付けができる ミシン縫いの基礎を身に付け、直線縫いができる
小学校	魚や肉を、煮たり、焼いたりする調理ができる 地域の食材（野菜や小麦粉など）を使って、主食、主菜、副菜、汁物ができる	快適な住まい方を工夫すること
中学校	魚や肉を、煮たり、焼いたりする調理ができる 地域の食材（野菜や小麦粉など）を使って、主食、主菜、副菜、汁物ができる	整理・整頓の仕方が工夫できる 清掃の仕方が工夫できる 季節に合わせた住まい方を工夫できる 過度な明るさを工夫できる
小学校	魚や肉を、煮たり、焼いたりする調理ができる 地域の食材（野菜や小麦粉など）を使って、主食、主菜、副菜、汁物ができる	汚れの種類や衣服の素材に応じて洗濯ができる 衣服の状態に応じた補修ができる
中学校	魚や肉を、煮たり、焼いたりする調理ができる 地域の食材（野菜や小麦粉など）を使って、主食、主菜、副菜、汁物ができる	安全な住まい方を工夫できる



家庭・家庭分野は、小学校は2学年まとめて、中学校は3学年まとめて、学習指導要領が示されており、学校や地域の実態に応じて、どこから学習してもよいことになっています。小中学校の学習がどのようにつながっているか、5年間を通して、どのようなことができるようになるのかを一度に見られるよう、小中学校を通して伸ばしたい資質・能力を課題ごとに示しました。

### 小学校5・6年

手洗による洗濯ができる

◆洗濯の手順がわかる。

洗剤液をつくる

→

洗う

→

すすぐ

→

しぼる

→

干す

→

たたむ

◆洗濯物の重さをはかり、必要な水の量と洗剤の量がわかる。  
◆汚れの種類に応じた洗い方ができる。(たゆまずすすぎ、押し洗い、つまみ洗い、つけおき洗い)  
◆水を無駄にしないすすぎ方ができる。(たゆまずすすぎで洗剤液をできるだけ絞る)  
◆水をしっかり切る絞り方ができる。(なすり取りや電気洗濯機による脱水)  
◆乾きやすい干し方、あとの手入れが容易になる干し方ができる。(干す開閉をあげたり、しわを伸ばしたりする)  
◆収納しやすいたたみ方や、出し入れしやすいしまいができる。

手縫いの基礎を身に付け、ボタン付けができる

◆縫いやすい糸の長さがわかる。  
◆針に糸を通すことができる。  
◆玉結び、玉どめができる。  
◆なみ縫い、返し縫い、かがり縫いができる。

◆種類(2つ穴、4つ穴、足付き)がわかる。  
◆ボタンの裏表がわかる。  
◆布の厚さ分だけボタンを浮かせ、ボタンと布の間に糸を3回程巻き回すことができる。

ミシン縫いの基礎を身に付け、直線縫いができる

◆上糸、下糸の準備ができる。  
◆縫い始め、縫い終わりや角の縫い方を考えた処理ができる。  
◆縫い代を布の右側にして縫うことができる。  
◆適切な向きや順序でまち針を打つことができる。

### 中学校 1～3年

汚れの種類や衣服の素材に応じて洗濯ができる

◆綿、毛、ポリエステルの手入れにかかわる基本的な性質がわかる。  
◆洗剤の種類や、漂白剤、柔軟剤の用途がわかり、適切に使用できる。  
◆電気洗濯機による洗濯ができる。  
◆必要に応じてクリーニング店が利用できる。  
◆取扱説明書に応じて洗濯できる。  
◆ワイシャツなどのアイロンかけができる。

◆まつり縫いによる裾上げができる。  
◆表に、針目、玉結び・玉どめが目立たないよう、布と同色の糸を用い、1本取りで縫う。  
◆0.8cm程度の間隔で真っ直ぐに縫う。  
◆スナップ付けができる。  
◆表に、縫い跡、玉結び・玉どめが出ないように縫う。  
◆凸を上側、凹を下側に設置するように付ける。  
◆ミシンによるほころび直しができる。  
◆ほころびた箇所だけでなく、ほころび始めと終わりを、2cmくらい重ねて縫う。

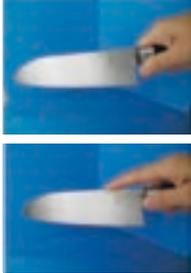
<簡単な日常食をつくること>のページについて

題材指定されているものは、小学校の「米飯とみそ汁」のみで、その他は、学習指導要領に示された指導事項を身に付けさせるために必要な題材を各学校で設定することになっています。本資料では、教科書等を参考にしながら、一般的な題材例をもとに、伸ばしたい資質・能力の具体的な姿を記述してあります。

小学校5・6年

包丁の安全な取扱いができる

・持ち方



人さし指をみねにそわせて持ってもいいんだね。

・押さえ方



指先を丸めて包丁にそわせると、安定して切りやすいよ。



まな板をぬらさないで使うと食品の色やにおいがつきやすいんだって。

- ・姿 勢：まな板の正面に立ち、きき手側の足を一步引く。
- ・運び方：バットなどに乗せて運び、台の上に置いてわたす。
- ・置き方：決められた場所に置き、不安定な場所に置かない。(まな板の上に置くときは、刃を向こう側にする。)
- ・洗い方：まな板の上に置いてスポンジでこすり、水を流しながら洗い、台の上に置いたふきんに当てて水気をふきとる。
- ・まな板の使い方：使う前に、水でぬらして水気をふきとる。使い終わったら、そのつど洗い、立てかけるなどしてかわかす。(日光に当てて干すとよい。)

ゆでる調理ができる

<実習題材例：ゆで野菜のサラダ>



じゃがいもをゆでてポテトサラダとかつくってもいいね。

- ◆ゆでると葉菜はかさが減ることがわかる。
- ◆水からゆでるもの(根菜、卵)と、沸騰してからゆでるもの(葉菜)があることがわかる。
- ◆葉菜は、たっぷりの湯で、ふたをしないうでゆでることがわかる。

・くし形切り



・輪切り



・たんざく切り(せん切り)



- ◆食べやすい大きさに切ることができる。
- ◆大きさをそろえて切ることができる。

米飯及びみそ汁の調理ができる

<米 飯>

- ◆炊飯の手順がわかる。
- ①計 量：1カップで茶碗2杯分になる。
- ②洗 う：水の中でこするように
- ③水 加 減：米の体積の1.2倍、重さの1.5倍
- ④吸 水：30分以上
- ⑤火 加 減：強火→中火→弱火
- ⑥蒸 ら し：消火後10分程度
- ⑦盛り付け：しゃもじで全体をかきまぜてから

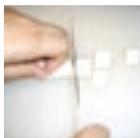


- ◆「米飯、みそ汁、はし」の我が国の伝統的な配膳ができる。

<みそ汁>

- ◆だしをとることができる。(煮干しなど)
- ◆煮えにくい実から入れることができる。
- ◆中に入れる実の代表的な切り方ができる。
- ◆適量のみその量がわかる。(水の重さの1/10)
- ◆みそは、火を止める直前にとかして入れることができる。
- ◆小皿にとって味見をし、味を整えることができる。

・小口切り



・ななめ切り



・うす切り



・皮むき(だいこん)



・いちよう切り



・たんざく切り(油あげ)



- ◆食べやすさや熱の通りやすさ、味のしみこみややすさを考えて切ることができる。

火を止める直前に入れたいからねぎはうす切りにしよう。



- ◆効率を考えて切ることができる。

たてに切れ目を入れて、合わせて切った方が早く切れるね。



## いためる調理ができる

### <実習題材例：野菜いため>



にんじんとキャベツとピーマンなら一番固いにんじんからいためればいいのね。



にんじんは固いからうすめに切った方がいいかな。

- ◆熱の通りが均一になるよう同じ野菜の大きさをそろえたり、固い野菜はうすく切ったりできる。
- ◆火が通りにくいものからいためることができる。
- ◆強火にして短時間で、こげないようによくかきまぜながらいためることができる。
- ◆フライパンを適切に扱うことができる。

- ・使用する際は、油を入れる前に熱してから使う。
- ・使用後は、油をふきとってから、適量の洗剤をつけ、油のついていないものとは分けて洗う。



・たんざく切り(せん切り)

・幅を細く切ればせん切り

## 中学校 1～3年

## 魚や肉を、煮たり、焼いたりする調理ができる

- ◆生の魚や肉と、野菜を切る包丁とまな板を区別することができる。(生の魚や肉を切った包丁とまな板で、そのまま生で食べる野菜を切らないことがわかる。)
- ◆魚や肉のうま味を逃さず、中まで火を通すことができる。  
(初めは、強火で加熱し、表面のたんぱく質を固めて、うま味や栄養分の流出を防ぎ、そのあと火を弱めて焼くことがわかる。)
- ・煮る場合は沸騰した煮汁の中に入れる。
- ・焼く場合は十分熱したフライパンに油をしいてから入れる。

### <実習題材例：煮魚>



- ◆裏返すと煮崩れしやすいものを少量の煮汁で煮るときには落としぶたを使うことがわかる。
- ◆材料の種類や切り方に合う煮方や、汁の量に適した味付けがわかる。

### <実習題材例：ハンバーグ>



- ◆直火焼き、フライパンやオーブンなどを用いた間接焼きの特徴がわかる。

・みじん切り(たまねぎ)



・皮むき(じゃがいも)



包丁の刃に親指をそえて少しずつ回しながら皮をむく。

包丁の角で芽をえぐり取る。

## 地域の食材(野菜や小麦粉など)を使って、主食、主菜、副菜、汁物ができる

- ◆地域や季節の食材を用いることの意義やよさがわかる。

### <実習題材例>

#### <すいとん>



#### <とん汁>



#### <ちらしずし・すまし汁>



#### <弁当>



- ◆豚肉、こんにゃくやしいたけ等、群馬の特産物を活用しながら、「粉食」文化を味わう調理ができる。
- ◆栄養のバランスのとれた1食分の献立を考え、調理することができる。
- ◆学習した調理法を活用して、適切に調理することができる。
- ◆野菜の下処理ができる。  
ごぼう：ささがき→水につけ褐変防止など
- ◆いろいろな切り方ができる。

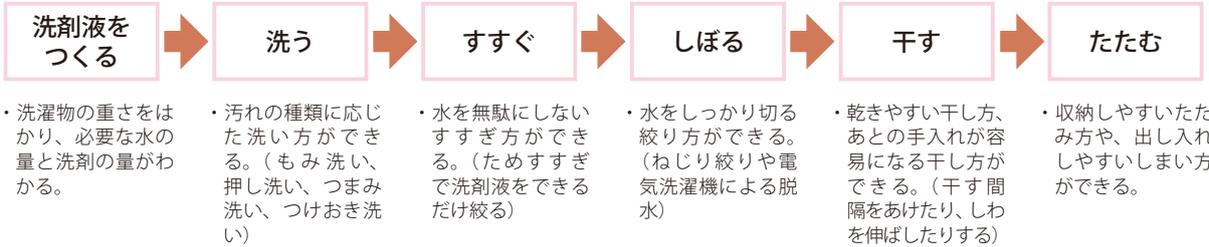
- ・乱切り(にんじん)
- ・ささがき(ごぼう)
- ・そぎ切り(ささみ)
- ・さいの目切り(とうふ)

※設定する実習題材によって、具体的な姿は異なる。

小学校5・6年

手洗いによる洗濯ができる

◆洗濯の手順がわかる。



手縫いの基礎を身に付け、ボタン付けができる

手縫いの基礎

- ◆縫いやすい糸の長さがわかる。
- ◆針に糸を通すことができる。
- ◆玉結び、玉どめができる。
- ◆なみ縫い、返し縫い、かがり縫いができる。

糸の長さは50~60cmにすればいいんだ。私の腕より少し長いくらいかな。2本取りなら倍の長さが必要だね。



ボタン付け

- ◆種類(2つ穴、4つ穴、足付き)がわかる。
- ◆ボタンの裏表がわかる。
- ◆布の厚さ分だけボタンを浮かせ、ボタンと布の間に糸を3回程度巻くことができる。

すぎまがないとボタンがとめにくいんだね。



ミシン縫いの基礎を身に付け、直線縫いができる

- ◆上糸、下糸の準備ができる。
- ◆縫い始め、縫い終わりや角の縫い方を考えた処理ができる。
- ◆縫い代を布の右側にして縫うことができる。
- ◆適切な向きや順序でまち針を打つことができる。



縫い代を布の左にして縫うと、布がミシン本体とぶつかって縫いにくいから右にするんだね。最初と最後の返し縫いも忘れなようにしないとね。

中学校 1~3年

汚れの種類や衣服の素材に応じて洗濯ができる

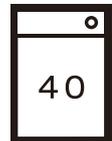
- ◆綿、毛、ポリエステルの手入れにかかわる基本的な性質がわかる。
- ◆洗剤の種類や、漂白剤、柔軟剤の用途がわかり、適切に使用できる。
- ◆電気洗濯機による洗濯ができる。
- ◆必要に応じてクリーニング店が利用できる。
- ◆取扱絵表示に応じて洗濯できる。
- ◆ワイシャツなどのアイロンかけができる。



綿は汗をよく吸ってくれるけど、洗うとしわになりやすいんだよな。

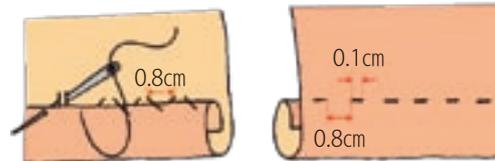


つり干しにすると重みで型崩れしやすいものは「平」に干すんだ。



衣服の状態に応じた適切な補修ができる

- ◆まつり縫いによる裾上げができる。
  - ・表に、針目、玉結び・玉どめが目立たないように、布と同色の糸を用い、1本取りで縫う。
  - ・0.8cm程度の間隔で真っ直ぐに縫う。
- ◆スナップ付けができる。
  - ・表に、縫い跡、玉結び・玉どめが出ないように縫う。
  - ・凸を上側、凹を下側にしてずれないように付ける。
- ◆ミシンによるほころび直しができる。
  - ・ほころびた箇所だけでなく、ほころび始めと終わりを、2cmくらい重ねて縫う。



小学校5・6年

整理・整頓の仕方が工夫できる

- ◆物を使う人や場所、その目的や頻度、大きさや形などによって、整理・整頓の仕方を工夫する必要があることがわかる。
- ◆何がどこにあるか、必要なものがすぐに取り出せるか、空間を有効に使えるかなどの視点から工夫できる。



えんぴつやボールペンはよく使うから手前に置こう。

清掃の仕方が工夫できる

- ◆床や窓などの汚れの種類、汚れ方に応じた清掃の仕方がわかる。
- ◆場所や汚れの状況や種類に応じて、掃除用具や住居用洗剤の使用を工夫できる。
- ◆昔から伝わる先人の知恵を生かすなど、環境に配慮した清掃の仕方を工夫できる。



「玄関は、ほこりが舞い上がらないようにぬらした新聞をちぎってまいてから、はくといいで」おばあちゃんから教わったよ。

季節に合わせた住まい方を工夫できる

— 暖かい住まい方 —

- ◆日光を効果的に取り入れるための工夫ができる。
- ◆窓や出入り口を閉めたり、カーテンや敷物を利用したりするなど、暖かい空気を逃がさないための工夫ができる。
- ◆置く場所や換気など、省エネや湿気防止を考えて、暖房器具の利用を工夫できる。

— 涼しい住まい方 —

- ◆日光をさえぎるための工夫ができる。
- ◆空気の入出口を作り、風通しをよくするための工夫ができる。
- ◆置く場所や設定温度など、省エネを考えて、冷房器具の利用を工夫できる。

適度な明るさを工夫できる

- ◆生活と目の健康の関連から、適度な明るさを確保する必要がある。
- ◆窓の大きさや位置、ガラスの汚れ、天候の状況によって、明るさが異なることがわかる。
- ◆省エネを考えて、照明器具の使い方を工夫できる。

中学校 1～3年

安全な住まい方を工夫できる

— 家庭内事故 —

- ◆幼児や高齢者の視点で、家庭内の危険がわかる。
- ◆転倒や、つまずきなど、高齢者の事故を防ぐための工夫ができる。
- ◆溺死や誤飲、やけどなど、幼児の事故を防ぐための工夫ができる。



— 室内空気の汚染 —

- ◆化学物質、一酸化炭素、カビ、ダニなどによる健康への影響がわかる。
- ◆空気の汚染を防ぎ、空気を清浄に保つための工夫ができる。

— 音 —

- ◆音が快適な生活に及ぼす影響や、感じ方に個人差があることがわかる。
- ◆音量や音源の場所、向き、窓やカーテンの開閉など、周囲に迷惑をかけない音の出し方の工夫ができる。

— 自然災害 —

- ◆避難経路の確保、家具の倒壊や物の落下、窓ガラスの破損など、地震による被害を防ぐための工夫ができる。
- ◆大雨や強風などによる被害を防ぐための工夫ができる。

## 技術分野の課題と、解決に向けて伸ばしたい資質・能力

内容等		課題	道具等を正しく使うこと	身に付けたことを生かしてつくること	技術を理解し活用すること
中学校 1～3年	A 材料と加工に関する技術	材料を切断する道具の仕組みや機能を知り、正しく使うことができる	材料を切断する道具の仕組みや機能を知り、正しく使うことができる	目的に応じた材料を選び、適切に加工し製作できる	材料と加工に関する技術を理解し、適切に活用できる
	B エネルギー変換に関する技術	部品を接合する道具の仕組みや機能を知り、正しく使うことができる	部品を接合する道具の仕組みや機能を知り、正しく使うことができる	目的に応じたエネルギーの変換・伝達の仕組みを考え、製作できる	エネルギー変換に関する技術を理解し、適切に活用できる
	C 生物育成に関する技術	土の種類や特性を知り、正しく配合することができる	土の種類や特性を知り、正しく配合することができる	目的に応じた生物の育成計画を立て、栽培又は飼育できる	生物育成に関する技術を理解し、適切に活用できる
	D 情報に関する技術	メディアの特徴を知り、正しく利用することができる	メディアの特徴を知り、正しく利用することができる	目的に応じたメディアを選び、デジタル作品を制作できる	情報に関する技術を理解し、適切に活用できる

### ページの見方

技術分野では、3年間に「A材料と加工に関する技術」、「Bエネルギー変換に関する技術」、「C生物育成に関する技術」、「D情報に関する技術」の4つの内容を指導します。指導計画の作成に当たっては、各学校の実情や生徒の実態、地域の特性などを踏まえ、内容の配列や題材構成を工夫して設定していくことになっています。

本資料では、ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査等の結果を踏まえ、生徒に確実に身に付けさせたい事項を内容ごとに例示しました。



「道具等を正しく使うこと」について、確実に身に付けさせたい事項の具体例を指導内容ごとに示しました。

#### 切断する道具の仕組みや機能を知り正しく使う

##### 両刃ののこぎりを取り上げる場合

- ◆各部の名称がわかる
- ◆のこぎりによる切断の仕組みを理解できる
  - ・握りき用の刃は、のみのような形状で縦横にそって材料をけずり取る。
  - ・握りき用の刃は、小刀のような形状で縦横を1本1本切断する。
- ◆のこぎりを正しく使える
  - ・切り始めは、あて木、又は親指をあてて、のこぎりの先端の方を使って軽く押し、ひき満を付ける。



その他に取り上げたい道具等—  
金切りばさみ、弓のこ、プラスチックカッター、糸のこ盤、帯のこ盤、ボール盤、角のみ盤 等

#### 材料を選び適切に加工し製作する

##### 身の回りを整理するもの設計・製作を行う場合

- ◆目的に合った材料を選択できる
  - ・使いやすい機能にするため、透明のアクリル板を使い、中が見えるようにする。
  - ・丈夫な構造にするため、補強金具を使った接合方法を用いる。
  - ・省資源を考慮して、合板や集成材などの木質材料を使う。
- ◆材料に応じた加工法を選択できる
  - ・切断 ・切削 ・穴あけ ・溝ほり
  - ・くぎ接合 ・ねじ接合 ・ほぞ接合 等
- ◆材料に応じた道具を選択できる

木材	金属	プラスチック
<ul style="list-style-type: none"> <li>・のこぎり</li> <li>・かんざし</li> <li>・きり 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弓のこ</li> <li>・押し切り</li> <li>・旋盤 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチックカッター</li> <li>・折り曲げ機等</li> </ul>

「身に付けたことを生かしてつくること」について、確実に身に付けさせたい事項の具体例を指導内容ごとに示しました。

#### 材料と加工に関する技術を理解し適切に活用する

- ◆次のような視点で自己の製作を振り返ることができる
  - ・目的に応じた機能・構造を実現できたか。
  - ・材料や加工法は、適切であったか。
  - ・作業を効率的に行い、材料等を無駄なく利用できたか。
- ◆材料と加工に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響を理解できる
  - ・身の回りにある製品が、製造・使用・廃棄される際の環境負荷がわかる。
  - ・循環利用、処分量の低減の促進、3R<sup>※1</sup>、5R<sup>※2</sup>などの取組を知る。
- ◆材料と加工に関する技術を適切に評価・活用できる
  - ・机やイスなど身の回りで使うもの購入について検討できる。
  - ・持続可能な社会を構築するために材料と加工に関する技術が、今後どのように発展していくべきか自分なりの考えをもつ。

※1 Reduce：発生抑制 Reuse：再利用 Recycle：再生利用  
※2 Reduce：発生抑制 Reuse：再利用 Recycle：再生利用 Refuse：拒否 Repair：修理

いろいろなサイズの本を整理できるように工夫できているわ。

壊れたものも、簡単に廃棄しないで、修理して使うなど、リサイクルを考える必要もあるわ。

ものを買うときは、材料や加工法なども考えて、検討する必要があるな。

引き出しが取り出しやすく工夫されているね。

「技術を理解し活用すること」について、確実に身に付けさせたい事項の具体例を指導内容ごとに示しました。

## 切断する道具の仕組みや機能を知り正しく使う

### 両刃のこぎりを取り上げる場合

- ◆各部の名称がわかる
- ◆のこぎりによる切断の仕組みを理解できる
  - ・縦びき用の刃は、のみのような形状で繊維にそって材料をけずり取る。
  - ・横びき用の刃は、小刀のような形状で繊維を1本1本切断する。
- ◆のこぎりを正しく使える
  - ・切り始めは、あて木、又は親指をあてて、のこ身のもとの方を使って軽く押し、ひき溝を付ける。



—その他に取り上げたい道具等—

金切りばさみ、弓のこ、プラスチックカッタ、糸のこ盤、帯のこ盤、ボール盤、角のみ盤 等

## 材料を選び適切に加工し製作する

### 身の回りを整理するものの設計・製作を行う場合

- ◆目的に合った材料を選択できる
  - ・使いやすい機能にするため、透明の亚克力板を使い、中が見えるようにする。
  - ・丈夫な構造にするため、補強金具を使った接合方法を用いる。
  - ・省資源を考慮して、合板や集成材などの木質材料を使う。
- ◆材料に応じた加工法を選択できる
  - ・切断 ・切削 ・穴あけ ・溝ほり
  - ・くぎ接合 ・ねじ接合 ・ほぞ接合 等
- ◆材料に応じた道具を選択できる

木材	金属	プラスチック
		
・のこぎり ・かな ・きり 等	・弓のこ ・押し切り ・旋盤 等	・プラスチックカッタ ・折り曲げ機等

## 材料と加工に関する技術を理解し適切に活用する

- ◆次のような視点で自己の製作を振り返ることができる
  - ・目的に応じた機能・構造を実現できたか。
  - ・材料や加工法は、適切であったか。
  - ・作業を効率的に行い、材料等を無駄なく利用できたか。
- ◆材料と加工に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響を理解できる
  - ・身の回りにある製品が、製造・使用・廃棄される際の環境負荷がわかる。
  - ・循環利用、処分量の低減の促進、3R<sup>\*1</sup>、5R<sup>\*2</sup>などの取組を知る。
- ◆材料と加工に関する技術を適切に評価・活用できる
  - ・机やイスなど身の回りで使うものの購入について検討できる。
  - ・持続可能な社会を構築するために材料と加工に関する技術が、今後どのように発展していくべきか自分なりの考えをもつ。

いろいろなサイズの本を整理できるように工夫できているわ。



引き出しが取り出しやすく工夫されているね。

壊れたものも、簡単に廃棄しないで、修理して使うなど、リサイクルを考える必要もあるわ。



ものを買うときは、材料や加工法なども含めて、検討する必要があるな。

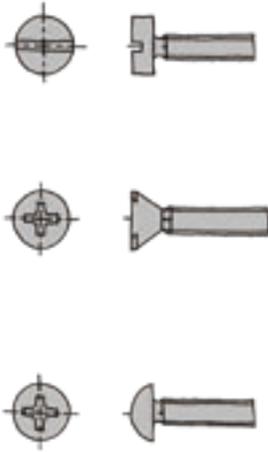
\*1 Reduce : 発生抑制 Reuse : 再使用 Recycle : 再生利用

\*2 Reduce : 発生抑制 Reuse : 再使用 Recycle : 再生利用 Refuse : 拒否 Repair : 修理

接合する道具の仕組みや機能を知り正しく使う

ねじ回しを取り上げる場合

- ◆ねじの大きさや形状に応じてねじ回しを選択できる
- ・ねじ山（プラス・マイナス等）や頭の形状（皿ねじ・丸ねじ等）に合ったねじ回しを選択する。
- ◆ねじ回しを正しく使うことができる
- ・ねじ回しを上から押さえながら右方向に回してねじ込む。
- ・2～4ヶ所の接合の際には対角線上に少しずつ締め付ける。



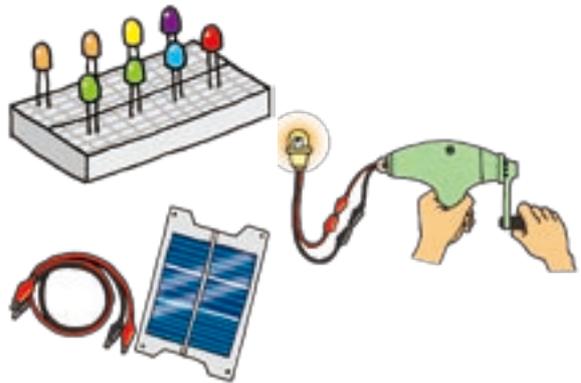
その他に取り上げたい道具等

ペンチ、スパナ、プライヤ、レンチ、ハンドリベット、電動ドライバ、はんだこて 等

エネルギーの変換・伝達の仕組みを考え製作する

多機能LEDライトを設計・製作する場合

- ◆省資源や省エネルギーに配慮した設計を工夫できる
- ・太陽電池や手回し発電機を利用する。
- ・高輝度発光ダイオードや動力伝達の仕組みなど変換効率の高い設計を工夫する。
- ◆省資源や省エネルギーに配慮した製作を工夫できる
- ・材料を無駄なく利用する。
- ・リサイクル材料を利用する。

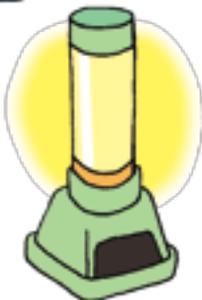


エネルギー変換に関する技術を理解し適切に活用する

- ◆次のような視点で自己の製作を振り返ることができる
- ・省資源や省エネルギーに配慮して製作できたか。
- ・材料や加工法は、適切であったか。
- ・作業を効率的に行い、材料等を無駄なく利用できたか。



LEDスタンドだから、消費電力を節約できるわ。



- ◆エネルギー変換に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響を理解できる
- ・エネルギー消費の現状と課題がわかる。
- ・CO<sub>2</sub>排出量の推移、カーボンオフセット<sup>※1</sup>について調べる。
- ・エネルギーの有効利用への取組がわかる。

※1 日常生活や経済活動によって排出される二酸化炭素を、何か別の手段を用いて相殺しようという考え方。

※2 Life Cycle Assessmentの略で、商品の環境に与える影響を、資源の採取から、加工・販売・消費を経て廃棄にいたるまでの各過程ごとに評価する方法。

LCAは、ハイブリッドカーの環境性能を表す指標としても、用いられているのか。



土の種類や特性を知り正しく配合する

野菜栽培用の土を扱う場合

- ◆栽培する野菜に応じた用土を配合できる
  - ・土の種類や特徴を知る。
  - ・野菜に応じた土の配合がわかる。
- ◆栽培用土の調整ができる
  - ・保水性、通気性を調整する。
  - ・酸度を測定し、栽培するものに適した酸度に調整する。



—その他に取り上げたい道具等—

ポット、素焼き鉢、プランター、支柱、くわ、移植こて、剪定ばさみ、肥料、農薬、養液栽培設備、糖度計、酸度測定器（液）等

生物の育成計画を立て栽培又は飼育する

ミニトマトを栽培する場合

- ◆「あまくて、おいしい」を実現するための育成計画を立案できる
  - ・土づくりや施肥、かん水など、ミニトマトに適した育成方法を選択する。

<育成計画の例>

準備	種まき	植え付け	手入れ	収穫
トマトに適した配合を考へ土づくりをする。	水、温度の調整をして発芽を促進させる。	本葉が3、4枚になったら、プランターに植える。	成長に合わせて、誘引、摘芽、追肥、かん水を行う。	実が十分に赤くなったものから収穫する。

- ◆安全性への配慮ができる
  - ・農薬の適切な使用法、成長段階における肥料の給与などの管理作業を実践する。
  - ・できるだけ農薬を使わない病虫害の防除方法を実践する。

生物育成に関する技術を理解し適切に活用する

- ◆次のような視点で自己の生物育成を振り返ることができる
  - ・目的に応じた育成方法を工夫し、生物の育成・管理作業を実践できたか。
  - ・農薬の利用を最小限にするなど、安全に配慮した育成方法を工夫できたか。
- ◆生物育成に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響を理解できる
  - ・伝統的な技術、バイオテクノロジーなどの先端技術を調べる。
  - ・環境に配慮した作物の栽培、家畜動物や水産生物の育成管理の方法を調べる。
- ◆生物育成に関する技術を適切に評価・活用できる
  - ・作業の効率、安全性と価格の視点から、どのような作物を生産したり、加工品を利用したりすべきかを検討する。
  - ・植物工場、養液栽培など施設栽培の長所と短所を検討する。
  - ・持続可能な社会を構築するために生物育成に関する技術が、今後どのように発展していくべきか自分なりの考えをもつ。

安全に配慮した服装で農薬散布ができた。



農産物の生産、輸送などには、大量のエネルギーが消費されているんだ。エネルギー消費を軽減する生物育成技術の開発が必要だな。



屋上菜園や植物工場での野菜栽培はすでに実用化され、省エネルギーや温暖化対策などへの効果が明らかになっているわ。



メディアの特徴を知り正しく利用する

静止画を取り上げる場合

- ◆静止画をデジタル化できる
  - ・イメージスキャナで取り込む。
  - ・デジタルカメラで撮影する。
  - ・図形処理ソフトウェアでかく。
  - ・表計算ソフトウェアでグラフをかく。



- ◆デジタル化した静止画を編集できる
  - ・トリミングする。
  - ・拡大（縮小）する。
  - ・解像度を変更する。
  - ・明暗、コントラスト、色調を変更する。
  - ・著作権、肖像権等に配慮して編集する。



その他に取り上げたいメディア  
文字、音声、音楽、動画 等

メディアを選びデジタル作品を制作する

ビデオクリップの制作を行う場合

- ◆「地域をPRするCMをつくろう」などの目的に合ったビデオクリップを構想できる
  - ・目的に応じたメディアを選択する。
  - ・表現・発信する場面を想定して構想を検討する。
- ◆複数のメディアを複合し、作品を制作できる
  - ・適切なソフトウェアを選択し制作する。
  - ・表現・発信する場面に応じて制作する。
- ◆著作権や肖像権等の情報モラルの視点を踏まえ修正できる
  - ・著作権、肖像権などの権利がわかる。
  - ・著作権、肖像権などに配慮する。

【視点の例】

- ※誤字や脱字はないか
- ※ファイルサイズは適切か
- ※マナーに反する内容はないか
- ※著作権や肖像権等の侵害はないか



情報に関する技術を理解し適切に活用する

- ◆次のような視点で自己の制作を振り返ることができる
  - ・目的に応じたメディアを複合して、デジタル作品を制作できたか。
  - ・著作権や肖像権等に問題はないか。
  - ・情報発信の際のルールやマナー、情報モラルに配慮できたか。



肖像権や著作権などの権利に配慮して家族旅行の動画を撮影できた。

家族にプレゼントするためのビデオクリップを編集できた。



編集したビデオクリップを保存したDVD-ROMを家族にプレゼントし喜んでもらった。



- ◆情報に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響を理解できる
  - ・技術の開発による新たな問題を検討する。
  - ・携帯端末やコンピュータの進歩による影響を調べる。

情報化が進んで便利な社会になっているけど、コンピュータウイルスなどのいろいろな問題も増加しているわ。



携帯電話やゲーム機などにもウイルス感染の被害は広がっているみたいだよ。

- ◆情報に関する技術を適切に評価・活用できる
  - ・情報通信ネットワークの発展にもなう諸問題を調べる。
  - ・情報社会に参画する態度を身に付ける。
  - ・これからの情報に関する技術のあるべき姿を討論し、自分なりの考えをもつ。

【情報化にともなう諸問題の例】

- ※ウイルス感染・不正アクセス
- ※著作権や肖像権等の侵害
- ※ネット依存等の健康への影響
- ※大規模なシステムトラブル
- ※情報機器等の大量生産・大量廃棄（省資源、環境汚染）

情報を安全に有効に活用して、よりよい情報社会となるようにしたいわ。

## 外国語の課題と、解決に向けて伸ばしたい資質・能力

学年	課題	動詞を適切に変化させて使用すること	まとまりのある文を正しい英語で書くこと	まとまりのある英文を読むこと
中学校 1～3年		動詞の特性や変化のきまりを理解することができる	正しい綴りで英文を書くことができる	句や段落のまとまりを意識しながら読み、概要をとらえることができる
		主語と動詞の関係や時制についての考え方を理解することができる	正しい語順で英文を書くことができる	読みの視点をもって英文を読むことができる
		文構造を理解し、場面に応じて動詞を使い分けすることができる	身近な話題や自分の考えなどについてまとまりのある一貫した英文を書くことができる	大切な部分などを正確にとらえ、まとまりのある英文を読むことができる



- ・外国語は、学習指導要領において学年ごとに内容が示されておらず、教科書によって扱う内容が学年ごとに異なる場合があります。そこで本資料においては、各課題ごとに1ページを割いて解説する形をとっています。
- ・中学校につながる指導として、最後に外国語活動（小学校）のページを設けています。



上記の表の各課題ごとに1ページずつ具体的に掲載しています。

外国語 ▶ まとまりのある英文を読む	
1年生	3年生
<p>句や段落のまとまりを意識し、概要をとらえる</p> <p>◆主語、動詞、目的語などの働きや特徴を理解することができる</p> <p>◆前置詞や接続詞などの特徴や役割を理解し、複数の単語のまとまりをとらえることができる</p> <p>&lt;例&gt; ・ in the morning ・ It's sunny but it's cold.</p> <p>◆日常生活でよく用いられる連語や慣用表現を理解することができる</p> <p>&lt;例&gt; ・ in front of ・ Excuse me.</p> <p>◆句のまとまりごとに区切って音読することができる</p> <p>◆文構造を理解し、句のまとまりごとに区切って意味をとらえることができる</p> <p>&lt;例&gt; I went / to the park / to play tennis.</p> <p>◆文中に未習の単語があっても、前後の関係などから意味を推測することができる</p> <p>◆段落ごとに概要を理解することができる</p> <p>◆文章を最後まで読み、大切な部分を正確に理解することができる</p>	<p>読みの視点をもって英文を読む</p> <p>◆主語、目的語、代名詞が指すものを文中からとらえることができる</p> <p>&lt;例&gt; I have a sister. Her name is Kumi. I go shopping with her every Sunday.</p> <p>◆文章の内容等に応じ、5W1Hを意識して読むことができる</p> <p>who → 主語 I, she, it, my father</p> <p>what → 主語や目的語 my bag, them, it</p> <p>when → 時を表す単語・前置詞 yesterday, last week at six, in the morning</p> <p>where → 場所を表す単語・前置詞 in the park, on the chair next to the station</p> <p>why → 理由を表す単語・接続詞 because..., in this way</p> <p>how → 手段を表す単語・前置詞 by bus, with a pen</p> <p>◆物語文において、大まかな流れをつかみながら読み取ることができる</p> <p>&lt;例&gt; ・ どんな登場人物がいるのか ・ 話がどのように展開していくのか</p> <p>◆説明文において、特に中心となる事柄など大切な部分をとらえて的確に読み取ることができる</p> <p>◆話の内容などに対して感想や考えを述べることもできるよう、置かれた内容や考え方をとらえることができる</p>
<p>大切な部分などを正確にとらえ、英文を読む</p> <p>1年生 【分量：50語程度】 【語彙：500語程度】 【程度：概要をとらえることができる】</p> <p>主な題材 ・ 日常生活や学校生活 ・ 外国の観光地や特徴 ・ 短編の物語文 など</p> <p>2年生 【分量：80語程度】 【語彙：800語程度】 【程度：様子や大切な部分などをとらえることができる】</p> <p>主な題材 ・ 日常生活の工夫 ・ 音楽や映画などの芸術 ・ 身近な自然や福祉 など</p> <p>3年生 【分量：100語程度】 【語彙：1200語程度】 【程度：大切な部分などを正確にとらえることができる】</p> <p>主な題材 ・ 多様なものの見方や考え方 ・ 外国と日本の文化の違い ・ 広い視野からの国際理解・福祉・環境・人権 など</p>	

それぞれの課題につき、3つの目指す姿をあげ、それらに沿って具体的に解説を加えています。

一部学年の区切りを入れ、学年ごとの目指す姿について目安の数値などをを用いて示しました。



	正しい綴りで英文を書く	正しい語順で英文を書く	まとまりのある一貫した英文を書く
<p>1年生</p>	<p>◆アルファベットを正しく書くことができる</p> <p>◆小学校で慣れ親しんだ主な単語について発音と綴りの関係に気付くことができる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• study (× sutady)</li> <li>• nice (× naisu)</li> <li>• Thank you. (× sankyuu)</li> </ul> </div>	<p>◆主語や動詞などの役割を理解することができる</p> <p>◆主語と動詞の位置が日本語とは異なることがわかる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;例&gt;</p> <p>I went to school 私は行った 学校に yesterday. 昨日</p> </div> <p>◆英文を句のまとまりで区切って読むことができる</p>	<p>1年生 【分量：20語程度】 【内容：自分や家族などの身近な話題】</p> <p>◆自分の好きなことや生活の様子などのテーマに沿って書くことができる</p> <p>◆but, because などの接続詞を用いて文をつなげることができる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;例&gt;</p> <p>Ken is my brother. He is a high school student. He likes tennis very much but I don't like it. (20語)</p> </div>
	<p>◆アルファベットには同じ文字でも異なる発音になるものがあることがわかる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;例&gt;</p> <p>cat と take in と like</p> </div> <p>◆特徴的な綴りと発音の関係について理解することができる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;例&gt;</p> <p>bird, high</p> </div> <p>◆使用頻度が高い3音節以上の単語について、発音と綴りの関係に注意しながら正確に書くことができる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;例&gt;</p> <p>interesting vacation</p> </div>	<p>&lt;例&gt;</p> <p>I study English / very hard / to be an English teacher.</p> <p>◆語順の違いによる意味の違いを意識しながら文を作ることができる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;例&gt;</p> <p>John called you. You called John.</p> </div> <p>◆分詞や関係代名詞などを用いた後置修飾の構造を理解し、正しい語順で書くことができる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• The boy <u>sleeping over there</u> is Ken.</li> <li>• I have a friend <u>who lives in Canada</u>.</li> </ul> </div> <p>◆語の配列や修飾関係などに注意して正しい文構造や語順で文を書くことができる</p>	<p>2年生 【分量：30語程度】 【内容：夏休みの思い出や自分の街の紹介など】</p> <p>◆事実や様子について書いた後、自分の考えや気持ちを1～2文加えて書くことができる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;例&gt;</p> <p>I like summer vacation because there are many festivals during it. In this summer, I went to two festivals in my town. They were exciting, so I want to go there again. (32語)</p> </div>
<p>3年生</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>How do you spell it ?</p> </div>	<p>◆自分の書きたいことについて、順序を表す言葉などを使用し整理しながら内容をつなげることができる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;例&gt;</p> <p>I have a dream. I want to make a school in Nepal. There are two reasons. First, there are not many schools in Nepal so most of the children can't go to school. Second, I have a pen pal in Nepal. In the near future, I want to see many children's smiles in Nepal. (54語)</p> </div>	<p>3年生 【分量：50語程度】 【内容：なりたい職業・環境・人権・国際理解など】</p>

	句や段落のまとまりを意識し、概要をとらえる	読みの視点をもって英文を読む	大切な部分などを正確にとらえ、英文を読む
1 年生	<p>◆主語、動詞、目的語などの働きや特徴を理解することができる</p> <p>◆前置詞や接続詞などの特徴や役割を理解し、複数の単語のまとまりをとらえることができる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>in the morning</li> <li>It's sunny but it's cold.</li> </ul> </div>	<p>◆主語、目的語、代名詞が指すものを文中からとらえることができる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;例&gt;</p> <p>I have a sister. <u>Her</u> name is Kumi. I go shopping with <u>her</u> every Sunday.</p> </div> <p>◆文章の内容等に応じ、5W1Hを意識して読むことができる</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-right: 10px; color: red; font-weight: bold;">who</div> <div style="font-size: 24px; margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>主語</p> <p>I, she, it, my father</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-right: 10px; color: red; font-weight: bold;">what</div> <div style="font-size: 24px; margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>主語や目的語</p> <p>my bag, them, it</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-right: 10px; color: red; font-weight: bold;">when</div> <div style="font-size: 24px; margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>時を表す単語・前置詞</p> <p>yesterday, last week at six, in the morning</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-right: 10px; color: red; font-weight: bold;">where</div> <div style="font-size: 24px; margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>場所を表す単語・前置詞</p> <p>in the park, on the chair next to the station</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-right: 10px; color: red; font-weight: bold;">why</div> <div style="font-size: 24px; margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>理由を表す単語・接続詞</p> <p>because..., in this way</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-right: 10px; color: red; font-weight: bold;">how</div> <div style="font-size: 24px; margin-right: 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>手段を表す単語・前置詞</p> <p>by bus, with a pen</p> </div> </div>	<p>1年生</p> <p>【分量：50語程度】 【語彙：500語程度】 【程度：概要をとらえることができる】</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>主な題材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や学校生活</li> <li>外国の観光地や特徴</li> <li>短編の物語文 など</li> </ul> </div>
	3 年生	<p>◆日常生活でよく用いられる連語や慣用表現を理解することができる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>in front of</li> <li>Excuse me.</li> </ul> </div> <p>◆句のまとまりごとに区切って音読することができる</p> <p>◆文構造を理解し、句のまとまりごとに区切って意味をとらえることができる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;例&gt;</p> <p>I went / to the park / to play tennis.</p> </div> <p>◆文中に未習の単語があっても、前後の関係などから意味を推測することができる</p> <p>◆段落ごとに概要を理解することができる</p> <p>◆文章を最後まで読み、大切な部分を正確に理解することができる</p>	<p>◆物語文において、大まかな流れをつかみながら読み取ることができる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どんな登場人物がいるのか</li> <li>話がどのように展開していくのか</li> </ul> </div> <p>◆説明文において、特に中心となる事柄など大切な部分を正確に読み取ることができる</p> <p>◆話の内容などに対して感想や考えを述べるできるよう、書かれた内容や考え方などをとらえることができる</p>

音声を中心としたコミュニケーション能力の素地を養う

コミュニケーション能力の素地

外国語を通じて

◆言語や文化について体験的に理解することができる

【体験的に理解する】

→ 聞く・話す・歌う・チャンツを行う・作る・観るなどを通して気付く、わかる

◆積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる

【コミュニケーションへの積極的な態度】

→ 相手の思いを理解しようとする  
 ・他者に思いを伝えることの大切さなどを実感する  
 ・積極的に自分の思いを伝えようとする

◆音声や基本的な表現に慣れ親しむことができる

【慣れ親しむ】

→ 聞いて概要がわかる  
 ・外国語の音声を模倣できる  
 ・話して概要が伝えられる

	題 材	言語や文化への気付き	表 現
5年生	<p>友達や家族などのつながりに焦点を当てた題材</p> <p>【世界のいろいろな言葉であいさつをしよう】</p> <p>【ジェスチャーをつけてあいさつをしよう】</p> <p>【家族を紹介しよう】 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本と外国のあいさつやジェスチャーの違い</li> <li>兄弟、姉妹の表し方の違い</li> </ul>	<p>Hello, I am ~ . Nice to meet you.                      I'm from ~ .                      How are you? I'm happy.                      (fine, hungry, sleepy, ...)                      I (don't) like bananas.                      (apple, milk, dog, swimming)</p> <p>How many? (one ~ twenty)                      I study Japanese. (math, science, Sunday, Monday, Tuesday, ...)                      What's this? It's a ~ .                      What would you like?                      I'd like milk. (cake, hamburger, rice, pizza, salad, ...)</p>
	<p>日常生活、学校などの身近な生活に焦点を当てた題材</p> <p>【いろいろなものを数えよう】</p> <p>【夢の時間割を作ろう】</p> <p>【ランチメニューを作ろう】 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外来語と英語等の発音やアクセントの違い</li> <li>外国の学校生活</li> </ul>	
6年生	<p>5年生の経験をもとにした題材</p> <p>【1日の生活を紹介しよう】</p> <p>【「夢宣言」をしよう】 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで知らなかった友達の一面や考え方</li> </ul>	<p>What time do you go to bed?                      I go to bed at 7:00.                      What do you want to be?                      I want to be a teacher.                      (doctor, farmer, scientist, ...)</p>
	<p>友達との関わりを大切にしたい題材</p> <p>【できることを紹介しよう】</p> <p>【友達の誕生日を調べよう】 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間の表し方の特徴</li> <li>月や日付の表し方の特徴</li> </ul>	<p>Can you swim? What can you do?                      (play the piano, fly, sing, ...)                      When is your birthday?                      My birthday is March 3rd.                      (January, ... 1st, 2nd, ...)</p>
	<p>地域、世界へのつながりや広がりに関する題材</p> <p>【町の地図を作ろう】</p> <p>【友達を旅行にさそおう】 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場所などを示す表現の特徴</li> <li>地域や外国の名所、よさ</li> </ul>	<p>The flower shop is near the station.                      Where is the school?                      (right, straight, hospital, ...)                      I want to go to France.                      (China, America, country, pizza, soccer, kangaroo, ...)</p>

# 2 豊かな心

向上する心

自分のよさに気づき、夢や希望をもつことができる

やりぬく心

最後まであきらめずに取り組むことができる

大切にする心

友達、学級、学校、地域などを大切にすることができる

## 3つの心と、その育成に向けて伸ばしたい資質・能力

	小学校	
	1・2年生	3・4年生
向上する心	自分のやりたいことを決めることができる	目標を決め、自分を伸ばそうとすることができる
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学習課題を基に、書きたいことや調べたいことなどを決めることができる。</li> <li>◆休み時間では、自分のやりたい遊びを見つけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学習や運動などの面から、学期の目標を立てることができる。</li> <li>◆これまでできなかったことに、積極的に挑戦することができる。</li> </ul>
やりぬく心	自分のやるべきことに、しっかりと取り組むことができる	自分のやるべきことに、粘り強く取り組むことができる
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学習課題や宿題などを、最後まで行うことができる。</li> <li>◆机の中を整理したり靴をそろえたりするなど、身の回りの整理整頓ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆漢字書き取りや計算練習などに、繰り返し取り組むことができる。</li> <li>◆当番活動など、与えられた仕事をやり遂げることができる。</li> </ul>
大切にする心	友達と、仲良くすることができる	学級の生活をよりよくするために、友達と協力し合うことができる
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆友達と一緒に、遊んだり、製作したり、調べたりすることができる。</li> <li>◆「おはよう」「ありがとう」など、挨拶や感謝の言葉を言うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆係活動など、学級をよりよくする活動に取り組むことができる。</li> <li>◆友達の気持ちを考え、協力し合いながら行動することができる。</li> </ul>

3つの心は、道徳の時間を中心として、全ての教育活動を通して育成しましょう。  
特に、次のことに留意しながら指導しましょう。

- ・時には厳しく、そして、できた時にはおおいにほめましょう。
- ・一定期間ごとに、振り返る時間を設けましょう。
- ・必要に応じて具体的なモデルを示しましょう。
- ・道徳の時間などで「心のノート」を活用しましょう。

ぼくは、ものづくりが好きだから、工業関係の仕事につきたいな。そのためには…。



※ 3つの心は、「道徳教育推進状況調査」から郷土愛や責任感に課題が見られたこと、「全国学力・学習状況調査」から、自分のよさの認識や計画的な学習の取組に課題が見られたことなどから、「向上する心」「やりぬく心」「大切にする心」として設定しました。

	小学校	中学校
	5・6年生	1～3年生
向上する心	自分のよさに気付き、伸ばそうとすることができる	自分のよさや特徴を生かして、進路や将来の目標をもつことができる
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自分のよさに気付き、それを伸ばすために、年間の目標を立てることができる。</li> <li>◆定期的に目標を振り返り、新たな気持ちで取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆卒業後の進路を意識して、授業や職場体験活動などに取り組むことができる。</li> <li>◆自分の特性を生かした将来に向けて、資料などを収集することができる。</li> </ul>
やりぬく心	自分がやろうと決めたことに、最後まで取り組むことができる	自分がやろうと決めたことに、計画的に最後まで取り組むことができる
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学習の中で自ら見つけた課題を最後まで追究し、解決することができる。</li> <li>◆児童会やクラブ活動などに、責任をもって取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆将来の進路を見据え、計画的に学習などに取り組むことができる。</li> <li>◆生徒会活動や部活動など、計画を立て、最後まで取り組むことができる。</li> </ul>
大切にする心	学校の生活をよりよくするために、諸活動に取り組むことができる	身近な地域をよりよくするために、創意工夫して活動することができる
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学校行事や児童会活動など、学校全体の活動に積極的に取り組むことができる。</li> <li>◆学校の施設や設備、教材・教具などを大切に使うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆育成会や地域の行事に参加するなど、積極的に地域と関わるができる。</li> <li>◆身近な地域の自然や文化、歴史などを自ら学ぶことができる。</li> </ul>

# 3 健康な体

規則正しい生活習慣

一日の生活リズムを確立することができる

進んで運動する習慣

様々な機会を捉え、自ら進んで運動することができる

望ましい食習慣

食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができる

## 3つの健康的な習慣と、その育成に向けて伸ばしたい資質・能力

	小学校	
	1・2年生	3・4年生
規則正しい生活習慣	起きる時間と寝る時間を決めて、一日の生活リズムをつくることができる	睡眠・運動・休養の調和のとれた生活を行うことができる
	◆家族の協力を得ながら決まった時間に就寝し、登校する1時間前にできるだけ自分で起床することができる。	◆早寝早起きをするよう生活時間を考えて実践することができる。
進んで運動する習慣	休み時間や放課後に体を動かすいろいろな遊びをすることができる	休み時間や放課後にいろいろな運動や遊びをすることができる
	◆休み時間や放課後に1日1回以上校庭に出て遊ぶことができる。	◆休み時間や放課後に授業で学んだ運動に取り組むなどして、いろいろな運動や遊びを体験することができる。
望ましい食習慣	食べ物に興味・関心を持ち、楽しく食べることができる	健康に過ごすことを意識して、いろいろな食べ物を食べようとするすることができる
	◆みんなと一緒においしく給食を食べることができる。	◆給食の時間に、いろいろな料理や食品を残さず食べようとするすることができる。

健やかな体は、体育科や家庭科の時間を中心として、全ての教育活動を通して育成しましょう。

特に、次のことに留意しながら指導しましょう。

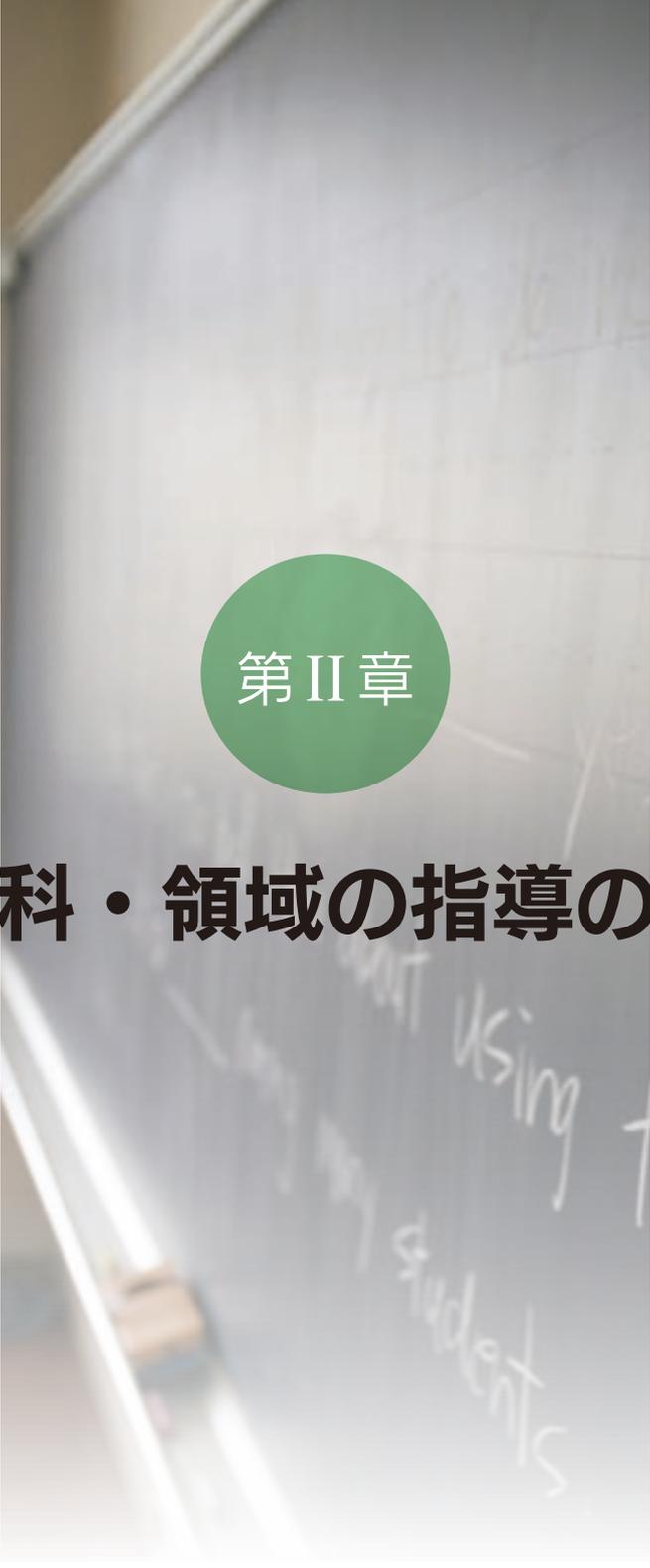
- ・発達段階に応じた指導を行いましょう。
- ・学校全体で取り組む体制をつくりましょう。
- ・やる気を起こす、継続して取り組む環境づくりに努めましょう。
- ・家庭や地域、関係機関と連携して取り組みましょう。

食事や睡眠を充分にとり、健康な体になって、好きな運動やスポーツに熱中したいな…。



※健康な体は、「全国学力・学習状況調査」から起床時間や就寝時間、朝食の摂取率等の実態に課題が見られたこと、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」から運動する習慣が身に付いているほど体力合計点が高いことなどから、「規則正しい生活習慣」「進んで運動する習慣」「望ましい食習慣」として設定しました。

	小学校	中学校
	5・6年生	1～3年生
規則正しい生活習慣	休養や睡眠の必要性を理解し、帰宅後や休日における生活の仕方を振り返ることができる	生活習慣病の予防を含め、日常生活の中で健康づくりを意識した行動をとることができる
	◆就寝前の過ごし方や質のよい睡眠を得るための環境づくりを考え、実践することができる。	◆自分の健康管理と健康的な生活行動を考え、実践することができる。
進んで運動する習慣	自分から機会を見つけていろいろな運動や遊びをすることができる	自分に合った運動やスポーツを見付け、進んで運動することができる
	◆休み時間や放課後に、運動や遊びをしたり、家庭や地域で行われる運動やスポーツの行事等に進んで参加したりすることができる。	◆学校での運動部活動や家庭、地域で複数の運動やスポーツを経験し、その中で自分に合った運動やスポーツを見付け、続けていくことができる。
望ましい食習慣	食品の体内での働きを考え、食品を組み合わせる食べることができる	毎日規則正しく、食品をバランスよく組み合わせる食べることができる
	◆給食の時間に、食品に含まれる栄養素や体内ではたらきを考えて残さずに食べようとするすることができる。	◆給食の時間に、食品に含まれる栄養素や体内ではたらきを食べて食べるとともに、家庭においても毎日規則正しく食事をとることができる。



第II章

**各教科・領域の指導の基本**

## 1 単位時間の授業のつくり方

1 単位時間の授業をつくる上で最も大切なことは、課題を明確にすることです。そして、児童生徒の実態を踏まえた適切な学習活動を本時の中心に位置付け、その活動を通して課題を達成するようにしましょう。

基本的な流れ	指導のポイント
<p><b>1 本時の課題を把握する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を振り返る。</li> <li>・課題を把握する。</li> <li>・本時の見通しをもつ。</li> <li>・活動内容を把握する。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○本時の課題を板書したり、掲示したりして明確に示しましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの児童の実態（学習の到達状況）を踏まえて、課題を設定する。</li> <li>・本時の単元の中での位置付けを確認するとともに、本時の見通しがもてるよう、前時の学習内容と関連付けながら、学習の手順を説明する。</li> </ul>
<p><b>2 課題を追究する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的意識をもちながら、課題解決のための学習活動を行う。</li> <li>・様々な形態での学習を通して思考を深める。</li> </ul> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>①個人で追究する。</li> <li>②グループで交流する。</li> <li>③全体で交流する。</li> </ul> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○本時の課題を達成できるよう、中心となる学習活動を設定したり、学習形態を工夫したりしましょう。</p> <p>○児童生徒の思考を深める発問をしましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>①個別に思考する時間を保障する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習における中心となる学習活動に十分な時間を配分できるようにする。その際、個人で考える時間を確保し、自分の意見や考えをもった上で、グループでの交流に参加できるようにする。</li> <li>・必要に応じて教科書やノート、ワークシートなどを振り返り、既習の学習を生かして考えさせたり、活動させたりする。</li> </ul> </li> <li>②児童生徒の思考力・判断力・表現力等を、深めたり広げたりするためのグループやペアなどによる少人数での学び合いを行う。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習場面」、「時間」、「構成員」などを意図的に設定し、効果的に交流が行えるようにする。</li> </ul> </li> <li>③グループでの活動を受けて、クラス全体で学びを共有させるとともに、再度発問を行い学びを深めさせ、まとめる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の意見や考えを生かしながら、共通点や相違点をまとめたり、思考を揺さぶる発問をしたりする。</li> <li>・自分の考えを深めたり、広げたりしている児童生徒の姿（発言や記述など）を明確にしておき、指導と評価を関係付ける。</li> <li>・児童生徒の思考の流れがわかるように板書を工夫する。</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>3 本時のまとめをする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返り、文章でまとめる。</li> <li>・次時の学習について見通しをもつ。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○本時の学習を通して学んだことや考えたことなどを書いてまとめさせましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を達成した児童生徒の姿を具体的に示してよさを認め、次時への意欲を高める。</li> <li>・次時の学習内容や準備するものなどについて説明する。</li> </ul>

指導例

小学校 第5学年 「わらぐつの神様」(第4時)

1 本時の課題を把握する。 (5分)

- ・前時の学習を振り返り、③の場面について想起させる。
- ・本時の学習課題を板書して、児童に読ませる。

本時の学習課題

『大工さんとおみつさんの人物像を考えよう。』

- ・前時の授業の流れを振り返り、学習の見通しをもたせる。  
T：今日は、④の場面から大工さんとおみつさんの人物像を考えていきます。③の場面では、どのように人物像を考えましたか。  
S：大工さんとおみつさんの会話や行動から、考えました。  
T：今日も会話や行動に着目して考えていきましょう。

繰り返し同じ視点や手順で読み取っていくことで、児童に学習の仕方を身に付けさせ、見通しをもちながら学習に取り組めるようにします。

「読むこと」の領域では、叙述に基づいて考えさせることが大切です。線を引いたり、色を付けたりして視覚的にとらえやすくしながら、個々の叙述を関係付けて考えさせるようにします。

2 課題を追究する。 (32分)

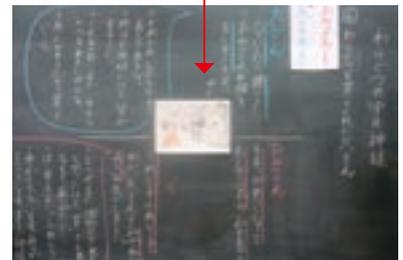
- ・④の場面を読む。
- ・大工さんとおみつさん、それぞれの人柄がわかる文に線を引かせる。
- ・線を引いた部分を基に、大工さんとおみつさんの気持ちを想像させる。

本時の中心的な学習活動

線を引いた部分について、そのときの二人がどんな気持ちだったかを想像する。

- ・吹き出しの中に、想像したことをそれぞれの人物の言葉として書かせる。
- ・グループでそれぞれが考えた吹き出しの中身を発表し合い、人物の気持ちについて考えを深めさせる。
- ・発表し合った気持ちを基に、人物像について話し合わせる。
- ・各グループで話し合った人物像について発表させる。  
T：話し合った人物像について、発表してください。  
S：大工さんは、きびしくてこわそうだけど物を大切に作る心の温かい優しい職人さんだと思う。  
S：おみつさんは、相手への感謝の気持ちをすごく強くもっていて、心の温かい人なんじゃないかな。

板書は、挿絵などを貼り上下に分けて比べて書いたり、色分けしたりして、比較しやすくします。



児童生徒が発言した内容について、全体に問い直したり、発言の内容と相対する考えを示したりして再度叙述に即して考えを深めさせていくようにします。

思考を深める発問

T：大工さんは、本当に心の温かい優しい人なのでしょうか。それが具体的に分かる部分を挙げながら説明してください。

3 本時のまとめをする。 (8分)

- ・人物像について、自分の考えをノートにまとめさせることで、思考の深まりを実感させる。
- ・本時の授業を振り返り、自己評価させる。
- ・次時の学習内容について知らせ、見通しをもたせる。



自分の考えをまとめたノート例

## 1 単元のつくり方

児童生徒の実態や既習事項を踏まえて、指導事項を効果的に指導するための単元を貫く言語活動を設定しましょう。それを基に学習課題を設定し、児童生徒が目的意識をもちながら、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の活動を行うことが大切です。主体的に活動できる言語活動を設定しましょう。

過程	基本的な流れ・指導のポイント
課題把握	<b>1 本単元の課題をつかむ。(第1次)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元のゴールを想像できる学習課題を設定し、児童生徒が目的をもって学習活動に取り組めるようにする。</li> <li>児童生徒が学習の見通しをもてるように学習計画と評価計画を提示する。</li> <li>映像や写真など視覚教材を積極的に利用して、児童生徒の興味・関心を高める。</li> </ul>
課題追究	<b>2 課題を解決する。(第2次)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的を明確にして、児童生徒が取材や読み取りなど様々な活動に取り組めるようにする。</li> <li>ノートや教科書などで既習の学習を振り返り、本単元の学習と比較させて既習事項を生かせるようにする。</li> <li>学習形態や発問を工夫したり、発表、制作物、意見や考えなどについて交流したりして、児童生徒の思考を深める。</li> </ul>
まとめ	<b>3 単元を振り返る。(第3次)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習の流れを振り返り、課題解決の道筋を自覚できるようにする。</li> <li>単元を振り返り、感じたこと、考えたこと、身に付けたことなどを文章でまとめる。</li> </ul>

各領域ごとの基本的な流れ			
過程	「話すこと・聞くこと」 例:「社会への提案をまとめる」中学校第3学年	「書くこと」 例:「意見文を書く」中学校第2学年	「読むこと」 例:「じどう車くらべ」小学校第1学年
課題把握	<b>1 学習課題を提示する。</b> ・「自分の住んでいる地域をよくするために、市長さんに提案しよう。」 <b>2 学習計画を知り、学習の見通しをもつ。</b>	<b>1 学習課題を提示する。</b> ・「自慢できる学校にするために、まわりの友達に提案しよう。」 <b>2 学習計画を知り、学習の見通しをもつ。</b>	<b>1 学習課題を提示する。</b> ・『「じどう車くらべ」を参考に、『じぶんのじどう車ずかん』を作って紹介しよう。』 <b>2 学習計画を知り、学習の見通しをもつ。</b>
課題追究	<b>3 必要な情報を取材する。</b> ・情報を集め、個人で課題を見付ける。 ・課題を整理して、グループのテーマを決定する。 <b>4 話の構成を考える。</b> ・提案の根拠を整理し、具体案を作成する。 <b>5 話し方を工夫する。</b> ・資料の使い方、役割分担などを検討し、発表の仕方を工夫する。 <b>6 プレ発表を行い、発表を修正する。</b> ・他のグループからのアドバイスを基に、根拠や発表の仕方を修正する。 <b>7 交流する。</b> ・各グループの発表を行い、質疑応答する。	<b>3 必要な情報を取材する。</b> ・自分の提案を明確にする。 ・提案を支える根拠となる事実を考える。 <b>4 文章の構成を考える。</b> ・提案と根拠を構想メモにまとめる。 ・グループで互いの根拠を読み合い、より適切な根拠になるよう修正する。 <b>5 文章を書く。</b> ・修正した根拠を基に、意見文を書く。 <b>6 推敲する。</b> ・書いた文書を読み、言葉の使い方などを修正する。 <b>7 交流する。</b> ・文章を読み、内容や書き方について意見交流する。	<b>3 文章を通読し、大まかに内容をつかむ。</b> ・文章全体を読み、三つの車について書いてあることをつかむ。 <b>4 目的に応じて文章を読む。</b> ・三つの車についてどんなことが書かれているか比較しながら読む。 ・比較したことをペアで説明し合う。 ・車の本を並行読書する。 <b>5 文章全体を振り返り、自分の考えをまとめる。</b> ・並行読書した本の中から紹介したい車を選び、どんな仕事をしているかまとめる。 <b>6 交流する。</b> ・作成した自動車図鑑を読み、感想を述べ合う。
まとめ	<b>8 単元を振り返る。</b> ・根拠の選択や発表の仕方などについて文章でまとめる。	<b>8 単元を振り返る。</b> ・自分の意見と根拠の関係などについて文章でまとめる。	<b>7 単元を振り返る。</b> ・書かれていることの順序などについて文章でまとめる。



## 1 単位時間の授業のつくり方

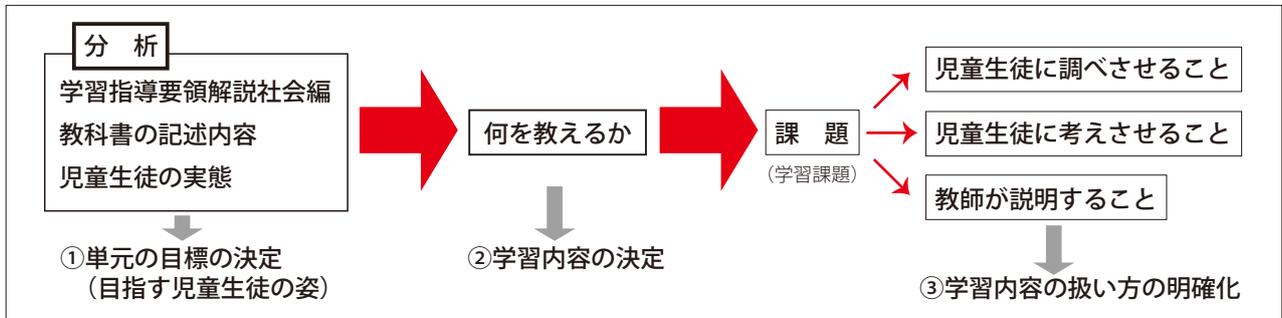
社会科の1単位時間は、1単位時間で課題解決が完了する場合や数時間扱いの追究活動のうちの1単位時間の場合など様々ですが、基本的なつくり方は、以下のとおりです。

基本的な流れ	指導のポイント
<p><b>1 本時の課題を把握する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を振り返る。</li> <li>・資料から気付いたことや疑問に思ったことを発表する。</li> <li>・課題を把握し、課題の答えを予想する。</li> </ul> <p>※課題が前時から継続している場合は、その確認をして2に移行する。</p>	<p>○資料をもとに本時の課題をつかませましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の提示を工夫し、気付きや課題意識をより多く引き出す。</li> <li>・提示する資料としては、グラフの他に、写真や実物なども有効。</li> <li>・児童生徒の気付きや課題意識を基に、課題を設定する。</li> <li>・課題について予想を立てる場合は、個々の予想を全体で吟味・検討して、追究する仮説として練り上げるようにする。</li> </ul> <p>☆折れ線グラフの右側を隠して、その後の変化を予想させながら徐々に提示したり、着目させたい事柄のグラフは、後で提示したりするなどの工夫をしましょう。</p>
<p><b>2 課題を追究する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提示資料から情報を取り出し、課題について事実を具体的に調べたり、予想（仮説）が正しいかどうかを確かめたりする。</li> <li>・資料からとらえた事実を比較・関連付けて、課題の答えや、予想（仮説）の正しさについて考える。</li> <li>・考えたことが、課題の答えとして適切か、予想（仮説）の正しさを示す根拠となっているか等を話し合う。</li> <li>・不足している情報（事実）を収集し直す。</li> </ul> 	<p>○資料提示を意図的に行いましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料は、児童生徒が主体的に課題を追究し、ねらいに迫れるように意図的に加工した資料を準備する。</li> <li>・資料提示の仕方、順番などもねらいに迫れるよう意図的に行う。</li> <li>・資料の与え過ぎは、児童生徒に負担感を与えるだけでなく、追究の視点が焦点化されにくくなるので、ねらいに即して精選する。</li> </ul> <p>◇問い（発問）により、考えさせる時間を多く設定しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べた事実を関連付けさせるために、「何か」「なぜ」「どちらが」「どうなるか」といった問いを多く用い、多様な考えを引き出す。</li> </ul> <p>◇考えたことを広げ、深める場を設定しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えの根拠（事実）を確認させる。</li> <li>・考えやその根拠の妥当性について、グループや全体で話し合わせる。</li> <li>・課題に対して児童生徒が発表した考えを単に受容するだけでなく、新たな視点を示すなどして、多面的・多角的に考えるよう促す。</li> <li>・児童生徒の考えやその根拠、解釈について、板書で整理する。</li> </ul> <p>☆新聞等の文書を資料として提示する場合は、着目させたい部分にアンダーラインを引く、読みづらい漢字にはふりがなをふるなどの加工をしましょう。</p> <p>☆教科書の見開き2ページに掲載されている資料をそのまま見せるのではなく、提示方法や提示の順序等を工夫することから始めましょう。</p> <p>☆調べて終わりではなく、調べた事実に基づいて考えさせることが重要です。</p> <p>☆「事実」と「考え」を区別して、交流させることが大切です。</p> <p>☆社会科の授業は教師の問いによって児童生徒の既存の見方や考え方を揺さぶり、視野を広げさせていくことが大変重要です。</p>
<p><b>3 本時のまとめをする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題や予想（仮説）に対する自分の考えまとめ、根拠や解釈を示しながら発表する。</li> </ul>	<p>○課題に対して考えたことを自分の言葉や図で表現させましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・板書で本時の学習内容を振り返らせる。</li> <li>・課題や予想（仮説）について考えたことを自分の言葉や図等で表現させる。</li> <li>・課題の追究が次時も継続する場合は、次時への見通しをもたせる。</li> </ul> <p>☆自分の言葉でまとめる活動の積み重ねが、知識の定着や社会的な見方や考え方を養うことに結び付きます。</p>

## 1 単元（題材）のつくり方

### 1 学習内容の扱い方の明確化

単元を構想するときには、下図の①、②、③の順を踏まえた上で、特に「調べさせること」「考えさせること」の内容を明確に区別して、つかんでおくことが大切です。



### 2 問題解決的な学習過程

学習内容を明確にとらえたら、それらを「いかに教えるか」といった学習方法を考え、単元の指導計画を立てます。単元の進め方としては、以下の問題解決的な学習過程が基本となります。

① つかむ (○時間扱い) → ② 追究する (○時間扱い) → ③ 考え・まとめる (○時間扱い)

- ① つかむ段階では、課題と追究の見通しを全員の児童生徒につかませることが大切です。
- ② 追究する段階では、課題に即して、資料を基に考える活動を充実させることが大切です。
- ③ 考え・まとめる段階では、調べたことや考えたことを比較・関連付け・総合するなどして再構成し、より広い視野から社会的事象の特色や意味をとらえさせることが大切です。

過程	基本的な流れ・指導のポイント	指導例：題材「アフリカ州」 (地理的分野 全6時間)
つかむ	<b>1 課題を把握する。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査活動や資料から事実をつかませる。</li> </ul> <p>☆教師が予め設定した課題を、児童生徒が自ら見いだせるように展開を工夫しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1つの資料を多面的に読み取らせたり、2つの資料を比較させたりして揺さぶり、「どうして?」といった疑問や課題意識を醸成し課題を設定する。</li> </ul> <p>☆学習内容をすべて見せたり、細かい説明をしりせず、資料からは見えない部分を想像させる投げかけを多くしましょう。</p> <p><b>設定される課題の型</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「どのように・どのような」型: 事実を調べさせる課題</li> <li>②「なぜ・どうして」型: 社会的事象の意味に気付かせる課題</li> <li>③「どうすれば・どちら」型: 自分の考えを深める課題</li> </ol>	<b>1 課題を把握する。</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)アフリカの自然、産業を概観させる。</li> <li>(2)日本の輸出品とアルジェリア、ガーナ、ケニア、ボツワナの輸出品を比較させる。</li> </ol> <p>課題：第一次産品にたよるアフリカ州の国々は、どのような課題を抱えているのか。</p> <p>※「どのような」型の課題は、調べさせる課題なので、予想(仮説)を立てないことが多い。</p>
	<b>2 追究計画を立案する。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>設定した課題の答えを予想させる。</li> <li>予想を板書で分類・整理し、調べる内容を明確にする。</li> <li>必要に応じて、予想が正しいかどうかを教科書で簡単に調べさせ、予想をより確かな仮説に練り上げ、明らかに間違った予想は、この時点で修正していく。</li> <li>課題の答えや仮説の正しさを明らかにするための調べ方を全体で確認するなど、全員に追究の見通しをもたせる。</li> </ul>	<b>2 追究計画を立案する。</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)課題の答えを予想させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・収入が不安定なので、国民の生活が安定しない。</li> <li>・国々の紛争が絶えない。等</li> </ul> </li> <li>(2)調べる内容を考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図帳からGNIを調べる。</li> <li>・新聞やインターネットで民族間紛争の現状を調べる。等</li> </ul> </li> </ol> <p>(1時間)</p>

追究する

3 課題を追究する。

- ・教師が予め準備した資料を意図的に提示したり、選択させたりする。
- ・資料から課題追究に必要な情報を収集させる。
- ・課題に即して資料から収集した情報（事実）を比較・関連付けて考えさせる。  
※調べることで自分が目的にならないよう、調べた事実のみ記録させるのではなく、課題に即して事実から考えたことも記入できるよう、ワークシート等を工夫する。
- ※学期に1単元程度は、資料収集を自力で行わせる場を設定し、資料活用の技能を高める。
- ※課題は単元に1つではなく、課題Ⅰ→課題Ⅱ（課題Ⅰの追究結果からの疑問）といった単元を構想する。

☆活動の途中で調べ方やまとめ方の例を紹介する場を設けたり、ワークシートを回収して個の学びを把握したりして、児童生徒の追究活動をねらいに近付けるための指導を工夫しましょう。

- ・収集した資料に関わる情報交換や、資料から課題に即して考えたことをグループなどで交流する場を、適宜、設定する。
- ・交流では、設定した仮説と追究内容を比較・関連付けるなどして、仮説の正しさを確認させたり、仮説を修正させたりする。

3 教師の提示資料を基に、課題に対する情報を収集する。

- (1) 資料から情報を収集させる。
    - ・カカオやコーヒー、石油等、農産物や鉱産物など第一次産品の輸出総額に占める割合が高い。
    - ・一人当たりのGNIは、ヨーロッパに比べ、低い。
  - (2) 比較・関連付けて考えさせる。
    - ・第一次産品にたよった経済であり、貿易額も少ない。
    - ・一人あたりのGNIが500ドル未満の国が多い一方、資源が豊富な国のGNIは高い。
  - (3) 仮説の正しさを考えさせる。
    - ・モノカルチャー経済下では、天候や景気により品物の価格が変動し、収入が不安定になるので、国民の大部分が貧しさから脱却できない。
- (3時間)

考え・まとめる

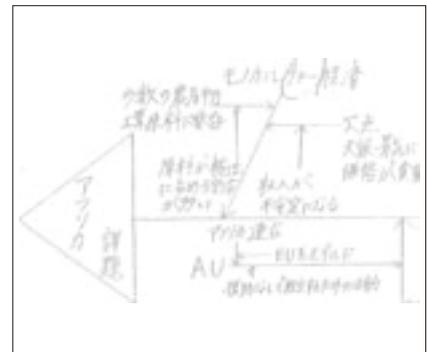
4 追究結果を再構成、交流する。

- ・追究において調べたことや考えたことを整理させる。  
※得た情報をイメージマップやフィッシュボーンなど図で整理させると、事象を比較・関連付けて多面的・多角的に考えたり、それらを総合させたりすることができる。
- ・整理したことを基に、グループや全体で話し合わせる。  
※話し合わせる際は、調べたことや考えたことが、「予想（仮説）」の正しさを証明する確かな「根拠（事実）」や「解釈」となっているかどうかを検討させる。
- ・グループでの話し合いの後には、結果を全体で共有させる。

☆発表内容を板書で整理しながら、より広い視野からの考察、判断となるよう、話し合いをコーディネートしましょう。

4 追究結果を図に整理・構造化して、交流する。

<フィッシュボーン図の一部>



5 単元（題材）を振り返り、学習のまとめをする。

- ・単元の学習を振り返らせ、課題に対する答え、予想（仮説）の正しさを確認させる。
- ・課題に対して考えたことや、その変容等を自分の言葉等でまとめさせる。
- ・単元によっては、追究により見いだした今後の課題や、その解決策等も考察させ、まとめさせる。

☆単に単元の学習の「感想」のみを書かせるのではなく、単元を貫く課題に対して分かったことを、根拠や解釈を含めて自分の言葉や図、表でまとめさせましょう。ここが最終的な価値判断の姿です。



5 自分の考えをまとめる。

<まとめの例>

僕は、アフリカ州の国々の課題は、経済の発展が進まず、国民生活が貧しいことであると考えている。なぜなら、モノカルチャー経済は天候に左右され収入が不安定で国民一人あたりのGNIが低いからである。しかし、先進国の援助を受け医療が行き渡るようになるなど、少しずつ豊かな国づくりに向けて歩み始めている。今後は、日本などの先進国がこれらの国々に対して一層の経済協力を進める必要があると考える。

(2時間)

## 授業充実のためのコツやアイデア

### 資料活用の技能を育てるためには

#### 1 情報収集への見通しをもたせる

自力での情報収集活動に入る前に、「何をどのようにして調べればよいか」といった問いを投げかけ、情報収集への見通しをもたせることが大切です。その際は、「何を明らかにするために調べるのか」といった追究の目的も明確にもたせましょう。

#### 2 基本的には、教師が選択した資料を活用させる

授業では、教師が予めねらいに即して収集・選択した資料を活用させることを基本としましょう。そして、徐々に自力で資料を収集・選択させる活動を取り入れるなど段階を踏んでいきます。まずは、学期に1回は資料を自力で収集・選択させる活動を取り入れることを目標に、徐々にその回数を増やしていきましょう。

#### 3 新出のグラフや主題図等の読み取り方について全体で指導する

資料の読み取り方については、全体場で指導することが大切です。特に、新出の図やグラフを扱うときは、丁寧に指導しましょう。例えば、小学校5年生では「折れ線グラフ」を多く扱いますが、最初に扱うときには、変化の見方や変化の比較の仕方などの読み取り方を、具体的に指導しましょう。

また、雨温図などの、たて軸に2つの情報が含まれる複雑なグラフも扱いますので、算数の指導との関連を図り、より丁寧に指導を心がけることが大切です。さらに、資料が作成された年や出典を確認する指導も大切にしましょう。

#### 4 読み取った事実からその理由や背景を考えさせる

資料を読み取るだけでなく、読み取った事実からその理由や背景を予想したり、特色を見いだしたりすることが資料活用の技能として重要です。

そのためには、事実の理由や背景を、他のグラフや写真、文書等から読み取らせ、読み取った情報を関連付けて考えさせる指導や、「事実」と「考え」とを区別して発表する指導が大切です。

#### 5 収集した情報を吟味・検討させる

収集した情報は、KJ法などを用いて分類させたり、課題との整合性を考えさせたりして、吟味・検討させることが大切です。このことは、情報をまとめ、再構成するといった資料活用の技能を身に付けることに結び付きます。はじめは収集した情報を全体で分類・整理するところからスタートし、徐々に自力で分類・整理させるといった段階を踏んだ指導が重要です。

#### 6 習得した技能を活用する場を設定する

習得させた技能を、次の単元、また次の単元と、折に触れて繰り返し指導することが重要です。例えば、A地域の学習の終わりに、「B地域でも同じ事象が見られるか」などの視点を与えて、他の場所を同じ調べ方で調べさせる場を意図的に設定するのも効果的です。

例) 課題：庄内平野の米づくりでは、どのような工夫を行っているのか。

T：何を調べれば米づくりの工夫がわかりますか。

S：「米づくりの1年の流れ」だと思います。

T：何で調べますか。調べる方法は何ですか。

S：教科書や山形県のHPで調べます。

(気温と降水量のグラフの指導例)

T：たて軸は、何を示していますか。

S：気温を示しています。

T：気温だけですか。

S：右のたて軸は降水量を示しています。

T：折れ線グラフ、棒グラフは気温、降水量のどちらの変化を示していますか。

例) 単元：水産業のさかんな地域

① グラフ「漁獲量の変化」から課題「なぜ、漁獲量は減ってきているのか」を設定する。

② その理由や背景について、次の資料から情報を読み取り、考える。

・ 魚介類の輸入量の増加のグラフ

・ 水産業の働き手の減少の表

・ 200海里水域の制限を示す地図

※ これらから収集した情報を関連付け考察する。

例) 単元：「庄内平野の米づくり」

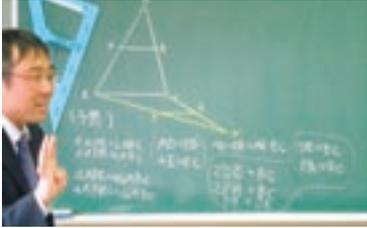
T：庄内平野では、広い土地や豊富な雪解け水の利用、大規模な耕地整理、品種改良などによって、おいしい米を大量につくる工夫をしていましたね。では、群馬県の米づくりにも同じことが当てはまるでしょうか。調べてみましょう。

## 1 単位時間の授業の作り方

算数・数学科においては、身に付けた知識や技能、考え方を活用して新たな性質や考え方等を発見したり、具体的な課題を解決したりすることができるよう、次の点に留意しながら、問題解決的な学習を行っていくようにしましょう。

○算数的活動、数学的活動を通して学習を進めるようにする。

○学習のねらいや児童生徒の実態等に応じて、どの過程に時間をかけるか考え、重点化を図って授業を構想する。

基本的な流れ	指導のポイント
<p><b>1 学習課題を把握する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項の復習、確認をする。</li> <li>本時の学習課題を把握する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>結果を予想する。</li> <li>解決の見通しをもつ。</li> </ul>	<p>○<b>本時の学習課題と学習する価値をはっきりさせましょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの学習を振り返ったり、問題場面を本時の学習課題に結び付くように工夫して提示したりする。</li> <li>問題場面から、課題になる部分を話し合わせ、学習課題を明確にする。</li> <li>前時までの学習と本時の学習課題を比較させ、異なる点を明らかにする。この異なる点が、本時の学習する価値となる。</li> </ul> <p>☆ <b>学習する価値を明確にできると、本時の学習する目的をきちんともたせることができます。</b></p> <p>○<b>結果や方法の見通しを十分にもたせましょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>結果を予想させると、追究のこだわりをもたせることができる。</li> <li>個別追究に入る前に、今までの学習と似ているところや、解決するために使えそうな既習事項を全体で考えさせ、解決の見通しを十分にもたせるようにする。</li> </ul> <p>☆ <b>見通しを十分もたせてから個別追究させましょう。</b></p>
<p><b>2 個別に課題を追究する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見通しを基に、課題を追究する。</li> <li>結果や追求方法を数学的表現を用いて表す。</li> </ul> <p>☆ <b>何をどのように表現させるか教師が明確にしておくことが大切です！</b></p>	<p>○<b>一人一人が自分なりの考えをもてるように支援し、表現させましょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒が、見通しを基に活動を通して、自ら課題を追究できるようにする。</li> <li>児童生徒の考える方法やつまづく場面、つまずき方などを予想し、それぞれに応じた支援を準備しておく。(具体物、支援カード、言葉かけ等)</li> <li>自分の考えを、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて表現させる。</li> </ul> 
<p><b>3 考えを発表し、全体で比較・検討する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考えを発表し、共有する。</li> <li>考えのよさを見付ける。</li> <li>考えを比較・検討する。</li> </ul> <p>☆ <b>他の児童生徒の考えを読み取らせ、説明させましょう。</b></p>	<p>○<b>「本時のねらい」に結び付く発表や比較・検討をさせましょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを言葉や式、図などを用いて発表させる。</li> <li>考えた本人に説明させるだけでなく、他の児童生徒に図や式などを基に考えを読み取らせたり、説明させたりする。</li> <li>考えのよさを、「簡潔さ」「明瞭さ」「正確さ」などの観点で見付けさせる。</li> <li>適切な視点で比較・検討させ、ねらいに結び付く話し合いにする。</li> <li>どのような考え方を使って課題解決したかを明らかにする。</li> </ul> 
<p><b>4 学習のまとめをする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習を振り返る。</li> <li>活用問題に取り組む。</li> </ul> <p>☆ <b>活用問題は、本時の学習の評価になります。</b></p>	<p>○<b>学習を振り返らせ、わかったことや気付いたこと、大切な考え方などを書かせましょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思考過程や本時の学習を振り返らせ、本時のねらいに結び付くまとめや、大切な考え方に触れたまとめをする。</li> <li>関連した問題に取り組ませて、学習したことを活用できるようにする。</li> </ul> <p>☆ <b>どのようなことを気付かせたいか教師が明確にしておくことが大切です！</b></p>

指導例：『四角形と三角形の面積』（小学校第5学年第4時）

1 学習課題を把握する。 (10分)

＜既習事項の復習・確認＞

- ・平行四辺形の面積の求め方を振り返り、三角形ABCを提示する。

＜本時の学習課題＞

三角形ABCの面積の求め方を考え、説明しよう。

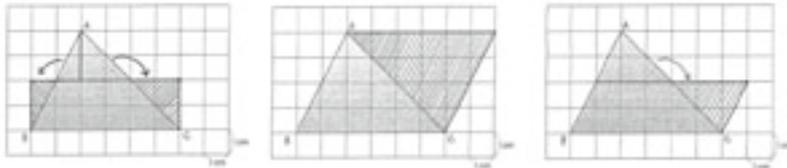
＜見通し＞

- T：三角形の面積はどのようにして求められるだろう？
- T：平行四辺形は、どのようにして面積の求め方を考えた？
- S：端を切ったり、真ん中で切ったりして動かして長方形にした。
- S：三角形も、形を変えられれば面積が求められるかもしれない。

2 個別に課題を追究する。 (15分)

＜一人一人の学習状況に応じた支援＞

- ・①三角形だけのプリント、②方眼にかかれた三角形のプリント、③切り取られた三角形を、それぞれ児童の学習状況に応じて配付し、一人一人が面積の求め方を考えられるようにする。



- ・必要に応じて、図形の一部を移動したり付け足したりして、既習の形に変えてみるように助言する。

3 考えを発表し、全体で比較・検討する。 (15分)

＜考えの発表・説明＞

- ・意図的に指名し、多様な解決方法を発表させる。その際、発表した本人の説明だけに終わるのではなく、何人かの児童に繰り返し説明させたり、他の児童のかいた図を別の児童に説明させたりする。

＜比較・検討＞

- ・発表された面積の求め方を、似ている点に目を向けて幾つかの方法に類型化させ、共通した考え方を視点に話し合わせる。
- T：発表された6種類の方法を、仲間分けしてみよう。
- S：長方形に変形した方法と平行四辺形に変形した方法がある。
- S：そのままの大きさで形を変えた方法と、付け足して倍の大きさにして考えた方法の2種類がある。
- T：どの方法にも共通した考え方はどんなことかな？  
(共通した考え方を見付けさせる問いかけ)
- S：どれも、長方形や平行四辺形に形を変えている。
- T：なぜ、長方形や平行四辺形にしたの？
- S：面積の求め方がわかっている形にすれば、求められるから。
- ・話し合われたことを基に大切な考え方をまとめ、ねらいに結び付ける。

4 学習のまとめをする。 (5分)

＜まとめ＞

三角形の面積も、長方形や平行四辺形に形を変えると求めることができる。

- ・まとめは、まず児童に考えさせてから全体でまとめる。

☆見通しを十分にもたせて！

- ・前時までに学習した平行四辺形の面積の求め方を確認したり、三角形を操作させたりして、三角形の面積の求め方の見通しを十分にもたせる。



既習の学習を掲示物に！

☆考えられない児童に対して

- ・必要に応じて、既習の平行四辺形の面積の求め方を振り返らせたり、その児童に合った支援カードを与えたりして、追究が進められるようにする。

☆活発に説明し伝え合う工夫例

- ・同じ方法でも、別の児童に再度説明させる。
- ・他の児童が考えた図や式を基に、別の児童にその方法を考えさせ説明させる。
- ・隣同士で、自分の考えを説明させる。

☆うまくいく比較・検討！

- ・児童に気付かせたいことを、教師が明確にもつ。
- ・児童に気付かせるために適切な比較・検討の視点を考える。
- ・主な比較・検討の視点としては、「より簡潔な方法」や「共通した考え方」などがある。
- ・本指導例では、「共通した考え方」で比較・検討した。



適切な視点で、比較・検討！

## 1 単元のつくり方

算数・数学科は、基本的に1単位時間ごとに問題解決的な学習を繰り返し行う中で、単元の指導を進めていきます。単元の「導入」、「解決」、「終末」では、特に次のことを意識して授業を仕組みましょう。

過程	基本的な流れ・指導のポイント
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>本単元の学習に興味・関心をもてるようにしたり、本単元でどのような学習をするのか見通せるようにしたりする学習活動を設定する。</li> </ul>
解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算の仕方や図形の性質など新たなきまりや性質などにかかわる課題を追究させた後、その習熟を図ったり、そのことを活用して新たな課題に取り組みせたりする一連の学習活動を、内容のまとまりごとに計画的に設定する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">新たなきまりや性質などの追究 → 習熟、活用 → → 新たなきまりや性質などの追究 → 習熟、活用 →</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習のつながりを児童生徒が意識できるように、関連する教材・教具を計画的に活用したり、つながりのある課題を設定したりする。</li> <li>観察や実験など体験的な学習を積極的に取り入れ、豊かな感覚を身に付けたり、実感を伴った理解を図ったりできるようにする。</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習内容を確実に習得できるように、練習問題に取り組みせたり、補充的な学習や発展的な学習に取り組みせたりする。</li> </ul>



## 授業充実のためのコツやアイデア

### 1 算数的活動、数学的活動を充実させるために

発達段階や学習内容、児童生徒の実態に応じながら、次のような活動を工夫して取り入れていきましょう。

主な算数的活動、数学的活動	活動例
<ul style="list-style-type: none"> <li>○算数・数学の意味を実感する活動</li> <li>○数量や図形の性質などを見いだす活動</li> <li>○算数・数学を利用する活動</li> <li>○数学的に説明し、伝え合う活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形をかいたり作ったりする活動</li> <li>・九九表からきまりを見付ける活動</li> <li>・比例の関係をういて問題を解決する活動</li> <li>・その作図方法で作図ができる理由を説明する活動</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>

算数的活動、数学的活動を考える際には、次のことに心がけて、活動を仕組みましょう。

☆ポイント1：児童生徒が目的意識をもって主体的に取り組めるようにする

- ・解決すべき課題を明確にし、解決の見通しを十分もたせる。
- ・作業的・体験的な活動や思考活動を十分行わせる。

☆ポイント2：教師が活動のねらいを明確にして活動を仕組む

- ・「なぜこの活動を行うのか」「どのような力を身に付けさせるために、行うのか」を常に意識し、活動のねらいを明確にする。このことで、より効果的な活動の内容や方法を考えることができ、活動の評価を的確に行うことができる。



### 2 筋道を立てて考えたり、説明し合ったりする活動を充実させるために

思考過程を重視し、根拠を明らかにさせながら数学的な表現を適切に用いて考えさせたり、考えた事をわかりやすく表現させたりすることが大切です。

そのために、児童生徒に何をどのように考えさせ表現させるか、教師が具体的な姿を常にもつとともに、次のことに心がけて、活動を充実させましょう。

- 課題を追究させる際に、既習事項と関連させながら筋道を立てて追究させる。  
「前に習ったことが何か使えそうかな?」「似たような計算(図形)があったかな?」
- 結果が得られた際に、追究した方法や根拠等を常に問いかけ、思考過程を振り返らせるようにする。  
「ここはどのように考えた?」「なぜそうにしたの?」「本当にそうなるの?」
- 追究した方法や結果、その根拠や方法のよさ等を、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて表現させたり、他の児童生徒の考えを読み取らせたりする。  
「○○さんはこの図で考えたけれど、どのように考えたか説明できますか?」
- 隣同士のペアや小グループの中で説明する活動など、自分の考えや根拠等を説明し合う場を意図的に設け、自分の考えを相手にわかりやすく説明する機会を数多くもつようにする。  
「まず隣の人に説明して、わからないところはどこか尋ねてみましょう!」

### 3 比較・検討（深める活動）を上手に行うために

それぞれの追究した方法や考え等を比較・検討し、よりよい考えを見付けさせ、ねらいに結び付くように活動を仕組むことが大切です。そのために、次のことに心がけて、比較・検討を行っていきましょう。

○児童生徒の追究した方法や考え等の特徴をとらえる。

方法や考え等は、  
多様なかどうか？

多様な場合

・それぞれの方法や考え等を類型化できるかどうか。  
・数理的な処理のよさで序列化できるかどうか。等

○方法や考え等の特徴を基に、どのように比較・検討するとねらいに結び付けることができるか考え、適切な視点で比較・検討させる。

#### 【比較・検討の視点とその仕方の例】

・方法のよさを視点にそれぞれのよさを検討する。

「この方法のよさは？」

・簡潔性、明瞭性、正確性等を視点によりよい方法を検討する。

「一番簡単な方法はどれ？なぜ、そう思う？」

・共通点や相違点を視点に比較・検討し、方法を類型化したり一般化した考えを導き出したりする。

「なぜそのような方法でしたの？」「共通した考え方は？」

・つまずいた点や改善点、発展的に考えた場合等を視点に思考過程を振り返り、検討する。

「どこまでわかった？」「どのようにするとよい？」「他の場合ではどうなる？」

等



### 4 効果を上げる少人数指導、TTによる指導とするために

少人数指導やTTによる指導を積極的に取り入れ、一人一人の学習の状況に応じて、きめ細かな指導を行っていくことが大切です。そのために、次のことに心がけて、少人数指導やTT指導を行っていきましょう。

○学習のねらいや学習内容、児童生徒の習得の状況等に応じて、少人数指導やTTによる指導を単元の中に計画的に位置付ける。

【指導例】単元の導入・前半〔TT〕→単元の後半・終末〔習熟の程度に応じた少人数〕

○習熟の程度に応じた少人数指導を行う際には、学習内容の理解や知識・技能の習得の状況等に応じて、活動内容や方法、支援方法等を工夫する。少人数であることを生かして、体験したり表現したりする機会を増やし、一人一人の活動の質や量を充実させるようにする。

【指導例】Aコース：・具体物を用いて、実際に全員が操作しながら追究できるようにする。

・操作活動を基に、実感を伴った理解を図れるようにする。

Bコース：・具体物は用いず、図等を基に考え、複数の方法で追究できるようにする。

・多様な方法を比較させるとともに、分かったことを他の場面で活用させる。

○TTによる指導を行う際には、それぞれの教師の役割を明確にして、机間指導や個別指導を分担して行ったり、一斉指導の後に発展的な学習や補充的な学習を取り入れ、課題別に分かれて指導したりする。

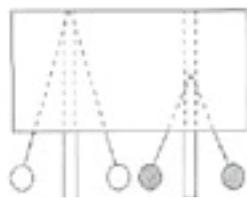
#### 【指導例】

	T 1	T 2
指導の流れ ↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題場を説明</li> <li>課題を提示</li> <li>見通しをもたせるために既習事項を確認</li> <li>支援が必要な児童生徒への対応</li> <li>個別追究における支援（机間指導）</li> <li>個別追究における情報交換（→T 2へ）</li> <li>集団追究における児童生徒への問いかけや揺さぶり、学習のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題場を提示</li> <li>課題を板書</li> <li>見通しをもたかどうかの確認（机間指導）</li> <li>個別追究における支援（机間指導）</li> <li>個別追究における情報交換（→T 1へ）</li> <li>集団追究における児童生徒の発言を板書</li> <li>まとめを板書</li> </ul>



## 1 単位時間の授業のつくり方

1 単位時間の授業は、以下のような観察・実験を中心とした「問題解決の過程」が基本となります。

基本的な流れ・指導のポイント	指導例「振り子の運動」(小学校第5学年)												
<p><b>1 自然事象へ働きかけ「問題」意識をもつ。</b></p> <p>◇児童生徒の主体的な問題解決になるよう、児童生徒の気付きや疑問から問題をつくりましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「問題」を引き出すのに適した違いが明確な複数の事象(写真、実物、現象、過去の経験等)を提示する。</li> <li>・事象同士を比較させ、共通点・差異点を整理させる。</li> <li>・共通点から自然の決まりを見いだすための問題をつくらせたり、差異点から現象の原因を考えさせたりする。</li> </ul> <p>※このような流れの中で、児童生徒が「問題」を見いだしたときには、それを「問題」として設定する。児童生徒が問題を意識する方向に向かっていれば、児童生徒の言葉を取り上げながら教師が言葉を補い「問題」をつくってもよい。</p>	<p><b>○振り子の振れる様子を見て問題意識をもつ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周期の違う2つのふりこ(右図)を提示して共通点と差異点を整理させる。</li> </ul>  <p>&lt;共通点&gt; 「反対側の同じ高さまで行って、落ちます。」 「左右同じ『振れ幅』で揺れています。」</p> <p>&lt;差異点&gt; 「始めは、一緒に振れているけど、だんだんずれてきたぞ。1 往復するのにかかる時間が違うのかな。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>問題：振り子が1 往復する時間は、何によって変わるのだろうか</p> </div>												
<p><b>2 「問題」に対する予想をする。</b></p> <p>◇根拠のある予想をさせましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「問題」に対する予想をさせる時には、「電流」や「地層」など科学的な言葉やモデル等を用いて表現させるとともに、既習内容や生活経験などを根拠に予想させ、その「理由」を明確にさせる。</li> </ul> <p>※小学校5年生以上では、「予想」と「理由」だけでなく、観察・実験の計画づくりや見通しがもてるようするために、「～(観察・実験)をすれば、～(結果)になるだろう。」というような観察・実験の方法と予想をセットで考えさせる。</p> <p>※根拠がもてないときには、既習内容や経験を想起させる写真や現象を示し、ヒントとする。</p>	<p><b>○振り子が1 往復する時間は、何によって変わるのか予想をもつ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生で身に付けた「関係付ける力」を発揮させ、予想を立てさせる。</li> </ul> <p><b>予想1</b> 「1 往復する時間は、振り子の長さによって変わると思います。わけは、長いブランコは1 往復の時間が長いような気がするからです。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験が想起できるよう写真(右)等から考えさせる。</li> </ul> <p><b>予想2</b>「おもりの重さが関係していると思います。わけは…」</p> <p><b>予想3</b>「振れ幅が関係していると思います。わけは…」</p> 												
<p><b>3 観察・実験の計画を立てる。</b></p> <p>◇変化の要因を考えさせ、条件を制御した観察・実験計画を立てさせましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予想を基に、何を調べる観察・実験なのかを明確にする。</li> <li>・観察・実験の手順や器具を文や図でかかせる。その際にそろえる条件と調べる条件に着目させる。</li> <li>・原因と結果の関係について「～が原因だとすると～な実験によって、～な結果が得られるはずだ。」のような見通しをもたせる。</li> </ul>	<p><b>○条件を整理しながら実験の計画を立てる。</b></p> <p>1 往復する時間と・・・</p> <p><b>実験1</b>「振り子の長さ」の関係は？ <b>実験2</b>「おもりの重さ」の関係は？ <b>実験3</b>「振れ幅」の関係は？</p> <table border="1" data-bbox="869 1848 1428 2049"> <thead> <tr> <th></th> <th>調べる条件</th> <th>そろえる条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>振り子の長さ 30cm 40cm 50cm</td> <td>振れ幅・おもりの重さ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>おもりの重さ 50g 75g 100g</td> <td>振り子の長さ・振れ幅</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>振れ幅 15° 30°</td> <td>振り子の長さ・おもりの重さ</td> </tr> </tbody> </table>		調べる条件	そろえる条件	1	振り子の長さ 30cm 40cm 50cm	振れ幅・おもりの重さ	2	おもりの重さ 50g 75g 100g	振り子の長さ・振れ幅	3	振れ幅 15° 30°	振り子の長さ・おもりの重さ
	調べる条件	そろえる条件											
1	振り子の長さ 30cm 40cm 50cm	振れ幅・おもりの重さ											
2	おもりの重さ 50g 75g 100g	振り子の長さ・振れ幅											
3	振れ幅 15° 30°	振り子の長さ・おもりの重さ											

4 観察・実験を行い、結果を整理する。

◇身に付けるべき観察・実験の技能を明らかにしましょう。

一観察・実験前一

- ・机の上を片付けさせる。
- ・班で協力して観察・実験の道具を準備させる。
- ・安全上の注意点を確認する。
- ・観察・実験の手順を確認するときには、実験中も手順がわかるように板書したり掲示したりする。
- ・観察・実験器具の操作方法や操作手順は、合理的な理由と共に確認する。

一観察・実験中一

- ・活動中は、各班を巡り、机間指導を行う。

※机間指導を行う時の視点

- ・安全に観察・実験が行えているか。
- ・観察・実験の正しい技能を身に付けているか。
- ・正確な観察・実験が行えているか。
- ・全員が観察・実験に参加しているか。
- ・わかりやすく記録をしているか。

一観察・実験後一

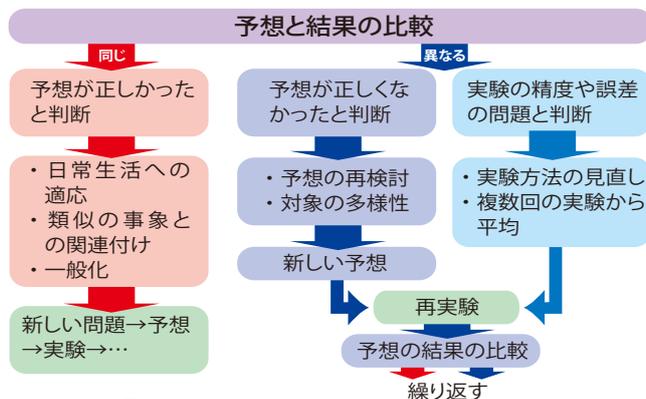
- ・班で協力して道具を片付けさせる。
- ・結果を表やグラフなどに整理させる。

5 結果をもとに考察を行い、結論を導く。

◇予想と結果を比較しながら考察させ、結論を導くことができるようにしましょう。

- ・「結果→考察のフローチャート」や「考察の視点」を参考に考察を書かせる。

<結果→考察のフローチャート>



<考察の視点>

【観察・実験結果が予想通りになったとき】

- ・実験結果から日常生活を振り返ってみる
- ・似たような事からとの関係を考えてみる
- ・実験結果から学んだことを、他のことでも確かめてみる

【観察・実験結果が予想と違ったとき】

- ・結論がすべての事象に適用できるか考える
- ・予想をあらためて検討してみる
- ・実験結果の誤差や違いの原因を考える
- ・実験方法を見直してみる

○実験計画にしたがって実験を行い記録し整理する。

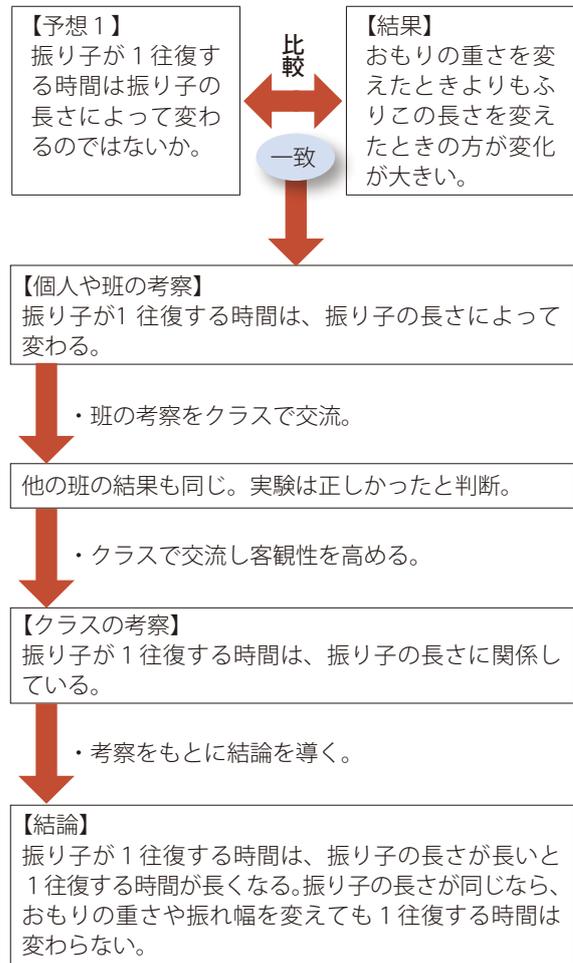
- ・振り子を操作する、ストップウォッチで時間を測定する、結果を記録するなど役割分担を明確にして、協力して実験を行わせる。
- ・振り子が一直線に振れているか、時間を正確に計測できているかなどチェックさせる。

実験結果の記録例

班	おもりの重さ			班	振り子の長さ		
	軽い	重い			短い	長い	
	50g	75g	100g		30cm	40cm	50cm
A	1.4	1.4	1.5	A	1.0	1.4	1.7
B	0.8	0.9	0.9	B	0.9	1.3	1.6
C	1.0	1.1	1.1	C	1.1	1.5	1.9

- ・実験結果の誤差を少なくするための方法の1つとして平均の考え方があることを知らせ、それぞれの平均を求めさせる。
- ・表を分析すると、おもりの重さによって1往復の時間が変化するように見えるが、グラフを使って視覚的に捉えやすく比較することで、きまりに気づきやすくする。

○振り子の実験の結果を考察する。



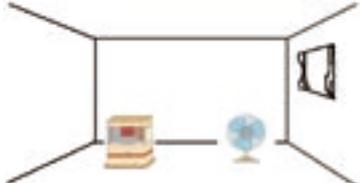
## 1 単元のつくり方

理科の1単元の指導計画をつくる際には、問題解決的な学習となるよう、以下のような視点で見直しましょう。

### 1 単元の指導計画を見直す5つの視点

- 単元の目標が達成できるか。
- 児童生徒の実態に合っているか。
- 追究する内容が、児童生徒の思考にそったものになっているか。
- 繰り返される「問題解決の過程」が、児童生徒にとって連続した思考でつながっているか。
- 児童生徒が、理科を学ぶ意義や有用性を実感できるか。

理科の1単元の基本的な流れは、以下のようになります。

過程	基本的な流れ・指導のポイント	指導例「金属、水、空気と温度」(小学校第4学年) 「物の温まり方」(全10時間)
ふれる	<p><b>1 自然事象に働きかけ問題意識をもつ。</b></p> <p>○児童生徒が、自ら問題意識がもてるように、以下のような活動を設定しましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt;活動例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習経験や既習内容から「矛盾」や「ずれ」が感じられるような自由試行をしたり、教師が提示する事象を見たりする。</li> <li>・思いや願いがもてるような「栽培・飼育」や「ものづくり」をする。</li> </ul> </div> <p>○児童生徒が、見いだした問題意識から問題を設定しましょう。</p>	<p><b>1 自然事象に働きかけ問題意識をもつ。</b></p> <p>○水の入った金属製のやかんが上に乗っているストーブで部屋を温めた時、水、金属、空気が温まる様子を見て、それぞれの温まり方の違いを話し合い、物の温まり方についての問題意識をもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt;問題&gt;</p> <p>金属、水、空気は、どのように温まっていくのだろうか。</p> </div>
追究する	<p><b>2 観察・実験を行い、問題を解決する。</b></p> <p>○一人一人が主体的に観察・実験に取り組めるようにしましょう。</p> <p>○結果をもとに、考察をしっかりとさせましょう。</p> <p>○観察・実験が繰り返される場合には、観察・実験によって得られた考察や結論、生じた疑問が、次の観察・実験につながるような流れを考えましょう。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>観察・実験1    予想・計画 → 観察・実験 → 考察・結論</p> <p>↓</p> <p>観察・実験2    予想・計画 → 観察・実験 → 考察・結論</p> <p>↑</p> <p>繰り返し</p> </div>	<p><b>2 観察・実験を行い、問題を解決する。</b></p> <p>(1)実験1で金属の温まり方を調べる。</p> <p>(2)実験2では、水の温まり方を調べる。水の温まり方については、日常生活の経験や実験1で得られた「金属は、熱せられた部分から順に温まっていく」という結論を基にしながら予想を話し合う。</p> <p>(3)実験3では、空気の温まり方を調べる。空気の温まり方については、実験2で得られた「水は熱せられた部分が上へ移動して全体が温まっていく」という結論と経験を基にしながら予想を話し合う。</p>
まとめる	<p><b>3 学習をまとめる。</b></p> <p>○追究したこと全体を振り返り、問題に対してわかったことを個々にまとめさせるようにしましょう。</p> <p><b>4 自然や生活にあてはめる。</b></p> <p>○実際の自然や生活にあてはめることで、実感を伴った理解が図れます。</p> <p><b>【物質・エネルギー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・獲得した知識・技能を活用して「ものづくり」をしたり、生活や社会の中で活用されている例を見つけて説明したりする。</li> </ul> <p><b>【生命・地球】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・獲得した知識・技能を実際の自然にあてはめて考えたり、自然を見直したりする。</li> </ul>	<p><b>3 学習をまとめる。</b></p> <p>○金属、水、空気の温まり方の違いがわかるように、ノートに図や言葉でまとめる。</p> <p><b>4 自然や生活にあてはめる。</b></p> <p>○冬の寒い時期、暖房をしている部屋で扇風機を使うことがある。扇風機を使う理由を温められた空気の動きから説明する。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div>

## 授業充実のためのコツやアイデア

### 1 児童生徒が主体的に取り組む問題解決のために

#### (1) 児童生徒が見いだした問題、課題から学習を始めましょう。

単元の導入では、体験活動等を通して、児童生徒に「おや、変だな？」など経験や既習内容との「矛盾（ずれ）」を感じさせたり、活動から「思いや願い」をもたせたりして、問題にまで練り上げましょう。

#### (2) 児童生徒に観察・実験の計画を立てさせましょう。

発達の段階に応じて、以下の点に留意して観察・実験の計画を立てさせましょう。

小学校3・4年	・児童は、理科の学習経験が浅く、目的にあった観察・実験の計画を立てることは難しいため、観察・実験方法はみんなで話し合い、調べる対象は一人一人が考えられるようにするなど、計画作りが児童の負担にならないようにしましょう。
小学校5・6年 中学校1～3年	・条件を制御しながら、観察・実験の計画を立てさせましょう。 ・中学校では、必要な対照実験について考えさせるようにしましょう。

#### (3) 個々の観察・実験技能を確実に身に付けさせましょう。

児童生徒の観察・実験技能の確実な習得を図るために、観察・実験の方法を工夫したり、1班の人数を少なくしたりすることで、一人一人が観察・実験器具の操作を行えるようにしましょう。

### 2 予想や考察の場面を充実させるために

#### (1) 児童生徒の既習内容と生活体験を把握しましょう。

予想や考察を考える時に根拠になるのは、既習内容と生活体験等です。既習内容は、学習指導要領の系統表や解説で確認することができます。また、生活体験は、児童生徒との会話や単元の学習が始まる前のアンケートなどで把握するようにしましょう。

#### (2) 自由試行の場を設定し、予想や考察の根拠となる自然体験を補いましょう。

学力調査結果から、年々児童生徒の自然体験の不足が進んでいることが明らかになっています。単元の学習が始まる前に、児童生徒の体験の不足を補うような活動の場を意図的に設定し、予想や考察の根拠がもてるようにしましょう。

### 3 安全で楽しく正確な観察・実験のために

#### (1) 予備実験を行い、児童生徒が実験から得るデータの予測と危機管理に努めましょう。

授業中の実験では、必ずしも教科書通りの結果が得られないことがあります。児童生徒が行う条件下において、どのようなデータが得られるのか、予備実験で確認しておきましょう。また、予備実験は、危機管理の面からもとても重要です。以下の例を参考に予備実験を行いましょう。

- ・薬品の濃度など適切な実験の条件を確認する。また、薬品の扱いについては、その薬品の性質、特に爆発性、引火性、毒性などの危険の有無を調べた上で取り扱うようにする。
- ・実験手順の中で危険な場面を予測したり、グループが同時に実験を行う場合などを想定し、危険要素を検討したりしておく。

#### (2) 保護眼鏡をかける習慣を身に付けさせましょう。

保護眼鏡が必要な実験は、教科書に写真入りで示されています。保護眼鏡をきちんと理科室に整備するとともに確実に着用させましょう。また、高学年や中学校では、保護眼鏡をかける意味を理解させ、必要な場面を自分で判断し、自分から保護眼鏡をかけられるようにしましょう。

#### (3) 事故が起きたときの連絡体制の点検をしましょう。

全国で見ると理科の実験中、やけどや薬品による事故、ガラス器具の破損による事故等様々な事故が毎年起きています。いざというときにあわてないために、事故が起きたときの管理職や養護教諭、保護者への連絡経路・連絡方法を確認しておきましょう。

## 1 単位時間の授業の作り方

生活科の『気付き』は、対象に対する一人一人の認識であり、児童の主体的な活動によって生まれます。そこには、知的な側面だけでなく、愛着など情意的な側面も含まれます。

生活科では、思いや願いを児童がもち、積極的に対象と関わる中で児童一人一人の気付きの質が高まるように1単位時間を構成することが大切です。

基本的な流れ・指導のポイント	単元例：「ふゆをたのしく」(小学校第1学年)
<p><b>1 学習のめあてを知る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の思いや願い、計画などを振り返りカードなどから把握しておく。</li> <li>これまでの活動の様子をまとめたもの（学習に関する掲示物、振り返りカード、活動中の写真など）を見せるなどして話題にし、前時までの活動を想起させる。</li> </ul> <p>前時までの活動の感想を発表させるなど、児童の発言を引き出し、活動への興味や意欲を高めましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習のめあてに関する情報（前時の友達の活動など）を伝える。</li> </ul> <p>個々の児童の活動への興味や意欲に留意して、個別に情報を伝えることも大切です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習のめあては、児童の思いを踏まえて設定する。</li> </ul>	<p><b>○前時の学習を振り返り、課題をとらえる。 (5分)</b></p> <p>T：この前、外で遊んだときは寒かったですね。                  S：風が冷たくって、手や顔が固まっちゃった。                  S：風が強くて目が開けられなかったんだ。                  S：「空っ風」って言うんだよね。群馬の名物なんだって。用務員さんが教えてくれたよ。                  S：口から湯気が出て、誰がたくさん湯気を出すか競争したよ。                  T：氷を見付けたり、おしくらまんじゅうをしたりした人もいましたね。風と力くらべをした人や風を使うと走るのが速くなることを発見した人の発表を聞いて、次は、群馬の冬の強い風、冷たい風と遊ぶ方法を考えて、やってみようということになっていたんでしたよね。</p> <p><b>学習のめあて</b>                  ふゆのかぜをつかってあそぼう。</p>
<p><b>2 五感を働かせて、繰り返し対象と関わる。</b></p> <p><b>【時間における環境の構成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>直接体験や具体的活動の時間を確保する。</li> </ul> <p><b>【空間的・物的な環境の構成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動場所の広さや配置、児童間の位置や距離など活動の場に関することや、用具や材料の種類・量・置き場所、材料などの提示時期などに関することを考慮する。</li> </ul> <p><b>【人的な環境の構成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動に夢中になっている姿に共感したり、対象や活動への意欲や関心を高めたり、気付きを意識付ける言葉をかけたりする。</li> </ul> <p>低学年の発達の特徴である思考と表現の一体化に配慮し、考えたことを試す場、試したことから考えを深める手がかりを提供しましょう。</p> <p>繰り返し対象と関わる中での、感じたことや考えたことなどの交流を大切にしましょう。</p> <p>児童の気付きや活動への取組の様子などを児童同士で共有できるように、デジタルカメラ等を活用して記録しましょう。</p>	<p><b>○自分の考えた遊びを楽しんだり、友達のしている遊びを試してみたりして、風と関わる。 (25分)</b></p> <p><b>児童の活動の例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>風を当てて車や物を走らせたり、転がしたりする。</li> <li>ひもをなびかせる。</li> <li>凧<small>たこ</small>を作って揚げる。</li> <li>追い風や逆風の中を走る。</li> <li>風の抵抗を受けるようなものを身にまとい、風に向かって移動する。 など</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>強い風、弱い風、渦巻きの風など、場所によって風の向きや強さが異なっている場所があること等を予め調べておく。</li> <li>凧<small>たこ</small>や動くおもちゃなどを製作する児童のために、扱いの簡単な材料や用具等を風の当たらない日当たりのよい場所に準備しておく。考えたことをすぐに確かめられるように、多種類の材料を用意しておく。</li> <li>デジタルカメラを準備しておき、活動の様子や子どもの気付きに関わる事柄を撮影しておく。</li> <li>映像を見せ、気付きを言葉で表現させる機会を取り入れる。</li> </ul>



(ア) 風に向かって走ると温かくなることへの気づき。  
(これまでの気づき)

(イ) 自分もやってみようという思い。  
(活動への興味や意欲の高まり)

T: 児童の考えへの共感、活動を促す支援。  
(ウ) 風の力は抵抗となることへの気づき。

(エ) 抵抗の生かし方への気づき。(気づきの応用)

T: 気づきの質を高めるための投げかけ。  
(オ) 小さい(丸い)形は抵抗を受けにくいことへの気づき。

(風の力を受けながら走る体験を重ねたことからの新たな気づき)

T: 共感しながら、新たな気づきを確かなものにしたり、他の児童が試してみたりするための投げかけ。  
デジタルカメラで活動の様子を撮影。

(カ) 友達の気づきから刺激を受けた自分なりの考え。  
(新たな気づきを実感を伴う気づきにしていく)

生活

3 一人一人が体験や活動を振り返り、まとめる。

・考えたこと、感じたこと、気付いたこと、友達に知らせたいことなど、振り返りの視点を与える。

気づきが自覚されていない児童には、活動の様子映像を見せたり、揺さぶりをかけたりしましょう。

児童の様々な表現を受け止めつつ、適切な方法を用いて表せるように支援を工夫しましょう。

次の活動への意欲につながるよう、自分の気づきに満足感や自信をもたせましょう。

○やってみて気付いたことなど、友達に知らせたいことを振り返りカードにまとめる。(8分)

T: 風に向かってかけっこしたんですね。

S1: 疲れちゃった。風がすごい力なんだもの。

T: おもしろい形で走ってましたね。(映像を見せ) なぜ、このような形をして走っていたのですか?

S1: 早く走れた。風が少し弱くなった。

T: 風の力を感じにくい形ということですか? 大発見ですね! 2組のみんなで、風に向かって競走したいですね。大発見を忘れないように、風を感じにくい体の形を絵と言葉でまとめておきましょう。



4 まとめたことをもとに、気づきを伝え合う。

・ねらいに迫る気づきをしている児童や、気づきが自覚化されていない児童の気づきと近い児童を指名して発表させる。

自分と同じ、違うなど、友達の話を聞く際の視点をもたせましょう。

・全体での発表だけでなく、友達と振り返りカードを見せ合ったり、楽しかったことや感じたことを話し合ったりする時間を設定する。

全体での発表が終わるのではなく、児童にとって、感じたことや気付いたことを味わい直したり、友達の感じ方や考え方に触れたりする機会となるようにしましょう。

○気づき(わかったこと、考えたこと、感じたことなど)を友達に伝えたり、友達から聞いたりする。(5分)

S1: ダンゴムシみたいな形になると速く走れました。

T: 風の力が弱くなったみたいに感じたんですね。

S2: ヨットにタイヤを付けた車を作りました。風が吹くと走りました。帆を大きくしたらすごく速くなったけど、すぐに倒れちゃいました。

S3: 風が強すぎるとだめなんじゃない?

S4: 風上に走ると、風がよく揚がりました。

S5: 反対に走ると、逆さになって揚がらなかったよね。

T: 友達のカードを見せてもらい、話を聞いてみましょう。

○次時の予定を聞く。(2分)

・本時の活動の中での風への気づきを生かし、次時は、本時に友達が紹介してくれた風を使った遊びを試してみようことを児童と一緒に確認する。

## 1単元のつくり方

生活科の特質は、直接体験を重視した学習活動を行うこと、身の回りの地域や自分の生活に関する学習活動を行うことなどにあります。

単元を構成するにあたっては、活動や体験を繰り返したり、友達など他者とともに活動したりすることで、対象との関わりが深まり、対象や児童自身への気付きの質が高まるようにしていくことが大切です。また、気付きの質を高めていくことが、次の活動や体験の充実につながるようにしていきましょう。

年間の単元計画の作成にあたっては、児童の活動や体験を充実したものにしていくために、幼稚園や保育所など就学前の教育機関との連携を図り、児童のこれまでの体験を踏まえましょう。

過程	基本的な流れ	指導のポイント
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象に触れたり、想起したりする。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象について知っていることや体験していることを話題にしたり、取り上げたりする。</li> <li>学習対象に関連するものを目にしたり触れたりできるように、教室内に掲示するなどしておく。</li> </ul>
であっ	<p><b>1 対象をとらえる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象への興味・関心をもつ。</li> <li>対象について見付けたことや思ったことを伝えたり、話し合ったりする。</li> </ul> <p><b>2 学習課題をつかむ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象や活動に思いや願いをもつ。</li> <li>活動について考え、計画を立てたり、設計図をかいたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活を振り返り知っていることを思い出させたり、対象との多様な関わり方を楽しむ機会を設定したりするなど、対象への魅力が増す出会いを工夫する。</li> <li>発見や考え、感想などを友達と交流させる機会をつくる。</li> <li>児童の対象への思いを踏まえて、学習課題を設定する。</li> <li>行き先や活動、使用する材料などを児童が自分で選んだり決めたりできるようにする。</li> </ul>
はたらきかける	<p><b>3 具体的な活動や体験をする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>五感（視聴嗅味触）を使って</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>遊ぶ 作る 比べる 工夫する 試す 確かめる 調べる 知る 世話をする 育てる 一緒にする など</p> </div> <p><b>4 活動や体験を振り返り、対象をとらえ直す。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気付いたことや感じたことを自分なりにとらえたり、まとめたりする。</li> <li>思ったことや考えたことを活動の中で伝えたり、友達から聞いたりする。</li> <li>友達の気付きを試してみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象と繰り返し関わり、試したり比べたり確かめたりするなど関わりを深める活動時間を十分に確保する。</li> <li>安全に配慮するとともに、ダイナミックな活動のための空間の広さや物の配置、教師間の連携等に留意する。</li> <li>取組の様子や気付きをとらえ、個に応じた支援をする。</li> <li>気付きや考えを児童なりに表現する機会をつくる。</li> <li>児童の表現（つぶやきや表情なども含む）に、「尋ねる」「投げかける」「共感する」などして、気付きを意識化したり、活動の発展や新たな気付きにつなげたりする。</li> <li>友達の活動の様子を見せたり、友達と相談させたりするなど、気付きを比較したり関連させたり、友達のよさに気付いたりできるように環境を構成する（場所、広さ、位置、グループ構成員、教師の言葉など）。</li> <li>気付きや考えなどを絵や言葉、動作などで表現させ、児童自身にも友達にも可視化できるようにする。</li> </ul>
ふりかえる	<p><b>5 全ての活動を見つめ直す。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達の気付きや考えに触れ、自分の気付きや考えを深めたり、新たな考えを生み出したりする。</li> <li>対象との関わりを通して自分の成長やよさなどの気付きをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの活動で使ったものや作ったもの、活動中の写真などを掲示しておく。</li> <li>友達の気付きや考えを聞くときの視点（比べながら聞く）を明確にしたり、感想等を伝える機会を設けたりすることで、自分の気付きや考えを深められるようにする。</li> <li>児童が自分のよさや変化をとらえる投げかけ等をする。</li> </ul>

## 授業充実のためのコツやアイデア

### 1 児童にとって充実した活動や体験とするために

(1) 児童の生活圏としての学校、地域の様子などについて、教師自身が五感や感情を働かせながら情報を集めましょう。

生活科では、児童の身近な地域や自然、生活などに関する学習を行います。これらが、児童にとっての活動や体験の場となります。そのため、校内の施設や自然、地域の施設や自然、地域の人々の生活などについて教師自身がよく知っていることが大切です。地域や自然について、教師自身がたくさんの気付きをもちましょう。また、児童の興味・関心や活動の様子を予想しながら、情報を収集することが大切です。地域などでの学習協力者についても、まずは教師が進んで交流をもちましょう。

(2) ねらいと内容を明確にし、単元の計画を立案しておきましょう。

生活科では、ねらいに沿って、内容(1)～(9)を単独で、あるいはいくつかを組み合わせることで単元計画を立案します。例えば、2年生の町探検では、内容(3)「地域と生活」と内容(8)「生活や出来事の交流」を組み合わせることで、地域の人々と繰り返し関わり、交流を取り入れた単元となり、地域と自分との関わりへの認識を深めるとともに、地域の人との交流も深めることにつながります。

単元と生活科の内容(1)～(9)との関係をマトリックス表などにまとめ、偏りのチェックもおきましょう。



(3) 活動や体験の時間を十分に確保しましょう。

具体的な活動や体験を通じた学習が生活科の特質です。したがって、活動や体験を十分に楽しむ時間を確保することが重要です。そのために、授業の流れを工夫するとともに、必要に応じてまとまった活動の時間を確保するなど弾力的な時間設定を工夫しましょう。そして、「見る」「聞く」「触れる」「作る」「探す」「育てる」「遊ぶ」などの具体的な活動や体験の時間を十分に確保しましょう。もちろん、安全への配慮が大切です。

### 2 気付きの質を高めるために

(1) 気付いてほしいことを明確にし、環境の構成を工夫しましょう。

教師がどのようなことに気付いてほしいと願っているのか、意図を込めて環境を構成することで、児童の気付きは促されます。まずは、児童の興味・関心や取組の様子を見取り、一人一人の児童にどのようなことに気付いてほしいのかを明確にしてみましょう。それをもとに、個別の手立てを考えおきましょう。

例えば、落ち葉の中に滑り込む楽しさを体験させたい時には、滑り台の近くに活動の場を設定します。また、マツボックリの剣玉を作っている児童に、玉が入る成功率は糸の長さが関係することに気付いてほしいと考えたら、糸の長さを比較できるように本物の剣玉をタイミングを見計らって提示します。環境の構成については、幼稚園での教育（幼稚園教育要領解説）が参考になります。

(2) 児童が気付きを自覚できるようにしましょう。

活動をしているときに、児童は様々なことに気付いていきます。活動中の児童の行動やつぶやきを丁寧にとらえ、その場で共感的な言葉をかけるなどしてフィードバックしましょう。該当の児童だけでなく、周りの児童にも聞こえるようにすると、周りの児童も自分の気付きを自覚したり、自分の気付きと比較して気付きを高めたりすることもあります。



座席表などに個々の気付きを記入しておく、振り返りの場面などで活用できます。

(3) 振り返りの場面や方法を工夫しましょう。

振り返らせることは、気付きを自覚させたり、新たな気付きを誘発したりすることにつながります。しかし、児童にとって必要感がなくては、やらされている活動にしかありません。いつでも振り返りカードを書いて終わるといのは、「またか」という思いに児童をもたせます。これまでの気付きが次の活動へと発展し、振り返りにもなるという活動を工夫して取り入れましょう。

例えば、自分の成長に喜びや自信を感じる学習をした後、今度入学してくる幼稚園や保育所の友達を学校に招待し、自分のよさを生かして一緒に関わるような活動を設定するなどです。児童は、これまでの気付きを再確認するとともに、新たなめあてに向かう意欲や自分への自信が増すはずで



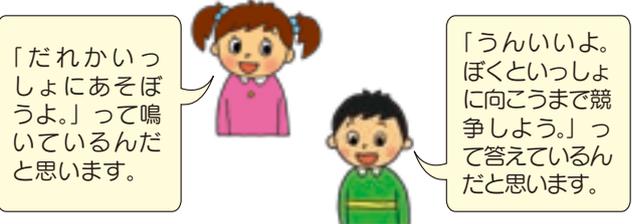
## 1 単位時間の授業のつくり方

音楽科は、「豊かな情操を養う」教科です。「豊かな情操を養う」ことは、一人一人の豊かな心を育てるという重要な意味をもっています。そのためには、1時間1時間の音楽の授業が楽しい雰囲気のもとで行われ、児童生徒の情操を少しずつ、そして確実に豊かにしていくことが大切です。音楽の授業を行うときは特に、教師が一人一人の児童生徒を受容する温かさを持ち、お互いを認め合う学級の雰囲気をつくることを心がけましょう。

常に笑顔で、明るい声で授業に臨みましょう。ほめ言葉をたくさんもちましょう。



基本的な流れ	指導例：「ようすをおもいうかべよう」(小学校第2学年)
<p><b>1 音楽学習に臨む楽しい雰囲気をつくる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最初の5分間でリズム遊びをしたり、ハーモニー遊びをしたりして、基礎的な音楽の技能を高めることも効果的である。</li> </ul> <p>(「P.96 授業充実のためのコツやアイデア」2参照)</p>	<p>○既習曲「いるかはんぶらこ」「山のポルカ」を歌う。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「いるかはんぶらこ」は3拍子を感じながら、「山のポルカ」は2拍子を感じながら、リズム伴奏に乗って歌わせる。</li> </ul>
<p><b>2 本時のねらいをつかむ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師が本時のねらいを明確に提示し、児童生徒に本時に学ぶことをしっかりとつかませる。</li> </ul> <p><b>3 本時の中心となる音楽活動を行う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間、ただ歌うだけなど、同じような音楽活動ばかりにならないよう、ねらいを達成するのに適した音楽活動を取り入れる。</li> </ul>	<p>○本時のねらいを知る。(2分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時は、「むしのこえ」を虫の鳴き声の違いを感じて歌う学習を行うことを知らせる。</li> </ul> <p>○「むしのこえ」を歌い、歌詞内容を確認する。(3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どんな虫が出てくるか問いかけ、黒板に貼った歌詞の内容を表した大きな絵を見せながら、全員で「むしのこえ」を歌わせる。</li> <li>どんな虫が出てきたか、発表させる。</li> </ul>
<p><b>◆音楽活動のねらいを明確にしよう</b></p> <p>「歌を歌う」という音楽活動の一つとっても、強弱に気を付けて歌うのか、音色に気を付けて歌うのか、リズムに気を付けて歌うのかなど様々な目的があります。活動の目的を児童生徒自身が意識して活動できるようにすることが大切です。</p> <p>・教師が教え込んでしまうのではなく、感じ取らせたいことを児童生徒が自ら感じ取れるような音楽活動を行う。&lt;「音楽的な感受」の学習&gt;</p> <p>(「P.96 授業充実のためのコツやアイデア」3参照)</p>	<p>○まつ虫、すず虫などの5種類の虫の鳴き声の違いを感じながら「むしのこえ」を歌う。(15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5種類の虫の役をする児童を決め、それぞれの出番になったら、その虫の担当者が一人で歌い、それ以外のところは全員で歌うようにさせる。</li> </ul> <p>○歌詞の内容を考えながら歌う。(15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>思い浮かんだ様子を発表させる。</li> <li>「あれまつむしがいない」と歌いながら、手を耳に当て、足もとから虫の鳴き声がきこえてくるかのように首をかしげながら歌うなど、歌詞の内容に合わせて体を動かしながら歌うようにさせる。</li> <li>虫たちがどんなお話をしているのかを考えさせる。</li> </ul>
<p><b>◆一人一人の学習状況をよく見よう</b></p> <p>活動中は、一人一人の学習状況をよく見て適切な指導をするとともに、チェックシートに気付いたことやがんばっていることを書き込んでおくなど、きちんと記録をしておきましょう。</p>	<p>「だれかいつしよにあそぼうよ。」って鳴いているんだと思います。</p> <p>「うんいいよ。ぼくといつしよに向こうまで競争しよう。」って答えているんだと思います。</p>
<p><b>◆タイミングのよい声かけをしよう</b></p> <p>音は時間とともに消えてしまうので、児童生徒に演奏させるときは、うまくできたときにはすかさずほめたり、課題があるときには、それに気付ける声かけをしたりするなど、タイミングよく声をかけることが大切です。</p>	<p>・「チンチロ～」という鳴き声がないに歌えるよう、虫の鳴き声の部分を会話しているように歌わせる。また、「問いと答え」を自然に感じ取れるようにさせる。</p>
<p><b>4 本時の学習のまとめをする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を振り返り、できるようになったことやわかったことを実感できるようにするとともに、次の音楽の時間への期待をもたせる。</li> </ul>	<p>○本時の学習のまとめをする。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞の表す様子を思い浮かべながら、ていねいな発声で歌わせる。</li> <li>虫たちが楽しくお話しているように歌えたことを賞賛し、次時は新しい曲の勉強をすることを伝える。</li> </ul>



## 1 題材のつくり方

音楽科では、「**音楽的な感受の学習**を基に、**思考・判断し表現**する一連の過程を大切に授業づくりに努め、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりできるようにする」ことが求められています。それを題材レベルに具体化するとおおよそ次のようになります。

### 1 「A表現」(歌唱・器楽) のみの題材の場合

過程	基本的な流れ 〈主として位置付ける評価の観点〉	指導例：「曲想を感じ取って歌おう」 (小学校第5学年 全3時間)
第1次	1 本題材の学習への興味・関心を高める。 〈音楽への関心・意欲・態度〉  <b>音楽的な感受</b> 2 楽曲全体の雰囲気を感じ取る。	○「静かにねむれ」の歌詞内容や曲想に関心をもつ。 ・「静かにねむれ」の範唱を聴いて感じたことを発表させる。 ○「静かにねむれ」の楽曲の特徴を感じ取って旋律を歌う。 ・歌詞を読み、歌詞の表す様子や雰囲気を感じ取らせる。 ・音程やリズムに気を付けて、楽譜を見ながら歌詞唱させる。 ・歌詞の内容を理解し、歌詞の中の大切な言葉を見付けさせる。
第2次	3 2のような雰囲気を醸し出す理由を、音楽の要素に着目して探る。 〈音楽表現の創意工夫〉  <b>思考・判断・表現</b> 4 自分の表現したい思いや意図に合う演奏になるよう、表現を工夫する。 〈音楽表現の創意工夫〉 5 どのように表現を工夫したか、意見交流をする。	○「静かにねむれ」の曲の構造を理解する。 ・旋律や強弱に着目して、曲の雰囲気を醸し出す理由を探させる。 ・言葉と音楽との関わりに着目し、曲の構造をワークシートに書かせる。 ○「静かにねむれ」の歌詞の表す様子や、曲想にふさわしい表現を工夫する。 ・3段目の曲の山の部分の歌い方を工夫させる。 ・一番最後の速度を工夫し、終わる感じを出せるようにさせる。 ○どのように表現を工夫したか、意見交流をする。 ・fの歌い方(音色や音量)や、最後の速度をどの程度にするかなどを視点として、グループごとに工夫したことを音楽表現を伴って発表させる。
第3次	<b>(思いや意図を生かした音楽表現)</b> 6 工夫した表現で演奏できるよう、音楽表現の技能を高める。〈音楽表現の技能〉 7 学習したことを生かして、演奏する。 〈音楽表現の技能〉	○「静かにねむれ」の曲想にふさわしい表現を追求する。 ・工夫した表現で演奏するのに必要な音楽表現の技能を身に付けるための技能習得を、しっかりと行わせる。 ○学習したことを生かして、「静かにねむれ」を歌う。 ・言葉と音楽との関わりや、音楽記号と曲想との関わりに気を付けて歌わせる。

### 2 「B鑑賞」のみの題材の場合

過程	基本的な流れ 〈主として位置付ける評価の観点〉	指導例：「音楽の特徴を感じ取り、情景を想像しながら聴こう」 (中学校第1学年 全3時間)
第1次	1 本題材の学習への興味・関心を高める。 〈音楽への関心・意欲・態度〉  <b>音楽的な感受</b> 2 楽曲全体の雰囲気を感じ取る。	○「春」の曲想に関心をもつ。 ・「春」の冒頭部分を聴いて感じたことを発表させる。 ○「春」の楽曲全体の雰囲気を感じ取る。 ・「春」の第1楽章を聴き、感じ取ったことなどを自由にメモさせる。 ・感じたことを意見交流させる。
第2次	3 2のような雰囲気を醸し出す理由を、音楽の要素に着目して探る。 〈鑑賞の能力〉 →従前の「音楽的な感受」に当たる部分	○音色、旋律、強弱に着目して曲を聴き取り、その働きと曲想との関わりを感じ取る。 ・それぞれのソネットについて、「どのような感じの音楽か」「それは音楽のどんなところからか」をワークシートに書き、交流させる。
第3次	<b>思考・判断・表現</b> 4 3の学習を生かして、全体を <b>味わって聴く</b> 。〈鑑賞の能力〉 →従前の「鑑賞の能力」に当たる部分	○学習したことを生かして「春」の紹介文を書き、よさや美しさを味わって聴く。 ・ワークシート全体を見て、学習してきたことを振り返りながら「春」の第1楽章を聴かせる。 ・「春」について、「自分が気に入ったところなど、ぜひ他の人に紹介したいこと」を紹介文にまとめ、ワークシートに書かせる。 ・お互いの紹介文を発表し合った後、もう一度、「春」を聴かせる。

※これらはいくまでも基本的な流れであり、いつも必ずこの順序で学習されるわけではありません。

※ここに示した2つの指導例については、「結果分析資料」にワークシートなどが載っているので参考にしてください。

## 授業充実のためのコツやアイデア

### 1 教材研究を充実させるために

#### (1)教材曲をよく聴き、何を身に付けさせるのかを音で確認しておく

音楽科の教材は、音そのものです。教材研究として、教科書をよく読むことも大切ですが、まずは、教材曲をよく聴くことが大事です。そして、その曲で何を身に付けさせるのかを明らかにし、音で確認しておきます。

この曲では、3拍子を聴き取ったり、オーケストラの音色を聴き取ったりできるようにさせるんだな。



#### (2)どんな活動を行うのか決め、活動のねらいと曲のどの部分を聴かせるのかを考えておく

授業の中で、いつも全曲を通して聴かせるばかりでなくてよいのです。「3拍子を感じ取らせるときは、この部分を体を動かしながら聴かせよう。」「オーケストラの音色がよくわかるには、この部分を聴かせるるとよいかな。」のように考えておきます。

#### (3)CDを使うのか、DVDを使うのか吟味する

映像の付いているDVDの方が児童生徒が興味深く見るのではないかと思いがちですが、決してそうではありません。音に集中させたいときは、映像は邪魔なものになってしまいます。どんなねらいでその音楽活動を行うのかを考える中で、音だけ聴かせるのか、映像付きで聴かせるのかを決めておきます。

### 2 常時活動を充実させるために

授業の最初の5分間を使った音楽遊びを通して、様々な音楽の力を付けさせることができます。

#### 例1 「おちゃらかほい」「アルプス一万尺」などの手遊び歌

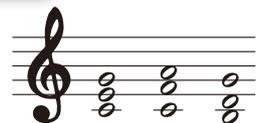
- ①教師が、ピアノや打楽器（クラベスなど）で演奏をリードします。
- ②だんだん「速さ」や「強さ」を変えていき、それに合わせる児童の動きの変化を見ます。そうすることにより、児童が「拍の流れ」「速度」「強弱」などの音楽の要素を聴き取れているかどうかを見取ることができます。
- ③途中で動きを変えた児童に対して、なぜ変えたのか、問いかけることが大切です。

教師 「どうして急に手の動きが変わったの？」

児童 「先生の弾くピアノがゆっくりになったからです。」（「速度」を聴き取った姿）

#### 例2 ハーモニー遊び

学級全体を3つのグループに分け、声を使って、ドミソ、ドファラ、シレソの3つの和音をつくって遊びます。児童生徒のハーモニー感覚を育てるのに役立ちます。



#### 例3 日直のリクエスト曲

今日の日直に歌集の中から気に入った曲を選んでもらい、「日直のリクエスト曲」として1時間に1曲ずつ歌います。児童生徒のレパートリーを増やし、クラスみんなで口ずさめる曲をたくさんもてることにつながります。

### 3 「音楽的な感受」の学習を充実させるために

「音楽的な感受」とは、音色、リズムなどの音楽の要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取ることであり、音楽科の学習の中心です。教師が、「この曲はこういう曲です」と説明してしまうのではなく、感じ取らせたいよさや面白さを、様々な手立てで、児童生徒が自ら感じ取れるようにすることが大切です。

#### ○サン・サンスの「白鳥」を教材とした学習を行う場合

教師「今からある曲を聴きます。どんな曲かな？感じたことを聴いた後で教えてくださいね。曲を聴きながら、体を動かしてもいいですよ。」

（児童は音楽に合わせてゆったりと腕を動かしながら聴く。聴き終わった後で…）

児童「とてもゆっくりした感じの曲でした。」

児童「なめらかなメロディーで、あたたかな感じの音でした。」

教師「そうですね。では、どんな楽器で演奏されていたでしょうか。」（音色に着目させている。）

以下略

このような授業を行うことにより、児童生徒の音楽を聴こうとする意欲を高め、音楽を感じ取る力を引き出すことができます。多様な音楽活動や教師の発問・問いかけを工夫し、「音楽的な感受」の学習を充実させましょう。

#### 4 音楽づくりや創作の指導の充実を図るために

「音楽科で伸ばしたい資質・能力」のページの「音楽づくりや創作」の部分に示した児童生徒の姿を実現するために、以下のような活動を取り入れ、指導の充実を図りましょう。

校種	内容	学年	音楽づくりや創作の活動例	
小学校	即興的な表現	音遊びをすること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムを模倣したり、言葉を唱えたり、そのリズムを打ったりする遊び</li> <li>・言葉の抑揚を短い旋律にして歌う遊び</li> <li>・身の回りの音や自分の体を使って出せる音などから気に入った音を見付ける遊び</li> <li>・体の動きに合わせて声や音を出す遊び</li> </ul>	
		即興的に表現すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木、金属、皮など同じ材質の物を使ったり、あるいは異なった材質の物を組み合わせて使ったりして生じるそれぞれの音の響きを生かして表現する活動</li> <li>・線や図形、絵などを楽譜に見立てて声や楽器などの音で表す活動</li> <li>・自分の工夫した音をみんなで模倣したり、自分の工夫した音を使って友達と音で会話したりする活動</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの楽器を使ってその楽器が出せる様々な音を探る活動</li> <li>・自分の工夫した音を使って友達と音で会話する活動</li> <li>・自分の工夫した音を反復したり、友達の工夫した音と組み合わせたりする活動</li> </ul>	
	仕組みを生かした音楽づくり	音楽の仕組みを生かし、音楽をつくること  	1・2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わらべうたに使われている音を用いて、問いと答えになるような短い旋律をつくる活動</li> <li>・短いリズムをつくり、それを反復したりつないだりして簡単な音楽にする活動</li> </ul>
			3・4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問いと答えになるようなリズムや旋律をつくり、それを反復させたり変化させたりする活動</li> <li>・我が国の音楽に使われているような五音音階などを使って簡単な旋律をつくり、それをつないだり音を重ね合わせたりする活動</li> <li>・擬声語や擬態語など、言葉をリズムにのせて反復したり組み合わせたりする活動</li> </ul>
			5・6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで選んだ音階を用いて旋律をつくったり、それに反復や変化を加えたりする活動</li> <li>・いくつかのリズム・パターンを重ねたり組み合わせたりする活動</li> <li>また、それらの構成を工夫し、まとまりのある音楽をつくる活動</li> </ul>
中学校	旋律づくり	1～3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感じ取った言葉の抑揚やアクセントなどを手掛かりに旋律の音高を工夫したり、感じ取った言葉のもつリズムを手掛かりに旋律のリズムを工夫したりして、簡単な旋律をつくる活動</li> <li>・我が国の伝統音楽に使われている音階の雰囲気を感じ取り、楽器の音色や奏法の特徴と関わらせながら楽器のための簡単な旋律をつくる活動</li> <li>・言葉の抑揚やリズムの特徴を理解しやすい俳句などを取り上げ、それらを生かして声のための旋律をつくる活動</li> <li>・いくつかの種類の五音音階の特徴を理解し、それらの中から選択をして楽器のための旋律をつくる活動</li> </ul>	
	構成を工夫した音楽づくり	1～3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「夕焼けの空の色がだんだん変わっていく」のように言葉で表してみることによってイメージを膨らませ、生徒自身が実際に音を鳴らしながら用いる音素材を決めて、ある短い旋律やリズム・パターンを反復、変化させながらある程度の長さをもった音楽をつくる活動</li> <li>（2・3年では、反復、変化、対照などの構成を工夫することと、音楽としての全体的な統一感などを工夫することの両者を大切にしながら音楽をつくる）</li> </ul>	

## 1 単位時間の授業のつくり方

図画工作や美術の授業では、表現及び鑑賞の活動を行うことによって、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、創造活動の基礎的な能力を培い伸ばすことが大切です。本時のねらいを達成するための適切な表現及び鑑賞の活動を核にして授業づくりをしましょう。同じ活動や作業が続く時間でも、基本的な授業の流れや指導のポイントを意識して授業に取り組むことが必要です。

基本的な流れ・指導のポイント	指導例「世界にひとつだけの花」 (小学校第5学年)
<p><b>1 本時の課題をつかむ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時までの学習を振り返り、本時とのつながりを意識させる。</li> <li>○活動や表現の工夫がわかる資料（参考作品、ワークシート、活動の様子を記録した写真や動画等）を示し、本時の見通しがもてるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>学習の流れ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①全体の共通課題を提示する。</li> <li>②手順・参考作品等を提示する。</li> <li>③個々に目標や課題を設定させる。</li> </ol> </div> <p>※用具の準備の確認をする。</p>	<p>○<b>本時の課題を確認する。</b> (5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【課題】</b> にじみやぼかしを生かして、世界にひとつだけの花を描こう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時は、水彩絵の具の特性を生かして、自分で考えた世界にひとつしかない花を、前時に引き続き描くことを伝える。</li> <li>・個々の本時の課題を確認させる。「色の組み合わせや効果を考えて、カラフルな花をたくさんかきたいな。」</li> </ul>
<p><b>2 製作（制作）に取り組む。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の課題の解決を目指して、製作（制作）に取り組ませる。</li> <li>○作業指示や説明は短くポイントをしぼり、各自が集中して取り組む時間を確保する。</li> <li>○参考作品や技法、作業手順は予め掲示しておく。</li> <li>○個別指導を通して、個々の追求の課題やつまづきを明確にさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>個別指導を充実するポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★全体を見て、個々の活動状況を把握する。（おおむね満足できる状況になっているか判断する。）</li> <li>★重点的に指導する児童生徒を決める。</li> <li>★必要に応じて、個々への声掛けを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よい点を具体的に挙げてほめる。</li> <li>・対話を通して、課題を自覚させる。</li> <li>・課題を解決するためにどうしたらよいか、児童生徒に自己決定させる。</li> </ul> </div> </div> <p><b>3 全体で共有する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表現の工夫や思いが十分表現できている児童生徒の作品や活動を取り上げて全体で紹介する。その際に、他の児童生徒の試行錯誤する時間や思考を分断しないように配慮する。</li> <li>○よい点などについて話し合わせ、製作（制作）の参考にできるようにする。</li> </ul>	<p>○<b>自分の課題を基に花を描く。</b> (30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・画用紙いっぱい思い切り描かせる。</li> <li>・水加減や筆づかひに気を付けさせる。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、個々への声掛けを中心に個別指導を心掛け、表現に集中させる。</li> </ul> <p>○<b>製作途中の作品を紹介し、表現の工夫やよさをクラス全体で確認する。</b> (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の工夫やよさを全体で紹介したり作品を相互鑑賞させたりして製作の参考にさせる。</li> </ul>
<p><b>4 本時のまとめをする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習を振り返る。</li> <li>○次時の目標や課題、必要な用具等をワークシートに書かせ、見通しをもたせる。</li> </ul> <p>※分担して、片付けをさせる。</p>	<p>○<b>振り返りシートにまとめをする。</b> (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標や課題追求に対する達成度や満足度を自己評価させる。</li> </ul>

※ 学習過程も含めて、写真や映像等で活動の様子や作品を記録に残しておきましょう。

## 1 題材のつくり方

題材は、表現や鑑賞活動の目標や内容、材料や用具、技法、表現方法や表現過程、〔共通事項〕などを構想したまとまりを示すものです。図画工作や美術においては、児童生徒自らが表現方法や内容を選択したり自己決定したりすることが大切であり、表現及び鑑賞の活動を通して、資質や能力を高めることができるよう、以下のポイントを参考に題材を設定しましょう。

### (1) 題材設定にあたって

#### ポイント1 実態を把握する

児童生徒は一人一人既習経験の度合いや生活経験、興味・関心が違います。日頃のやりとりや観察、各調査から実態把握をすることによって、題材を行う時期や期間、表現方法や扱う材料、使用する用具の適切な選定等が可能になり、児童生徒の活動を充実したものにすることができます。

#### ポイント2 題材名に教師の思いや願いを込める

教師の思いや願い、題材そのもののねらいを反映させたものが題材名です。端的で内容が伝わるわかりやすいものがよいです。

例えば、「自画像」「自然物による平面構成」を、「心の中を見つめて～15才の私～」「かたち、再発見」や「私に見える色・見たい形」にするなど、内面を触発しイメージを豊かにするような工夫が必要です。児童生徒一人一人の発想や構想が十分に生かされるような題材名を設定しましょう。

#### ポイント3 活動を通して児童生徒に身に付けさせる3つの力を意識する

題材のねらいを明確にし、その達成に向けて活動を位置付けていくことが大切です。活動の中のどの場面でのような力を付けるかを、常に意識する必要があります。児童生徒に身に付けさせたい力は、次の3つです。

**発想や構想の能力**  
形や色、イメージなどを基に、想像をふくらませたり、表したいことを考えたり、計画を立てたりする能力



**創造的な技能**  
材料や用具を用いたり、表現方法をつくりだしたりするなど、自分の思いを具体的に表現する能力



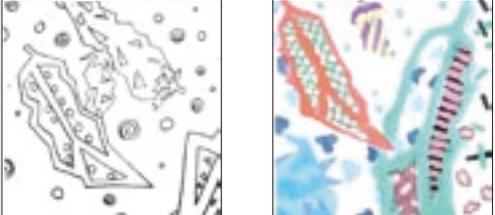
**鑑賞の能力**  
作品などを見たりつくったりするときに、よさや美しさを感じ取る能力



3つの力を発揮している児童生徒の姿を具体的にイメージにして、題材づくりに取り組みましょう。

### (2) 題材構想のつくり方

過程	基本的な流れ・指導のポイント	指導例「かたち、再発見」 (中学校第1学年 全10時間)																
出会う	<p><b>1 課題をつかみ、製作（制作）への見通しをもつ。</b></p> <p>○参考作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参考作品（先輩の完成作品、教師の示範作品等）のよさや美しさに触れさせ、本題材への興味・関心を高めさせる。</li> </ul> <p>○見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>製作（制作）過程を確認し、製作（制作）への見通しをもたせる。</li> </ul>	<p><b>【課題】</b> 私たちの身近にある野菜・果物をもとにデザインしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参考作品を提示し、作品のイメージをもたせる。 ＜参考作品例＞</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>映像メディアを使い、制作過程を知らせる。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>制作過程</th> <th>(時間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 観察・スケッチ</td> <td>… 1</td> </tr> <tr> <td>2 モチーフづくり（形づくり）</td> <td>… 1</td> </tr> <tr> <td>3 レイアウト（画面構成）</td> <td>… 1</td> </tr> <tr> <td>4 下絵</td> <td>… 1</td> </tr> <tr> <td>5 配色計画</td> <td>… 1</td> </tr> <tr> <td>6 彩色</td> <td>… 4</td> </tr> <tr> <td>7 鑑賞・まとめ</td> <td>… 1</td> </tr> </tbody> </table>	制作過程	(時間)	1 観察・スケッチ	… 1	2 モチーフづくり（形づくり）	… 1	3 レイアウト（画面構成）	… 1	4 下絵	… 1	5 配色計画	… 1	6 彩色	… 4	7 鑑賞・まとめ	… 1
制作過程	(時間)																	
1 観察・スケッチ	… 1																	
2 モチーフづくり（形づくり）	… 1																	
3 レイアウト（画面構成）	… 1																	
4 下絵	… 1																	
5 配色計画	… 1																	
6 彩色	… 4																	
7 鑑賞・まとめ	… 1																	

<p>出会う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主題（何をつくりたいのか）について、イメージをふくらませる。</li> </ul> <p>※主な評価の観点は、造形（美術）への関心・意欲・態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物を観察し、スケッチを描くことを通して、形や構造の特徴をとらえさせる。</li> </ul> <p>&lt;ピーマン実物&gt;      &lt;スケッチ例&gt;</p> 
<p>広げる</p>	<p><b>2 発想・構想する。</b></p> <p>○試しの活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場所でいろいろな材料に触れたり道具を用いて加工したりして、材料や用具の使い方を身に付けさせる。</li> </ul> <p>○自分なりのイメージを広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試しの活動から得た体験や習得した知識を活用して、新たなイメージをもたせる。</li> </ul> <p>○主題を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表したい思いや願いを明確にさせる。</li> </ul> <p>○アイデアを発想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主題を基に形や色、材料の組合せや配置を考えさせる。</li> <li>・アイデアスケッチを繰り返しながら、よりよい形や色、組合せなどを追求し自己決定させる。</li> </ul> <p>○構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製作（制作）計画を立てさせる。</li> </ul> <p>※主な評価の観点は、発想や構想の能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケッチを基に、単純化や強調を考えさせ、イメージを広げさせる。</li> </ul> <p>&lt;形づくり&gt;</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成美（変化と統一）について理解させ、画面構成に生かさせる。</li> <li>・何枚もアイデアスケッチを描きながら、形の配置や構成を考え自己決定させる。</li> </ul> <p>&lt;アイデアスケッチ1&gt;      &lt;アイデアスケッチ2&gt;</p> 
<p>つくる</p>	<p><b>3 製作（制作）する。</b></p> <p>○基本的な技能を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が用いる材料や用具を準備させる。</li> <li>・材料や用具の効果的な使い方や表現方法等を身に付けさせる。</li> </ul> <p>○全体のイメージを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色、材料からのイメージ、全体と部分との関わりをとらえながら製作（制作）させる。</li> </ul> <p>○よさを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や用具、表現方法の体験、友達同士の交流から、新たなよさや美しさを見だし表現に生かさせる。</li> </ul> <p>○表現の楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主題をより効果的に表すための工夫をさせる。</li> </ul> <p>※主な評価の観点は、創造的な技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決まったデザインを基に、下絵に取り組みさせる。</li> <li>・配色計画を考え、それを基に彩色に取り組みさせる。</li> </ul> <p>&lt;下絵例&gt;      &lt;配色計画例&gt;</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流を通して、友達からの助言や作品のよさを自分の表現に生かさせる。</li> </ul>
<p>振り返る</p>	<p><b>4 鑑賞・振り返る。</b></p> <p>○作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループや全体で説明したり聞いたりしながら、お互いの作品を見せ合わせる。</li> </ul> <p>○よさや美しさを認め合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感じ取ったよさや美しさについて意見交換をさせる。</li> </ul> <p>○振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてに対する作品の出来映えやつくる過程を自己評価し、感じたこと考えたことをまとめさせる。</li> </ul> <p>○日常生活に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の生活場面等へ生かす見通しをもたせる。</li> </ul> <p>※主な評価の観点は、鑑賞の能力</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成作品をお互いに見合い、感じたことや考えたことを基に批評し合わせる。</li> </ul> <p>&lt;完成作品&gt;</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を教室等に掲示し、日常的に作品のよさや美しさを味わわせる。</li> </ul>

## 授業充実のためのコツやアイデア

### 1 思いや願いをふくらませるために ～材料体験を大切に～

材料に実際に触る、試す、遊ぶなど、材料体験を重視した活動を大切にしましょう。児童生徒は、材料との関わりを通して新しい形を考え、自分なりの活動などを思い付きます。材料のもつ質感や量感を、自分の手や体全体で十分に味わい楽しむ体験は、児童生徒の思いや願いをふくらませ、より主体的な表現活動につながっていきます。9年間を通して、様々な材料に計画的に触れられるようにしましょう。



### 2 用具を使いこなせるようにするために

児童生徒に、自らの表現方法に応じて用具を使いこなせるようにすることは重要です。学習指導要領では、各学年段階で取り上げる用具について示しています。必要に応じて、当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で繰り返し取り上げたりすることで、確実に用具の扱いが身に付きます。授業では、基本的な使い方を習得できる場の工夫と時間の確保が必要です。

＜例＞電動糸のこぎりの扱い

用具の試しの活動として、板材から動物パズルのパーツなどのシンプルで面白い形を切り抜く活動に取り組みさせる。

ただ技術を教え込むのではなく、児童が楽しみながら用具の扱い方が身に付く活動を設定するようにしましょう。

小学校図画工作で取り扱う材料や用具の一覧

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類など身近で扱いやすいもの	<繰り返し取り上げる>	<繰り返し取り上げる>
<初歩的な形で取り上げる>	木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなど	<繰り返し取り上げる>
<初歩的な形で取り上げる>	<初歩的な形で取り上げる>	針金、糸のこぎりなど
十分慣れることができる	適切に扱うことができる	表現方法に応じて活用できる

### 3 表現活動を「造形遊び」にするために

図画工作における表現活動では、作品づくりを目的としていない活動「造形遊び」があります。児童生徒が自ら材料や場所と楽しく関わりながら、様々なアイデアを思い付き、思い思いに活動を展開できるようにすることを意識して授業づくりに取り組みましょう。

### 4 作品から自分なりの意味や価値を見いだすために ～自分の言葉で作品を語る～

鑑賞活動では、児童生徒が作品と出会い、作品を自分の言葉で語ることで、自分なりの意味や価値を見いだしていくことが重要です。

自分の言葉で作品を語るためには、次の点に配慮しましょう。

- ・感じ取ったことや考えたことを友達と自由に交流する場を計画的に設定する。
- ・作品を見た感想やつぶやきを大切にさせたり、思ったことを必ず言葉で表現させたりする。
- ・どのような見方や考え方も認め合える雰囲気づくりに努める。
- ・必要に応じて、教師が鑑賞する視点を与えるようにする。



### 5 お互いを理解し合うために ～児童生徒の作品を展示する～

教室や廊下等に児童生徒の作品や美術作品などを飾り、日常的に美術に触れる機会を設け造形的な空間を演出することが大切です。展示については、作品とともに作品の説明を加えたり、表現の過程を写真等で記録したものを紹介したりすることも考えられます。また、児童生徒に自分の作品に合った展示場所や展示方法を自分たちなりに工夫させることも大切です。お互いの造形活動の素晴らしさを伝え合ったり、お互いを理解し合ったりするよい機会になるよう積極的に作品を展示していきましょう。



## 1 単位時間の授業のつくり方（運動領域・体育分野）

体育の学習において、運動の行い方がわかり、その運動ができるようにするために、以下のようなことを意識して1単位時間の授業をつくりましょう。

- ①運動の行い方や技能のポイントを明確に示す。
- ②スモールステップの練習を取り入れる。
- ③局面ごとの練習を取り入れる。
- ④1時間の授業の中で技能を習得する活動と、習得した技能を活用して自分で練習方法や練習の場を選んだり工夫したりする活動を取り入れる。

基本的な流れ・指導のポイント	指導例：陸上運動 走り幅跳び（小学校第5学年）
<p><b>1 本時の課題をつかむ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習を振り返らせる。</li> <li>・集合、整列の後、健康観察を行う。</li> <li>・課題は「何のために、何を、どのような手順で学習していくのか」が明確で、分かりやすく具体的なものを示し、見通しがもてるようにさせる。</li> </ul> <p><b>2 技能や知識を習得する活動を行う。（活動1）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各運動の技（前転、後転など）や運動の局面（助走、踏切など）ごとの練習を取り入れる。</li> <li>・ねらいにつながるドリルゲーム（基本的な技能の習得を目的としたゲーム）、タスクゲーム（個人・集団の戦術的能力の育成を目的としたゲーム）を取り入れる。</li> <li>・一人一人が確実に運動に取り組めるよう活動を工夫する。</li> <li>・小学校低学年では、教師の動きをまねるような運動を取り入れる。 ※ドリルゲーム、タスクゲーム、メインゲームについては、「授業充実のためのコツやアイデア」参照</li> </ul> <p><b>3 習得した技能や知識を活用する活動を行う。（活動2）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームや記録会、発表会など運動に応じたメインの活動を行わせる。</li> <li>・グループの作戦タイム、個人技能の確認、課題解決法の工夫などを取り入れる。</li> <li>・小学校低学年では、児童が自分で動きを変えたり、考えたりする活動を取り入れる。</li> <li>・小学校中学年～中学校では、児童生徒が自分に合った練習を選んだり、練習を工夫したりすることができるような発展的な活動を取り入れる。</li> </ul> <p><b>4 学習したことを振り返る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カード等に学習を通して分かったことやできるようになったことを記入させる。</li> <li>・学習を終えての健康観察を行う。</li> <li>・次時の活動について知らせる。</li> </ul>	<p>○本時の課題をつかむ。（10分）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【課題】走り幅跳びの踏み切り動作で、ゴムをへそで切るようにして高く跳ぼう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集合、整列し、あいさつをする。</li> <li>・準備運動をする。（体操、馬跳び、スキップなど）</li> <li>・教師の示範やイラストなどから踏み切り動作の動きのポイントを考えさせる。</li> <li>・踏み切り動作のポイントをつかむために、へそでゴムを切るようにして踏み切って跳ぶことを伝える。</li> <li>・学習の場の準備をさせる。 ※砂場を十分に掘り起こしておく。 ※用具の置き場所、扱い方を十分指導しておく。</li> </ul> <p>○グループで走り幅跳びの踏み切り練習を行う。（15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5～7歩（8m前後）の助走からの踏み切り後、へその位置でゴムを切るように踏み切って跳ぶようにさせる。</li> <li>・ゴムを首の高さに合わせる。</li> <li>・踏み切り時に、へそでゴムを切るように踏み切って跳ばせる。 ※助走は、リズムカルな助走ができるように助走のリズムを身に付ける練習を行う。 ※着地は、安全な着地姿勢を身に付ける練習を行う。</li> </ul> <p>○記録測定をする。（15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11歩前後（15m前後）の助走から、練習したことを生かして跳ぶようにさせる。</li> <li>・記録測定の仕方を確認する。（踏み切った足のつま先から、踏切位置に近い方の着地した足のかかとまでを測定する）</li> <li>・協力して測定させる。</li> <li>・50m走の記録から各自の走り幅跳びの目標記録を設定し、跳んだ記録を得点化する。 ※記録の目安として、3m、4mにペットボトルにゴムを張ったものを砂場に埋めておくとよい。</li> </ul> <p>○活動の振り返りを行う。（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードに、今日の学習を通してできるようになったこと、今日の記録、授業の感想などを記入させる。</li> <li>・整理体操をし、次時は助走の練習を行うことを知らせる。</li> <li>・あいさつをする。</li> </ul>



【つくり方②の例】 中学校第2学年 球技（バスケットボール）

この単元例は、単元のはじめでパスやドリブルなどの個人的技能や知識を習得する活動に当てる時間を設定して、学習が進むにつれて基本的な技能や知識、仲間と連携した動きを活用してゲームを行う単元計画です。

	過程		つかむ	追求する					まとめる	
	時間		1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	8時間目
学習内容	導入	10分	オリエンテーション	集合・整列・あいさつ・準備運動・学習のめあての確認						
	活動1	15分	授業のマナー	パス練習 シュート練習	ドリブル練習 シュート練習	ディフェンス練習 空間に走り込む動きの練習	個人やチームの課題に基づいた練習			
	活動2	20分	試しの活動	パスゲーム（3対2）	ドリブルゲーム（3対3）	メインゲーム（5対5）	リーグ戦			
	まとめ	5分	学習のまとめ・振り返り（学習カード等に記入）							

■単元を進める上での指導上の留意点

＜活動1について＞

- 単元前半でパス練習やシュート練習、ドリブル練習を行い、基本的な技能を高めていきます。
- 5、6時間目の空間に走り込む動きの練習では、攻撃の際のボールを持たないときに得点をねらってゴール前の空いている場所に走り込む動きや、守備の際にシュートやパスをされないように、ボールを持っている相手をマークする動きを学習します。
- 7時間目は、前時までの学習を振り返り、個人やチームの課題に基づいた練習を行います。

＜活動2について＞

- 2、3時間目のパスゲームでは、攻撃側の人数を増やして攻撃がしやすい状況を設定し、パスのみのゲームを行います。
- 4時間目は、前時までのパスのみに加え、ドリブルを活用したゲームを少人数で行います。



【つくり方③の例】 小学校第4学年 器械運動（マット運動）

この単元例は、1～2時間ごとにマット運動の基本的な技を練習し、その次の時間に前時までに習得した技の発展的な技を練習する単元計画です。

	過程		つかむ	追求する					まとめる		
	時間		1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	8時間目	
学習内容	導入	10分	オリエンテーション	集合・整列・あいさつ・準備運動・学習のめあての確認							
	活動1	15分	授業のマナー	基本的な技能や知識の練習	習得した技能や知識の活用	基本的な技能や知識の練習	個人練習 グループ練習	発表会①（個人技）	発表会②（グループ演技）		
	活動2	15分	試しの活動	前転	後転	開脚前転 開脚後転	腕立て横 跳び越し				
	まとめ	5分	学習のまとめ・振り返り（学習カード等に記入）								

■単元を進める上での指導上の留意点

- 2、3、5時間目の活動1では、基本的な技の練習を行います。
- 4時間目の活動2では、2、3時間目に練習した技の発展技を練習します。
- 6時間目の活動1では、発表会に向け、個人やグループでこれまでに練習した技の練習を行います。互いに見合うことで学び合いの活動ができます。
- 7時間目は学習してきた技の発表、8時間目はグループで技を組み合わせることで集団演技として発表をします。技の出来映えだけでなく繰り返しや組み合わせを考えさせることができます。



## 1 単位時間の授業のつくり方（保健領域・保健分野）

保健の指導では、知識を習得する学習活動を重視するとともに、習得した知識を活用する学習活動を積極的に行うことにより、思考力・判断力等を育成します。

指導に当たっては、小・中学校において以下の点を踏まえて指導を行いましょう。

### <小学校>

身近な日常生活の体験や事例などを用いた話し合い、ブレインストーミング、応急手当などの実習、実験などを取り入れるなど実践的な指導を行う。

### <中学校>

事例などを用いたディスカッション、ブレインストーミング、心肺蘇生法などの実習、実験、課題学習などを取り入れるなど、科学的な事実や法則を理解できるようにすることを主眼として指導を行う。

基本的な流れ・指導のポイント	指導例：毎日の生活と健康「1日の生活の仕方」 (小学校第3学年)
<p><b>1 本時の課題をつかむ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習を振り返らせる。</li> <li>・課題は「何のために、何を、どのような手順で学習していくのか」が明確で、分かりやすく具体的なものを示し、見通しがもてるようにさせる。</li> </ul> <p><b>2 健康な生活などについて考える。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真やイラスト、各種データなどから課題に関連したことについて見だし、課題に対する自分なりの考えをまとめさせる。</li> <li>・学習内容によってはグループでの話し合いを取り入れ、考え方が深められるようにする。</li> <li>・必要に応じて、コンピューター等を活用したり、養護教諭や栄養教諭、学校栄養職員など専門性を有する教職員等とのチームティーチングを行ったりする。</li> </ul> <p><b>3 健康な生活などについて考えたことをもとに交流する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人やグループで考えたことについて、発表させる。</li> <li>・発表されたことを基に、自分の健康な生活について振り返らせるようにする。</li> </ul> <p><b>4 学習したことを振り返る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習プリント等に、学習を通して分かったことやこれから続けていきたいこと等を記入させる。</li> <li>・次時の活動について知らせる。</li> </ul>	<p>○本時の課題をつかむ。 (5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【課題】健康に過ごすには、どのような生活の仕方がい いか考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康と関わりのある生活の仕方について、学習することを確認し、学習活動への簡単なイメージをもたせる。</li> <li>・チェック表を基に自分の生活を振り返らせる。</li> </ul> <p>○健康に過ごすための生活の仕方について考える。 (20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事や運動、休養、睡眠が規則正しく、1日の生活リズムが良い生活の仕方の絵と不規則な生活の絵を比較して、健康な生活をしている子どもを見付けさせる。</li> <li>・自分の経験と照らし合わせて、どのような生活が健康な生活なのかを考えさせる。</li> <li>・学習プリントに自分で考えたことを記入させる。</li> <li>・グループになり、自分で考えたことをもとに生活の仕方について話し合わせる。</li> <li>・グループで話し合われたことを発表させた後、生活の仕方がよくない例の絵を改めて提示し、どうしたら生活が改善できるかを考えさせる。</li> </ul> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #fff9c4;"> <p>・朝早く起きると朝ごはんがおいしく食べられるな。 ・遅くまで起きていると授業中眠いな。 ・よく遊ぶとぐっすり眠れるよ。</p> </div> </div> <p>○生活の仕方について考えたことを発表する。 (15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分やグループで考えた健康な生活の仕方を発表させる。その際、できるだけ理由も発表させる。</li> <li>・健康な状態は一日の生活リズムに深くかかわっていることを理解させる。</li> </ul> <p>○活動のまとめを行う。 (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の一日の生活で改善していきたいこと、続けていきたいことなどをプリントに記入させる。</li> <li>・各自の考えを発表させ、自分の生活を改善しようとする意欲を高めさせる。</li> <li>・次時は体の清潔と健康について学習することを知らせる。</li> </ul>

## 授業充実のためのコツやアイデア

### 【運動領域・体育分野】

#### 1 発達の段階に合った指導を行うために

どのような領域の運動を行わせるとしても児童生徒が心身の発達の特性に合った運動を実践することによって、運動の楽しさや喜びを味わうことが大切です。小・中学校において以下のことを指導し、生涯スポーツにつなげていきましょう。

- ＜小学校＞体を動かすことの心地よさや汗をかくて努力した後の爽快感や満足感を味わわせましょう。
- ＜中学校＞技能の質やレベル、動きのダイナミックさや大きさ等を向上させるためのポイントを指導し、理解できるようにしましょう。

#### 2 運動の特性を十分味わうことのできる指導を行うために

体育授業において、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識を身に付けさせることが必要です。そこで、単元の構成を工夫して、その運動に効果的な指導を行きましょう。

例えば、ボール運動はルールや作戦を工夫して、集団対集団の攻防によって競争することに楽しさや喜びを味わうことができる運動です。そこで、ボール運動の学習では、ねらいに合わせて「ドリルゲーム」「タスクゲーム」「メインゲーム」といったゲームを効果的に組み合わせる指導を行きましょう。

##### ボール運動のゲーム

- ドリルゲーム**：主として個人的技能（基本的な技能）の習得や習熟を目的とした、記録達成のゲーム。  
※直接対戦する相手チームがないゲーム。  
（例）バスケットボール：1分間ドリブルシュートゲーム。
- タスクゲーム**：個人及び集団の技術的、戦術的能力（仲間と連携した動き）の育成を目的とした、課題の明確なゲーム。  
※対戦相手がいるゲームであり、特に習得すべき課題が明確でその課題が頻繁に学習できるように、人数やコートの子ニ化を図ったり、ルールの条件を変えたりするゲーム。  
（例）バスケットボール：3（オフェンス）対2（ディフェンス）のゲーム。
- メインゲーム**：児童生徒の能力レベルに合った（やさしい）ボール運動。単元のメインになる教材。  
（例）バスケットボール：5対5のゲーム。（ルールの工夫等をする）

#### 3 効果的なグループ編成を行うために

球技など領域によっては児童生徒の実態等から、以下の留意点を踏まえて、グループを編成しましょう。

##### ＜グループを編成する際の留意点＞

- 各グループに練習や話し合い活動において中心となるリーダーを配置するなど、学習を効果的・効率的に進めることができるようにする。
- グループの中の役割（キャプテン、記録係、得点係など）を明確にし、児童生徒一人一人に存在感や充足感、達成感を味わわせるようにする。

##### ＜グループ編成の仕方＞

- グループ間が均等になるよう編成する（グループ間等質）
- グループ内を同程度の技能等により編成する（グループ内等質）
- グループ内を2つに分ける（兄弟グループ、親子グループ）

#### 4 言語活動の充実のために

言語活動は各教科等において行うこととなっており、体育・保健体育においても言語活動を充実することが大切です。以下の点に留意して体育授業における言語活動の質的向上を目指しましょう。

##### ■思考の前提となる適切な情報の提示

自己の課題解決に向けた資料やグループで作戦を考える場面等での作戦例、運動を行う場の設定など、教師が必要な情報を適切に提示する。

##### ■話し合いの仕方の提示

質の高い話し合いができるように、基本的な進め方を示しながら、話し合いに必要な材料（作戦盤、作戦カードなど）を準備する。

##### ■話したくなる、教えたいような資料の提示

技能のポイントを明確かつ簡潔に示し、友達同士で教え合ったり伝え合ったりできるように教材を工夫する。

##### ■喜びや感動のある楽しい授業展開

児童生徒から自然に、「こうやったらできた！」「作戦が成功した！」など声が出る雰囲気をつくる。

※運動量が減少しないように留意しましょう。

## 5 学習の振り返りができるようにするために

学習の振り返りとして、学習カードや学習プリント等は多くの機会でも活用されています。これらは児童生徒が学習の過程を記録したり、振り返ったりする上で有効な資料となるとともに、教師にとっては評価の資料にもなります。そこで、学習内容に合わせて以下のようなことに留意し、学習カード等を工夫し、効果的に活用しましょう。

- 単元を通しての学習のねらいが書かれ、児童生徒に学習の流れ（学習計画）が分かるもの
- 学習の感想や記録を記入するだけでなく、児童生徒が学習過程を振り返ることができるもの
- 記入に時間のかからないもの

## 6 体育授業を効果的に行うために

体育では運動の技能や知識を学ぶだけでなく、学習に臨む姿勢や取り組み方も重要な学習内容です。そこで、以下の点についてもしっかりと指導しましょう。

- 服装（体育着の着方、体育帽子の着用、など）
- 集合、整列の仕方（合図があったら5秒以内に集合、など）
- 学習に臨む姿勢、取り組み方
- 器具の準備、片付けの仕方（1人で、2人で、グループで分担して、当番制で、など）
- 器具の取扱い方（大切に扱う、危険な扱い方をしない、など）
- 見学者への指導（記録係として参加する、話し合い活動に参加する、などできる範囲で）
- 見学するときの位置（学習活動が見えるところ、気候に応じた場所（日向、日陰…）、など）



### 【保健領域・保健分野】

#### 1 計画的な指導を行うために

保健領域・保健分野の学習を行う際は、身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を重視しましょう。指導に当たっては、以下の留意点を踏まえて指導計画を作成しましょう。

- 適切な時期に、ある程度まとまった時期に学習するようにする
 

児童生徒の興味・関心や意欲などを高めながら効果的に学習を進めるために、学習時間を継続的又は集中的に設定しましょう。さらに、学習内容に問題解決的に取り組めるようにしましょう。
- 運動領域・体育分野との関連を図る
 

「体ほぐしの運動」についての意味や必要性について保健の時間において理解を図り、心の健康で学んだことを「体づくり運動」の時間で実践し理解を深めるなど、心と体の関連を図りましょう。

#### 2 思考力・判断力の育成のために

保健領域・保健分野の指導において、知識を活用する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫をしましょう。また、保健における論理的思考力を育成するため、以下のような学習活動を取り入れ言語活動を充実させましょう。

- 健康に関する資料等で調べたことをもとに課題や解決の方法を見付けたり、選んだりしてレポート等としてまとめる活動
- 学習したことを自分たちの生活や他の事例などと比較したり、関係付けたりし、分かったことを筋道を立てて説明する活動

#### 3 安全に関する指導の充実のために

保健領域・保健分野の学習では、以下のように安全に関する指導内容が位置付けられています。指導に当たっては、避難訓練などの防災教育や安全教育活動と関連付けて指導を行い、自分で判断し、行動できるような実践的な力を児童生徒に身に付けさせましょう。

##### 安全に関する指導内容

###### 〈小学校〉「けがの防止」(第5学年)

- ア 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止
- イ けがの手当

###### 〈中学校〉「傷害の防止」(第2学年)

- ア 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因
- イ 交通事故などによる傷害の防止
- ウ 自然災害による傷害の防止
- エ 応急手当



## 1 単位時間の授業のつくり方

家庭・家庭分野の授業では、実践的・体験的な学習活動を通して、生活に必要な知識や技能を身に付けさせることが大切です。従って、本時のねらいを達成するのに適切な実践的・体験的な学習活動を核にしながら1時間の授業をつくりましょう。

基本的な流れ	指導例：「野菜をゆでておいしく食べよう」(小学校第5学年)																							
<p><b>1 本時の課題をつかむ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習を振り返らせる。</li> <li>・課題は、「①どんな活動を通して、②何を学習するのか」が具体的にわかるように提示する。</li> </ul>	<p>【課題】野菜を食べ比べて気付いたことを話し合い、ゆでる調理のよさをつかもう。</p> <p>○本時は、①野菜を食べ比べて気付いたことを話し合う活動を通して、②「ゆでる調理のよさ」をつかむことを伝える。(5分)</p>																							
<p><b>2 実践的・体験的な活動を行う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察・実験、試しの調理・製作、疑似体験、ロールプレイングなど、ねらいにつながる気付きができるような、実践的・体験的な学習活動を設定する。</li> <li>※一人一人が体験できるよう工夫する。</li> <li>※実習や製作では、この時間が本時のほとんどを占めることになる。</li> <li>※計画作成や発表会、調べたことの報告などもここに含める。</li> </ul> <p><b>3 一人一人が気付いたことをまとめる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通してそれぞれが気付いたことを、言葉や図表を使い書くなどして、自分の言葉でまとめる。</li> <li>※ここが家庭科の言語活動の一つとなる。</li> <li>※実習や製作では、実習計画表や製作記録に反省等を書き込むことがこれに当たる。</li> </ul> <p><b>4 全体で共有する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が気付いたことを言葉や図表を使い全体に発表する。</li> <li>・発表したことを基に練り上げ、本時の課題につなげるようにする。</li> <li>※児童生徒の意見からは、指導者が気付かせなかった内容が出なかった場合には、教師がしっかりと必要なことを伝えていく。</li> <li>※ここが二つ目の言語活動となる。</li> </ul>	<p>○班で、同量の生野菜とゆで野菜を比較する活動を行う。(15分)</p> <p>ゆでたキャベツは透き通ってる。</p> <p>やわらかくなって、量が減っているみたいだね。</p> <p>にんじんは色が濃くなって。味も甘くておいしいよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゆでる調理のよさ」に気付かせるためににんじん(甘み、やわらかさ)とキャベツ(かさ、やわらかさ)を比較させる。</li> <li>・一人一人に、はしを用意するなどして、全員に五感を使って体験させる。</li> </ul> <p>○一人一人がワークシートに気付いたことをまとめる。(5分)</p> <table border="1" data-bbox="794 1346 1414 1509"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>見た目</th> <th>歯ごたえ</th> <th>味</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">キャベツ</td> <td>生</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ゆでる</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">にんじん</td> <td>生</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ゆでる</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○まず、班で、意見をまとめ、そのあと、各班の意見を出し合わせ、ゆでる調理のよさを確認する。(15分)</p> <p>【一人一人が気付いたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かさが減る</li> <li>・柔らかくなる</li> <li>・色が鮮やかになる</li> <li>・甘くなる</li> </ul> <p>➔</p> <p>【ゆでる調理のよさ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆでると食べやすくなり、多くを食べられるようになったりする</li> </ul>			見た目	歯ごたえ	味	キャベツ	生				ゆでる				にんじん	生				ゆでる			
		見た目	歯ごたえ	味																				
キャベツ	生																							
	ゆでる																							
にんじん	生																							
	ゆでる																							
<p><b>5 本時のまとめと次時の予告を聞く。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の生活とのかかわりに触れながら、本時の活動を振り返らせる。</li> <li>・教師から次時の予定を話す。</li> </ul>	<p>○振り返りシートに記入させる。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次は、ゆで方について学習することを告げる。</li> </ul> <p>にんじんは苦手だったけど、今日はおいしく食べられた。早く調理実習をやりたい。</p> 																							

## 1 題材のつくり方

家庭・家庭分野は、生活の中から課題を見つけ、その解決を図って、生活をよりよくすることができるよう、題材計画は、生活から始まり、生活に返すようにすることが大切です。その際、生活に必要な知識や技能を実践的・体験的な学習活動を通して習得させたあと、習得したことを活用して課題解決を図る計画を立てさせ、計画にそって実践できるようにしていきます。

過程	基本的な流れ・指導のポイント	指導例：幼児の生活と家族 (中学校第3学年 全18時間)
見つめる・つかむ	<p>&lt;家庭&gt; 課題把握につながる自分の生活を見つめるための課題を出す。(〇〇についての家族へのインタビュー、我が家の〇〇調べなど)</p> <p>1 題材を貫く課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭での調べ学習の結果を、個々の児童生徒に報告させたり、教師が事前に把握しておき、集計結果として示したりするなどして、自分の生活と関連付けながら、本題材の内容に対する興味・関心を高める。 ※ここを何時間か使う場合もあるし、1時間の中の一部で扱う場合もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子手帳や、写真や遊び道具、家族から話を聞くなどして、自分が小さかった頃の情報をできる範囲で集められるようにする。</li> <li>調べてきたことをいろいろな形でまとめさせたり、交流させたりしたあと、本時の課題をつかませる。</li> </ul> <p><b>【課題】</b>：「幼児の成長と好ましいかかわり方について考えよう」 (2時間)</p>
	<p>2 課題解決に必要な知識や技能を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領で示された指導事項（生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能）を観察・実験、調理・製作、ロールプレイングなど、実践的・体験的な活動を通して習得させる。 ※指導事項が多ければ、ここの時数が長くなる。また、中学校の「生活の課題と実践」の題材では、この過程は省略される。 ※評価の観点は、知識・理解又は技能が中心となる。</li> </ul> <p>3 課題解決のための実践計画を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2で習得した知識や技能を活用し、計画を立てさせる。</li> <li>立てた計画についてグループ等で検討させる。 ※作成する計画の例には、「調理実習計画」「製作実習計画」「買い物計画」「快適な住まいにするための計画」「幼児との触れ合い活動計画」などがある。 ※評価の観点は、工夫し創造する能力が中心となる。</li> </ul> <p>4 実践（実習）する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3で立案した計画に従って、調理実習や製作実習、幼児との触れ合い活動などを行わせる。 ※評価の観点は技能が中心となる。ただし、「買い物計画」や「快適な住まいにするための計画」などの場合には、実践場所は家庭となり、評価の対象にならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオや録音テープの視聴、キッズ体験などを通して、幼児の心身の発達の特徴を理解させる。</li> <li>ロールプレイングを通して、基本的な生活習慣を身に付けさせるための家族の役割を理解させる。</li> <li>幼児の遊び道具を使った遊び体験や、幼児の遊びの観察などを通して、幼児の遊びの意義を理解させる。(8時間)</li> <li>幼稚園を訪問して、幼児との触れ合い体験をするための活動計画を立てさせる。</li> <li>幼児の心身の発達を促し、発達段階にあった、遊びの計画となるよう留意させる。</li> <li>立てた計画に従って、グループでシミュレーションする。(3時間)</li> </ul> <p>・計画に基づき、幼児との触れ合い体験活動を行わせる。 (2時間)</p> 
まとめる・生かす	<p>5 実践（実習）をまとめたり、振り返ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4の実践を振り返り、よくできた点、改善したい点等をまとめる。 ※4を授業で実施したとすれば、ここで、家庭での実践計画を立てさせたり、もう一度、実践するとれば、どこを直すかなどを書き込ませたりしてもよい。</li> </ul> <p>&lt;家庭&gt; 各自の生活の中で学習したことを実践する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習レポートを書かせる。</li> <li>発表会をする。</li> <li>発表も含めて、今後、どのように幼児とかわかっていったらよいかまとめさせる。(3時間)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自の生活の中で、幼児とかわかる機会があった場合に学習したことを生かせるようにする。</li> </ul>

授業充実のためのコツやアイデア

1 一人一人の技能習得のために

(1) 調理実習班を少人数で

調理実習は、クラスの人数÷調理台の数で、実習班を作り、班員が作業内容を分担して、班として実習題材を作るのが一般的です。従って、クラスの人数が40人で、調理台が6台だった場合、6～7人で実習題材を作ることに なります。

調理実習の主たるねらいは、調理に関する技能を児童生徒に習得させることです。ねらいに対して、すべての児童生徒をおおむね満足できる状況にするには、一人一人に技能習得の場をできるだけ多く、かつ時間をかけて提供 することが必要です。その一つの手立てとして、実習班の人数を少なくすることが考えられます。

実習班の人数を少なくするための工夫①ー「少人数クラス編制にする」

40人のクラスが2つあるA中学校では、技術・家庭科の時間は、年間を通して1クラスを20人ずつで実施してい ます。例えば3時間目は片方の20人は技術分野を、もう片方の20人は家庭分野の学習をし、4時間目はその逆の分 野を学習するようになっています。

【A中学校の先生に聞いてみました！】

Q1 1クラスを半分にしようと思ったわけは？

→一人一人にきめ細かく指導したいと考えたため。

また、自分の持ち時数的にも可能だったため。

Q2 始めるに当たって、配慮したことや準備したことは？

→まず、管理職や学年の先生の理解を得る。20人ずつ等質に分ける。

分けたクラスが2時間続きとなるように時間を組んでもらう。

Q3 やってみての効果は？

→生徒の意欲が高まり、特に食に関する学習がよくできる。教師の目も行き届きやすく、技能の指導が細かくで ける。調理実習では、一人一人が主体的に作業に取り組むことができる。

<生徒の声>  
少人数のクラスは、黒板が見や すく、先生の話をよく聞くこと ができて質問しやすいです。先生が、自分のことをよく見てく れていると感じます。また、ス ペースが十分あるので、動きや すく、作業もしやすいです。

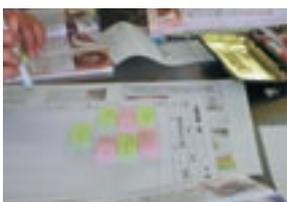


実習班の人数を少なくするための工夫②ー「クラスを半分に分けて調理実習を行う」

全ての授業は難しいかもしれませんが、調理実習は、クラスを半分に分け、片方のグループでは調理実習を、も う片方のグループでは、算数・数学の少人数指導等、他の教科の指導を行います。実習終了後、グループを交換し て指導することにより、全員が少人数での調理実習を行うことができます。

実習班の人数を少なくするための工夫③ー「ペア調理を取り入れる」

調理台の数とクラスの人数によっては、少人数にしなくても、ペア調理が可 能です。ペア調理では、1つの調理台に2ペア を配置し、1コンロを1ペアで使い、実習題材 を作ります。計画を立てるときには、色の違う 付箋紙を用い、作業分担を検討します。2人で シミュレーションしながら計画を完成させた後、 計画に従って、実習します。



付箋紙を用いた実習計画立案の様子



ペア調理の様子

(2) 家庭科も実技テストを

ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査における学校質問紙調査の結果では、 調理技能の評価として、先生方が最も重視しているのは、「実習時の作業の様子で の評価」が73%で、「実技テストにおける評価」を挙げた学校は、26%でした。体 育や音楽の授業では、単元や題材の終わりに技能をみとるテストをするのが一般 的です。包丁の適切な扱い方など、一人一人に必要な技能を確実に身に付けさせ るためには、テストという形式も考えられます。

(3) 用具や設備の整備を

切れない包丁や調子の悪いミシンでは、児童生徒のけがや意欲の低下につなが ります。学習が始まる前には、点検しておくことが大切です。また、管理面だけ でなく、服装や用具等の安全な扱い方など、指導面でも児童生徒と必要なことを 約束しておきましょう。

1本のきゅうりを使って、包丁で切ってみよう

いちょう切り 半月切り ぼうし切り  
せん切り なためうす切り 乱切り 輪切り

※この実習指導で使用する「実技テスト」1本のきゅうりを使用したときの切り方 (いちょう切り・輪切り・なためうす切り・せん切り・いちょう切り・ぼうし切り)を認 んで、包丁の扱い方に慣れ、包丁の安全な取り扱い方を学ばせよう。

切り方	A 実習班		B 実習班		C 実習班	
	実習	評価	実習	評価	実習	評価
いちょう切り	A	A	B	B	C	C
半月切り	A	A	B	B	C	C
ぼうし切り	A	A	B	B	C	C
なためうす切り	A	A	B	B	C	C
せん切り	A	A	B	B	C	C
いちょう切り	A	A	B	B	C	C
実技切り	A	A	B	B	C	C

※この実習指導で使用する調理器具は、実習前と実習後とを比較して、安全な状態に保たせておきましょう。

実習班	実習前	実習後
1組 せん切り	実習前	実習後

実技テストカードの例



## 1 単位時間の授業の作り方

技術分野では、題材全体の指導計画における本時の位置付けを明確にした上でねらいを設定し、それを達成するための実践的・体験的な学習活動を中核として、1 単位時間の授業をつくりましょう。

### 1 基礎的・基本的な事項の指導

基本的な流れ・指導のポイント	指導例 C 生物育成に関する技術 題材名「あまくておいしいミニトマトをつくらう」				
<p><b>1 本時の課題を把握する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの学習を振り返らせた上で、本時の課題を把握できるようにする。</li> </ul>	<p>○A: 単粒構造、B: 団粒構造の2種類の土で育てたラディッシュの苗の生育の違いに気付く。</p> <p>○2つのラディッシュの苗の生育の様子を観察し、栽培に適した土の条件について調べることを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【課題】栽培に適した土について調べよう。</p> </div>				
<p><b>2 学習の手順を確認する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の課題追究の進め方を確認し学習への関心を高め、見通しをもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>到達目標が具体的にとらえられるよう、生徒にわかりやすい表現で課題を提示する。</li> <li>ワークシートを活用するなど、生徒一人一人が本時の学習の見通しをもてるようにする。(10分)</li> </ul>				
<p><b>3 実践的・体験的に課題を追究する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験・実習などにより、課題を追究させる。</li> <li>気付いたこと考えたことなど、根拠を明らかにした上で、自分なりの表現で記録させる。</li> </ul>	<p>○ラディッシュの苗の生育が違う理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同量の水を与え、ラディッシュや土、水の状態を観察させる。</li> <li>一人一人が観察・実験等の体験を行えるよう、活動の時間と場を保障する。</li> <li>観察・実験を通して、気付いたことや考えたことなど、根拠を明らかにした上で、言葉や図などを用いて具体的に表現させる。</li> </ul> <p>&lt;予想される生徒の気付き&gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">Aのラディッシュ(単粒構造)</th> <th style="text-align: center;">Bのラディッシュ(団粒構造)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>水たまりができた</li> <li>土がびっしり詰まっている</li> <li>粒の大きさがそろっている</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>水はけがよい</li> <li>所々すきまがある</li> <li>いろいろな大きさの粒がある</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	Aのラディッシュ(単粒構造)	Bのラディッシュ(団粒構造)	<ul style="list-style-type: none"> <li>水たまりができた</li> <li>土がびっしり詰まっている</li> <li>粒の大きさがそろっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水はけがよい</li> <li>所々すきまがある</li> <li>いろいろな大きさの粒がある</li> </ul>
Aのラディッシュ(単粒構造)	Bのラディッシュ(団粒構造)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>水たまりができた</li> <li>土がびっしり詰まっている</li> <li>粒の大きさがそろっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水はけがよい</li> <li>所々すきまがある</li> <li>いろいろな大きさの粒がある</li> </ul>				
<p><b>4 まとめる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに、言葉や図表を使って活動の成果や意見を交流させる。</li> <li>グループでの交流を基に全体の場で活動の成果や意見を交流させる。</li> <li>交流の結果を踏まえ、板書やデジタル教材などを使って、基礎的・基本的な事項をまとめる。</li> <li>グループや全体の場での交流の結果をワークシートにまとめさせる。</li> </ul>	<p>○グループや全体の場で栽培に適した土について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで交流させ、まとめさせた後、全体の場で発表させる。</li> <li>生徒相互の意見交流を踏まえ、土の構造と特徴について板書にまとめる。</li> </ul> <p>&lt;板書例&gt;</p> <div style="background-color: #2e7d32; color: white; padding: 10px; border: 1px solid black;"> <p>単粒構造・小さな粒だけ、塊にならない、かたい土 目詰まりしやすく、排水性が悪い</p> <p>団粒構造・すき間に空気があり、やわらかい土 通気性、排水性、保水性がよい</p> <p style="text-align: right; color: yellow;">どちらが、作物の栽培に適してる？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>作物の栽培に適した土の構造について理解させる。(35分)</li> </ul>				
<p><b>5 学習の振り返りをする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価や相互評価を基に本時の学習の成果を確認し、次時の学習に向けての見通しをもてるようにする。</li> <li>次時の学習の概要を知らせ、学習内容への興味・関心を高める工夫をする。</li> </ul>	<p>○学習を振り返りワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の自己評価及び相互評価を行わせる。</li> <li>栽培計画立案に向けての個人の課題を整理させ、ワークシートに記入させる。</li> </ul> <p>○学習の振り返りを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各グループ内で相互に感想を交流させ、代表者に全体の場で発表させる。</li> <li>次時の栽培用土づくりの概要を知らせ、いろいろな種類の栽培用の土を拡大提示し簡単に紹介する。(5分)</li> </ul>				

2 実習の指導

基本的な流れ・指導のポイント	指導例 A 材料と加工に関する技術 題材名「木製品を製作して家族にプレゼントしよう」
<p><b>事前</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実習の成果や課題を蓄積しておき、指導・支援の計画を立案する。</li> <li>相互の学び合いができるよう、グループ編成を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の生徒の成果や課題、実習の進度等を生徒と教師が共有できるように、作業工程表やワークシートを工夫して作成する。</li> <li>生徒の知識・技術の習得状況を把握した上で、適切に部品の接合作業が進められるよう支援計画を立てる。</li> <li>個々の生徒の知識・技術の習得状況や製作するものの種類などを踏まえ、グループ編成を行う。</li> </ul>
<p><b>1 本時の課題をつかむ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの実習の成果や課題を振り返り、本時の目標を具体的に設定させる。</li> </ul>	<p>○本時の課題と作業内容を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【課題】加工した部品を接合しよう。</p> </div>
<p><b>2 実習の手順を確認する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業工程表を基に本時の作業手順を確認させ、1時間の学習の見通しをもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業工程表を基に本時の作業の順序や使用する道具等を確認させる。</li> <li>数名の生徒に本時の目標を発表させ作業の留意事項等を確認する。</li> <li>材料や道具等の準備を協力して行わせる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(5分)</p>
<p><b>3 実習を行う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>製作図及び作業工程表に基づき、道具や材料を適切に選択し、安全に留意して実習を行わせる。</li> <li>道具等の保守・点検の徹底を図り、安全な作業環境を確保する。</li> <li>技術の習得状況に応じた個別指導に加え、修正が必要な生徒を集めてのグループごとの指導の場を設定する。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div>	<p>○製作図や作業工程表に基づいて作業を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技術の習得状況に応じ、個別指導やグループごとの指導の場を設定する。</li> <li>適切かつ安全に作業が進められているか机間支援する。</li> <li>次の例のような個別又はグループごとの指導や机間支援を行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;指導・支援の例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正確な接合への意識を高められるように、作業のこつやジグの利用などについて紹介する。</li> <li>工具が適切に使えている生徒を全員に紹介しそのよさを伝える。</li> <li>生徒の作業内容に応じて、工具や機器の安全かつ適切な使い方を指導する。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>【技術向上のための支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●正しい釘打ち                             <ul style="list-style-type: none"> <li>打ち始めはげんのうの平らな面、打ち終わりは曲面を使わせる。</li> <li>ひじを支点にする、手首をきかせるなど、デジタル教材を用いて反復練習させる。</li> </ul> </li> </ul> </div> <div style="width: 45%;"> <p>【修正のための支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●釘抜き、打ち直し                             <ul style="list-style-type: none"> <li>釘抜き、えんま、釘しめなどを用いて丁寧に釘を抜かせる。</li> <li>釘を抜くときには材料に傷を付けないようにあて木を使用させる。</li> <li>まちがってあけた穴をふさがせる。</li> </ul> </li> </ul> </div> </div> </div>
<p><b>4 実習の成果を共有する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実習の成果や課題を共有させ、次の学習に活かせるようにする。</li> </ul>	<p>○作業の結果を相互評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループの中で作業の結果を相互評価させ、よさや課題を共有させたり、アドバイス交換をさせたりする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(35分)</p>
<p><b>5 学習の振り返りをする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価や相互評価を基に本時の学習の成果を確認し、次時以降の作業計画の見直し、修正をさせる。</li> <li>材料や道具等の整理整頓、清掃の徹底など、後片付けも学習の一環として行う。</li> </ul>	<p>○本時の作業を振り返りワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業の成果や課題、感想などを記録させ、次時の部品接合、組立作業に向けての見通しをもたせる。</li> </ul> <p>○後片付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>材料や道具の片付け、ほうき、台ふきなど、後片付けの作業をグループ内で分担させ、効率よくできるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(10分)</p>

## 題材づくりの基本

1年次から3年次までの学習を通して、技術分野の目標を達成できるよう、各指導内容の実実施時数や時期、実習等の内容を検討し、題材の指導計画を作成しましょう。学校の実情や生徒の実態を踏まえ、4つの指導内容を系統的に実施できるように題材を配列しましょう。

過程	基本的な流れ・指導のポイント	指導例 B エネルギー変換に関する技術 題材例「多機能LEDライトの設計・製作」(全16時間)
見つめる・つかむ	<b>1 題材の目標を把握する。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習の見通しや目標が具体的にとらえられるよう学習課題を設定する。</li> <li>具体物やデジタル教材を提示するなど、感動のある導入を工夫する。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>【課題】</b> 省エネや省資源に配慮して、家族で使える多機能LEDライトをつくらう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○題材の目標・共通課題を知る。</li> <li>○多機能LEDライトの設計・製作に関心をもつ。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災による原子力発電所事故や計画停電などを取り上げ、エネルギー利用の課題を考えさせる。</li> <li>エネルギー変換に関する技術の利用例を静止画や動画で提示し省エネ・省資源などの取組を知らせ、多機能LEDライトの設計・製作への関心を高める。(2時間)</li> </ul> </li> </ul>
	<b>2 学習の見通しをもつ。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が学習の見通しをもてるように、学習プリントなどを用いて学習の流れを示す。</li> </ul>	
追究する	<b>3 設計(計画)する。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の興味・関心や能力に応じて課題を追究できるよう、基礎的・基本的な事項の確実な定着を図る。</li> <li>生徒の思いや発想、工夫を実現できるように、構想を練るための場と時間を十分に確保し、個別に指導助言を行う。</li> <li>市販教材を用いる場合であっても、設計(計画)の場を設定して、そのために必要な知識・技術を習得させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多機能LEDライトを設計する。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>模型等を使いエネルギー変換・利用の方法と、動力伝達の仕組みを知らせる。</li> <li>電気機器の分解、組立などの実習を通して機器に使われている部品の種類や特徴、保守点検の方法と必要性を知らせ、安全な利用について考えさせる。</li> <li>多機能LEDライトのアイデアについての生徒相互の交流を取り入れ、構想を十分に検討させる。</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>予想される生徒のアイデア</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>変換効率の高い手回し発電機を取り入れる</li> <li>太陽電池を取り入れる</li> <li>LEDの色や大きさ、数を工夫する</li> <li>人の動きを感知して電源のオンオフができるようにする</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>交流の結果を生かし製作図・作業計画を作成させる。</li> <li>○多機能LEDライトを製作する。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>作業計画に沿って製作させ、習熟の必要な作業については、技術の定着を図る時間と場を設定する。</li> <li>生徒の作業進度を把握・調整し、進度差の軽減を図る。</li> <li>製作したLEDライトの点検、調整、修理を行わせる。</li> <li>調整・修理に対応できるよう電気部品等の予備を準備する。(12時間)</li> </ul> </li> </ul>
	<b>4 身に付けたことを生かして実習する。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた指導・支援に心がけ課題解決を繰り返しながら実習を進められるようにする。</li> <li>課題追究の進度に応じて、提示教材等を活用し、工具や機器の適切な使い方等を指導する。</li> </ul>	
まとめる・生かす	<b>5 技術の適切な評価・活用について考える。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習の成果を発表させたり、相互評価させたりして共有させる。</li> <li>技術に関する現状や課題、これからの活用について、自分なりの考えをもてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エネルギー変換に関する技術の有効利用について考える。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>多機能LEDライトを家庭に持ち帰り、利用した結果や家族の感想を持ち寄り交流した上で、自己評価させる。</li> <li>エネルギー変換に関する技術が社会や環境に果たしている役割やCO<sub>2</sub>排出量の問題、エネルギーの有効利用への新しい取組など、新聞やインターネットの情報を基に話し合わせる。</li> <li>省資源・省エネルギーなどを視点として、新しい技術や身近で役立つ新製品などの企画を考案させる。</li> </ul> </li> <li>○学習を振り返りワークシートに記入する。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>学習の成果、身に付いた事項を確認させ、次の内容の学習に向けての見通しをもたせる。(2時間)</li> </ul> </li> </ul>
	<b>6 学習を振り返る。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価や相互評価に基づき学習成果を確認させ、次の学習に向けての見通しをもたせる。</li> </ul>	

## 授業の充実のためのコツやアイデア

### 1 ガイダンス的な学習の充実を図るために

1年次の初めに実施するガイダンス的な学習では、次のような内容を盛り込み、生徒の技術分野の学習への興味・関心を高め、3年間の学習の見通しをもたせるようにしましょう。

- 工具等の利用やものづくりなどの実習を取り入れ、生徒の関心や知識・技術などの実態把握を行い、個に応じた指導・支援に活かしましょう。
- 技術室やコンピュータ室の利用方法やきまり、学習の進め方などのオリエンテーションを行い、整理整頓や安全指導を徹底しましょう。

#### 題材例【プランター付きフォトスタンドをつくらう】

木材・金属・プラスチックの加工、使用する機器の仕組みと保守・点検、草花の栽培、デジタル画像の編集など、4つの内容を盛り込んだ実習が無理なくできる、ガイダンス学習用の製作題材。



### 2 限られた時数の中で効率的に実習を実施するために

次の例のように複数の学習内容を融合した実習を取り入れることで効率的に進めましょう。

- ペットボトルを再利用した「植物栽培用ポット」と「木製プランター」を、「材料と加工に関する技術」の製作題材として扱い、「生物育成に関する技術」の土づくりや苗の移植を並行して実施する。
- 「エネルギー変換に関する技術」で製作したリモコン型のロボット教材に、制御用の回路を搭載して、プログラムによる計測・制御の教材として利用する。
- 「生物育成に関する技術」で栽培するエダマメの成長記録をデジタルカメラなどで撮影しておき、「情報に関する技術」のデジタル作品の設計・製作の学習で、種まきから収穫までの様子をビデオクリップにまとめる。



製作例【ペットボトルポットと木製プランター】

### 3 専門的な内容に対応するために

次の例のように外部人材を活用し、専門的な技術についての生徒の興味・関心を高め、専門的な内容についての指導の充実を図りましょう。

- 近隣の農業科や工業科の専門高校と連携して出前授業を実施したり、訪問による体験学習を実施したりして、専門的な技術に触れる機会を設定する。
- 地域の商工会と連携して、桐下駄や曲げわっぱづくりなど、伝統的な技能を身に付けたゲストティーチャーを招聘し、専門的な技術に触れる機会を設定する。



農業科教諭による出前授業「庭木の剪定実習」

### 4 生徒と教師が学習の進捗や達成状況を把握するために

技術分野の実習では、個々の生徒の取組や目標の達成状況を見取り、指導・支援に役立てていくことが重要です。そのためには、作業工程表や計画表などの学習プリントを工夫して作成し、生徒の自己評価や感想など、学習の履歴を蓄積しておくことが有効です。

#### <学習プリントに盛り込みたい内容>

- 題材名…学習への関心を高める題材名を示す
- 学習課題…共通課題を具体的に示す
- めあて…生徒が自分で考え記述する
- 学習計画…学習の流れに沿って生徒が計画を記述する
- 学習履歴…生徒が学習成果を記録する
- 自己評価…生徒が学習を振り返り自己評価する
- 感想…単位時間ごとの学習の感想を記述する
- 教師所見…教師から生徒への助言を記述する

#### <自己評価項目・感想欄の例>

観点	評価項目
関心	・今日の学習に進んで取り組めた。
工夫	・自分で考え工夫して学習できた。
技能	・道具を正しく使い正確に作業できた。
知識	・今日の学習で分かったことを説明できる。
感想	

※評価項目は学習内容等に応じて具体的な表現で設定する。

## 1 単位時間の授業のつくり方

外国語（中学校）の1単位時間は、本時のねらいや題材全体における位置付けなどによって異なりますが、一般的に下記の流れが基本となります。

基本的な流れ	指導のポイント
<p><b>1 既習事項の復習をする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単語や基本表現の復習をする。</li> <li>・前時に学習した本文の内容の復習をする。</li> </ul>	<p>○前題材までに学習した言語材料の定着をねらった活動を行いましょう。</p> <p>例・既習の単語を5回書く。</p> <p>・既習の基本文を用いて2文程度で昨日の行動を話す。</p> <p>○本時の課題につなげる復習を行いましょう。</p> <p>例 前時に学習した基本文の構造や使用場面を確認する。</p> <p>前時に学習した本文の要約を言わせる。</p>
<p><b>2 本時の課題をつかむ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で学習する中心的な表現を知る。</li> <li>・本時で学習する本文の読みのめあてなどを知る。</li> </ul>	<p>○本時の学習内容について、興味・関心がもてるように課題の提示の仕方を工夫しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その表現が使えると、どんなことが伝えられるようになるか（言語のはたらき）を知らせる。</li> <li>・ピクチャーカード等を用いて英文の概要を知らせ、イメージをもたせる。</li> </ul>
<p><b>3 新出言語材料を理解する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出単語や連語の意味、綴りを理解する。</li> <li>・新出表現の構造や使用方法を理解する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><i>I usually go shopping every Sunday.</i></p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><i>I went shopping yesterday.</i></p>  </div>	<p>○生徒に新出言語材料を理解させるための説明や活動を工夫しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主語や目的語などを換えて口頭練習を行う。</li> <li>・新出の文法事項とともに既習の文法事項を活用する活動を設定する。</li> </ul> <p>○新出言語材料について実際に使われる場面がイメージできるよう場面設定を工夫しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出言語材料の使用場면을生徒の身近な場面に置き換えてALTとデモンストレーションを行う。</li> <li>・新出の言語材料を用いて自分のことや考えなどを書かせる。</li> </ul>
<p><b>4 本文の内容等を理解する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大切な部分や概要などを読み取る。</li> <li>・新出言語材料の使用場面などを理解し、その表現を用いたコミュニケーション活動を行う。</li> </ul>	<p>○読む力を育成する手立てを工夫しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読みの視点を与え、それらにそって読み取りを行わせる。</li> </ul> <p>視点の例 「気持ちの変化」「筆者の主張」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・句のまとまりごとに区切って音読をさせる。</li> <li>・教科書2ページ分を日本語で要約させる。</li> </ul> <p>○英文の内容（話題）や言語材料を用いて、コミュニケーション活動を設定しましょう。</p> <p>例 主人公の行動や考えで好きなところとその理由を友達に伝える活動</p>
<p><b>5 本時のまとめを行う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出言語材料や本文の内容を確認する。</li> </ul>	<p>○本時のねらいの達成状況について振り返りカード等で確認させましょう。</p> <p>○次時の学習内容について触れ、意欲をもたせましょう。</p>

※題材の特性やねらいに合わせて、1→2→3→5 や 2→1→4→5 の流れにするなど、構成を工夫しましょう。

外国語活動（小学校）においては、音声を中心とした授業展開となります。

まずは児童が十分に英語を聞いて、その後ALTや友達とコミュニケーションを図っていくような流れにしていきたいと思います。

生徒が英語に触れる時間をできるだけ確保しましょう。



## 1 題材のつくり方

### 1 外国語（中学校）

一般的に英語の題材指導計画は、題材を通して単語や文法事項を学び、それらを運用（活用）することで定着に向かうという流れになります。この流れの中で、思考力・判断力・表現力を高め、コミュニケーション能力の基礎を養っていくために、1題材の学習の中に言語活動をどのように組み込んでいくかがカギとなります。指導計画を作成するには以下の点に留意しましょう。

- ・題材の特性等を考慮して、各題材で育成したい力を明確にする。
- ・教科書の流れや活動が生徒の実態等に合っているかどうかを吟味し、必要に応じて流れや活動を工夫する。
- ・「繰り返しの・スパイラル的に行う言語活動」と「複数の技能を統合した言語活動」をバランスよく配置する。

#### 【題材指導計画の学習過程】

学習過程	基本的な流れ・指導のポイント	「読む力」の育成に焦点を当てた指導例 (物語文〇〇を読んで感想を発表しよう)
1次	<p><b>1 題材を見通して課題をつかむ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この題材でどのようなことができるようになるかを示したり、題材の内容について興味・関心をもたせたりする。</li> </ul>	<p>○<b>題材の概要や主な言語活動の内容を知る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語文〇〇を読んだ感想を英語でまとめ、本題材末で発表することを知らせ、題材の見通しをもたせる。</li> <li>・ピクチャーカード等を示しながら、登場人物の特徴等について英語で紹介し、興味・関心をもてるようにする。</li> </ul>
2次	<p><b>2 新出言語材料を理解する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出言語材料を実際に使用する場面を想定した活動を設定する。</li> <li>・練習量を確保するとともに、選択したり考えたりして新出言語材料を使用する活動を設定する。</li> </ul> <p><b>3 まとまりのある英文の内容を理解する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読みの視点を与えるなどしてまとまりのある英文を読む力を育成する。</li> <li>・音読の仕方を工夫し、音声と意味を関わらせながら読ませる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>上記の流れを、ねらいや題材の特徴等に応じて、繰り返して扱う。</p> 	<p>○<b>接続詞becauseの用法を理解する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接続詞becauseの構造や使用場面について説明する。</li> <li>・基本文を用いた3文程度の例文を3～4セット用意し、読み取りの練習を行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>&lt;例&gt; 新出言語材料(接続詞 because の用法)を用いて実際に使用する場面を想定した例文 <i>Baseball is a wonderful sport. So I belong to a baseball club.</i> <i>I like to watch MLB on TV because many Japanese baseball players are active there.</i></p> </div> <p>○<b>題材の前半部分を読んで内容を理解する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いつ、どこで、だれが、どうした」などの視点を示して、概要をつかませる。</li> <li>・句のまとまりで区切って全員で音読（SlashReadingなど）したり、T・Fテストを行ったりして、概要を確認させる。</li> <li>・段落のまとまりで意味をとらえさせるために、段落ごとにキーワードや筆者の主張を抜き書きさせる。</li> <li>・興味をもった文を抜き出し、その文に新出言語材料because（whenやif）を用いて理由や感想などを付け加え、書きためさせる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【後半も同様の流れ】</p>
3次	<p><b>4 題材で学んだ言語材料を活用した言語活動を行う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出言語材料を活用するために複数の技能を統合した言語活動を位置付ける。</li> </ul>	<p>○<b>文章全体を読んだ感想をまとめ発表する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章全体を通して読ませ、書きためた文につなぎことばなどを加えて感想文をまとめさせる。</li> <li>・グループ内で発表させ、お互いに日本語でコメントを言わせる。</li> </ul>

3次の言語活動に向けて少しずつ積み重ねていく構成にしたいですね。

## 1 題材のつくり方

### 2 外国語活動（小学校）

一般的に外国語活動の単元指導計画は、単元を通して、基本的な表現や単語の音声に触れながら、コミュニケーション活動を通して、それらに慣れ親しむという流れになります。そのために、**聞く活動から始まり、その後コミュニケーション活動へとつなげていく**といった単元の構成にしていくとよいでしょう。

“Hi, friends!”においても上記の流れを踏まえ、**【Let's Listen】、【Activity】**などの活動が配列されていますが、「聞くこと」に十分時間を取ってから「話すこと」につなげられるよう、**順序や内容を工夫して単元の流れを構成**しましょう。

(1) 単元指導計画の学習過程の例（Hi, friends! 1 Lesson8「夢の時間割」を作ろう）

学習過程	基本的な流れ	活動例	中心となる技能
第1時	単元の内容や活動に興味をもつ	・教科などの英語の言い方を知り、それらを用いて単元末に自分の好きな時間割を作成することがわかる。 【Let's Listen 1】「今日の時間割」の話聞いて理解する。 【Let's Play 1】ヒントを聞いて教科などを当てる。	聞く
第2時	新出言語材料に慣れ親しむ	・教科、曜日や「～を勉強します」の言い方に慣れ親しむ。 【Let's Play 2】好き嫌いを聞き取ろう（キーワードゲーム） 【Let's Sing】♪ Sunday, Monday, Tuesday ♪の歌を歌う。	
第3時		・好きな教科の名前とその理由の言い方に慣れ親しむ。 【Let's Sing】♪ Sunday, Monday, Tuesday ♪の歌を歌う。 【Let's Chant】♪ What do you study? ♪のチャンツをする。 【Let's Listen 2】外国の学校生活の様子を聞いてメモをする。	
第4時	コミュニケーション活動を行う	・教科、曜日など、慣れ親しんだ表現を用いて自分の好きな時間割を作り、ALTや友達と紹介し合う。 【Let's Chant】♪ What do you study? ♪のチャンツをする。 【Activity】自分の好きな時間割を作って紹介し合う。	話す

(2) 単元指導計画作成の際に留意したいこと

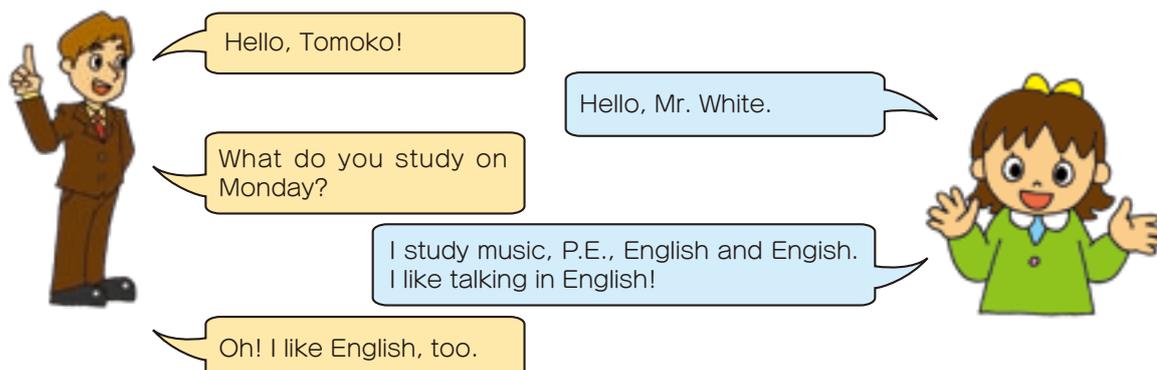
① 単元の前半では特に**聞く活動を多く設定**しましょう。

一つの表現について、単に繰り返し聞くだけの活動ではなく、「児童が興味のあるものに一部換えて聞かせる」「児童に想像させながら聞かせる」など、**内容や聞かせ方を工夫**しましょう。また、聞いたことをもとに「絵を選ぶ」「体を動かす」など、**つながりのある活動を設定し、楽しみながら何度も聞かせ**ましょう。

② 単元の後半で、その単元などで**慣れ親しんだ表現を用いたコミュニケーション活動の場を設定**しましょう。

単元で慣れ親しんだ表現を用いて、友達やALTとコミュニケーションを図る活動を設定することで、実際の使用場面や方法を理解させ、充実感や達成感を味わわせることができます。「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を育成するために、実際に多くのコミュニケーションの体験をさせましょう。

【夢の時間割は？】



## 授業の充実のためのコツやアイデア

### 1 外国語

#### (1) 教科書を効果的に活用するために

○教科書の内容を均等に扱うことが、必ずしも生徒の実態に合っているとは限りません。生徒の実態等から育成したい力などを明確にして、内容に軽重をつけて**重点化**を図ったり、**時間配分を工夫**したりして教科書を活用しましょう。

<例>

生徒の実態から、書く活動が多く負担が大きいと予想できる場合、一部を削除して補足的な学習を取り入れる。

○教科書で扱っている場面を生徒がイメージしやすいものに換えたり、言語活動の話題を生徒が興味をもっているものに換えたりするなど、生徒の実態等に応じた工夫をしましょう。

<例>

- ・観光名所の例文を地元の例に換えて提示する。
- ・どちらが好きかについて意見を集約して説明する言語活動の「洋画と邦画」をよくクラスで話題になる「学校の給食のメニュー」に換えて行う。

#### (2) 言語材料を着実に定着させるために

○ねらいや場面に応じて繰り返して学習するための**内容や方法**を工夫しましょう。

<例>

- ・インプット重視で、同じ文を繰り返し聞かせたり、リピートさせたりする。
- ・授業の始めに曜日や天気などについて問う。
- ・過去形を学習する際に、現在形の用法と対比させて使用させる。

#### (3) 自主的に英語の学習に取り組む生徒を育成するために

○学年や実態に応じて計画的に学び方の指導を行きましょう。

<例>

読むことの指導において、1年生では読みの視点を与えて「読み方」を学ばせる。徐々に教師が視点やヒントなどを与えずに読ませ、3年生では生徒自身が読みの視点をもって読めるようにする。

○日常生活においても、英語に触れられるようにしましょう。

<例>

- ・日常生活で英語を聞いたり読んだりできる場面を示す。
- ・ALTや地域の外国人と普段から交流するよう働きかける。

## 2 外国語（外国語活動）

### コミュニケーション能力を育成するために

○コミュニケーションをしたくなるような学習活動を下記の点を踏まえて意図的に計画しましょう。

- ・興味・関心を高めるために、「身近でイメージしやすい」「共感しやすい」「新たな情報が得やすい」「発展しやすい」などを観点として活動を設定する。
- ・充実感や達成感を味わわせられるよう、表現の**難易度や分量**を吟味する。
- ・伝えたい思いや考えがもてるような場面設定や支援を行う。
- ・活動のねらいを明確にしたゲーム的活動を設定する。

## 3 外国語活動と外国語のつながり

### 小学校と中学校の学習がつながっていくものとするために

○授業参観、情報交換、チーム・ティーチングなどの教員同士の交流を行きましょう。また、中学生が小学校に行って英語で学校紹介をするなどの、児童生徒の交流を地域や中学校区の実態に応じて行いましょう。

## 1 単位時間の授業のつくり方

道徳の時間の目標は、道徳的実践力を育成することです。指導においては、児童生徒一人一人が道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深められるよう適切な指導過程や指導方法を工夫しながら1単位時間の授業をつくりましょう。

指導過程	基本的な流れ	指導のポイント
導入	1 本時の主題についての関心を高め、価値への方向付けを行う。	<p>○資料提示を工夫し、ねらいとする道徳的価値に関する問題の発見や意識化を図り、主題について学ぼうとする意欲を高めましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活経験等の振り返り</li> <li>・アンケート結果の提示</li> <li>・新聞記事や児童生徒の作文等の活用</li> <li>・地域の人々の参加・協力</li> </ul> <p>児童生徒の意識を短時間で的確にねらいとする道徳的価値に向かわせることが大切です。</p>
展開	2 中心的な資料によって、ねらいとする道徳的価値の追求・把握を行う。	<p>○資料の登場人物に自分を重ねて、その苦悩や葛藤、感動に共感できるように指導の工夫をしていきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居、影絵、人形やペープサート等、資料提示を工夫する。</li> <li>・役割演技や動作化により、登場人物の感じ方や考え方を意識できるようにする。</li> </ul> <p>○資料の吟味を十分に行い、児童生徒の実態に合った発問を2～3に絞りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心発問は、多様な考えを引き出し、考え方の違いが明確になるようにし、それに基づいて問題場面や事象についての話し合いを行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【中心発問】(例)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主人公はどんな気持ちだったか？」 → 【道徳的心情】</li> <li>・「主人公はどう考えたか？」 → 【道徳的判断力】</li> <li>・「主人公はどうしようと思ったのか？」 → 【道徳的実践意欲】</li> </ul> <p><b>【話し合い活動】(例)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隣同士のペアで → ・少人数のグループで → ・学級全体で</li> </ul> </div> <p>○道徳的価値の自覚を深めるためには次の三つの事柄を押さえましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳的価値について理解すること (価値理解) (人間理解) (他者理解)</li> <li>○自分とのかかわりで道徳的価値をとらえること (価値理解) (自己理解)</li> <li>○道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培うこと (自己理解)</li> </ul> </div>
	3 ねらいとする道徳的価値に照らして自分自身を振り返る。	<p>○価値を追求した後に、資料から離れて自分の行為や経験に目を向けさせ、よりよい生き方について自覚できるようにしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の経験を問う際は、今まで書き留めた道徳ファイルや心のノート等を活用する。</li> <li>・自分自身の考えを友達と交流できるよう少人数での話し合いを行う。</li> </ul> <p><b>【発問】(例)</b>「ねらいとする道徳的価値について、今までの自分はどうかあったか。」等。</p>
終末	4 ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめる。	<p>○本時の学習を振り返って、ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめさせ、実践への意欲が高まるように指導を工夫しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説話として道徳的価値にかかわる教師の体験談を語る。</li> <li>・板書などを利用して本時の学習を整理する。</li> <li>・偉人の名言、ことわざ、児童生徒の作文、心のノート等の補助資料を用いて学んだことを深く心に留める。</li> </ul>

指導例

- 1 主題名 本当の友達とは 2 - (3) 信頼・友情
- 2 資料名 「絵はがきと切手」(出典 文部省 道徳の指導資料とその利用 3・生活文 辺見兵衛 作)
- 3 ねらい 友達を信頼するよさを感じ、友情を深めていこうとする心情を養う

指導過程	学習活動	主な発問 (予想される児童生徒の反応)	
導入	<p>1 友達がいてよかった経験を発表し合う。(5分)</p> <p>ねらいとする道徳的価値への方向付けを行う。</p>	<p>○友達がいてよかったと思うことはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いっしょに遊んで楽しかったとき、友達がいてよかったなって思った。</li> <li>・困っているときに助けてもらって、うれしかった。</li> </ul>	<p>○アンケート結果や写真等の提示、生活経験の話合い等を通して児童生徒の意識をねらいとする道徳的価値に向かわせ、価値への方向付けを行います。</p>
	展開	<p>2 資料を読み、広子の心の動きを考える。(25分)</p> <p>ねらいとする道徳的価値の追求・把握を行う。</p>	<p>○正子から絵はがきをもらったとき、どんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すてきな絵はがきをもらってうれしい。</li> <li>・いっしょにいきたくないなあ。</li> <li>・心がおだやかになった。</li> </ul> <p>○返事を書こうとして、どうして迷ってしまったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教えた方がいいと思うけど、正子を傷つけてしまうかもしれない。</li> <li>・教えたら嫌われてしまうかもしれない。</li> <li>・友達なら言っても平気だと思う。</li> <li>・このままだと、正子さんは、ほかの人にも同じ間違いをしてしまう。</li> </ul> <p>◎どんな気持ちから間違いを教えようと決めたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正子さんなら自分の気持ちをわかってくれると思ったから。</li> <li>・正子を傷つけてしまうけど、教えないと同じ間違いをしてかわいそうだと思ったから。</li> <li>・間違いを伝えることが本当の友達だと思うから。</li> </ul>
<p>3 今までの自分はどうであったか振り返る。(5分)</p> <p>ねらいとする道徳的価値に照らして自分自身を振り返る。</p>		<p>○今までに友達のことを思って、言いにくいことでも伝えてあげたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の答えを教えている友達に、「やり方をきちんと説明した方が友達のためだよ。」と注意した。</li> <li>・木琴の演奏で、ばちのたたき方をもう少し軽くした方がいいということをし、言いにくかったけど思いきって言った。</li> </ul>	<p>○中心発問により、間違いを教えようと思った広子の気持ちについて考えることで、信頼・友情に関する価値理解を深めます。(価値理解)</p> <p>併せて、小グループでの話し合いなど、友達と考えを交流することで、信頼・友情に関する道徳的価値のとりえは、人によって様々であることに気付かせます。(他者理解)</p>
<p>4 本時を振り返って、感想を記述したり発表したりする。(10分)</p> <p>ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめる。</p>		<p>○自分と友達のことを振り返り、大切だと思ったことを書きましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達だからこそ正しいことを伝えていきたい。</li> <li>・友達のことを信じる気持ちが大切だ。</li> <li>・何でも言い合えるのが本当の友達だと思う。</li> </ul>	<p>○展開前段で理解した道徳的価値について、今までの自分はどうであったか振り返らせることにより、道徳的価値を自分とのかかわりでとらえさせます。(自己理解)</p>
終末			<p>○教師の説話として、体験談を話すことで、友達を信頼することのよさや友情の大切さについて感じ取らせませす。</p> <p>「望ましい価値観の押し付け」や「望ましい行為、行動の決意表明」にならないように留意します。</p>

道徳

## 授業の充実のためのコツやアイデア

### 1 想像、共感をかき立て、道徳資料の世界へ引き込むために

道徳の時間で活用する資料の提示の仕方によって、児童生徒の興味・関心や理解の深まりが左右されます。主人公の感じ方や考え方を想像し共感できるようにするために、資料提示の方法を工夫しましょう。

- 大型絵や紙芝居などを用いる方法
- 影絵、ペープサートなどを生かす方法
- 実物や写真等を生かす方法
- 音声や音楽の効果を生かしたりする方法
- 黒板を舞台のようにして提示する方法
- 外部講師等の参画を得る方法 など

多くの情報を提示することが必ずしも効果的だとは言えず、選り抜かれた情報の提示が想像をふくらませる上で効果的な場合もあります。

### 2 児童生徒の心を動かし、多様な考えを引き出すために

児童生徒の心を動かし、思考や話し合いを深めるためには、発問が重要な鍵になります。児童生徒の意識の流れを予想し、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めることができるよう発問を工夫しましょう。

- 児童生徒のこだわりや問題意識が生かされ、生み出される発問
  - ・「この資料を読んで気になったことは何か。」
  - ・「この資料を読んでみんなで考えたい箇所はどこか。」
- 発言の自由度があり、個性的な考えが生かされ、引き出される発問
  - ・「この資料を読んで感じたこと、考えたことは何か。」
  - ・「主人公のとった行動について、どう思うか。」
  - ・「主人公はこのときどんな気持ちだっただろうか。」
- 考える必然性や切実感があり、心が揺さぶられる発問
  - ・「本当の思いやりとはなんだろうか。」
  - ・「ルールを守ることは大切だが、この場面ではどうか。」



資料中にかかっている道徳的価値を明らかにするとともに、具体的に何について児童生徒に考えさせるのか、その考えを深めることができるような具体的な発問を準備しましょう。

### 3 児童生徒相互が考えを伝え合い、学び合い、深め合うために

児童生徒相互の考えを深める上で、話し合いは重要な学習活動です。「意見を出し合う」、「比較する」、「まとめる」など、目的に応じて効果的に話し合いが行われるよう工夫しましょう。

- 全体討議、ペアやグループによる話し合い
  - ・目的に応じて話し合いの形態を工夫し、伝え合い、聞き合うことで、友達の考え方に対する理解を深めたり、自分の考え方を明確にしたりできるようにする。
- 心の様子や考えの立場の色、類別等による視覚化
  - ・名札の活用、帽子による色分けなど一人一人の立場を明確にした話し合いができるようにする。
- 座席の工夫（コの字型など）
  - ・児童生徒がお互いに顔を見合わせ、一人一人の感じ方や考え方を伝え合い聞き合うことができるようにする。



本時のねらいの達成に向けて、話し合いを効果的に展開し、児童生徒の道徳的なものの見方や考え方を深めていくことが大切です。

#### 4 考えを書く活動を充実させるために

書く活動は、一人一人の児童生徒が自らの考えを深めたり、整理したりする機会として重要な役割をもちます。道徳的価値の自覚を深めるため書く活動を工夫しましょう。

- 吹き出しを付けた形式
- 自分のことを伝える手紙の形式
- 絵や記号等で書く形式
- 自己評価欄を置いた形式
- ロールレタリング形式
- 終末での振り返り

児童生徒が書いたものはファイルなどして、自分自身の感じ方や考え方の変化を確かめたり、自分自身の成長を実感したりするなど、心の成長の記録として活用しましょう。



#### 5 多様な表現方法で一人一人の考えを引き出すために

表現活動は、ねらいの根底にある道徳的価値についての共感的理解を深め、自分とのかかわりで道徳的価値をとらえる上で有効です。体験的な活動をもとに、児童生徒一人一人の生き生きとした考えを引き出せるようにしましょう。

- 役割演技…特定の役割を与えて即興的に演技し深める方法
- 動作化…動きを忠実に真似して、実感的な理解を深める方法
- 劇化…動きやせりふの真似をして理解を深める方法

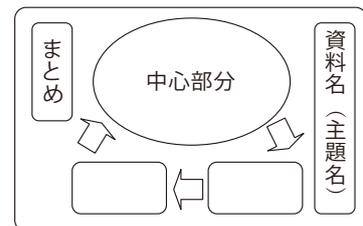
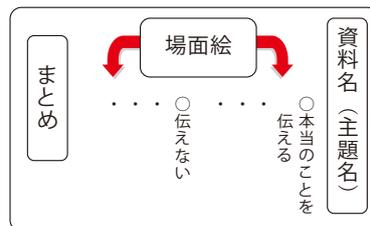
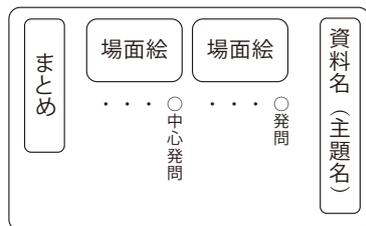
活動を取り入れる目的やねらい達成の見通しをもち、場面設定をしっかりとしておくことなど事前の十分な準備と配慮が大切です。



#### 6 板書で児童生徒の意識の流れを整理し思考を深めるために

板書は、児童生徒にとって思考を深める重要な手掛かりとなります。教師の伝えたい内容を示したり、その順序や構造を示したり、内容の補足や補強をしたりして、板書を工夫しましょう。

- 思考の流れや順序を示す順接的な板書
- 違いや多様さを対比的、構造的に示す板書
- 中心部分を浮き立たせる板書



黒板を劇の舞台のように生かす板書や、児童生徒の考えを取り入れ、児童生徒と共につくっていくような板書を心掛けることも大切です。

#### 7 児童生徒の心情に訴え深い感銘を与えるために

説話とは、教師の体験や願いなどを児童生徒に語って聞かせる指導方法です。ねらいの根底にある道徳的価値を児童生徒がより一層主体的に考えられるようにするため、教師自身の言葉で語る説話を工夫しましょう。

- 教師の忘れられない体験や願いを話す
- 日常の話題や学級での出来事の中から印象的な話題を中心に話す
- ことわざや格言、心に残る言葉、心のノートなどを生かして願いを伝える

## 1 単元のつくり方

### 1 単元計画の作成に当たって

総合的な学習の時間では、地域や学校の特色、児童生徒の実態等に応じた各学校独自の学習活動を展開することが大切です。そのためには、学習対象（教材）を開発して、自校の単元計画を作成し、新たな授業を生み出すといった、創造的な姿勢で取り組みましょう。

単元の作成に当たっては、以下のような手順で取り組むとよいでしょう。

#### (1) 学習活動のイメージをもつ

自校の総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画を踏まえ、「児童生徒の興味・関心はどこにあるのか」「児童生徒にどのような力を付けるのか」「地域にどのような教材があるのか」等の視点から、児童生徒に取り組みせたい学習活動をイメージする。

#### (2) 児童生徒の学習活動への取り組みを予測する

学習活動のイメージを基に、「児童生徒が学習対象と関わる中でもつであろう問題意識は何か」「その問題を解決するためにどのような学習活動を展開するのか」「学習活動を通して、児童生徒はどのようなことを学ぶのか」等を多面的に予測する。

#### (3) 単元計画を作成する

予測を基に単元を構成する諸活動を考え、各学習活動が児童生徒の意識や活動の自然な流れに沿ってスムーズに展開されるように単元計画を作成する。

## 2 単元の基本的な流れと指導のポイント

過程	基本的な流れ (□内は、児童生徒の意識)	指導のポイント
つかむ (課題の設定)	<b>1 学習対象（教材）と出会う。</b> ・体験をしたり、専門家の話を聞いたり、資料を読み取ったりして、気付きや疑問、あこがれをもつ。 □内： <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ〇〇のようになるのだろうか。</li> <li>・△△にならないのはなぜかな。</li> <li>・□□さんのようになりたいな。</li> </ul>	<b>○学習対象に興味・関心が向くようにする。</b> ・児童生徒が「面白い」「不思議」など、学習対象に興味・関心をもてるような出会いを工夫する。 <工夫の例> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に見られる身近な問題を取り上げる。</li> <li>・「ずれ」や「隔たり」、「あこがれ」が生まれるような体験をさせる。</li> <li>・比較や類推が可能な資料を提示する。</li> </ul>
	<b>2 課題を設定する。</b> ・気付きや疑問を整理し、共有する。 ・追究の可能性を検討する。 □内： <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな疑問が出てきたぞ。</li> <li>・たしかに〇〇は不思議だな。</li> <li>・△△について詳しく知りたいな。</li> <li>・□□なら自分たちで調べられそうだね。</li> <li>・●●のことを調べるのは難しそうだよ。</li> </ul> ・中心課題（共通課題）を設定する。 ・個人の課題を設定する。	<b>○児童生徒が自ら課題をもてるようにする。</b> ・課題は、追究の方向を決定したり目的を共有したりする上で非常に重要なもの。教師から一方的に提示するのではなく、児童生徒が自らもてるように工夫する。 <課題のもたせ方の例> <ol style="list-style-type: none"> <li>①気付きや疑問を出し合わせる。</li> <li>②出された気付きや疑問を分類・整理し、追究する価値があるか、追究が可能かどうかなどを話し合わせる。</li> <li>③「〇〇の解決策を調べよう」など、中心課題を児童生徒とともに設定する。</li> <li>④中心課題に基づき、個人の課題を設定させる。</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">                         わたしは、△△について詳しく調べたいな。                     </div> 

<p>つかむ (課題の設定)</p>	<p><b>3 追究の見通しをもつ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予想や仮説を立てる。</li> <li>・調査内容と調査方法を定める。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○○の原因は△△ではないかな。</li> <li>・△△がわかれば解決できるぞ。</li> <li>・△△は□□の方法で調べられると思うよ。</li> </ul> </div>	<p>○追究の内容と方法を明確にさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決に向けて、追究の内容や方法を明確にし、見通しがもてるようにする。</li> </ul> <p>＜追究の内容や方法を明確にする例＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 予想や仮説をもたせ、それを確かめるために必要なことを考えさせる。</li> <li>② 「何を調べるのか」「何のために調べるのか」「どのようにして調べるのか」を考えさせる。</li> </ol>
<p>追究する (情報の収集・整理・分析)</p>	<p><b>4 課題解決に必要な情報を収集する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートやインタビューなどを行い、情報を収集する。</li> <li>・収集した情報を文や表などにまとめ、蓄積する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューをして原因を聞いてみよう。</li> <li>・録音したことを文章にして残しておこう。</li> </ul> </div> <p><b>5 収集した情報を整理・分析する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収集した情報を共有する。</li> <li>・情報を整理・分析して、課題の解決策について考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかの解決策が見つかったぞ。</li> <li>・これなら解決できそうだ。</li> <li>・○○はもっと調べた方がいいね。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、追加調査を行う。</li> </ul>	<p>○目的に合った調査方法を選択させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート、インタビュー、図書、インターネット、実験・観察などの方法から、目的に合った方法を選択できるようにする。</li> <li>・実際に地域等に出てインタビューするなど、体験的な調査活動に取り組ませる。</li> <li>・収集した情報は、共有が可能となるように、言語化（文章化）、数値化、図式化などにより可視化し、蓄積をさせる。</li> </ul> <p>○情報を整理・分析し、解決策を検討させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が収集した情報を報告させ、共通点や相違点などを基に整理させる。</li> <li>・整理した情報を基にして、課題に対する解決策が見いだされたかどうかを話し合わせる。</li> <li>・情報が不足している場合や新たな疑問が生まれた場合には、追加調査などにより、情報を補充させる。</li> </ul> <div data-bbox="1034 1086 1433 1373" style="text-align: right;"> </div>
<p>まとめる (まとめ・表現)</p>	<p><b>6 わかったことをまとめ、自分たちができることを考える。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたことやわかったことをまとめる。</li> <li>・課題解決のために自分たちにできそうなことや他者に伝えたいことを考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと活動を広めるために、全校児童に知らせたい。</li> <li>・成果を劇にして伝えよう。</li> </ul> </div> <p><b>7 自分の生き方を見つめ直す。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元全体の学習を振り返り、自分の変化や成長についてまとめる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習をする前の自分は○○だったけれど、今の自分は□□に変わってきたよ。</li> </ul> </div>	<p>○追究結果を基に、できることを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・追究の結果からわかったことをまとめさせ、地域に出て実践活動を行うなど、自分たちにできることを考えさせる。</li> <li>・文章などにより発信する際には、誰に何を伝えるのかを明確にし、ポスターや手紙など、表現方法を工夫できるようにする。</li> <li>・相手から、感想や質問、意見などのフィードバックが得られるようにしておくことで、効力感を得させることができる。</li> </ul> <div data-bbox="1136 1529 1423 1794" style="text-align: right;"> </div> <p>○自己の変容や成長を自覚させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習記録（ポートフォリオ）などを活用して、学習前、学習中、学習後の自分を比較しながら振り返ることができるようにする。</li> <li>・個々の学習への取り組みや成長を賞賛し、次の学習への意欲を高める。</li> </ul>

指導例

児童生徒による主体的な問題解決や探究活動を生み出すには、児童生徒の関心や疑問を重視して活動を進めていく必要があります。また、育てようとする資質や能力及び態度を身に付けさせ、学校が定めた目標及び内容を実現するために、教師が意図的な働きかけを行うことも大切です。

過程	「働かってどんなこと」 (中学校第2学年 全50時間)
つかむ	<p><b>1 体験活動などを通して、課題意識をもつ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家の人から、働くことの大変さや楽しさについて話を聞く。</li> <li>・講演会『働く人から学ぼう』を開催する。</li> <li>・講演を聞いて感じたことや考えたことについて意見を交換し、中心課題をクラスで決める。</li> <li>・中心課題「働きがいを探ろう」に基づき、個人課題を設定する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇という職業の「働きがい」とは、どんなものなのだろうか。</li> <li>・どんなときに、働くことの「楽しさ、喜び」を感じるのだろうか。</li> <li>・どんなことを大切にしているのだろうか。</li> </ul> </div>
追究する	<p><b>2 必要な情報を収集する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「働きがい」について、地域の人へのインタビュー調査を行う。</li> <li>・収集した情報を小グループで交流して、自分なりの考えをまとめる。</li> <li>・職場体験学習を行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に「働きがい」を味わってみたい。</li> <li>・〇〇という職業の「楽しさ、喜び」を体験してみたい。</li> <li>・働く人の立場になって考えてみたい。</li> </ul> </div> <p><b>3 収集した情報を整理したり分析したりして思考する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験等で収集した情報を、種類ごとに分類したり、細分化したりしてまとめる。</li> <li>・体験した感想や職場体験で聞き取ったことをグループで共有し、KJ法やウェビング等を用いて、比較・分類・関連付け等を行う。</li> <li>・足りない情報や新たな課題が生まれたら、再訪問や電話するなどして追究する。</li> </ul>
まとめる	<p><b>4 気付きや発見、考えなどをまとめ、表現する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人課題について新聞形式やレポート形式でまとめる。</li> <li>・職場体験学習でお世話になった人や保護者を招き、「体験発表会」を実施する。</li> <li>・各教科等で身に付けた表現方法を積極的に活用する。</li> <li>・地域の人から学んだことを自己の将来に結び付け、まとめる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分も〇〇という目標に向かって努力をしていきたい。</li> <li>・将来は人に喜ばれる仕事に就きたい。そのために、これから〇〇を頑張りたい。</li> <li>・自分も地域に貢献できるような活動をしていきたい。</li> </ul> </div>

【課題の質を高めるために】

- ・身近な人からの聞き取り調査や講演会を通して芽生えた疑問、さらに追究したい内容を基に、課題を設定させる。

【体験活動を充実させるために】

- ・地域の人へのインタビューやグループでの情報交換を通して、働く人への関心を高め、実際に働いてみたいと思うようにさせる。
- ・事前に課題交流会等を行い、目的を明確にして職場体験に参加させる。

【思考力を育てるために】

- ・見たことや感じたことなどの感覚的な情報についても、キーワードや文章などの目に見える形でまとめ、他の情報とともに整理・分析させる。

【発表を充実させるために】

- ・発表会では、相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり表現したりさせる。
- ・お世話になった人や保護者などに評価を行ってもらうことで、自信や次の活動への意欲につなげていく。

【探究活動を連続・発展させるために】

- ・収集した情報をまとめ・表現させることで、自分自身の考えや新たな課題を自覚することにつなげていく。

## 授業充実のためのコツやアイデア

### 1 よりよい単元づくりのために

#### (1) 学習対象（教材）の開発を

総合的な学習の時間は、児童生徒が目の前の「ひと・もの・こと」と直接的に関わり、自らの生き方を見つめ直せるようにすることが大切です。そのためには、以下の視点から地域を観察し、総合的な学習の時間の学習対象（教材）となり得るかどうかを検討しましょう。

- ・川や山、動植物などの自然環境
- ・地域の伝統行事や文化財
- ・ゴミ処理や地域清掃などの環境保全
- ・地域に住む世界の人々
- ・福祉施設、バリアフリーの設備
- ・職場体験が可能な企業 など

#### (2) 児童生徒の姿の想定を

総合的な学習の時間の学習内容は、各学校において定めることになっています。単元を計画する際には、児童生徒が「どの活動で、どのような姿になればよいのか」（評価規準）を具体的に想定し、児童生徒に確実に力が身に付くようにしましょう。

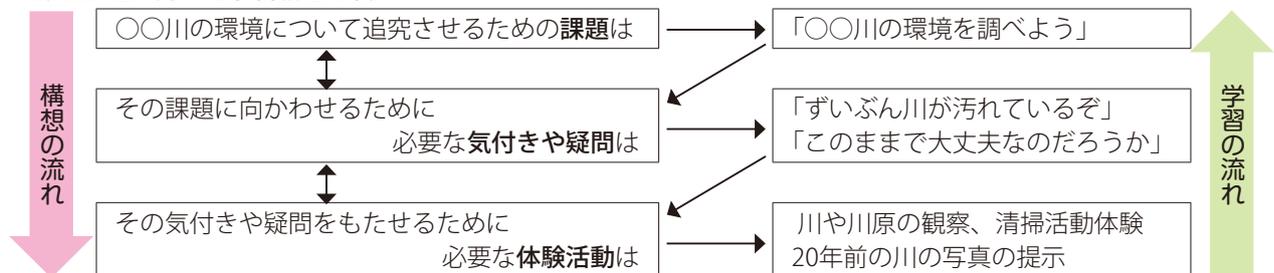
#### (3) 各教科等との連携を

総合的な学習の時間は、各教科等で習得した知識や技能を活用する「探究的な学習」として位置付けられています。児童生徒が身に付けている思考力（予想・調査・考察）や表現力（文章・図・グラフ）等の諸能力を十分発揮できるように、単元を計画しましょう。

### 2 児童生徒とともに課題の設定をするために

総合的な学習の時間では、「課題の設定」が難しいと感じている先生方が多いようです。これは、「児童生徒にもたせたい課題」や「設定までの手順」が明確になっていないことが原因と考えられます。児童生徒にもたせたい課題を明確にするとともに、その課題に向かわせるために必要な気付きや疑問、体験活動を明確にしましょう。

#### <課題設定に向けた学習構想の例>



### 3 児童生徒の思考を促すために

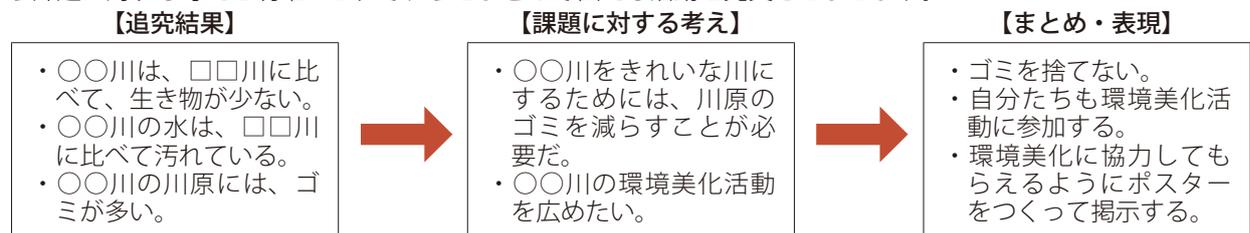
「課題の設定」や「整理・分析」などで、情報を基に思考させる時には、「シンキングツール」を活用することが有効です。「シンキングツール」には、さまざまなものがあります。目的に合った手法を活用するとともに、必要に応じて児童生徒が選択できるようにしましょう。

#### 【シンキングツールの例】

- カード
- グラフ
- マップ
- 図表
- 座標軸
- ベン図
- メリット・デメリット
- ビフォー・アフター
- ランキング
- KJ法
- ブレインストーミング など

### 4 自分の生き方を見つめ直させるために

「まとめる」過程では、児童生徒が追究を振り返り、自分の生き方を見つめ直すことが大切です。追究結果から課題に対する考えを明確にし、それらをまとめて伝える活動を充実させましょう。



## 1 単位時間の授業のつくり方

活動内容(1)「学級や学校の生活づくり」は、集団での話し合いを通して、集団の目標を決定し、集団で実践する児童生徒の自発的、自治的な活動を特質としています。

活動内容(2)「日常生活や学習への適応及び健康安全（小学校）」「適応と成長及び健康安全（中学校）」、及び(3)「学業と進路」は、集団での話し合いを通して、個人の目標を決定し、個人で実践する児童生徒の自主的、実践的な活動を特質としています。

以下に、(1)と(2)(3)のそれぞれについて、事前・本時・事後の活動を一体的にとらえた「基本的な流れ」を示します。

内容	(1)「学級や学校の生活づくり」	(2)「日常生活や学習への適応及び健康安全」 (小学校) 「適応と成長及び健康安全」(中学校) (3)「学業と進路」(中学校)
過程	「みんなで話し合い、みんなで決定し、 みんなで取り組む活動」	「みんなと共に考え、自分で決定し、 自分で取り組む活動」
事前の活動	<p>※教師の適切な指導の下に、児童生徒が次の活動を行う。(計画委員会等の主体的な活動を重視)</p> <p><b>1 課題(議題)の発見</b></p> <p>よりよい学級や学校の生活づくりにかかわる諸問題を見付け、提案をする。</p> <p><b>2 共同の問題(活動)の設定</b></p> <p>協力して達成したり、解決したりする共同の問題(活動)を決めて、問題意識を共有化する。</p> <p><b>3 議題の決定</b></p> <p>目標を達成したり、問題を解決したりするために、<b>全員で話し合うべき「議題」</b>を決める。</p> <p><b>4 活動計画の作成</b></p> <p>計画委員等は、教師の指導の下、話し合いの柱や順番など、話し合い活動(学級会)の<b>活動計画</b>を作成する。(教師は指導計画を作成)</p> <p><b>5 問題の意識化</b></p> <p>話し合うことについて考えたり、情報を収集したりして、自分の考えをまとめるなど問題意識をもつ。</p>	<p>※意図的、計画的な指導構想の下に、教師が次のようなことを行う。</p> <p><b>1 課題(題材)の確認</b></p> <p>年間指導計画に示された題材について学級の児童生徒の問題状況を把握する。</p> <p><b>2 共通の問題(活動)の設定</b></p> <p>個々の児童生徒が共通に解決すべき問題として授業で取り上げる内容を決め、児童生徒に伝え、問題意識を共有化する。</p> <p><b>3 題材の決定</b></p> <p>個々の児童生徒が<b>共通に解決すべき問題</b>としての「<b>題材</b>」を決める。</p> <p><b>4 指導計画の作成</b></p> <p>題材ごとに指導計画を作成し、事前調査をしたり、資料を作成したりする。(発達段階に応じて<b>計画委員等の自主的な活動を取り入れる。</b>)</p> <p><b>5 問題の意識化</b></p> <p>授業において取り上げる問題について自分の現状について考えたり、学級の現状を調べたりして問題意識をもつ。</p>
本時の活動	<p><b>【集団討議による集団目標の集団決定】</b></p> <p><b>6 話し合い活動(学級会)</b></p> <p>①<b>導入(活動の開始)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議題、提案理由の確認</li> <li>・めあての確認</li> <li>・決まっていることの確認</li> </ul> <p>②<b>展開(活動の展開)</b> <b>【集団討議】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い</li> </ul> <p>③<b>まとめ(活動のまとめ)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見の統合、総意としての意志決定 <b>【集団決定】</b></li> <li>・決定したことの確認</li> <li>・振り返り</li> </ul>	<p><b>【集団思考を生かした個人目標の自己決定】</b></p> <p><b>6 話し合い活動</b></p> <p>①<b>導入(活動の開始)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の把握(意識化、共通化)</li> </ul> <p>②<b>展開(活動の展開)</b> <b>【集団思考】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題に対する原因の追求</li> <li>・解決方法の工夫</li> </ul> <p>③<b>まとめ(活動のまとめ)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分としての実践目標や解決方法の自己決定 <b>【自己決定】</b></li> <li>・実践への意欲化</li> </ul>
事後の活動	<p><b>7 集団としての実践</b></p> <p>集団決定したことを基に、役割を分担し、全員で協力して、目標の実現を目指す。</p> <p><b>8 活動の振り返り</b></p> <p>活動の成果を振り返り、次の活動に生かす。</p>	<p><b>7 個人としての実践</b></p> <p>自己決定したことを基に、個人として努力し、目標の実現を目指す。</p> <p><b>8 活動の振り返り</b></p> <p>努力の成果を振り返り、次の活動に生かす。</p>

活動内容(1)の指導例

	<p>小学校5年生 (内容(1)ア) 議題「係活動をパワーアップしよう」</p>
事前の活動	<p>1 課題 (議題) の発見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5年〇組をもっと楽しく良い学級にしたいな。係活動をもっと工夫したいね。</li> </ul>
	<p>2 共同の問題 (活動) の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>もっと楽しく係の仕事をするために、みんなからアイデアを出し合って話し合おう。</li> </ul>
	<p>3 議題の決定 (「係活動をパワーアップしよう」)</p>
	<p>4 活動計画の作成 (児童と教師)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>係活動と当番活動の違いを確認しておく必要があるね。</li> <li>「学級のみんなのためになる係活動のアイデア」をたくさん集めておこう。他のクラスや上級生に取材しておこうよ。</li> </ul>
	<p>5 問題の意識化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の係にできることを考えて、学級活動ノートに考えを書いておこう。</li> </ul>
本時の活動	<p>6 話し合い活動 (学級会)</p> <p>① 導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>議題、提案理由の確認</li> <li>係の仕事をつくりだしたり、朝・帰りの会で係からの連絡方法を工夫したりすると、もっと学級が楽しくなると思って提案しました。</li> <li>めあての確認</li> <li>自分も楽しく、みんなももっと楽しくなる係活動にする方法を話し合おう。</li> <li>決まっていることの確認</li> </ul> <p>8分</p> <p>② 展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話し合い 【集団討議】</li> <li>話し合うこと1 (各係の工夫)</li> <li>話し合うこと2 (係からの連絡の工夫)</li> <li>自分の係に、みんなからアドバイスしてもらえるとありがたいな。</li> <li>他のクラスや上級生のいいところを取り入れたらいいのではないかな。</li> <li>係の活動が学級目標とつながっているかどうかがとても大切だと思います。…</li> </ul> <p>25分</p> <p>③ まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意見の統合、総意としての意志決定 【集団目標の集団決定】</li> <li>「学級活動コーナーに「係へのアドバイス」を互いに出し合い、みんなが楽しくなる活動の一つ決めて実行する」</li> <li>決定したことの確認</li> <li>振り返り</li> </ul> <p>12分</p>
	<p>7 集団としての実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>係ごとに工夫しながら取り組んでいるな。</li> </ul>
	<p>8 活動の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇係で取り組んだことを、学級のみんなに喜んでもらえてうれしかったな。</li> <li>協力して取り組むと気持ちいいね。</li> <li>私たちの学級は、もっとよくなるね。</li> <li>今回の活動は委員会活動やクラブ活動でも生かせそうだな。</li> </ul>

※計画委員等の活動計画

1 単位時間の指導計画には、発達の段階に応じて、計画委員等の児童生徒が自らの手によって作成した活動計画を添付しましょう。(例：下図)

議 題	係活動をパワーアップしよう
提案理由 (提案者)	いろいろな人と仲良くできるようになってきたけれど、係の仕事内容や、朝・帰りの会での連絡方法を工夫するともっと学級が楽しくなると思ったから。(くん)
役割分担	司会(くん、さん) 黒板(くん、さん) ノート(くん)
めあて	自分も楽しく、みんなも楽しくなる係活動にする方法を考えよう。
話し合いの順序	気を付けること
1 はじめの言葉	・明るくはっきりと言う。
2 役割しようかい	・自分のめあても付け加える。
3 議題の確認	
4 提案理由の説明	・黒板に書いておく。
5 めあての確認	・ゆくり言ってもらう。
6 話し合い	・めあてを忘れないようにする。
話し合うこと1	・意見がいくつか出たら、なるべく合体してまとめたり、ゆずりあったりできるように進める。
話し合うこと2	・みんなに黒板を見てもらいながら、ノート係が言う。
7 決まったことの発表	・めあてをみんなに一度言ってから、かいてもらう。
8 振り返り	
9 先生の話	
10 おわりの言葉	・やる気が出るように言う。

※ 児童生徒を鍛える教師のかかわり

話し合いは「聞き合い」「分り合い」です。仲間の発言を受け入れるとともに、「私は」を主語として自分の考えを分かりやすく伝えられるように、図や表、実物等を活用して伝え合えるようにしましょう。

また、次のようなときは迷わず助言しましょう。  
○話し合いのめあてから、話し合っている内容がそれているとき

- 話し合いが混乱しているとき
- 話し合いのマナーが悪いとき
- 司会が進行に迷っているとき
- 板書を整理した方がいいとき

※ 集団決定の仕方

例えば、A、B、Cという3つの意見がある場合、安易に多数決で決定せず、3つの意見を十分に検討し、よさを出し合い、折り合いをつけて修正案を生み出すようにしましょう。

どうしても多数決を行う場合には、「決定したことは全員で協力して取り組んでいく」ということを共通理解したうえで行うことが大切です。

「自分の果たした役割が、学級のみんなのためになった。」という有用感を感じさせましょう。

「学級の仲間と力を合わせて協力し合い助け合った結果、学級が今まで以上に居心地のよいものになった。」という達成感を感じさせましょう。

活動内容(2)(3)の指導例

中学校2年生 (内容(3)イ) 題材「家庭学習の仕方の工夫」	
事前の活動	<b>1 課題(題材)の確認</b> ・授業内容の定着のための家庭学習の方法が分からない生徒が多いようだ。
	<b>2 共通の問題(活動)の設定</b> ・部活と両立できる家庭学習の仕方を知ろう。 ・みんなの家庭学習のよさを互いに取り入れよう。
	<b>3 題材の決定(「家庭学習の仕方の工夫」)</b>
	<b>4 指導計画の作成</b> ・生徒からのアイデアの他に、生徒の実態に合った効果的な学習方法を提示する。 ・(学級活動委員会等の活動)みんなの悩みを表にまとめておこう。他の学級や上級生はどのように家庭学習を工夫しているのか、事前に取材したり、試したりしておこう。
	<b>5 問題の意識化</b> ・ちょうど自分も家庭学習に困っていた。学級の仲間や、先輩たちにより方法があるか聞いてノートにまとめておこう。
本時の活動	<b>6 話し合い活動</b> ① <b>活動の開始</b> ・問題の把握(意識化、共通化) 8分 ・みんなも同じように悩んでいたんだな。 ・みんなの意見を参考にして、よりよい家庭学習の方法を見付けるぞ。
	② <b>活動の展開</b> ・問題に対する原因の追求【 <b>集団思考</b> 】 ・解決方法についての話し合い 30分 ・なるほど、そんな学習の仕方があったのか。自分とはずいぶん違っているな。 ・ノートの取り方も工夫できるな。 ・時間ももっとうまく使えそうだな。 ・「その日に授業で学習したことを、家庭学習ノートに要約しながら写すというやり方はなかなかいいね。」
	③ <b>活動のまとめ</b> ・実践目標の自己決定【 <b>自己決定</b> 】 12分 ・よし、まずは今日から2週間、数学の授業やドリルで間違えた問題を別のノートにまとめる家庭学習に取り組むぞ。 ・実践への意欲化 ・〇〇君も同じやり方で挑戦するのか。相談しながらやってみよう。
事後の活動	<b>7 集団としての実践</b> ・きちんと続けられているぞ。数学の授業がない日は、間違えノートを繰り返しみよう。
	<b>8 活動の振り返り</b> ・みんなアイデアを出し合うというんな方法が出てきていいな。 ・家庭学習も工夫して取り組むとやる気が出るな。自信がついたよ。今度は社会科にも挑戦してみようかな。 ・学級活動コーナーに「私のおすすめ学習法コーナー」を作ったら役立つと思うな。

※年間指導計画の題材について、学級の生徒の何が問題なのか、問題はどの程度なのか、どのように取り上げるのかを考え、「指導のねらい」(左題材では「話し合いの中から、自分の家庭学習をよりよくするための方法を考え、具体的な実践目標を自己決定できる」)を明確にすることが大切です。

◎児童生徒主体の活動を促進するために、計画委員等に事前アンケートの実施・集計に取り組みせたり、進行役としたりしましょう。

※**集団思考**のよさ

活動内容(2)(3)では、話し合いの中で、仲間の意見を聞き合うことで、自分の考えを深めることができます。

仲間の意見や、教師から提示した新しい解決方法を踏まえながら、よりよい自己決定へとつなげることができるというよさがあります。

この「家庭学習の仕方の工夫」という題材においても、生徒から出された意見等だけから解決方法を考えさせるのではなく、教師が家庭学習のアイデアを積極的に提示し、生徒一人一人がよりよい自己決定ができるように創意工夫することが大切です。

※**自己決定**の仕方

児童生徒一人一人が、個別に、自分に適した実践可能なことを具体的に決めるようにしましょう。

☆**大切な視点**☆

「何を」「いつまで」  
 「どれくらい」「どのように」

単なる感想に終わらないようにしましょう。

※友達の方法のよさを参考にするなどして、実践しようとする意欲をもてるようにしましょう。

教師や仲間からの励ましや賞賛によって、「私もやればできる」という自信をつけさせることが大切です。

「自分で決めて努力したことが自分にとってプラスになった。」という効力感を感じさせましょう。

また、学級での取組を家庭に伝えて、協力をお願いすることも大切です。

授業の充実のためのコツやアイデア

1 系統性と継続性のある指導のために ～進行表・学級活動ノート等の共通化～

提案カード（下参照）や学級活動ノート（右参照）、司会進行表、活動計画表は、学校として書式を定め、年度当初にすべての児童生徒に配布するなどして共通理解を図り、指導に系統性と継続性をもたせるようにしましょう。



【例：議題提案カード（高学年用）】

提案カード（ 月 日 ）	名前（ ）
【提案したいこと】 ( ) みんなでしたい ( ) みんなでつくりたい ( ) みんなで解決したい	
【提案理由】 ..... ..... .....	
【 さんへ】 提案してくれて どうもありがとう。 これからも提案してね。 (計画委員 より)	この提案については、 1 学級会で話し合います。 2 ( ) 委員会や( ) 係に お願ひします。 3 朝の会・帰りの会で話し合います。 4 先生にお願いします。 5 その他( )

【例：学級活動ノート（中学年用）】

第 回 学級活動ノート 月 日 ( )	
名前 ( )	
議題	
提案理由	
話し合いのめあて	
自分のめあて	
決まっていること	
計画委員 略( ) 話( ) ノト( )	
話し合うこと	自分の考え(理由)
1	
2	
○振り返り	
めあてにそって自分の意見を発表できましたか	A B C
友だちの意見のよさを見付けましたか	A B C
自分のめあては達成できましたか	A B C
(感想)	

2 「切実感・必要感のある話し合い」にするために ～計画委員会等の充実～

- ・計画委員会（学校により名称等は異なる）は、話し合い活動の中で学級一人一人から問題解決へ向けた多様な発言を引き出し、集団決定を行い、実践するまでの準備をする組織です。主として小学校中学年以上に学校・学級の実態に応じた組織を設け、児童生徒一人一人が役割を分担し、活動計画を立てて実践する機会を多く設定することが必要です。
- ・計画委員会は輪番制にし、どの児童生徒も話し合いの運営の仕方を学べるようにします。そのことで、集団の一員としての自覚を深め、互いに認め合い、高め合う雰囲気醸成できます。

※参考（計画委員会の一週間の指導計画例）

過程	曜日	活動内容	指導のポイント
事前	金曜日	1 課題の（議題）の発見 ○議題ポストへの提案の呼びかけ 「今度の学級会で話し合いたいことを、月曜日までに入れましょう。」	・課題（議題）発見の視点 朝・帰りの会の話題、学級日誌・生活ノート、休み時間での会話、係活動や当番活動の様子等
	火曜日	2 議題の選定と決定 ○提案された議題を整理し、選定する。 ○選ばれなかった議題については、その扱いを提案者へ返事を伝える。 ○整理した議題から、今週の議題を決める。	・議題選定の視点 （学級や学校生活をより楽しく、充実させること 学級全員に関すること 学級全員で話し合い、自分たちで決められること 話し合っただけで決めたことが実行できること 今すぐ話し合った方がいいこと ・全員が話し合う必要性を感じるものを議題とする。
	木曜日	3 活動計画の作成 ○教師の指導の下、計画委員と提案者で「活動計画」を作成する。	・話し合うことを決める際には、話し合う必要のあることをすべてあげ、1時間かけて話し合う必要のあるものを1～2つ決める。それ以外は、朝・帰りの会等で話し合うようにする。
		4 問題の意識化 ○学級全員に、議題に対する自分の考えを学級活動ノートに記入するように呼びかける。	・話し合いに意欲的に参加できるように、あらかじめ自分の考えを学級活動ノートに記入しておく。 ・担任は学級活動ノートに励ましの言葉を入れて活動意欲を高める。
本時	金曜日	5 話し合い活動 ○第○回学級会 議題「○○○○○」 計画に沿って司会・進行を行う。 ○学級会の振り返りをする。	・提案理由に沿った話し合いになるように助言する。 ・話し合いが混乱したときは必要に応じて助言する。 ・計画委員に役割に応じて振り返りをさせ、よい点を積極的に認め、自信につなげる。
事後		6 実践までの活動 ○学級活動コーナーに決まったことを掲示する。 ○準備状況を確認する。	・決まったことや実行までにやっておくことを記入し、学級全員が見通しをもって実践できるようにする。 ・朝・帰りの会などで、準備の進み具合を確認し、全員が役割を果たせるようにする。

## 見直してみましょう あなたの授業

このチェックリストを活用し、日ごらの授業を振り返るとともに、よりよい授業を目指しましょう。

### 授業準備

#### ◆学級経営

- ①児童生徒が疑問や意見を安心して発言できる雰囲気づくりに努めている。
- ②一人一人の顔を見て、名前に敬称を付けて呼んでいる。
- ③話し方や聞き方など、学習のルールや学び方を指導している。
- ④整理整頓を心掛け、学習しやすい教室環境が整っている。

よりよい学級経営は、効果的な授業を行うための第一歩です。



#### ◆教材研究等

- ⑤単元（題材）の中の本時の位置付けを意識して授業を構想している。
- ⑥児童生徒の実態を基に、ねらいを達成するための手立てや発問を考えている。



ねらいに迫るためにどのような教材を用い、どのような活動を行わせるのか、どのような発問をするのかなど、しっかり計画を立てておくと、自信をもって児童生徒の前に立てるようになります。

- ⑦1時間の学習の流れを意識した板書計画を立てている。

板書は1時間の授業を構造的に表したものです。板書計画を立てることは、指導案に本時の展開を書くことと同じ意味があります。



### 授業中

#### ◆心構え

- ⑧授業の開始時刻と終了時刻を守っている。
- ⑨楽しくわかりやすい授業を目指し、熱意をもって授業を行っている。
- ⑩児童生徒に対して、受容的・共感的に接している。

#### ◆基本的な指導技術

- ⑪導入では、魅力ある教材や資料の提示により、意欲を引き出す工夫をしている。



「魅力ある教材や資料」とは、授業のねらいに沿ったもので、児童生徒が疑問をもったり、調べたいことを見付けたりできるような教材や資料のことです。

- ⑫児童生徒がめあてや学習課題をしっかりとめるようにしている。
- ⑬児童生徒に予想や仮説を立てさせ、課題解決への見通しをもてるようにしている。

- ⑭児童生徒が考えたり活動したりする時間を十分に確保している。
- ⑮目的をもって机間指導し、一人一人の学習状況を把握している。
- ⑯児童生徒が学び合う場を設定し、考えを深めたり広げたりしている。

児童生徒が学び合えるようにするには、「目的を明確にすること」、「一人一人が自分の意見をもって臨めるようにすること」、「発言しやすい雰囲気をつくること」が大切です。



- ⑰児童生徒の多様な考えを引き出すような発問の工夫を行っている。



「なぜ?」、「どうしてそうなるのかな?」といった一問多答の発問を心掛けましょう。

- ⑱意図的な指名を行い、一人一人の考えを生かすようにしている。
- ⑲ノートには、学習内容や自分の考えをわかりやすく整理するように指導している。

日付、教科書のページ、学習課題（めあて）、板書内容、自分の考え、まとめ、感想など、ノートに記入する約束事を決めましょう。



- ⑳終末では、身に付けた力を実感できるように本時の学習を振り返らせている。
- ㉑学習したことを日常生活と関連付けるように工夫している。

## ◆効果的な指導の工夫

- ㉒学習内容やねらいに応じて学習形態を工夫している。



単元の後半では、習熟度別指導を取り入れるなど、学習内容や学級の実態に応じた編成や指導体制を工夫しましょう。

- ㉓ICT機器を効果的に活用し、楽しく学習に取り組めるようにしている。

ICT機器には、電子黒板や実物投影機など様々なものがあります。学習内容に応じて効果的な活用を工夫しましょう。



## 授業後

### ◆評価及び家庭との連携

- ㉔ノートやワークシートにより、児童生徒一人一人の理解の状況を把握している。



ノートやワークシートをみる際には、児童生徒の考えの変化や理解するまでの過程など、評価の観点をもちましょう。

- ㉕教師自身の授業評価を行い、次時の指導に役立てている。

### 【基礎・基本習得プロジェクト会議 委員】

江 森 英 世	群馬大学教育学部教授(附属小学校長)
三 田 純 義	群馬大学教育学部教授(附属中学校長)
尾 崎 享 子	みどり市教育委員会教育長(群馬県都市教育長協議会代表)
鈴 木 実	板倉町教育委員会教育長(群馬県町村教育長会代表)
砂 川 次 郎	前橋市立敷島小学校長(群馬県小学校長会長)
中 村 洋	前橋市立第五中学校長(群馬県中学校長会長)
木 村 淳 一	東部教育事務所長(教育事務所長会代表)
高 橋 宏 明	群馬県総合教育センター所長
須 永 光 明	県教育委員会学校人事課長
福 田 弘 二	県教育委員会特別支援教育室長
金 子 博	県教育委員会スポーツ健康課長
堀 澤 勝	県教育委員会義務教育課長

### 【基礎・基本習得のための実践研究事業 授業者】

石 田 久 美	渋川市立三原田小学校教諭
須 藤 京 子	藤岡市立藤岡第二小学校教諭
木 口 敦 子	安中市立後閑小学校教諭
神 戸 恵美子	嬭恋村立鎌原小学校教諭
小 池 芳 典	高崎市立倉賀野中学校教諭
平 良 訓 子	富岡市立南中学校教諭
深 津 知 宏	沼田市立沼田中学校教諭
大 谷 登志雄	太田市立宝泉中学校教諭

【はばたく群馬の指導プラン 作成協力者】

林 祐子	前橋市立敷島小学校教諭	寺島 邦彦	渋川市立北橋中学校教諭
中 澤 弘	前橋市立荒牧小学校教諭	綿 貫 充	榛東村立榛東中学校教諭
佐 藤 千代美	伊勢崎市立北小学校教諭	野 口 記子	高崎市立吉井中央中学校教諭
飛田野 眞佐子	高崎市立六郷小学校教諭	奥 村 隆	藤岡市立西中学校教諭
根 岸 菜穂美	長野原町立応桑小学校教諭	柳 武 志	富岡市立富岡中学校教諭
鈴木 幸子	昭和村立大河原小学校教諭	大 竹 一夫	中之条町立六合中学校教諭
前 島 隆 宏	桐生市立梅田南小学校教諭	野 原 亮	沼田市立池田中学校教諭
蓑 輪 エリ子	太田市立綿打小学校教諭	宮 前 嘉 則	桐生市立境野中学校教諭
大 澤 好 則	館林市立第七小学校教諭	朝 香 雄 紀	太田市立城西中学校教諭
森 坂 実紀人	群馬大学教育学部附属小学校教諭	二 宮 一 浩	太田市立綿打中学校教諭
中 村 恵 里	群馬大学教育学部附属小学校教諭	木 暮 克 昌	群馬大学教育学部附属中学校教諭
		佐 野 美 幸	群馬大学教育学部附属中学校教諭

なお、県教育委員会においては、次の者が本書の作成に当たった。

堀 澤 勝	義務教育課長	矢 島 貢	中部教育事務所指導主事
久 保 信 行	義務教育課指導主監	長 屋 竜 太	〃
黒 澤 英 樹	〃 補佐(指導係長)	黒 澤 ゆみ子	〃
佐 藤 明	〃 指導主事	佐 藤 和 彦	〃
木 口 卓 哉	〃	石 井 俊 明	〃
荻 原 孝 英	〃	狩 野 大 樹	〃
鈴木 佳子	〃	後 藤 弘 史	〃
白石 直樹	〃	吉 崎 仁	西部教育事務所指導主事
清 田 和 泉	〃	後 藤 やよい	〃
本 田 伸 一	〃	永 田 伊知郎	〃
飯 泉 尚 士	〃	大 倉 猛	〃
堀 江 雅 彦	〃	関 悟	〃
中 村 宏 基	〃	丸 山 尚 子	〃
上 林 千 秋	〃	井 上 高 広	〃
春 田 晋	〃	岩 崎 聡	〃
長 岡 誠	〃	桑 原 武 史	吾妻教育事務所指導主事
石 関 和 夫	〃	小 池 裕 生	〃
高 橋 慶 子	スポーツ健康課主任指導主事	小 林 克 典	〃
霜 田 美 幸	〃 指導主事	浅 井 広 之	〃
橋 憲 市	〃	佐 藤 三 枝 子	〃
小 川 加寿美	総合教育センター指導主事	木 樽 一 秀	利根教育事務所指導主事
清 水 雅 文	〃	松 井 秀 幸	〃
田 口 真 澄	〃	富 田 孝	〃
渡 邊 敬 子	〃	笹 達 一 郎	〃
小 島 理 宏	〃	中 島 潔	〃
飯 島 隆	〃	小 川 哲 雄	東部教育事務所指導主事
門 倉 健	〃	原 真 理 子	〃
細 矢 瑞 左	〃	関 郁 宏	〃
荻 野 葉 子	〃	福 島 誠 一	〃
平 形 隆 正	〃	栗 田 雅 子	〃
小 熊 良 一	〃	松 崎 智 幸	〃

(職名は平成23年4月1日現在)

たくましく生きる力をはぐくむ

# はばたく群馬の指導プラン



平成 24 年 3 月

編集・発行 群馬県教育委員会義務教育課  
〒371-8570 群馬県前橋市大手町 1 丁目 1 番 1 号  
TEL 027(226)4615  
FAX 027(243)7759

---

印刷 朝日印刷工業株式会社

